平成２９年度障害者スポーツ振興事業

「地域における障がい者スポーツの振興事業」

報　　告　　書

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

目　次

はじめに

Ⅰ　振興事業の概要 …… 1
　１．助成の目的
　２．委託先対象
　３．対象事業
　４．活動の範囲
　５．委託費と対象経費
　６．地域振興事業検討委員会の設置
　７．事業報告会の開催

Ⅱ　実施事業の概要 …… 6

Ⅲ　まとめと今後の課題 …… 24
　１．事業内容の特徴
　２．組織連携の取り組み
　３．障がい者スポーツ指導者の活動内容
　４．地域振興事業の成果
　５．今後の課題
　６．おわりに

Ⅳ　事業実施団体の報告 …… 37
　１．公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会
　２．一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会
　３．宮城県障害者スポーツ協会
　４．公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会
　５．一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会
　６．公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会
　７．公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会
　８．三重県障がい者スポーツ協会
　９．公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会
１０．和歌山県障害者スポーツ協会
１１．広島県障害者スポーツ協会
１２．公益社団法人山口県障害者スポーツ協会
１３．愛媛県障がい者スポーツ協会
１４．社会福祉法人高知県社会福祉協議会 高知県立障害者スポーツセンター
１５．鹿児島県障害者スポーツ協会
１６．特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会

はじめに

近年、わが国のスポーツ施策は、平成 23 年 8 月に施行されたスポーツ基本法を契機に、スポーツ基本計画の策定、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会の開催決定、障がい者スポーツの所管が厚生労働省から文部科学省に移り、平成 27 年 10 月にスポーツ庁が新設されるなど、大きな変革を迎えております。また、昨年 3 月には第 2 期スポーツ基本計画が策定され、「する・みる・ささえる スポーツ人口の拡大」や、「スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現」をめざすことが掲げられました。

そのような中、地方自治体においても、新たなスポーツ振興計画が策定され、地域で開催される多くのスポーツ事業についても、障がいのある方がスポーツに参加する環境、体制の整備が進められ、その取り組みに期待がされているところであります。

日本障がい者スポーツ協会では、平成 23 年度より国庫補助事業として、都道府県・政令指定都市の障がい者スポーツ協会を対象とした「地域における障がい者スポーツの振興事業」を実施してまいりました。

この事業は、障がい者が身近な地域において、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができる環境づくりをめざし、都道府県・政令指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域の障がい者スポーツの統括組織として、それぞれの地域特性や課題に応じて、各種事業を計画し、さまざまな関係団体と連携、協働し、地域のスポーツ振興体制を拡充していくことを目的としています。

今年度は、16 団体が特色ある事業を実施いたしました。それぞれの地域の実情にあわせた多様なスポーツ事業では、多くの障がい者がスポーツの楽しさを体験するとともに、さまざまな人や組織との連携が本事業の取組みを通じて生まれ、拡がる状況もみえてきました。

本報告が、障がいのある人が身近な地域で生涯にわたりスポーツに参加し、楽しむことができる環境整備のための取り組み事例として、地域の障がい者のスポーツ振興に役立てていただければ幸いです。

今後とも、関係の皆様の一層のご理解とご支援、ご協力をお願いいたします。

平成 30 年 3 月

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

Ⅰ　振興事業の概要

１．助成の目的

障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指し、障がい者スポーツ指導者の活用を促し、障がい者向けのスポーツ教室や障がい特性を踏まえたスポーツイベント等の開催を通じて、参加した障がい者が、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができるクラブやネットワーク等の組織・体制づくりの構築を目的とする。また、都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、体制および組織強化に寄与できることを目的とする。

２．委託先対象

平成 29 年度公益財団法人日本障がい者スポーツ協会障がい者スポーツ協会協議会登録団体を対象に、助成事業の実施体制が整っていることを条件とする。

今年度は、申請のあった 16 団体を対象に助成した。

３．対象事業

本事業は助成の目的に合致し、地域の障がい者スポーツ協会と障がい者スポーツ指導者協議会が協力・連携した体制で実施するものであること。下記の例を参考とした地域における障がい者スポーツ振興にかかわる事業とする。

【事業内容例】

(1)障がい者のスポーツ教室事業
(2)障がい者スポーツ指導者の育成事業
(3)障がい者スポーツ指導者の派遣事業
(4)選手発掘・育成事業
(5)障がい者スポーツ理解啓発事業(大会等イベントも含む)
(6)組織連携推進強化事業(組織連携を主たる目的とした事業)

※注1:厚生労働省が実施している「地域生活支援事業」の「スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」や日本スポーツ振興センターの「スポーツ振興事業助成」等の他団体からの助成を受けている事業は重複して申請はできない。

※注2:スポーツ庁が都道府県・指定都市に委託事業として実施する「地域における障害者スポーツ普及促進事業」および「特別支援学校等を活用した障害児・者のスポーツ活動実践事業」を実施する団体は、申請時に必ず申し出ること。

４．活動の範囲

事業は原則として一つの都道府県内（指定都市を含む）を対象とすること。なお、実施場所は、競技特性等の理由により当該の都道府県内で実施が困難な場合はこの限りではない。

５．委託費と対象経費

委託費は、各団体に 300 万円または 200 万円とする。また、委託費の支出科目は国庫補助金の規程に準じて、以下のとおりとする。諸謝金、旅費交通費、消耗品費、会議費、賃借料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費、賃金、保険料とし、支出については、すべて委託先団体の規程によるものとする。

※今年度より、委託費（総事業費）の 35%を上限として事業目的に必要なスポーツ用具の購入が認められる。（ただし、本事業では事務用品等の備品の購入はできない）

6．地域振興事業検討委員会の設置

委託先団体の選定は、「地域振興事業検討委員会」を設置し、申請事業について本事業の目的に沿った内容であるかどうか審査し決定した。

また、検討委員会により、本事業の総括を行い、今後の日本における障がい者スポーツ推進の参考にするための総括をおこなった。

地域振興事業 検討委員会委員（技術委員会 地域振興班）

	氏　　名	役　　職
1	三上　真二	大阪市長居障がい者スポーツセンター　館長
2	高山　浩久	東京都障害者総合スポーツセンター　スポーツ支援課　課長
3	藤田　紀昭	日本福祉大学　スポーツ科学部　教授
4	丸田　　徹	新潟県障害者交流センター　統括部長
5	森　　慶一	東京都障害者スポーツ協会　事業推進部事業推進課　推進係長
6	増子　恵美	福島県障がい者スポーツ協会　書記
7	太田　澄人	長野県障がい者福祉センター　サンアップル　スポーツ課　主任指導員
8	角正　真之	大阪市障害者福祉・スポーツ協会　障がい者スポーツ振興部スポーツ振興室

事務局（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）

	氏　　名	役　　職
1	水原　由明	スポーツ推進部　部長
2	関口　一道	スポーツ推進部　次長
3	滝澤　幸孝	スポーツ推進部　課長
4	小島　大樹	スポーツ推進部　推進係

◆会議の開催

第 1 回会議

日　時：平成 29 年 4 月 24 日（月）13 時 30 分～17 時 30 分

場　所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　会議室

内　容：1. 平成 29 年度申請団体の実施内容について

・申請団体の事業実施体制の適性について

・申請内容の確認について

2. 平成 29 年度委託先の審査・選定について（選定委員会）

第 2 回会議

日　時：平成 29 年 8 月 21 日（月）14 時 30 分～16 時 30 分

場　所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　会議室

内　容：平成 29 年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」について

・地域振興事業受託団体（各県協会）の進捗について

・受託団体の事業視察の調整について

・「地域における障がい者スポーツの振興事業」報告会について

・報告書の作成について（スケジュール確認、目次、骨組み等）

第 3 回会議

日　時：平成 29 年 12 月 18 日（月）13 時 30 分～17 時 30 分

場　所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　会議室

内　容：1. 平成 29 年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」について

・地域振興事業受託団体（各県協会）の進捗について

・視察報告（埼玉県、三重県、愛媛県、広島県）

・報告書作成に向けて（スケジュール確認、目次、骨組み等）

2.「地域における障がい者スポーツの振興事業」報告会について

第4回会議

日　時：平成30年3月7日（水）13時30分～17時30分

場　所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　会議室

内　容：1. 平成29年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」報告書について

・実施団体の事業報告に伴う報告書の作成について

・報告書のまとめ作業

2. 平成30年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」について

◆事業の視察

（1）埼玉県

日　時：平成29年11月3日（金・祝）

場　所：秩父特別支援学校

内　容：障がい者スポーツ地域連携づくり事業「ちちぶふれあいぴっく2017」

・事業運営についての情報収集

・参加者の障がい状況および支援者の参加状況等についての調査

（2）三重県

日　時：平成29年11月12日（日）

場　所：三重県身体障害者総合福祉センター

内　容：陸上競技のひとづくり事業

・事業運営についての情報収集

・参加者の障がい状況および支援者の参加状況等についての調査

（3）広島県

日　時：平成29年11月21日（火）

場　所：広島市立広島特別支援学校

内　容：特別支援学校障害者スポーツ体験会

・事業運営についての情報収集

・参加者の障がい状況および支援者の参加状況等についての調査

（4）愛媛県

日　時：平成30年1月13日（土）

場　所：サン・アビリティーズ今治

内　容：障がい者スポーツ拠点整備事業

・事業運営についての情報収集

・参加者の障がい状況および支援者の参加状況等についての調査

７．事業報告会の開催

目　　的：本報告会では、標記事業を実施した都道府県・市の障がい者スポーツ協会が、地域振興に関する取り組みの現状、その事業のねらいや実施の背景、課題等を報告・検討することで、それぞれの地域の実態に即した新たな事業展開のヒントや地域が抱える課題解決のための一助となることを目的とする。

日　　時：平成 30 年 2 月 28 日（水）

場　　所：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　大会議室

参 加 者：事業実施 16 団体　計 24 名、オブザーバー 計 7 名、スポーツ庁　計 1 名

日本障がい者スポーツ協会技術委員会（推進部会）　計 7 名

日本障がい者スポーツ協会スポーツ推進部（事務局）計 4 名

内　容：1. 各団体からの事業報告

・事業実施の背景、目的（ねらい）、内容、連携団体、成果・効果、課題など

2. 全体ディスカッション

・各地域における現状や課題の共有

日程表：下記参照

時 間	内 容		所 属	氏 名
11:30 ～ 12:00	参加団体受付			
12:00 ～ 12:20	開会		日本障がい者スポーツ協会 スポーツ推進部 部長	水原 由明
			日本障がい者スポーツ協会 技術委員会 委員長	三上 真二
12:20 ～ 13:20	報告1	北海道における障がい児者スポーツの振興事業	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会	細田 雅美 正木 英之
	報告2	宮城県障害者スポーツ振興事業	宮城県障害者スポーツ協会	坂口 信一
	報告3	ジャンプアップふくしま2017	公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会	丸山内 雄大
	報告4	埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会	優 尚世
13:20 ～ 13:35	休憩			
13:35 ～ 14:35	報告5	長野県における障がい者スポーツ活動環境強化支援事業	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会	半田 直道
	報告6	障がい者スポーツ連携推進プロジェクト2017	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会	増田 和茂
	報告7	広島県における障がい者スポーツ振興事業・地域推進事業	広島県障害者スポーツ協会	手島 千鶴
	報告8	山口県における障害者スポーツの推進事業	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会	豊田 保義
14:35 ～ 14:50	休憩			
14:50 ～ 15:50	報告9	愛媛県障がい者スポーツ理解啓発事業	愛媛県障がい者スポーツ協会	清水 謙二
	報告10	障害者スポーツ普及啓発事業	社会福祉法人高知県社会福祉協議会 高知県立障害者スポーツセンター	北村 大河
	報告11	障がい者スポーツの普及と選手の発掘・育成事業	鹿児島県障害者スポーツ協会	濵﨑 智博
	報告12	沖縄県スポーツプロジェクト	特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会	平安 泰知
15:50 ～ 16:05	休憩			
16:05 ～ 17:05	報告13	三重県障がい者スポーツ振興事業	三重県障がい者スポーツ協会	伊藤 ひとみ
	報告14	和歌山県における障害者スポーツの振興事業	和歌山県障害者スポーツ協会	阿波 陸士
	報告15	障がいのある方々の「競技スポーツ・生涯スポーツ・リハスポーツ」推進事業	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会	三浦 拓朗
	報告16	静岡県障がい者スポーツ地域連携普及振興事業	公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会	中野 阿由美
17:05 ～ 17:15	休憩			
17:15 ～ 18:15	全体ディスカッション（グループワーク）		日本障がい者スポーツ協会 技術委員会 推進部会	
18:15 ～ 18:35	まとめ（グループ報告）		日本障がい者スポーツ協会 技術委員会 推進部会	
18:35 ～ 18:45	閉式		日本障がい者スポーツ協会 技術委員会 副委員長	高山 浩久
18:45 ～ 20:15	情報交換会			

事業報告会の様子



「開式の挨拶」
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
技術委員会　委員長　三上　真二　氏



「事業実施団体における報告」



文部科学省 スポーツ庁 健康スポーツ課
障害者スポーツ振興室　室長補佐
吉見　友弘　氏



全体ディスカッション
グループワーク



「まとめと質疑応答（4 グループにおける発表)」
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
技術委員会　推進部会



「閉式の挨拶」
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
技術委員会　副委員長　高山　浩久　氏

Ⅱ　実施事業の概要

16 団体からの報告を基に、今年度の地域振興事業の全体像を把握するために、実施事業の概要をまとめた。また、それぞれの「地域のスポーツ環境の特色」「地域の実情・課題点」、「事業の目的・ねらい」、実施された「事業概要（内容・実施体制）」、「障がい者スポーツ指導者の活用・役割」、「連携・協力団体」、「スポーツ用具について」そして「事業成果および評価（達成度）」、「事業の今後の必要性」の 9 項目から実施概要を整理した。

それぞれの団体の活動の詳細については、Ⅳ．実施事業団体の報告を参照いただきたい。

【実施内容区分　一覧】

No.	団　体　名	障がい者のｽﾎﾟｰﾂ教室事業	障がい者ｽﾎﾟｰﾂ指導者の育成事業	障がい者ｽﾎﾟｰﾂ指導者の派遣事業	選手発掘・育成事業	障がい者ｽﾎﾟｰﾂ理解啓発事業（大会等ｲﾍﾞﾝﾄも含む）	組織連携推進強化事業
1	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会	●					
2	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会	●	●		●		●
3	宮城県障害者スポーツ協会	●					
4	公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会	●	●				●
5	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会					●	●
6	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会	●			●		
7	公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会			●		●	●
8	三重県障がい者スポーツ協会	●	●			●	
9	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会	●	●			●	
10	和歌山県障害者スポーツ協会	●			●		
11	広島県障害者スポーツ協会					●	●
12	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会	●	●			●	
13	愛媛県障がい者スポーツ協会					●	
14	社会福祉法人高知県社会福祉協議会 高知県立障害者スポーツセンター					●	
15	鹿児島県障害者スポーツ協会	●					
16	特定非営利活動法人沖縄県障害者スポーツ協会	●			●		
		11	5	1	4	8	5

平成29年度　障害者スポーツ振興事業
「地域における障がい者スポーツの振興事業」 実施団体一覧

No.	団体名	委託費（千円）	受託回数	事業名／内容
1	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会	2,000	4年目	**北海道における障がい児者スポーツの振興事業**
				① 全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業
2	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会	2,000	初	**障がいのある方々の「競技スポーツ・生涯スポーツ・リハスポーツ」推進事業**
				① スポーツ教室開催事業
				② パラリンピック選手発掘・育成強化事業
				③ 障がい者スポーツ導入研修会
				④ 各市町村連携及び地域人材活用事業
3	宮城県障害者スポーツ協会	2,000	2年目	**宮城県障害者スポーツ振興事業**
				① 障害児運動・あそびの広場開催事業
				② 宮城県卓球バレー交流会開催事業
4	公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会	3,000	3回目	**ジャンプアップふくしま2017**
				① 福島地域スポーツ教室
				② 陸上競技審判実践講習会
				③ 総合型地域スポーツクラブ協働トライアウト事業
5	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会	2,000	5回目	**埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業**
				① 障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）
				② 障がい者スポーツ地域拠点づくり調査研究事業
6	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会	2,000	2年目	**長野県における障がい者スポーツ活動環境強化支援事業**
				① 障がい者スポーツ体験教室開催事業
				② アスリートセミナー開催事業
7	公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会	2,000	5年目	**静岡県障がい者スポーツ地域連携普及振興事業**
				① ファーストチャレンジスポーツ指導者派遣事業
				② スポーツ体験フォーラム開催事業
				③ 地域連携障がい者スポーツ環境創設事業
8	三重県障がい者スポーツ協会	2,000	初	**三重県障がい者スポーツ振興事業**
				① 三重県障がい者スポーツフェスティバル2017
				② 地域障がい者スポーツ体験教室
				③ 陸上競技の人づくり事業
				④ 水泳選手の発掘・育成事業
9	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会	2,000	3回目	**障がい者スポーツ連携推進プロジェクト2017**
				① チャレンジパラ！”ゴールボール、カヌー体験”教室
				② 障がい者スポーツサポーター養成事業
				③ 見てほしい知ってほしいパラスポーツ！（見る・触れる・交流）
10	和歌山県障害者スポーツ協会	2,000	初	**和歌山県における障害者スポーツの振興事業**
				① 障がい者スポーツ教室開催事業
				② 障がい者スポーツ活性化事業（団体競技重点的強化事業）
11	広島県障害者スポーツ協会	2,000	2年目	**広島県における障がい者スポーツ振興事業・地域推進事業**
				① 地域推進事業（スポーツ推進委員等を対象としたスポーツ体験事業）
				② 障がい者スポーツ体験会（各市町開催）
				③ 普及啓発イベント
				④ 障がい者スポーツ体験会（特別支援学校対象）
12	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会	2,000	5年目	**山口県における障害者スポーツの推進事業**
				① 地域障害者スポーツ教室開催事業
				② 障害者交流スポーツ大会開催事業
				③ 障害者スポーツ指導者養成事業
13	愛媛県障がい者スポーツ協会	3,000	4年目	**愛媛県障がい者スポーツ理解啓発事業**
				① 障がい者スポーツ拠点整備事業
				② 障がい者スポーツ紹介事業（体験事業）
14	社会福祉法人高知県社会福祉協議会 高知県立障害者スポーツセンター	2,000	3回目	**障害者スポーツ普及啓発事業**
				① 東部地区ボッチャ競技大会
				② 幡多地区陸上競技大会
				③ 種まく大人実行委員会事業
15	鹿児島県障害者スポーツ協会	3,000	2回目	**障がい者スポーツの普及と選手の発掘・育成事業**
				① 障がい者スポーツ体験普及教室開催事業
				② 障がい者バレーボール教室開催事業
16	特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会	2,000	5年目	**沖縄県スポーツプロジェクト**
				① 知的障がい者福祉施設スポーツ・レク祭り
				② 障がい者バスケットボール教室
				③ 聴覚障害者バレーボール教室
				④ 障がい者サッカー教室
		35,000		

実 施 概 要

実施団体名	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会
事　業　名	北海道における障がい児者スポーツの振興事業 ①全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

◆ 「スポーツ王国北海道」の実現を目指す本道においては、平成２５年３月に北海道スポーツ推進計画を策定し、「学校と家庭・地域における子どもの運動・スポーツ機会の推進」、「世界の舞台で活躍する競技者の育成」、「若者から高齢者までのライフスタイルに応じた地域スポーツ活動の推進」、「道民が自ら進んで参画するスポーツ環境の充実」を計画の基本方針としている。
　障がい者のスポーツ活動については、からだを動かすことによる健康づくりをはじめとして、自己実現や生きがいを見いだし、人々との交流を通じて積極的に社会参加することが期待されるなど、大きな意義があると計画に謳われている。

【地域の実情・課題点】

♦障がい者スポーツの裾野拡大を図るためには、学齢期の障がい児に対する早期のアプローチが肝要であるという観点から、特別支援学級の児童・生徒を対象とした巡回教室を平成 26 年度から 3 年間実施し、一定の成果を挙げてきたが、１７９市町村の小中学校に４千を超える特別支援学級がある本道の状況を踏まえ、今後も中長期にわたって聖俗的に本事業に取り組む必要がある。
課題
♦道内に数か所、障がい児者スポーツの活動拠点となる場所を設け、年に複数回の教室事業を開催するなど、全道に障がい児者のスポーツネットワークを構築していくことが求められる。

【事業の目的・ねらい】

♦本事業は、本道の障がい児者が、身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくり、さらには障がい者スポーツが根付くことを目指し、スポーツ教室を通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、自主的、積極的、継続的にスポーツに取り組む意欲を促し、障がい児者の健康の維持と社会参加の促進を図ることを目的としている。
♦学校関係者と連携し、地域の実情に応じた障害者スポーツの普及を図るとともに、事業終了後もその地域で活動が持続する基盤を構築することをねらいとしている。

【事業概要（内容および実施体制等）】

♦道内の小中学校体育館等 23 か所においてスポーツ教室を合計 24 回開催（学校体育の授業時間を活用して実施）
♦DVD による講義、競技用具の紹介及び試乗体験、競技実技（車いすリレー、フライングディスク、ボッチャ、ゴールボール、シッティングバレーボール等）を実施した。
♦対象者は、特別支援学級を中心に障がい者スポーツ体験を行い、スポーツに触れる機会を設けた。また、通常学級も対象とすることで、障がい者スポーツの理解啓発につながるように務めた。
♦実施体制
スタッフは上級障がい者スポーツ指導員を中心に補助員ボランティア等補助指導員、公認障がい者スポーツ指導員を活用し運営した。

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

♦公認障がい者スポーツ指導者のボランティアを募り、教室の参加協力を依頼した。
♦上級障がい者スポーツ指導員を主講師とし、教室の企画、運営まで主導した。このほか公認障がい者スポーツ指導員を随時募集し、教室当日のスタッフとして協力を求めた。

【連携・協力団体】

♦NPO 法人あ・りーさだ
♦北海道特別支援学級設置学校長会
♦北海道内の小中学校

【スポーツ用具について】

♦購入した備品の活用について（実際の事業での活用）
競技用車いすについては、競技用車いす体験試乗や車いすリレーなどで活用した。
アイシェードについては、視覚障がい者競技体験用として教室のメニューに取り入れた。
♦今回の事業後の管理方法と活用予定
本事業での活用を主目的に、障がい者スポーツ協会にて管理し、必要に応じて長期貸出も行う。

【事業成果および評価（達成度）】

♦今年度より、関係者（教職員や保護者等）を対象としたスポーツ教室を実施したことにより、地域におけるサポート体制の強化につながった。
♦離島での教室を実施。ほぼすべての生徒が初めて障がい者スポーツに触れることになった。これを機に障がい者スポーツに関心が芽生えスポーツ本来の楽しさを感じることができたとの評価を得た。

【事業の今後の必要性】

♦豊かなスポーツ環境づくりを目指し、ピラミッドの裾野を成す「普及」を促進するためには、本事業を今後も継続していく必要がある。
♦今年度は、離島での教室を実施したが、継続的な支援や自立したスポーツ活動が行えるように体制やネットワークづくりを推進することで、身近な地域での活動を地域に根差していくことが重要である。

実 施 概 要

実施団体名	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会
事　業　名	障がいのある方々の「競技スポーツ・生涯スポーツ・リハスポーツ」推進事業 ①スポーツ教室開催事業 ②パラリンピック選手発掘・育成強化事業 ③障がい者スポーツ導入研修会 ④各市町村連携及び地域人材活用事業　　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦これまで本県のスポーツ振興組織は、健常者が県教育委員会スポーツ健康課、障がい者が保険福祉部障がい保健福祉課が所管していたが、2016 年の希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の開催を契機に、スポーツ行政の一元化の機運が高まり、28 年度岩手県文化スポーツ部が新設された。
♦さらに国体・全国大会を契機に岩手県障がい者スポーツ協会を設立・法人化。これによりスポーツ参加の窓口の明確化と社会的信用を高め、組織基盤強化と関係団体と連携したネットワーク作りを併せて進めることとしている。

【地域の実情・課題点】

♦現在、地域のスポーツ振興の鍵を握る市町村の体育協会、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等と連携を進めている。リスクマネジメントと福祉関係者とのネットワーク作りが課題となっている。これらの問題を解消するためにはスポーツを安全に導入するための研修が必要となる。また、全国大会の開催が本県のスポーツ行政に影響を与えており、トップアスリートの活躍は障がい者スポーツ振興全体にも大きな影響を与えると考えられる。
♦このことから、障がい者スポーツ振興に対する３つの視点（目的）を持ちながら進めたい。1.競技スポーツの取組による競技力向上　2.生涯スポーツの推進と地域におけるスポーツ参加の拠点作り　3.スポーツに取り組めていない、あるいは引きこもっている等の問題を抱える方々を生涯スポーツのステージに引き上げる取り組み。

【事業の目的・ねらい】

♦われわれに求められる役割は、障がい者に対してスポーツ参加の場を提供する「直接的な支援」に加えて、障がい者へのスポーツイベント企画から運営までをサポートする側に回る「間接的な支援」が重要となる。特に地域における人材、施設、ﾈｯﾄﾜｰｸ等を活用し、地域における自立した普遍的な障がい者のスポーツ活動拠点作りを継続的に行う「間接的な支援」を積極的に行うことで定着を図る。

【事業概要（内容および実施体制等）】

♦スポーツ教室開催事業
　3 か所で障がい者スポーツ教室を実施した。（種目：フライングディスク、パークゴルフ＆キャンプ体験、マリンスポーツ体験）
♦パラリンピック選手発掘・育成強化事業
　育成強化（水泳・卓球・アーチェリー・ボッチャ）大会派遣・参加支援（陸上・ボッチャ。競技者養成として車いすレーサー（陸上））障がい者スポーツ育成研修会を開催
♦障がい者スポーツ導入研修
　体育協会、スポーツ推進委員、医療関係者、障がい者スポーツ指導員等を対象に研修会を 4 回実施。
♦各市町村連携及び地域人材活用事業
　久慈エリア、大船渡エリアをターゲットに、卓球バレーの普及、指導者養成講習会を中心に県内 8 会場で実施。

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

♦活動に参加している障がい者スポーツ指導員は高齢者の割合が高い。競技性が高いイベントになると参加率が低くなる。運動強度が低く、指導も容易なユニバーサルスポーツを活用しながら情報提供をしており、高齢者が多いスポーツ推進委員の資格所得者の増加につながっている。競技指導者は、特別支援学校の教員が中心。資格所得の意識が低いが、積極的に周知を行い、所得率が上がってきている。
♦情報提供の工夫や、競技指導者に指導者としての自覚をもっていただく意味で半強制的に資格所得を勧めることにより、指導員数並びに活動への参加者も増加している。

【連携・協力団体】

♦市町村行政、県・市町村教育委員会、県・市町村体育協会、・県スポーツ推進委員、県スポーツ競技団体（水泳、卓球、アーチェリー）、県理学療法士会・作業療法士会、NPO 法人いわてマリンフィールド、日本スポーツ振興センター、県・地域障がい者スポーツ競技団体（フライングディスク・アーチェリー、卓球バレー）、県障がい者スポーツ指導者協議会、市町村身体障害者協議会・福祉会、特別支援学校連絡協議会・特別支援学校、障がい者スポーツ活動クラブ（水泳、卓球、チェアスキー）、障がい者スポーツセンター

【スポーツ用具について】

♦投球台（ランプ）を活用し、筋ジストロフィーの生徒等にも活動機会を提供できる。グラウンドゴルフ・パークゴルフのルールが容易で取り組みやすい特徴を活用し、身障者以外の障害者にもアウトドアでスポーツを楽しむきっかけを作りたい。
♦保管、メンテナンスは協会で行う。協会主催事業での活用が中心になるが、積極的に貸出用具を PR し、スポーツ交流事業に役立てたい。

【事業成果および評価（達成度）】

1 一番の成果は、地域における一般のスポーツ振興に携わる方々とのネットワークの深まりである。
2 障がい者当事者のスポーツ参加の可能性を広げるためには、支援者や保護者の意識を変えることが重要であることが明確となった。

【事業の今後の必要性】

事業①：事業種類、事業数を増やしたい。併せてニーズを把握したり、ニーズを促すための取組みが必要
事業②：東京パラ以降も継続していきたい。中間世代（20～30 代）にもターゲットにした実施により継続価値が増す
事業③：導入教室は最も重要視しなければならない。地域に広がる際のリスクマネジメントにも取り組む必要がある。
事業④：今年度ターゲットにした、久慈・大船渡ｴﾘｱをさらに広げ、三陸全体を障がい者スポーツの拠点作りモデル地域としたい。

実 施 概 要

実施団体名	宮城県障害者スポーツ協会
事　業　名	宮城県障害者スポーツ振興事業 ①障害児運動・あそびの広場開催事業 ②卓球バレー交流会開催事業　　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦平成 25 年度に策定された「宮城県スポーツ推進計画」では、施策の柱のひとつとして「生涯にわたるスポーツ活動の推進」があり、その基本方向「子どもの遊ぶ（身体活動）機会の創出」のなかで、「児童生徒の障がいの種類や程度に応じて、安全にあそび（身体活動）ができるように配慮します。」とされている。それらを踏まえ、支援学校の部活動の充実も目標とされている。
♦（公財）宮城県体育協会の事業計画の中にも、障がい者スポーツの支援が謳われており、当協会との連携協力及び競技団体と障がい者スポーツが連携し大会を開催することが目標とされている。

【地域の実情・課題点】

♦「未就学児および児童のあそび場がない」という保護者からの話をもとに、平成 22 年 12 月より県内各地で開催してきた。当初は、仙台市内での活動であったが、市外からの参加者も徐々に増え、遠く石巻市、白石市、亘理町など市外からの参加者も徐々に増えはじめ、県内各地での開催を求められている。
課題点
♦障がい児に対し指導する専門の指導者を育成すること。
♦仙台市内での活動が中心となっており、仙台市を除く地域での活動定着が困難。市外での開催を視野に地域のスポーツ指導者や地元の学生、ボランティア等による協力のもと各地域で活動できる体制づくりが急務である。
♦総合型地域スポーツクラブにおいて、各地で事業を行いたいと考えているが資金面で苦慮している。

【事業の目的・ねらい】

♦障害児がのびのびと体を動かせる機会と場を提供し、障害児の健康増進、運動遊びの場のきっかけ作りをサポートすることを目的としてしている。
♦宮城県内において、卓球バレーの普及を促進し、大会を開催することにより、広く社会参加の推進に寄与することを目的として開催した。
♦宮城県内の各地で開催することにより、その地域の指導員をはじめとする関係者主導で継続開催できるよう指導していくことをねらいとした。

【事業概要（内容および実施体制等）】

①障害児運動・あそびの広場事業　（全 6 回開催）
4 歳～12 歳の障がい児を対象にマット、平均台、フライングディスク、パラシュット、バルバレー、ティーボール等、遊びをとおして体を動かす楽しさを身につける事業を実施。障がい者スポーツ指導員や学生を中心に実施した。
②卓球バレー交流会開催事業（全 7 回開催）
卓球バレー交流大会、卓球バレー体験会、卓球バレー指導者養成講習会をそれぞれ開催した。

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

①障害児運動・あそびの広場事業において、障がい者スポーツ指導員が補助員として延 80 名が参加した。

【連携・協力団体】

宮城県障害者スポーツ指導者協議会、石巻専修大学、東北福祉大学、宮城学院女子大学、東北文化学園大学、東北大学、仙台白百合女子大学、東北工業大学、宮城教育大学、NPO 法人石巻体育協会、NPO 法人多賀城市民スポーツクラブ、宮城卓球バレー協会、宮城県身体障害者福祉協会、宮城県障害者社会参加推進センター、NPO 法人アクアゆめクラブ、NPO 法人多賀城市民スポーツクラブ、柴田町社会福祉協議会、山元町社会福祉協議会、石巻社会福祉協議会、七ヶ浜町、七ヶ浜町社会福祉協議会

【スポーツ用具について】

♦スポーツ用具は高価なため設置施設が少なく本事業で購入し対応することができた。
♦スポーツ用具は、障害者スポーツ協会においてメンテナンスも含め管理することにした。今後の事業に引き続き使用していく。

【事業成果および評価（達成度）】

事業①：障害児運動・あそびの広場事業
♦本事業を通して、障害児がのびのびと遊ぶ姿を見ることができたと保護者も満足度が高かった。活動を通じ参加した保護者同士の交流や協力団体と学生が連携することができ、地域において活動する学生らの協力体制ができつつある。また、障がい者スポーツ指導者も学生に助言指導することで、自らの資質向上を図ることができる良い機会となった。
♦総合型クラブより数名が初級障がい者スポーツ指導員資格を取得するなど、小学生、高齢者の活動の際に障害者スポーツを取り入れるようになった。
事業②：卓球バレー交流会開催事業
♦障がいの有無に関係なく手軽に楽しめることを参加者に体験していただけた。また、総合型クラブの指導者も競技に興味を示し、競技用具を購入するなど競技の普及へとつながっており、今年度開催した交流大会は昨年度より出場チーム数が増加した。

【事業の今後の必要性】

♦実施していない地域での普及活動を行うなど、県内全域へ広がるように取り組むことが必要である。
♦協力している学生の卒業後の継続的な支援や、若い人材の養成に繋げていく必要がある。

実 施 概 要

実施団体名	公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会
事　業　名	ジャンプアップふくしま２０１７ ①福島地域スポーツ教室 ②陸上競技審判実践講習会 ③総合型地域スポーツクラブ協働トライアウト事業　　〔300 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦本県は、東日本大震災の影響により、屋外での運動が制限され、運動不足等が問題となった。その改善策として豊かなスポーツライフの創造を目指すため、「楽しむ」、「育む」、「競う」、「つなぐ」の 4 つの視点から 8 つの推進施策を掲げた。

【地域の実情・課題点】

♦障がい者のライフステージに合った運動機会を作り、継続することが重要である。また、総合型地域スポーツクラブ等の地域に密着した組織と連携することが地域スポーツの向上を図る上で求められている。

【事業の目的・ねらい】

♦地域スポーツ教室をより身近なものとするため、前年度同様 6 支部体制とし、各地域で定期的にスポーツ教室を開催することでスポーツを継続的に行う機会の定着を図る。その上で、総合型地域スポーツクラブとも連携し、支部だけでは把握しきれない範囲を対応してもらうことでさらなる障がい者スポーツの振興を図ることを目的としている。
♦2017 年ジャパンパラ陸上競技大会が開催されるため、障がい者競技団体だけではなく、一般競技団体を巻き込んだ指導員養成を行い、大会以降も長く活躍できる指導員の育成を図る。

【事業概要（内容および実施体制等）】

◆ 福嶋地域スポーツ教室
拠点を置く、県北、いわき、県中、会津、県南、相双地区の６支部にて、障がいの有無を問わず、誰もが参加でき、楽しむことのできるスポーツの実践（フライングディスク、ボッチャ、吹き矢、卓球バレー、風船バレー、キンボール、ハンドアーチェリー、風船バレー）
♦陸上競技審判実践講習会
国際陸上競技連盟競技会規則と IPC 陸上競技規則の共通点と相違点およびその解説、補助具・クラス・伴走者およびコーラーの役割とルールについて
北海道・東北パラ陸上競技選手権のスタッフとして実践
♦総合型地域スポーツクラブ協働トライアウト事業
いわしろふれあいスポーツクラブと協働で小学生を対象に、障がい者スポーツプログラムの作成・スポーツ指導を行う（ボッチャ､シッティングバレーボール）
はらまちクラブと協働で、会員対象にボッチャ教室を実施。ルール・競技特性・補助具の使用方法・審判方法・指導方法の実践など

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

①障がい者スポーツ指導員が主となり、教室の運営・進行を行っている。参加者・保護者とコミュニケーションをとり、各参加者の障がい状況を考慮し、目標を持ってスポーツに取組めるよう指導をしている。指導員間でも情報を交換し、共有することでより良い教室となるよう努める。
②ジャパンパラ競技大会以降も陸上競技教室での指導にも生かしていく。一般競技団体と連携をすることで指導員の増加も図っていく。
③クラブマネージャーと障がい者スポーツ指導員が連携し、事業を実施することで障がい者に配慮した教室等を行った。

【連携・協力団体】

♦県文化スポーツ局スポーツ課、市町村行政、競技団体（テニス協会、陸上競技協会､）、総合型スポーツクラブ、報道、県障がい者スポーツ競技団体（パラ陸上競技協会、シッティングバレーボール協会、ボッチャ協会）、県障がい者スポーツ指導者協議会、市町村社会福祉協議会、特別支援学校

【スポーツ用具について】

♦総合型地域スポーツクラブでは、障がいのある方だけではなく、健常者、高齢者も参加しているため、障がいの有無に関わらず楽しめる「ボッチャ」を購入し指導した。今後は、総合型地域スポーツクラブでも教室を開催し、各地域で競技の普及に努めていく。
♦管理は当協会で行い、各スポーツクラブから貸出の要請があった場合、貸出を行うこととする。

【事業成果および評価（達成度）】

①各団体と連携し周知、参加者のリピート、コミュニティでの口コミにより、昨年度と比較し参加者、関わる指導員が増えた。一方、地域の団体との連携が取れていない相双支部は参加者減。全体的には参加者、今後も継続して運動ができる機会の拡大を図っていく。
②昨年度は完全に受け身の講習会であったが、昨年から現在に至るまで各競技団体で競技及び競技規則に向き合ってきたため、今回の講習は質問も多く、内容の濃い講習会となった。そのため大会は成功を収め、今後の活動の自信に繋がった。
③総合型地域スポーツクラブと連携し、障がい者スポーツを指導していくことで、地域において障がいのある方がスポーツをする機会が増える可能性を見出すことができた。

【事業の今後の必要性】

①昨年度より運動をする機会を提供できたかと思うが、障がい者の運動実施率という点で見るとまだまだ目標値には達していないので、今後も継続的に教室を開催することでスポーツを常態化し、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境を整えていく。
②定期的の審判講習会を開催することで、今回学んだ知識や技能を再確認することが重要である。講習会のレベルを上げ、大きな舞台で大会運営や競技に関わる指導員育成の講習会を開催することも検討していきたい。
③スポーツ庁で挙げているスポーツ実施率を向上させるためには、各地域でスポーツを行う機会の確保はとても重要である。総合型地域スポーツクラブと連携を図り、障がいのある方がスポーツを行う機会の増加とそれに伴う指導員の増加を目的に実施していきたい。

実 施 概 要

実施団体名	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会
事　業　名	埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業 ①障がい者スポーツｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ地域連携づくり事業（秩父地域） ②障がい者スポーツ地域拠点づくり調査研究事業　　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦県スポーツ推進計画は、平成 25 年度から 29 年度までの 5 か年を計画期間としている。
幼児から高齢者まで、性別や障がいの有無にかかわらず、全ての県民が生涯にわたってスポーツと関わる活動全般を対象としており、「生涯にわたるスポーツ活動の推進」、「国内・国際大会に向けた競技スポーツの推進」の項目において、障がい者のスポーツに関する記載がされている。

【地域の実情・課題点】

♦特にパラリンピックの競技種目の紹介などを盛り込んだイベントを実施する自治体が増加しているが、地域における障がい者スポーツの振興までは至っていない。
♦県全域の障がい者スポーツ地域拠点づくりに向けては、具体的なデータがない為、障がい者スポーツ指導者及びスポーツ推進委員の活動状況や、特別支援学校体育施設の開放状況の基礎調査を行う必要がある。

【事業の目的・ねらい】

♦秩父地域の実情に応じて地域で自立したスポーツ活動ができるような基盤整備
♦継続したスポーツ活動の場を根付かせる
♦地域の人と人、団体や組織間の連携づくり
♦スポーツ活動を推進する人材の掘りおこしと育成
♦秩父地域、県北部の障がい者スポーツ指導員間のネットワークづくりと活動の場の提供
♦重度障がい児・者が身近な地域でスポーツにふれあう機会をつくる
♦障がい者スポーツ指導員の活動の場づくりの提供
♦障がい者スポーツ地域拠点づくりに向けた現状把握

【事業概要（内容および実施体制等）】

♦障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）
◇ちちぶ ふれあいピック 2017
・身近な地域でスポーツにふれる機会やきっかけづくりの場を提供すること等を目的に、誰でも気軽に体験できるスポーツ大会を開催
◇障がい者スポーツ体験交流会（計４回開催）
・ティボール、フライングディスク、ボッチャ等
◇障がい者スポーツ体験交流会　みんなでパラスポ体験 Day in ちちぶ（計 3 回開催）
・パネル展示、ボッチャ、競技用車いす乗車等
◇趣旨説明会、報告会
・関係者との繋がりの構築、事業内容や地域の情報やニーズを共有、各々の立場で取り組むべきことなどを整理することを目的に開催
♦障がい者スポーツ地域拠点づくり調査研究事業
・関係団体の概要及び事業内容等の共有と今後の連携についての意見交換
・地域における障がい者スポーツの連携づくりに関するアンケート調査（障がい者スポーツ指導員）

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

♦事前研修会では、経験豊富な指導員が講師を担当し、競技・ルール説明を行った。
♦体験交流会については、事前に主担当の指導員と事務局で打合せを行い、当日はコーディネーターの役割を担った。
また、参加者と一緒に活動・交流し、スポーツの楽しさを共有し広めるという大切な役割を担った。

【連携・協力団体】

♦埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会、埼玉県特別支援学校体育連盟、太鼓大好きどこんこクラブ、埼玉県スポーツ吹矢協会、本庄市スポーツ推進委員、有限会社新井武平商店、メモリアル秩父、埼玉県教育委員会、プロ野球 OB クラブ、埼玉県障害者福祉推進課・スポーツ振興課・特別支援教育課、埼玉県体育協会　等

【スポーツ用具について】

♦カーリング、フライングディスク用具を購入し、大会（ちちぶふれあいピック）を実施することができた
♦協会にて備品を管理・保管・貸出を行い、地域での継続したスポーツ活動への活用を促していく。

【事業成果および評価（達成度）】

①地域の人や団体と協働して実行委員会を編成して進めたことにより、関係団体の関わりが強化されそれぞれの専門性や得意分野を活かした役割を担うことで、単独では実施できなかった大会を開催できた、
②関係団体と顔がみえる関係づくりができ、今後の取組み・連携についての意見交換ができた

【事業の今後の必要性】

①秩父地域での事業は、大会や体験交流会の成果が各団体の主体的かつ持続的な活動には至っていない為、今後は更に行政、団体、スポーツ指導員等と連携を図りながら、事業を進めていく必要ある。
②アンケート調査結果をもとに検討し、地域で自立した活動を進めていくために、スポーツ指導員等を対象に企画立案やコーディネートができる指導者や支える人の育成にも力を入れていく必要がある。

実 施 概 要

実施団体名	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会
事　業　名	長野県における障がい者のスポーツ活動環境強化支援事業 ① 障がい者スポーツ体験教室開催事業 ② アスリートセミナー開催事業　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦長野県スポーツ推進計画において、県民一人一人が、年齢や性別、障害の有無等を問わず、関心や適性等に応じて、日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画できる環境を整えていくことを目的としている。
♦1998 年の長野パラリンピック冬季世界大会と 2005 年のスペシャルオリンピックス冬季世界大会を開催した経験を有する。

【地域の実情・課題点】

♦障がい当事者
・年々障がい者は増加しているが、スポーツを行う障がい者数は減少傾向。　【すそ野が広がらない】
・国際舞台や国内大会で活躍できる本県出身のアスリートが減少傾向　【競技力が低迷】
・障がい者スポーツ競技団体への新規入会者が増えない。
♦県民の応援・支援
・県民の障がい者スポーツへの参加、協力、支援の輪が広がらない。
（冬季パラリンピックやスペシャルオリンピックスのときの応援機運が維持されていない）
♦障がい者スポーツの振興体制
・県障がい者スポーツ協会や障がい者スポーツ競技団体（28）の組織・経営基盤が脆弱
・障がい者スポーツ指導員の活躍の機会が少ない。
・健常者のスポーツ団体等との連携が不足している。

【事業の目的・ねらい】

♦「すそ野の拡大」と「競技力の向上」、「県民の理解と応援の輪の拡大」を進めるために、地域の身近な場所でスポーツに参加できる環境づくりを、様々なナットワークを構築する中で行うこと。
♦東京パラリンピックのムーブメントを活用し障がい者スポーツの認知度向上を目指す。
♦一般スポーツ界等を巻き込み、県民運動へとつなげる取組みを展開していく。

【事業概要（内容および実施体制等）】

♦障がい者スポーツ体験教室開催事業
県内５地区において、障がい児・者に対して地域の実情により選択した体験教室を実施。
（チアダンス、卓球バレー、フライングディスク、パラリンピック実施種目等の体験）
併せてスポーツ喚起用ポスター等の制作をし、県内各地へ配布。（障がい児者に向けたスポーツ喚起用のポスター及びチラシを制作）
♦アスリートセミナー開催事業
・障がい者スポーツの支援・指導に携わる人、これから携わろうと思う人を対象に、本県の障がい者スポーツの現状と課題の共有の為のセミナーと障がい者スポーツ指導員研修会を同時に開催した。

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

♦長野県障がい者スポーツ指導者協議会との連携により、体験教室、セミナーの企画・実施を行った。しかし、各地区で実際に指導を行う指導員が固定化されている為、積極的な呼びかけを行った。
♦事業実施により障がい者スポーツ指導員に対する指導の知識習得とスキルアップに繋げることができた。

【連携・協力団体】

♦日本ボッチャ協会、長野県ボッチャ協会、障がい者スポーツ指導者東信地区協議会、身体教育医学研究所、パラリンピックサポートセンター、県障がい者福祉センター、スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ東信地区連絡協議会、東信レクリエーション協会、上田養護学校、小諸養護学校、県教育委員会、県体育協会、東御市、信濃毎日新聞社　等

【スポーツ用具について】

♦購入した備品の活用について（実際の事業での活用）
ボッチャボール、ボッチャ用ランプス、卓球バレー用具、ブラインドサッカーボール等を購入し活用することで、より競技に近い形で体験教室を実施することができ、参加者に対して競技の特性を正しく理解してもらえた。また、指導現場における対象者に応じた指導知識を習得してもらうことができた。
♦協会にて備品を管理・保管し、ホームページで用具貸出要領を示し申請があれば貸出しを行い、障がい者スポーツの普及振興に役立てる。

【事業成果および評価（達成度）】

①指導員を中心に運営し、参加者の障がいの状況やニーズに合わせたスポーツを行うことで、参加しやすい教室を開催できた。
また、活動を通じ、障がい者スポーツ指導員と一般スポーツ関係団体との連携や保護者同士の交流を図ることができた。
②障がい者スポーツの支援・指導に携わる指導員等を対象に、「長野県障がい者スポーツセミナー及び障がい者スポーツ指導員研修会」として実施した。その中で運動指導、スポーツ体験（スポーツ吹矢）等の分科会を開催し、参加者の資質向上に繋げた。

【事業の今後の必要性】

①地域格差解消の為、各地区での体験教室開催や、研修会・講習会等を続けて、身近な場所でスポーツに参加できる環境づくりをさらに推し進める必要がある。
②本年度より設置した、『障がい者スポーツ地域コーディネーター』を活用して、引き続き、県内全域で障がい者スポーツの普及振興に取り組んでいく必要がある。

実 施 概 要

実施団体名	公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会
事　業　名	静岡県障がい者スポーツ地域連携普及振興事業 ①ファーストチャレンジスポーツ指導者派遣事業 ②スポーツ体験フォーラム開催（兼組織連携推進強化）事業　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦「静岡県スポーツ推進計画」に則り、基本理念である「『ふじのくに』生涯スポーツの実現」のための「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」を基本目標として掲げ、県民の誰もがそれぞれの体力や年齢・技術・興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも安全にスポーツに親しむことのできる環境の整備を目指している。そのなかで障がいのある人とない人が、共にスポーツができる機会の提供等に努めている。

【地域の実情・課題点】

♦障がい当事者の重度化及び高齢化を踏まえ、スポーツやレクリエーション（人との交流）をしたくても、受け入れ可能な場所が無い、場所はあるが遠くて（ひとりで）行くことが出来ない等の現状を改善するため、県内各地域の公認指導者と地域との連携により、障がい者スポーツの普及が進んでいない地域を重点的にスポーツのできる環境を整える必要がある。
♦本事業の継続効果で、各市町福祉担当課・生涯スポーツ担当課・理学療法士・スポーツ推進委員等との連携は進んでいるが、公認障がい者スポーツ指導者の掘り起しに繋がっていないため、地域に根付かせることができていない。
♦学校派遣について、平日の昼間に実施することが多いため高齢の指導員が多く、また固定化による負担が大きいことが懸案事項である。

【事業の目的・ねらい】

♦本事業において、各市町の福祉担当課、生涯スポーツ担当課、体育協会、特別支援学校・学級などが主体となり、各地域で教室を多数開催できるよう働きかけや指導を行い、地域のスポーツ推進委員等と協働することで、障がい者が地域においてスポーツをしたいときに受け入れることができる環境整備をする。

【事業概要（内容および実施体制等）】

①ファーストチャレンジスポーツ指導者派遣事業（全 51 回）
　ボッチャ、フライングディスク、ふうせんバレーボール、バルバレー等を各市町障がい福祉課、生涯スポーツ担当課、県内特別支援学校、支援学級のある小中学校、各障がい者団体、支援団体との連携を図り教室を開催。
②スポーツ体験フォーラム開催（兼組織連携推進強化）事業（全 12 回）
　ブラインドサッカー教室と障がい者スポーツ推進フォーラム、パラマウントカヌーin 静岡、BOCCIA キャラバン 2017in 静岡、体育フェスタ超ド SPO、第 5 回ふじさんっこ応援フェスタ、パラサイクリング体験・運動能力測定 in ジャパンパラサイクリングカップ、パラ陸上体験会・運動能力測定、第 3 回静岡障がい者サッカーフェスティバル、チャレンジスポーツ in 三島、第 19 回静岡県障がい者スポーツフォーラム、ボウリング体験会、平成 29 年度ジュニア発掘卓球教室兼静岡市身体障害者中部交流卓球大会

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

♦事務局の情報をベースに参加者の状況に応じたプログラムの作成、事前打ち合わせ、用具の準備などの運営をはじめ、参加者への指導の急な変更等にも対応した。
♦施設及び学校への指導員の派遣を行った。
　開催地域近辺の指導員を活用し、経験者と経験の浅い指導者の連携も図った。

【連携・協力団体】

（一社）静岡県サッカー協会、（特非）静岡 FID サッカー協会、（特非）日本ブラインドサッカー協会、静岡県障害者政策課、（公社）静岡県視覚障害者協会、静岡県特別支援学校体育連盟、（一社）日本障害者カヌー協会、静岡パラカヌー実行委員会、（公社）静岡県理学療法士会、B&G 財団、（一社）日本ボッチャ協会、静岡県ボッチャ協会、静岡市スポーツ交流課、静岡市障害福祉課、静岡新聞社、静岡放送、静岡教育委員会、静岡県体育協会、静岡県レクリエーション協会、静岡市、静岡市教育委員会、静岡県子ども未来課、（一社）パラサイクリング連盟、（公財）日本自転車競技連盟、（一財）日本サイクルスポーツセンター、オリンピック・パラリンピック推進課、伊豆市東京オリンピック・パラリンピック推進課、静岡パラ陸上競技協会、静岡県障害者スポーツ指導者協議会、清水サッカー協会、しずおか精神障害者スポーツ推進協議会、静岡県電動車椅子サッカー協会、三島市障がい福祉課、三島市教育委員会、三島市身体障害者福祉会、静岡県車いすバスケットボールクラブ、静岡県ボウリング連盟、静岡県ボウリング競技部会、狐ヶ崎ヤングラウンドボウル、（一社）日本肢体不自由者卓球協会、静岡県身体障害者卓球協会、静岡市身体障害者卓友会、（特非）静岡市身体障害者団体連合会、静岡市清水区身体障害者福祉協会、静岡市清水みなとふれあいセンター

【スポーツ用具について】

♦借用希望も年々増えており、安全に貸出ができるように保管状況の確認を定期的に実施する。

【事業成果および評価（達成度）】

事業①：一度実施したところの再希望が多く、さらには実施した先からの紹介があり、日程等都合が合わず、依頼を断ることが多くなった。
事業②：予定回数よりも多く開催できた。連携開催が多く、企画からすべてを主導したものばかりではなかったが、主催者による新聞や広報などの効果で、障がいのある方のスポーツの理解が確実に拡がった。体験会から選手発掘につながったケースもあった。

【事業の今後の必要性】

♦5 年間、各地域に障がいのある方がスポーツをしたいときにできる環境の構築を目的に事業を実施してきたが、指導員の掘り起しにつなげることができず、地域に根付かせることが充分にできなかった。ただし、この事業を実施したことで、県民の障がい者スポーツへの理解は大きく変化したと確信している。
実情が似ている県の事業内容を情報交換し、全国各所で事業実施が進んでいくことは特にスポーツセンターのような活動拠点のない県にとっては必要である。

実 施 概 要

実施団体名	三重県障がい者スポーツ協会
事　業　名	三重県障がい者スポーツ振興事業 ①三重県障がい者スポーツフェスティバル 2017 ②地域障がい者スポーツ体験教室 ③陸上競技の人づくり事業 ④水泳選手の発掘・育成事業　　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦平成 27 年 4 月に「三重県スポーツ推進条例」が施行され、基本政策の一つとして、「障がい者によるスポーツ活動の推進」が掲げられた。

【地域の実情・課題点】

♦平成 33 年に開催する全国障害者スポーツ大会（三重とこわか大会）の開催に向けて個人競技選手の発掘・増加、団体競技の育成・強化を図っているが、練習、大会等が中勢地区を中心に開催されているため、交通の便が悪い地区の参加が少ない。また、知的障がい者は「行く方法」「場所」「お金」、重度の障がい者は「支援者確保」、精神障がい者は「社会の目」等の理由により参加を妨げており、選手の確保、育成が難しい状況である。
♦地域で楽しみながら気軽に参加し、交流や健康維持が図れる環境や、県内の中学校・特別支援学校の生徒による授業以外での運動がなく、学校卒業後にスポーツを辞める人も多い。また、障がいを理解した支援者や協力者の確保も難しい状況である。

【事業の目的・ねらい】

♦2020 東京パラリンピック及び第 21 回全国障害者スポーツ大会（三重とこわか大会）の開催にむけて、県民への障がい者スポーツの啓発、大会開催の機運の向上を図るため、フェスティバルや障がい者スポーツの体験会を行い、身近な地域で継続的にスポーツに参加できる環境づくりを行うと共に、障がいを理解した指導者や協力者の確保・育成を図ることを目的とする。

【事業概要（内容および実施体制等）】

①三重県障がい者スポーツフェスティバル 2017
　パラリンピック出場選手等によるパネルディスカッション、障がい者スポーツの体験、競技用具・パネルの展示・紹介等を行った。
②地域障がい者スポーツ体験教室（全 6 回）
　知的障がい児・者を対象としたバレーボール等の体験会、ゴールボール体験会、ボッチャ・陸上競技等の体験会を行った。
③陸上競技の人づくり事業
　身体障害者陸上競技の講義、伴走・音響走・スラローム・ジャベリックスローなどの実技等を行った。
④水泳選手の発掘・育成事業
　水泳記録会、練習会や、身体障害者を対象とした水泳教室を行った。

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

♦フェスティバルでは、実行委員の一員として福祉団体、学校、競技団体と共に企画の段階で積極的に関わり、当日の運営も指導員資格を活かせるスラローム・展示等のブースに配置した。

【連携・協力団体】

♦県障がい者スポーツ指導者協議会、県身障者スポーツ吹矢協会、県知的障がい者バレーボールチーム、県知的障がい者ボウリング協会、県電動車椅子サッカー協会、市バレーボール協会、地元小学校、県立特別支援学校、県立盲学校、県視覚障害者協会、日本ゴールボール協会、重度心身障害者支援施設、県陸上競技協会、県水泳連盟

【スポーツ用具について】

♦ボッチャ（レフェリーキット含む）、フライングディスク、アキュラシーゴール、ターボジャブ、ビーンバッグ、タッピングバー、ビート板、キックブイ、アームヘルパーなどを障がい者スポーツ体験会、教室等で使用し、交流会の開催や定期練習会につながった。また、支援者にも競技種目や支援方法を普及する機会となった。
♦今後は、貸出規程を設け、団体に一定期間貸し出し、地元で楽しみながら気軽に参加し、交流や健康維持が図れるようにしていきたい。障がい者スポーツ指導員には、普及・啓発を図るために優先的に貸出しをしていく。また各競技用具は、県内の水泳・陸上競技の選手発掘・育成の体験会や指導員養成講習会や資質向上講習会等でも活用していく。

【事業成果および評価（達成度）】

②：知的障がい者のバレーボール体験会後に女子選手がチームに入部し、女子チームが試合に出られるようになった。また、ゴールボール体験会に参加の視覚障がい生徒による日本ゴールボール協会主催の練習会への参加や、盲学校の体育の授業への取り入れなどがみられた。
①②：開催したことで、障がい者スポーツの啓発、全国障害者スポーツ大会開催の機運は高まっていると実感しているが、全体的に選手の参加が少なく、発掘・育成が進んでいない。
③：本事業を契機に、3 月末にチームが結成される予定。

【事業の今後の必要性】

♦県障害者スポーツ大会やフェスティバル、障がい者スポーツ体験会の参加者は固定化してきており、選手の発掘・育成に繋がっていない。また、身近な地域で継続的にスポーツに参加できる環境づくりを行うための障がい者スポーツ指導員の確保・育成も図れていない。
♦参加者のニーズに応えるため、まずは、支援者の資質向上を積極的に行い、一人で負担を抱え込まずに複数で各地域において活動できる人づくりをしていく必要があると思われる。
♦今年度の事業を単年度で終わらせることなく、継続的に実施し、身近な地域で継続的にスポーツに参加できる環境づくりを行い、大会、教室への積極的な参加に繋げていきたい。

実 施 概 要

実施団体名	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会
事　業　名	障がい者スポーツ連携推進プロジェクト 2017 ①チャレンジパラ！ゴールボール、カヌー体験教室 ②障がい者スポーツ指導者の育成 ③障がい者スポーツの理解啓発　　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦平成 27 年度より県立の特別支援学校（体育館・グランド）などを障がい者スポーツ拠点として整備（施設整備・用具の充実）・活用していく取り組みを展開している。平成 28 年度よりは、企業・大学・関係団体と「障害者スポーツ応援協定」締結し、スポーツ施設、競技指導の支援を受ける体制に新たな事業も展開している。

【地域の実情・課題点】

♦障害者スポーツ推進の基盤となる競技団体 33 組織が設立されており、兵庫県障害者スポーツ協会からの事業助成を受けて活動を展開している。このほか、パラスポーツ推進プロジェクトとして選手発掘育成事業、地域振興を目的として「出前スポーツ教室」、パラリンピック写真展を含むパラアスリートによる講演プログラムとして、障害者スポーツの理解啓発事業、「全国車いすマラソン大会」等の開催などにより、障がい者の積極的な社会参加の促進等に取り組んでいる。

【事業の目的・ねらい】

♦本事業を実施し、障がい者スポーツの裾野拡大を目指すとともに、今後の障がい者スポーツの基礎となる体制づくりを推進する。
①障がい者スポーツ教室の開催
　障がい者スポーツの裾野拡大にゴールボールとカヌーを導入し、スポーツ教室を開催する。企画・開催を地域スポーツ関係者と連携を図ることで新たな関係を創生させる。
②障がい者スポーツ指導者の育成
　平成 28 年度に障がい者スポーツ応援協定を締結した大学等の協働で、障がい者スポーツ指導者協議会等より助言指導を受け、各種講座、体験会の企画運営に取り組み、実践力を育成する。
③障がい者スポーツの理解・啓発
　自治体、地域スポーツ、福祉関係団体等と連携して、パラスポーツ体験交流事業、パラ写真展、講演事業を実施し理解啓発を図る。

【事業概要（内容および実施体制等）】

①障がい者スポーツ教室の開催（全７回）
　ゴールボール、カヌー体験教室（温水プールで 7 艇）を実施。最後に、パラレガッタとパラカヌー関係者の情報交換、連携強化を図るため、パラ水上スポーツへの挑戦フォーラムを実施。
②障がい者スポーツ指導者の育成（全５回）
　障がいの理解と対応に「あすチャレアカデミー」を実施。「障がい者スポーツサポーター養成事業」講義、アンプティサッカー体験と選手との交流、ディスカッション等を行うことで指導者育成への足がかりとなるように実施した。
③障がい者スポーツの理解・啓発（全２回）
　パラリンピック写真展とパラスポーツ普及啓発事業を実施し、企業や小・中学校、公共スポーツ施設や地域住民を巻き込みながら普及・啓発を行った。

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

♦県の行政区分ごとに障がい者スポーツ指導者協議会を地域別とし、地域に応じた障がい者スポーツ指導者協議会理事を組織化し、開催地域の指導員を中心に事業を展開した。

【連携・協力団体】

兵庫県ゴールボール協会、姫路市ボランティアセンター、姫路市まちづくり機構、日本パラカヌー協会、スポーツクラブ 21（総合型）
兵庫県障害者スポーツ連絡協議会、障害者スポーツネットひょうご、近畿地区カヌー関係組織、フレスコサポーティングクラブ、日本パラカヌー協会、加古川市教育委員会、兵庫県カヌー協会、流通科学大学、日本財団パラリンピックサポートセンター、兵庫県スポーツ振興課、姫路市スポーツ振興課、姫路市中央体育館、兵庫県ボッチャ協会、兵庫フライングディスク協会、兵庫県資格障害者福祉協会　ほか

【スポーツ用具について】

♦ゴールボールのボール、プロテクター、アイシェードは、自主的にゴールボール体験授業を実施する学校に貸出をした。管理については、原則、兵庫県立障害者スポーツ交流館において保管し、管理台帳と使用簿により活用する。一部は兵庫県ゴールボール協会に暫定保管、今後円滑な事業推進を図る。

【事業成果および評価（達成度）】

①：ゴールボール体験教室は予定事業数を越えた回数を実施し、参加者数も目標に達した。
②：スポーツ推進委員にリーダー研修を実施した結果、市町のスポーツ推進課より講習会等の企画相談と実施依頼があった。
③：パラリンピック写真展は反響が大きく自治体、企業、大学に好評であった。次年度も協働開催の申し出がある。

【事業の今後の必要性】

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を前に、自治体、大学、企業等関係と協働し、継続した理解啓発をすることができている。
今後の取り組みとして、特別支援学校、障害者就労支援事業所、福祉施設などに対し、従来の福祉の観点からの関係を醸成させていくことが地域スポーツ振興推進には重要と考える。

実 施 概 要

実施団体名	和歌山県障がい者スポーツ協会
事　業　名	和歌山県障がい者スポーツ振興事業 ①障がい者スポーツ教室事業 ②障がい者スポーツ活性化事業（団体競技重点的強化事業）　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦県では、平成 29 年 3 月に「第 2 期スポーツ基本計画」が策定され、「障害のあるなしに関わらずスポーツに参画できる環境を充実させる」という文言が新たに追加された。計画の施策目標の一つである「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」において、障がいのある人が日常生活の中でより身近な地域でスポーツを行うことの重要性が、子どもや高齢者などの健常者と並列して明記されている。

【地域の実情・課題点】

♦平成 27 年に本県で開催された第 15 回全国障害者スポーツ大会により、県民の障がい者スポーツに対する気運はますます高まりつつあり、さらなる障がい者スポーツの普及拡大、定着が期待されている。
♦県内の地理・人員的な問題により、スポーツ教室は紀北地域、特に県内の拠点施設も所在する和歌山市内に集中する傾向があり、同じ参加者が複数の教室に参加している現状がある。スポーツに触れる機会を増やし、様々な参加者を増加させるためにはスポーツに取り組んでいない若年層の参加者の確保が急務と考えられる。また、地域のニーズに応じた競技種目や課題等を取り入れながら、一元的な教室ではなく状況に応じた開催を行っていくことが必要である。

【事業の目的・ねらい】

♦障害者スポーツ教室を安定的に開催する。
・各地域において開催してきた教室をベースに、障がい者スポーツを活性化させる。
♦誰もが身近な地域でスポーツ楽しめる環境を整備する。
・地域でのスポーツ活動の推進のための人材発掘やネットワークを構築する。
♦第 15 回全国障害者スポーツ大会を契機に形成されたチームの継続と競技力向上
・競技人口の増加に伴うスポーツ環境の維持拡大と、県民へのさらなる認知度アップを図る。
　また、スポーツを行う環境を継続的に提供することで、日常生活の中にスポーツを取り入れ、障がい者の社会参加、健康の増進を図る

【事業概要（内容および実施体制等）】

♦障がい者スポーツ教室事業
・各競技の競技規則を学びながら実技を行った。バリアフリーディスクゴルフは指導者の研修会・実技実習を実施し、体験交流大会に繋げ競技普及を行った。
♦障がい者スポーツ活性化事業（団体競技重点的強化事業）
・新たな選手や支援者の発掘・育成の機会とする教室を開催
・競技力の向上、和歌山県内における障害者スポーツ振興を目的とし、親睦バレーボール大会を開催

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

♦和歌山県障害者スポーツ指導者協議会に協力依頼し、スポーツ教室の運営指導を行ってもらった。特に県内発の取組となったバリアフリーディスクゴルフの体験交流大会では、ルール説明や審判員などの役割とともに、参加者とともに活動・交流し、スポーツの楽しさを共有するなど、大きな役割を担ってもらっている。
♦課題として、一部の経験のある指導員が各地域に出向くことが多くなり、経験値に偏りが生じていることが上げられる。

【連携・協力団体】

♦障がい者スポーツ指導者協議会、県水泳連盟、県卓球バレー協会、県アーチェリー協会、県障害者フライングディスク協会、県ボウリング連盟、県スポーツ振興財団、新宮東牟婁障害者施設連絡協議会、和歌山県バレーボール協会、和歌山県立桐蔭高等学校、和歌山県立向陽高等学校、和歌山県立耐久高等学校、岩出市立岩出第二中学校、公益財団法人和歌山県スポーツ振興財団、わかやまスフィーダ・わかやまイーリス、和歌山県フットベースボールチーム　等

【スポーツ用具について】

♦ボッチャの補助具（ランプス）を遠方に長期貸出しすることは不可能であったが、今回の事業による購入で可能となり、各事業所や学校での活動を長期的に広げることができた。
また、ディスクゴルフのゴール等を購入したことで、競技紹介、体験教室、ミニ大会と繋げることができた。
バレーボール、サッカーボールを購入することにより、教室時に一人ひとりに行き渡るようになり、ボールに触れる機会が増加した。
♦ホームページや広報誌等で活用を促し、貸出し等を積極的に行うことで、さらなる競技普及を図る。

【事業成果および評価（達成度）】

①：スポーツ活動の機会を安定的に提供することができた。また、身近な地域でスポーツができる環境づくりを展開し、新たな人材発掘やネットワークの構築が図られた。
②：自主的な教員間のネットワークも生じ、チーム主導で中学校や高等学校バレーボールチームとの練習試合や合同練習会を別途開催することができた。また、選手発掘においても大きな成果があった。

【事業の今後の必要性】

①：県下広域で均等に振興していくための体制づくりとしては、まだまだ発展途中であり、体制の整備が必要である。そのために各市町村の福祉担当者やスポーツ推進員との連携を今後も続けていき、さらなるネットワークの構築を図る必要がある
②：継続的な教室開催によって若年層を取り込み選手層を拡大し、チームを永続的に活性化させることが、今後は重要なポイントとなる。

実 施 概 要

実施団体名	広島県障害者スポーツ協会
事　業　名	広島県における障がい者スポーツ振興・地域推進事業 ①組織連携推進強化事業（地域推進事業　障害者スポーツ体験） ②障がい者スポーツ理解啓発事業（市町開催障害者スポーツ体験） ③障がい者スポーツ理解啓発事業（パラスポーツイベント） ④障がい者のスポーツ教室（特別支援学校・小中学校体験会）　〔300 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦平成 26 年 3 月に障害者プランが策定され、障がい者スポーツ競技団体の組織化等の体制整備に向けて、関係団体との協議を進めてきた。同年 8 月に、県スポーツ推進計画が策定され、障がい者スポーツの県民への普及・啓発と、競技力強化に繋がる取り組みを推進し、障がい者スポーツ競技団体の組織化などの体制整備に取り組んでいる中、平成 28 年 1 月に広島県障害者スポーツ協会を設立した。
♦昨年度から実施している本事業では、県内各地域で活動できる指導員の養成や、全ての県民に対し、障がい者スポーツに対する興味・関心と理解が得られるよう、また障がいのある方が恒常的にスポーツに取り組むきっかけづくりを目指し、普及・啓発を行っている。

【地域の実情・課題点】

♦障がい者スポーツ指導員資格所得後、各地域で実際に指導を行える指導員が少ない。障がい者スポーツ指導員の活動機会を増やすことや、より多くの県民が障がい者スポーツを理解し、実際に携わるきっかけづくりを行うため、本事業の継続実施が不可欠となっている。
♦障がい者が恒常的にスポーツに取り組める環境の整備や、若年代からスポーツに取り組むきっかけづくりとアスリートの発掘・育成に繋げるため、必要な組織体制の整備が課題となっている。

【事業の目的・ねらい】

♦昨年度に引き続き、県内の障がい者スポーツ指導員を始め、スポーツ推進委員や理学療法士等、各地域で障がい者スポーツ指導を行える指導員の養成と活動機会の提供を行い、障がい者スポーツ普及・振興のための体制づくりを行うことを目的としている。障がい者スポーツの紹介および体験会を実施することにより、県民に対する興味・関心に繋げ、併せて選手発掘や普及啓発に繋げることを目的とした。
♦特に、特別支援学校・特別支援学級に在籍する児童、生徒等、若年代を対象とした事業では、若年代からスポーツに取り組むきっかけづくりを行うことや、学校および関係機関との連携を深めることをねらいとした。

【事業概要（内容および実施体制等）】

①組織連携推進強化事業（福山市、廿日市市、三次市、東広島市の 4 地域を会場に講習会を実施）
　障がいの有無にかかわらず参加可能なスポーツの体験会として、ボッチャ、卓球バレー、ふうせんバレーボールを行った。
②障がい者スポーツ理解啓発事業（市町開催障害者スポーツ体験）
　広島市内で開催された、広島リビング新聞社主催「第 14 回リビング食育・健康フェア」内において、障がい者スポーツ体験会を実施。
③障がい者スポーツ理解啓発事業（パラスポーツイベント）
　パラバドミントン選手によるデモンストレーションと体験交流。障がい者スポーツレクリエーションスポーツ体験（車いすバスケットボール、ボッチャ、フライングディスク、ふうせんバレーボール等）メディカル・フィジカルサポートの事業紹介（パネル展示）
④障がい者のスポーツ教室（特別支援学校・小中支援学級での障がい者スポーツ体験教室を県内 14 校で実施）
　フライングディスク、車いすバスケットボール、アンプティサッカー、スポーツ能力測定等を実施。

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

♦本事業の実施により、各地域の障がい者スポーツ指導員に対する指導の知識所得とスキル向上に繋げることができた。
♦福祉施設職員や学校教員、各種スポーツクラブ指導員等、障がい者スポーツ指導員資格を所得していない参加者が、指導者資格への興味関心を持ち、指導員養成講習会を受講する等、指導者の養成に繋げることができた。本年度初めて、県理学療法士会が主催する中級障がい者スポーツ指導員養成講習会が開催され、本事業においても、障がい者スポーツ指導に関心のある理学療法士の積極的な参加が見られた。

【連携・協力団体】

♦広島県、県市教育委員会、県体育協会、県理学療法士会、市町民生委員、県競技団体（バドミントン協会）、広島法務局、人権擁護委員連合会・協議会、広島リビング新聞社、TSR ホールディングス（測定）、アダプテッドスポーツクラブ、障がい者競技団体（フライングディスク協会）、障がい者スポーツ活動団体（アンプティサッカー、車いすバスケットボール）

【スポーツ用具について】

♦特別支援学校や特別支援学級の児童・生徒たちが、より楽しく意欲的にスポーツに取組めるよう、フライングディスクで活用できる「ディスゲッターナイン」を購入。障がいのある子どもたちが、興味をもって楽しくスポーツに取組み、有意義な教室を実施できた。
♦当協会事務局において管理・保管、要望に応じ県内各地への貸し出しを行っている。教室実施や学校への貸出を行い活用していきたい。

【事業成果および評価（達成度）】

①：県内各地域において、指導者への知識習得とスキル向上の機会を提供することができた。各地域の教育委員会・スポーツ施設と連携をとり、今後の障がい者スポーツ振興に向けた組織連携強化に繋げることができた。
②：多くの方に、障がい者スポーツの楽しさや有効性を紹介することができ、障がい者スポーツの普及啓発に繋げることができた。
③：県民のパラスポーツへの興味・関心に繋げることができた。
④：普段スポーツを行う機会の少ない子どもたちが、スポーツに取組む機会となった。また、大会への参加にむけた情報提供を行えた。

【事業の今後の必要性】

①：地域によっては参加者が少ない。継続的な実施により各地域との連携を深め、引き続き指導者の育成に繋げていきたい。
②：開催市町が少なかった。複数の市町において開催し、県内全域での障がい者スポーツの普及啓発活動を行う必要がある。
③：多くの方に興味関心を持ってもらい、障がい者スポーツ携わる人を増やすこと、選手の発掘・育成にも継続実施が必要である。
④：広報時期が遅れ、実施校が予定数に満たなかった。学校の年間行事予定に合わせ広報を行い、多くの学校で実施していきたい。

実 施 概 要

実施団体名	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会
事　業　名	山口県における障害者スポーツの推進事業 ①地域障害者スポーツ教室開催事業 ②障害者交流スポーツ大会開催事業 ③障害者スポーツ指導者養成事業　　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦平成 25 年度を初年度とする「山口県スポーツ推進計画」（計画期間 10 年）の中で、障がい者がスポーツに参加しやすい環境づくりや競技力向上を目指した「障害者スポーツの推進」を掲げている。
♦当協会では、推進計画を通した取り組みを受けて、幅広い分野のスポーツ教室や大会の開催、障がい者スポーツに欠かせない支援者、専門的知識を持った障がい者スポーツ指導員の養成、全国レベルの競技選手の育成・強化等の事業を推進している。

【地域の実情・課題点】

♦推計人口による高齢化率が全国第 4 位で、高齢化が進んでいる。
♦県内での中心都市が点在しており、分散型の都市構造となっている。

【事業の目的・ねらい】

♦平成 23 年の全国障害者スポーツ大会「おいでませ山口大会」の成果の確実な継承を図るとともに、東京 2020 パラリンピックを見据えた障がい者スポーツの推進に努める。
♦多様な障がいや年齢、性別にかかわらず活動できるレクスポーツの地域への普及や健常者と障がい者が一緒にスポーツを楽しめる交流スポーツ大会の開催、また、これらの障がい者スポーツを支える指導員や支援者、ボランティアの養成など人材育成・確保を図る。

【事業概要（内容および実施体制等）】

①地域障害者スポーツ教室開催事業
　県内各地域において指導員が中心となり、スポーツ教室や学校等での障害者スポーツ体験教室を開催した。ボッチャや風船バレーなどに取り組んだ。
②障害者交流スポーツ大会開催事業
　視覚障がい者を対象とした「サウンドテーブルテニスの競技大会」、ふうせんバレーボール、卓球バレー、ボッチャの交流体験会を実施した「障害者交流スポーツフェスティバル」、室積湾をクルージングする「ヨット体験教室」を開催した。
③障害者スポーツ指導者養成事業
　ボランティアを養成する「障害者スポーツボランティア養成講習会」、医科学委員やトレーナーを招いての「障害者スポーツ医･科学サポート相談会」を開催した。

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

①地域障害者スポーツ教室では、地域差はあるものの、各地域の障がい者スポーツ指導員が企画、運営し、連携団体の協力も得て、継続的にスポーツ教室を行っている。
②スポーツ大会では、事前の打合せにも参加して準備段階から関わり、大会の運営スタッフや審判員として、講習会では講師や補助スタッフとして活躍している。

【連携・協力団体】

♦県、宇部フロンティア大学短期大学部、YIC リハビリテーション大学校、県レクリエーション協会、県施設管理財団、有限会社リベルタス興産、県グラウンド･ゴルフ協会、県ボッチャ協会、県ふうせんバレーボール連盟、県立宇部総合支援学校、各市、各市教育委員会、各市社会福祉協議会、県障がい者スポーツ指導者協議会、県障害者卓球協会、県卓球バレー協会、県車いすバスケットボール連盟、山口ウィルチェアーラグビークラブ、県サウンドテーブルテニス協会、県卓球協会、県セーリング連盟、山口スポーツ交流村、県特別支援学校長会、県身体障害者団体連合会、県障害福祉サービス協議会、県身体障害者施設協議会、県精神障害者福祉会連合会、県手をつなぐ育成会、県知的障害者福祉協会、県障害者社会参加推進センター、山口市スポーツ推進委員協議会、県障害者スポーツ医･科学サポート活用推進委員会

【スポーツ用具について】

　購入なし

【事業成果および評価（達成度）】

①：継続的に行われるようになり、障がい者も障がい者スポーツ指導員も身近な地域でスポーツを楽しみ、交流ができるようになった。
　スポーツ教室で行うスポーツも種目が増え、指導者の工夫の様子が伺えた。
②：障がいの有無に関わらず、スポーツを楽しみ交流するという経験から、競技により関わろうと審判資格を取得する指導者も少なくない。
　より専門性の高い障がい者スポーツ指導者が増え、資質の向上に繋がっている。
③：県歯科医師会から情報提供したいという申し出があり、障がい者スポーツを支援していただけるきっかけとなった。

【事業の今後の必要性】

①：継続的に活動している地域と継続的な活動に繋がっていない地域とがあるため、当協会と障がい者スポーツ指導者協議会との連携・主導により地域間の格差の解消を目指したい。
②：大会を支えるスタッフの確保に苦労しており、引き続き、指導者の育成や関係団体との連携に取り組んでいきたい。また、競技団体の組織強化（運営、資金集め、人材確保等）の研修会の開催も検討したい。
③：障がい者スポーツに関心を持ってもらう講習会や障がい者スポーツ指導者に情報を提供できる相談会を開催し、人材の確保や資質向上につなげたい。

実 施 概 要

実施団体名	愛媛県障がい者スポーツ協会
事　業　名	愛媛県障がい者スポーツ理解啓発事業 ①障がい者スポーツ拠点整備事業 ②障がい者スポーツ紹介事業（体験事業）　〔300 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦平成 23 年 3 月に「愛媛県スポーツ振興計画（後期）」が策定され、具体的な取組として、子どもから高齢者・障がい者まで地域住民誰もが身近に好きなスポーツを気軽に楽しむことができるよう地域に根ざしたスポーツの振興を図ることとしている。
平成 29 年の愛媛国体・大会に向けた開催準備を積極的に推進しており、開催基本方針における障がい者スポーツの理解・認識を積極的に推進していく必要がある。

【地域の実情・課題点】

♦全国障害者スポーツ大会の開催を控え、平成 25 年 4 月に障がい者スポーツ協会が発足し、障がい者スポーツの普及及び啓発や、指導員の養成及び支援・連携等を推進している。
♦誰もが身近でできる障がい者スポーツを楽しむための拠点を中心部以外の地位でも整備拡大し、障がい者スポーツへの理解と認識を積極的に推進していく必要がある。

【事業の目的・ねらい】

♦障がいのある人たちが身近な地域で継続的に障がい者スポーツに参加できるよう、松山市以外の地域に障がい者スポーツのできる体制と拠点を整備する。
♦障がい者スポーツ普及啓発をさらに促進するため、協会の定例的な事業として定着しつつある体験教室を今年度は新たな競技も積極的に取り入れ事業を実施する。

【事業概要（内容および実施体制等）】

①障がい者スポーツ拠点整備事業
・松山市以外の 3 地区（新居浜市、今治市、西条市）で複数回行う。内容としては、地域の指導者の意見交換会、指導者への実技指導、障がいの有無に関わらない障がい者スポーツの体験会等を行った。（フライングディスク、ボッチャ、車いすバスケットボール等）
②障がい者スポーツ紹介事業（体験事業）
・体験会希望の各市町や学校等で「障がい者スポーツ体験会」を各競技団体・協力団体の協力を得ながら開催した。
（今年度実施種目：ボッチャ、フライングディスク、車いすバスケットボール）

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

♦協会と障がい者スポーツ指導者と連携して事業を実施しており、多くの事業で企画・運営・検討等について連携して実施できた。
♦拠点整備事業では、各地域の中心となる指導者を集め、体験会の前日に地域における活動の取り組みや実情を共有化する情報交換を行った後、指導法を学ぶ研修会を実施することで、事業を終えた後の連携に繋げるような工夫がされていた。
♦競技団体の補助的役割や種目によっては中心的存在として事業運営を行った。

【連携・協力団体】

♦県障がい福祉課、県教育委員会、各市町、小学校、松山市社会福祉協議会、身体障がい者福祉センター、西予市、西予市宇和体育館、新居浜市、新居浜市総合福祉センター、今治市、サン・アビリティーズ今治、小学校、特別支援学校、県体育協会、愛媛 WBC、愛媛県障害者フライングディスク協会、愛媛県障がい者スポーツ指導者協議会、愛媛県体育協会、愛媛県手をつなぐ育成会、愛媛県聴覚障碍者協会等

【スポーツ用具について】

♦協会にて所有している車いすバスケ車が 6 台しかなかったが、今回 4 台購入したことにより試合形式の体験実施をすることができるようになり、一度に多人数を対象にした体験会等にも対応できるようになった。
県内において、人気の高いボッチャについても、ボッチャセットとランプを購入することで多くの事業で活用することができた。
体験会においても、障がい者スポーツ指導員に様々な障がいの程度に応じて対応できるように用具の使用方法もレクチャーした。
♦今後は協会にて適正に保管し、担当職員が定期的にメンテナンスを行う。他の施設等から借用希望があった際には、適切に対応していく。

【事業成果および評価（達成度）】

①：それぞれの地域で障がい者スポーツの指導者として協力していただける人たちの養成を併せて行なったことで、障がい者スポーツの裾野の拡大を図るとともに各地域での問題点や課題等も理解することができた。
②：フライングディスクだけでなく、新たにボッチャ、車いすバスケットボール等の種目も取り入れた。また、体験会希望地域も広がりつつあるため、更なる普及啓発に向け今後も内容を充実して実施していきたいと考えている。

【事業の今後の必要性】

①：拠点整備の必要性については県でも十分認識されており、平成 30 年度以降は県予算で拠点整備を実施する方向で準備を進めているところである。同時に、地域における温度差の解消や周知方法等意見交換会での意見もしっかりと踏まえた上で改善していきたい。
②：障がい者スポーツの普及啓発は徐々に浸透している状況である。今年度も実施希望の市町が複数あったが、予算の関係で実施できなかった地域もあるため、未実施地域を中心に今後も継続して実施していきたいと考えている。

実 施 概 要

実施団体名	社会福祉法人高知県社会福祉協議会
事　業　名	高知県障害者スポーツ普及啓発事業 ①東部地区ボッチャ競技大会 ②幡多地区陸上競技大会 ③種まく大人実行委員会　　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦平成 29 年度より、県の障がい者スポーツ担当部局が新設の「文化生活スポーツ部スポーツ課」に一元化された。県立障害者スポーツセンターの指定管理業の管轄も障害保健福祉課からスポーツ課に移管された。
♦現在の高知県スポーツ振興計画の中では「障がい者スポーツ」が特記されていないが、平成 29 年度が計画の見直し年度に該当していることから、県行政として新たに委員会を設けて、障がい者スポーツの振興計画を策定していく予定である。

【地域の実情・課題点】

♦県東部・西部は県中心部から 2 時間以上かかる位置にあり、東部・西部の在住者は県中心部のイベントに参加する機会が少ない。
♦障がい者スポーツが社会に還元できることを探りたい。

【事業の目的・ねらい】

♦県東部地域では、別事業として「聞き取り調査」や「出前教室の開催」を行い、関係者の巻き込みを図っていきたいと考えているが、そうした関係者の協力事業として「ボッチャ大会」を開催することで、実行委員会等を通じて県東部地域の障がい者スポーツ振興への課題を共有化することを目的とする。
♦「陸上競技大会」では、別事業として指導者協議会の主催事業で西部地域において「陸上練習会」が開催されることから、大会と併せて地域の障がい者の掘り起しを目的とする。
♦「種まく大人実行委員会事業」では、2020 東京パラリンピックのレガシーの一つを、障がい者スポーツを通じた福祉教育の推進と考え、小中高等学校からの障がい者スポーツ体験学習の依頼に対応できる人材を養成することを目的とする。

【事業概要(内容および実施体制等)】

①東部地区ボッチャ競技大会
　参加団体の現状や課題の聞き取り、運営団体との日程調整、参加団体との送迎調整、県立高校女子野球部へのオープン参加呼びかけ。
②幡多地区陸上競技大会
　障害を区分せず座位と立位のみに分類し競技した。高知ファイティングドッグスから、選手のゲスト参加や、輸送面での支援を得た。
③種まく大人実行委員会
　県内の学校で開催される「障がい者スポーツ体験教室」への講師派遣、そのプログラム等を委員会にて検討、勉強会の開催。

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

①：県東部や西部の指導員が活動する機会は少ない状況にあるが、本事業においては、東部・西部で開催するにあたり、準備段階からその地元の指導員を活用できた。
②：イベントのポスター製作を指導員が担当するなど、事前段階から具体的な役割を持って活動できた。
③：実行委員となっている指導員が、小中学校の体験教室でコーディネーターを務めている。

【連携・協力団体】

♦県障がい者スポーツ指導者協議会、県ボッチャ協会、室戸市、NPO 法人むろとスポーツクラブ、県レクリエーション協会、安芸市福祉事務所、安芸市社会福祉協議会、奈半利町社会福祉協議会、芸西村社会福祉協議会、山田養護学校田野分校、幡多地区陸上競技協会、宿毛市スポーツ推進委員協議会、四万十市スポーツ推進委員協議会、県知的障害者育成会、県知的障害者福祉協会、(株) 高知ファイティングドッグス球団、県立若草養護学校、県聴覚障害者協会、香南市社会福祉協議会、いの町社会福祉協議会、香美市社会福祉協議会、中土佐町社会福祉協議会

【スポーツ用具について】

♦スポーツ用車いすは、小中学校の体験学習会と、幡多地区陸上競技大会（車いすレース）において活用した。(スラロームも同様)
♦地域のスポーツ活動での活用を目的に、積極的な貸し出しを行っている（車いすは支援学校と支援学級の授業でそれぞれ使用中)。
　なお、管理に関しては貸出に期限を設け、定期的に障がい者スポーツセンターでメンテナンスを行っていく。

【事業成果および評価(達成度)】

①②：本事業の会場は県中心部から 2 時間以上かかる位置にあり、県中心部のイベントに参加する機会の少ない人が参加できたことは大きな意義があった。また、高知ファイティングドッグス球団など、日頃、障がいのある人と接する機会の少ない人たちが、障がいのある人々の「悔しがる姿」や「笑顔」に触れたことは広い視点での地域づくりに生きてくると考えている。
③：委員が講師として学校に出向く活動を通じて、子供たちに考える機会や自分自身を見つめなおす機会を提供したことが感想文から読み取れた。

【事業の今後の必要性】

①②：高知県の東部、西部の人たちの発表の場として今後も継続的な取り組みが求められる。また、両事業を通じて高知県の公共交通網の脆弱さが浮き彫りになった。こうした課題に行政、社協、民間企業と連携して取組んでいくことで、障がい者スポーツや障がい者の社会認知が進んでいくと考えている。
③：体験学習の感想文を委員と共に分析していくことで、小学校期、中学校期、高等学校期とそれぞれの成長段階に応じた内容が今後提供していけるのではないかと考えている。次年度以降は委員会形式から勉強会方式へ移行し、より多くの人が学べる機会を提供したいと考えている。

実 施 概 要

実施団体名	鹿児島県障害者スポーツ協会
事　業　名	鹿児島県における障がい者スポーツの普及と選手の発掘・育成事業 ①障害者のスポーツ教室事業（障害者スポーツ体験普及教室開催事業） ②障害者のスポーツ教室事業（障がい者バレーボール教室開催事業）　〔300 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦平成 22 年 6 月に制定された「スポーツ振興かごしま県民条例」では、障がい者のスポーツ参加について明記され、その条例を受けての「スポーツ振興かごしま基本方針」でも障がい者のスポーツの促進が規定されている。
♦平成 27 年度から県が主催する「スポーツ情報交換会」や平成 32 年度の国体・障スポの開催に向けての事務局において、一般のスポーツ担当と障がい者スポーツ担当の連携が進んでいる。

【地域の実情・課題点】

♦障がい者がスポーツと出会い、活動する機会が、鹿児島市と離島を含めた他地域との間に格差がある。
♦特別支援学校の体育の授業等での障がい者スポーツの指導は、軽度の障がい者が対象で、重度や重複障がいの生徒は対象外となっているケースが見られる。
♦平成 32 年全国障害者スポーツ大会の開催県として、聴覚障がい者のバレーボールはチームが不在である。また、知的障がい者のバレーボールについては、平成 28 年度にチームが結成されたばかりで技術力の向上を図る必要がある。

【事業の目的・ねらい】

♦鹿児島市と他地域との格差解消及び特別支援学校でのスポーツの参加機会拡大を目的とする。
♦平成 32 年全国障害者スポーツ大会に向け、聴覚障がい者と知的障がい者のバレーボール競技の育成・強化を目的とする。

【事業概要（内容および実施体制等）】

①障害者のスポーツ教室事業（障害者スポーツ体験普及教室開催事業）
　県内の離島を含めたできるだけ多くの地域の特別支援学校の体育館を会場とし、ニュースポーツ・身体作りなどを行った。
　特別支援学校教員やスポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブにも参加を呼びかけた。
（身体づくり運動、レクリエーション、ボッチャ、バスケットボール、フライングディスク、卓球バレー、剣道、空手、電動車いすサッカーなどを実施。）
②障害者バレーボール教室開催事業
　聴覚障がい者と知的障がい者を対象に、「基礎運動」「技能レベルに応じた基礎練習」「練習試合」を中心に行った。
　トレーナーや一般競技団体の指導者、県内プロチームなどに協力いただくことで、よりレベルの高い指導が行える環境づくりに務めた。

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

♦「障がい者スポーツの普及と選手の発掘・育成事業」では、県障がい者スポーツ指導者協議会が主体となって、県障がい者スポーツ協会等と連携し、企画運営を行った。
♦両事業においても、指導員が関係者と協議しながら企画し、会場の確保、当日の教室運営（指導含む）、終了後の書類整理などを行った。

【連携・協力団体】

♦県、県教育委員会、県特別支援学校長会、県バレーボール協会、県コミュニティスポーツクラブ協議会、NPO 法人 ASA 奄美スポーツアカデミー、県身体障害者福祉協会、県手をつなぐ育成会、県知的障害者福祉協会、県レクリエーション協会、県聴覚障害者協会

【スポーツ用具について】

♦バレーボールを購入し数が増えたことで、知的・聴覚障がいの各男女別チーム、さらに技能レベルごとに複数チームに分けて練習することができるようになった。（練習環境を改善に繋がった）
♦今後は、保管場所を県の許可を得た県有施設であるハートピアかごしまの倉庫とし、当協会で管理する。
　事業終了後も全国障害者スポーツ大会鹿児島大会に向けて、普及・育成教室や県代表チームの練習に活用し、貸出しにも応じていく。

【事業成果および評価（達成度）】

①：県内各地の 12 の特別支援学校で開催し、多くの児童・生徒及び教員の参加があったことで、障がい者スポーツの振興を図る上でのキーパーソンにアプローチでき、大きな成果があったと考えている。また、スポーツの拠点作りとしても評価できる内容となった。
②：知的障がいチームの競技力は確実に向上し、聴覚障がいチームでは、全日本クラスの選手の参加もあり、男子チームは平成 30 年度の九州ブロック大会に参加する目処が立った。また、指導スタッフとの連携は、人材確保に悩む本件の好例となった。

【事業の今後の必要性】

♦当県では、平成 32 年度の全国障害者スポーツ大会かごしま大会を、県民の障害者に対する理解と障がい者スポーツの普及の好機ととらえている。これを受けて、県障がい者スポーツ協会は平成 28 年度より「障害者スポーツ振興事業」を県から受託している。
障がい者スポーツの拠点づくりのほか、全国障害者スポーツ大会の実施競技の普及、選手の育成と競技力の向上、障がい者スポーツ指導員の養成と資質向上を目的としており、同大会のある平成 32 年度まで継続される見込みである。よって、今後は、今回の事業を通じて構築された特別支援学校等との連携を最大限に活かし、県の「障害者スポーツ振興事業」に軸足を置いて、2 年後に迫った全国障害者スポーツ大会に対応していきたい。

実 施 概 要

実施団体名	特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会
事　業　名	沖縄県スポーツプロジェクト ①障がい者のスポーツ教室事業 ②選手発掘・育成事業　　〔200 万円〕

【地域のスポーツ環境の特色】

♦年間を通して温暖な本県は『スポーツアイランド沖縄』を掲げ文化・観光・スポーツを一体としてスポーツに力を入れている。国内外から一般レベルからプロレベル、オリンピック・パラリンピックレベルの選手、チームの合宿地として受け入れていることから県内のスポーツバリアフリー化も進められ障がい者のスポーツ参加も身近なものとなってきている。

【地域の実情・課題点】

♦本県は障がい者スポーツとしてはまだまだ発展途上の段階であり盛り上がりの機運はあるが課題点も少なくない。その一つとして、スポーツ指導員の資格で活躍する場も少なく、いつの間にか指導員から離れていく者も少なくない。そのために指導員のモチベーションを上げる事を提供していかなければならない。
♦もう一つは、離島県ということから障がい者スポーツの選手間の交流・試合等が少なく競技力向上に悩んでいる。選手の発掘・育成も本県の障がい者スポーツの発展の一つと考える。

【事業の目的・ねらい】

♦障がい者スポーツは誰でも参加しやすく健康増進の一躍も担える事から障がいの有無に関わらず子どもからお年寄りまで広く理解・参加してもらい障がい者スポーツ全体の底上げを図る。
♦競技力向上のためにも地域とも連携をとる。
♦指導員の経験の場を提供し、指導員の数・質ともに向上を図る。
♦障がいの有無に関わらず地域を中心に親しまれ理解・共有してもらい定着を図る。誰もが参加できるものとして目指し発展をねらう。

【事業概要(内容および実施体制等)】

①障がい者のスポーツ教室事業
海あしびなーSUN フェスタ
1. マリンスポーツ・競技用車椅子・ハンドサイクル・知的障がい者バスケットボール・ボッチャ・車いすバスケットボール体験教室
2. 障がい者サッカー教室
各障がいに応じたクラス別サッカー体験・指導を実施。(県サッカー協会と連携しながら実施)
キンボール体験・電動車いすサッカー体験教室も併せて実施した。

②選手発掘・育成事業
1. 障がい者バレーボール教室（3 回）
県バレーボール協会の指導の下、技術指導の教室を実施。県内の高等学校バレーボール部との練習試合も行った。
2. 障がい者バスケットボール教室（3 回）
車いす・知的・聴覚の各障がいに応じたバスケットボール教室を実施。

【障がい者スポーツ指導者の活用・役割】

♦以前から積極的な活動参加している指導員は慣れているため、新しい指導員等への指導もやってもらった。企画会議の段階から参加してもらいアイデア等も引き出す。運営にも積極的に参加してもらうことにより、県内の障がい者スポーツへの理解・啓蒙への発展を図る。
♦ボランティアへの指導員の資格を紹介し指導員の増加を促す。

【連携・協力団体】

♦今年度は今まで関わりのない団体との連携が多かった。
♦県スポーツ競技団体（レクリエーション協会・バレーボール協会・サッカー協会)、県内高等学校、県障がい者スポーツ指導者協議会、県障がい者スポーツ競技団体（知的バスケットボール)、県知的障がい者スポーツ連絡会、障がい者スポーツチーム

【スポーツ用具について】

♦今回はボール等の購入が多かったがそのおかげで教室等を開いても円滑に運営ができ参加者もたくさん募ることが出来た。
小さめの扱いやすい軽いボールも用意しジュニアでも参加ができた。
♦当協会事業での使用や競技団体への借用を積極的に行う、

【事業成果および評価(達成度)】

①：マリンスポーツは初めて体験をする障がい当事者が多く、本人や家族からたくさんの良い評価をいただいた。
今回のイベントでは人的サポート体制も十分であり、遊泳体験をさせることが出来たことが大きな評価である。

【事業の今後の必要性】

①：事業を行った結果さまざまな団体と初めて関りがもてた事や事業後の実行委員会での報告会で来年もぜひ継続して行いたいとの声をいただき前向きであった。今年度から本県で知的障がい者サッカー協会が設立され県内サッカー協会も積極的に連携をしている。今後も多くの参加者が期待できる。
②：今回を機に県内バレーボール協会とも深い繋がりができバレーボール協会の表彰にも当協会から受賞者が出た。
協力体制が確立しつつあり継続が必要である。競技人口は多くなく選手の発掘が課題である。
障がい者のバスケットボールは障がい別でも 4 種あり、それぞれを普及・発展に力を入れなければならない。

Ⅲ　まとめと今後の課題

本事業は、障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりをめざすために、障がい者スポーツ指導者の活用を促し、スポーツ教室やスポーツイベント等の開催を通じて、参加した障がい者が、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができること、そして、都道府県・政令指定都市の障がい者スポーツ協会が各地域における障がい者スポーツの統括組織として、体制および組織強化に寄与することを目的に16団体が事業を実施した。

まず、16団体の事業内容を整理し、以下のようにまとめた。

※1. 文中で、事業を実施した16団体を総称する場合「県障がい者スポーツ協会」とし、都道府県と政令指定都市を含む地域全体をさす場合も「県」と表現した。

※2. 文中で、「障がい者スポーツ」は、「障がい者のスポーツ活動」を総称して表記した。

※3. 本協会公認指導者制度では、「障がい者スポーツ指導員」、「障がい者スポーツコーチ」、「障がい者スポーツトレーナー」、「障がい者スポーツ医」を総称して「障がい者スポーツ指導者」と表記するが、本報告書では全て「障がい者スポーツ指導者」で統一し表記した。

1　事業実施の背景

1）県のスポーツ推進計画に基づいて、障がい者スポーツが推進されている

平成23年に制定された「スポーツ基本法」や「スポーツ基本計画」の規定に基づき、平成29年3月に「第2期スポーツ基本計画」が策定された。

各県においても、スポーツ基本法やスポーツ基本計画、第2期スポーツ基本計画に基づいて、県のスポーツ推進計画が策定されており、障がい者スポーツの推進に具体的な目標や取り組みを掲げた地域も増えてきている。

第2期スポーツ基本計画には、「スポーツ参画人口の拡大」や「スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現」をめざすことについて触れられており、身近な地域におけるスポーツ環境の整備やスポーツを活性化するための関係機関との連携といった取り組みを推進していくことについて掲げられた。

そのような中、本事業は、各県の計画を推進するための「しくみ」をつくる役割を担うと共に、県域における地域のスポーツ環境整備へのきっかけづくりとなる取り組みが行われた。

以下に、今回事業を実施した各県のスポーツ推進に関わる計画やそれに基づいた状況をあげる。

北海道	障がい者のスポーツ活動については、からだを動かすことによる健康づくりをはじめとして、自己実現や生きがいを見いだし、人々との交流を通じて積極的に社会参加をすることが期待されることなどを大きな意義のあることとして謳い、平成25年3月に策定された「北海道スポーツ推進計画」のもと取り組んでいる。
岩手県	平成28年の希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の開催を契機に、スポーツ行政の一元化の機運が高まり、平成28年度に岩手県文化スポーツ部が新設された。さらにこの大会を契機に岩手県障がい者スポーツ協会を設立・法人化。これによりスポーツ参加の窓口の明確化と社会的信用を高め、組織基盤強化と関係団体と連携したネットワーク作りを併せて進めている。
宮城県	平成25年度に策定された「宮城県スポーツ推進計画」では、「児童・生徒の障がいの種類や程度に応じて、安全にあそび（身体活動）ができるように配慮します。」と謳われており、支援学校の部活動の充実も目標としている。また、県体育協会は事業計画に、障がい者スポーツの支援が明記されたことを受け、今後さらに県障がい者スポーツ協会との連携協力や競技団体との連携による大会開催を目標とした取り組みを進めている。
福島県	東日本大震災の影響により、屋外での運動が制限され、運動不足等が問題となった。その改善策として豊かなスポーツライフの創造をめざすため、「楽しむ」、「育む」、「競う」、「つなぐ」の4つの視点から8つの推進施策を掲げて県のスポーツ推進に取り組んでいる。
埼玉県	県スポーツ推進計画は、平成25年度から29年度までの5か年を計画期間としている。幼児から高齢者まで、性別や障がいの有無にかかわらず、全ての県民が生涯にわたってスポーツと関わる活動全般を対象としており、「生涯にわたるスポーツ活動の推進」、「国内・国際大会に向けた競技スポーツの推進」の項目において、障がい者のスポーツに関する記載がされている。

長野県	県スポーツ推進計画において、県民一人一人が年齢や性別、障がいの有無等を問わず、関心や適性等に応じて、日常的にスポーツに親しみ、楽しみ、支える活動に参画できる環境を整えていくことを目的とした取り組みを行っている。
静岡県	障がいの重度化・高齢化を踏まえ、スポーツやレクリエーションを実施したくても受け入れる場所がない。開催地までの移動が困難などの現状を改善するために、県内各地域の公認障がい者スポーツ指導者と地域の連携により、障がい者スポーツの普及が進んでいない地域を重点的にスポーツ環境の整備を図っている。
三重県	平成 27 年 4 月に「三重県スポーツ推進条例」が施行され、基本政策の一つとして、「障がい者によるスポーツ活動の推進」が掲げられた。また、平成 33 年に開催する全国障害者スポーツ大会（三重とこわか大会）の開催に向けて個人競技選手の発掘・増加、団体競技の育成・強化を図っている。
兵庫県	平成 24 年 12 月に「兵庫県スポーツ推進計画」策定され、「障害のある人のスポーツ参加の増加」の重点目標の充実を図るため、平成 27 年度は県立特別支援学校等の障がい者スポーツ拠点の整備による活用を展開。さらに平成 28 年度は、企業・大学・関係団体と「障害者スポーツ応援協定」を締結し、スポーツ施設、競技指導の支援を受ける体制に新たな事業も展開している。
和歌山県	平成 29 年 3 月に「第二期スポーツ基本計画」が策定され、「障害のあるなしに関わらずスポーツに参画できる環境を充実させる」という文言が新たに追加された。計画の施策目標の一つである「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」において、障がいのある人が日常生活の中でより身近な地域でスポーツを行うことの重要性が、子どもや高齢者などの健常者と並列して明記されている。
広島県	平成 26 年 3 月に障害者プランが策定され、障がい者スポーツ競技団体の組織化等の体制整備に向けて、関係団体との協議を進めてきた。同年 8 月には、県スポーツ推進計画が策定され、障がい者スポーツの県民への普及・啓発と、競技力強化につながる取り組みを推進し、障がい者スポーツ競技団体の組織化などの体制整備に取り組んでいる。このような背景の中、平成 28 年 1 月に広島県障害者スポーツ協会を設立した。
山口県	平成 25 年度を初年度とする「山口県スポーツ推進計画」（計画期間 10 年）において、「生涯スポーツの推進」、「競技水準の向上」、「人材の育成」、「地域の活性化」という 4 つの基本方針と 12 の取り組み方向に基づきスポーツ推進施策を展開している中で、障がい者がスポーツに参加しやすい環境づくり、競技力向上を目指した「障害者スポーツの推進」を掲げている。
愛媛県	平成 23 年 3 月に「愛媛県スポーツ振興計画（後期）」が策定され、具体的な取り組みとして、子どもから高齢者・障がい者まで地域住民誰もが身近に好きなスポーツを気軽に楽しむことができるよう地域に根ざしたスポーツの振興を図ることとしている。
高知県	平成 29 年度より、県の障がい者スポーツ担当部局が新設の「文化生活スポーツ部スポーツ課」に一元化された。また、現在の県スポーツ振興計画の中では「障がい者スポーツ」が特記されていないが、平成 29 年度が計画の見直し年度に該当していることから、県行政として新たに委員会を設けて、障がい者スポーツの振興計画を策定していく予定である。
鹿児島県	平成 22 年 6 月に制定された「スポーツ振興かごしま県民条例」では、障がい者のスポーツ参加について明記され、その条例を受けた「スポーツ振興かごしま基本方針」でも障がい者のスポーツの促進が規定されている。平成 27 年度から県が主催する「スポーツ情報交換会」や平成 32 年度の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向けての事務局において、一般のスポーツ担当と障がい者スポーツ担当の連携が進んでいる。
沖縄県	年間を通して温暖な沖縄県では、『スポーツアイランド沖縄』を掲げ文化・観光・スポーツを一体としてスポーツに力を入れている。障がいの有無に関わらず、国内外から様々な競技レベルの選手・チームの合宿地として受け入れていることから県内のスポーツバリアフリー化も進められ、障がい者のスポーツ参加も身近なものとなってきている。

2）地域の特性や課題に即した事業が企画実施されている

各県における課題は、身近な地域のスポーツ環境の整備について挙げられており、県域の環境の現状把握、スポーツに触れる機会をつくること、継続した活動ができるような支援（人づくり・場づくり）を中心に企画されており、地域特性に応じて課題解決に向けた取り組みが行われている。

＜本事業での主な取り組み＞

北海道では、障がい者スポーツの裾野拡大を図るために、学齢期の障がい児に対し早期のスポーツアプローチを実施している。全道 179 市町村 4 千の小中学校に支援学校・学級があり、障がい児が身近な地域においてスポーツができる環境づくりを提唱している。平成 26 年から毎年 23 校程度を対象にスポ

ーツ教室を実施し、スポーツ環境の整備を図っている。

岩手県では、障がい者に対してスポーツ参加の場を提供する「直接的な支援」に加えて、障がい者を対象にしたスポーツイベントの企画から運営までをサポートする「間接的な支援」が重要と考え、地域における人材、施設、ネットワーク等を活用し、障がい者のスポーツ活動拠点作りを継続的に行う「間接的な支援」を積極的に行い、定着を図ろうとしている。

宮城県では、障がいのある未就学児の運動をする場の提供と指導サポートを行っている。また、卓球バレーの普及と大会を県内各地で開催することにより、地域の指導者をはじめとする関係者主導で継続開催できるよう指導していくことに重点をおいている。

福島県では、障がい者のライフステージに合った運動機会を作り、継続性を重要視し、総合型地域スポーツクラブ等の地域に密着した組織と連携することで地域でのスポーツ環境の向上を図っている。

埼玉県では、交通アクセスや障がい者スポーツ指導者が少ないなど、障がい者がスポーツを行う上で課題が多い県北部地域の実状に対して、地域で自立したスポーツ活動ができるような基盤整備を行い、継続したスポーツ活動の場を根付かせるために団体や組織間の連携づくりと人材の掘りおこし・育成を行った。また、障がい者スポーツ地域拠点づくりに向けた現状把握のための基礎調査を行った。

長野県では「裾野の拡大」と「競技力の向上」、「県民の理解と応援の輪の拡大」を進めるために、身近な場所でスポーツに参加できる環境づくりのための事業を様々なネットワークを構築し行った。

静岡県では、自治体、教育委員会、福祉団体等と連携を図り、障がい者スポーツ環境の少ない地区を中心に障がい者スポーツ指導者を派遣しスポーツ教室を開催した。教室開催の企画・運営については障がい者スポーツ協会が行い、教室内容と指導については障がい者スポーツ指導者が行った。

三重県では、平成 33 年に開催する全国障害者スポーツ大会（三重とこわか大会）の開催に向け、個人競技は選手の発掘、団体競技はチーム設立支援を行い、双方の選手に対し育成・強化を図った。

和歌山県でのスポーツ教室の開催は、障がい者スポーツの拠点施設がある和歌山市内に集中しており、同じ参加者が複数の教室に参加している現状である。新たな参加者を増加させるために、地域のニーズに応じた競技種目や課題等を取り入れながら、スポーツに触れる機会を増やし、参加者の状況に応じた教室開催を行った。

兵庫県では、企業・大学・関係団体と「障害者スポーツ応援協定」を締結し、協定先のスポーツ施設の利用や競技の指導・支援を受ける体制を構築し事業を実施している。

広島県では、全ての県民に対し障がい者スポーツへの興味や関心、理解が得られるための普及・啓発の取り組みを行っており、県内各地域で活動ができる障がい者スポーツ指導者の養成を行っている。また、障がいのある方に対し、恒常的にスポーツに取り組むきっかけづくりとしての体験の場を設けた。

山口県では、高齢化や中心都市の点在による分散化が進んでいるが、障がいの有無や種別、年齢、性別に関わらず活動できるレクリエーションスポーツの普及や大会の開催を県内複数の地域で展開した。

愛媛県では、誰もが身近でできる障がい者スポーツを楽しむための拠点を中心部以外の地域でも整備拡大し、障がい者スポーツへの理解と認識を積極的に推進していく必要があったため、中心部以外の 3 地区において場づくりや人づくりを行う中で拠点を増やす取り組みを行った。

高知県では、県東部・西部の在住者は県中心部のイベントに参加する機会が少ないため、これらの地域で大会を開催し、参加機会の拡大に努めた。

鹿児島県では、障がい者がスポーツ活動を行う機会が、県中心部と離島を含めた他地域との間に格差があるため、各地域の特別支援学校を会場としたスポーツ教室事業を展開した。

沖縄県では、障がい者スポーツの普及はまだ充分とはいえず、興味関心の高まりはあるが課題も少なくない。身近な地域におけるスポーツ環境も整備が充分ではないため、障がい者スポーツ指導者が活動する場を増やし、活動意欲を高めるために障がいのある方とスポーツに参加する機会の拡充を図った。

２　事業内容の特徴

１）地域格差を解消するための人づくりを意識した取り組み

本事業において、地域におけるスポーツの振興を図るために、行政、福祉、教育、スポーツ関係所管、一般・障がい者競技団体、大学、企業などと連携し関係性を深めることで、本事業の終了後も継続して実施できるような工夫が見られた。

＜本事業での主な取り組み＞

北海道では、障がい児・者が、身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりならびに障がい者スポーツが根付くことをめざしスポーツ教室を開催した。また、学校関係者と連携し、地域の実情に応じたスポーツ教室を実施し、事業終了後もその地域で活動が持続できる基盤を構築することをねらいとし事業を展開した。

宮城県では、事業を通じて参加した保護者同士の交流や協力団体と学生が連携することで、地域において事業の実施体制の整備が始められている。また、学生の協力体制ができつつあり、障がい者スポーツ指導者も学生に助言指導することで、自らの資質向上を図ることができる良い機会となった。

広島県では、障がい者スポーツの普及・振興の体制づくりを行うこと目的として、障がい者スポーツ指導者をはじめ、スポーツ推進委員や理学療法士等、各地域で障がい者スポーツ指導を行える指導者の養成と活動機会の提供を行った。また、学校および関係機関との連携を深めることをねらいとして、特別支援学校・学級に在籍する児童・生徒等、若年層を対象とした事業を行った。

山口県では、平成 23 年に開催した全国障害者スポーツ大会（おいでませ山口大会）の成果の継承を図り、東京 2020 パラリンピックを見据えて障がい者スポーツを推進している。一つの取り組みとして、多様な障がいや年齢、性別にかかわらず活動できるレクリエーションスポーツの各地域への普及や一緒に楽しめる交流スポーツ大会を開催した。また、これらの活動を支える指導者や支援者、ボランティアの養成・育成・確保を図った。

２）拠点づくりや人材不足の解消を意識した取り組み

本事業において、障がいのある当事者の家族をはじめとする事業に関わった人・組織に対し、障がい者スポーツ指導者が助言・指導をするなど、地域スポーツ振興のリーダー育成を図ると共に、スポーツ推進委員、理学療法士、大学等との連携を通して、支援体制の強化を図っている状況が伺えた。

＜本事業での主な取り組み＞

福島県では、地域スポーツ教室をより身近なものとするため、前年度同様、県内に 6 支部の拠点を整備し、各地域で定期的にスポーツ教室を開催することで継続的に行う機会の定着を図っている。その上で、総合型地域スポーツクラブと連携し、支部だけでは把握しきれない範囲を対応してもらうことで更なる障がい者スポーツの振興体制を整備することを目的として事業を進めた。

埼玉県では、平成 28 年度より埼玉県障害者交流センターと協働し、県北部（秩父）地域でのスポーツ活動を取り巻く環境の把握や、障がいの有無に関係なく皆で楽しめるスポーツ種目の提供、連携づくりを中心に事業を実施した。2 年目となる今年度は、スポーツをする人、支える人を繋ぐきっかけづくりを様々な角度から行い、環境基盤の整備を図ることを主眼におき事業を展開した。

長野県では、地域における障がい者スポーツの普及・振興と認知度の向上を図る体験教室を開催する中で、各地域で障がい者スポーツ指導者と一般スポーツ関係者との支援者ネットワークを構築した。

静岡県では、障がいのある方の重度化・高齢化を踏まえ、スポーツやレクリエーションに参加しづらい環境を改善するため、障がい者スポーツの普及が進んでいない地域を対象にファーストチャレンジスポーツ指導者派遣事業を重点的に実施し、全 51 教室を開催した。

沖縄県では、障がい者のスポーツは誰でも参加しやすく、健康増進の一躍も担える事から、障がいの

有無に関わらず子どもからお年寄りまで幅広く参加していただき、障がい者のスポーツ種目の体験等を通じて、県民全体の理解啓発を図った。また、指導者の指導経験の場を提供し、指導者の資質向上と共に事業に参加する指導者が増加した。

３）障がいのない人に向けた障がい者スポーツの理解促進を目的とした取り組み

東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催を追い風に、機運醸成の各種イベントの開催時に障がい当事者のみならず、広く一般に対して、障がい者スポーツに対する理解啓発を図る事業が行われた。

＜本事業での主な取り組み＞

兵庫県では、近年の障がい者スポーツの機運醸成を追い風に自治体や地域のスポーツ関係者、福祉団体と連携し、パラスポーツの体験や写真展、講演事業を展開することで広く一般への理解啓発を図った。

高知県では、イベントに参加する機会の少ない県東部にて「ボッチャ大会」、西部にて「陸上競技大会」を開催することで、参加機会の拡大に努めた。また、東京 2020 パラリンピックのレガシーの一つを、障がい者スポーツを通じた福祉教育の推進と考えており、小・中・高等学校からの障がい者スポーツ体験学習の依頼に対応できる人材の養成に力をいれた。

４）全国障害者スポーツ大会の開催を近年に控えた県と終えた県における取り組み

本事業を通して、全国障害者スポーツ大会の開催を控えた県と開催を終えた県との間には、障がい者のスポーツ振興において、裾野拡大、選手発掘・育成等の取り組みに特色がみられ、大会開催がその地域の障がい者のスポーツ振興体制や環境整備を拡充するきっかけとなっていることが伺えた。

＜本事業での主な取り組み＞

◆開催を控えた県：県民への理解啓発や障がい者のスポーツ参加の拡充に向けた取り組み、また大会実施競技のチーム創設や育成の体制・環境づくりが実施されている。

鹿児島県では、鹿児島市と他地域との格差解消および特別支援学校でのスポーツの参加機会拡大に努めた。また、平成 32 年開催の全国障害者スポーツ大会に向け、聴覚障がい者と知的障がい者のバレーボール競技の選手育成・強化に取り組んだ。

三重県では、東京 2020 パラリンピック及び第 21 回全国障害者スポーツ大会（三重とこわか大会）の開催に向けて、県民への障がい者スポーツの啓発、大会開催の機運の向上を図るため、フェスティバルや障がい者スポーツの体験会を行い、身近な地域で継続的にスポーツに参加できる環境づくりを行うと共に、障がいを理解した指導者や協力者の確保・育成を図った。

◆開催を終えた県：大会の機運に乗り、支援者とのネットワークづくりや県域の課題解決に向けた視点の整理と新たな取り組みが実施されている。

愛媛県では松山市以外の 3 地区（新居浜市、今治市、西条市）で地域の指導者の意見交換会、指導者への実技指導、障がいの有無にかかわらない障がい者スポーツの体験会等を行う中で、その地域での問題共有や支援者のネットワークづくりを行い拠点の拡大を進めた。

岩手県では、障がい者スポーツ振興に対する 3 つの視点（目的）、①「競技スポーツの取組による競技力向上」、②「生涯スポーツの推進及び地域におけるスポーツ参加の拠点づくり」、③「リハビリテーションスポーツでスポーツに取り組めていない、あるいは引きこもっている等の問題を抱える方々を生涯スポーツのステージに引き上げる取り組み」を掲げ事業を進めた。

和歌山県では、障がい者スポーツ教室事業において、障がい者スポーツ指導者が各競技の規則を学びながら実技を行い、また、一部事業では指導者研修会・実技指導を行ない、支援者の発掘やネットワークの構築も同時に行った。障がい者スポーツ活性化事業（団体競技重点的強化事業）では、新たな選手や支援者の発掘・育成、選手の競技力向上の機会とする教室を開催することで、県内の障がい者スポーツの振興を図った。

3　組織連携の取り組み

今年度も各事業実施団体（以下、実施団体とする）がそれぞれの地域の実情や各事業の特徴に応じて、様々な分野の団体と連携し、障がい者のスポーツ振興につながる事業を実施した。

別表の「●」は各実施団体における連携先の種類について表したものである。

【連携団体　一覧】

◆各都道府県 障がい者スポーツ指導者協議会は除く

区分		No.	連携先			北海道	岩手県	宮城県	福島県	埼玉県	長野県	静岡県	三重県	兵庫県	和歌山県	広島県	山口県	愛媛県	高知県	鹿児島県	沖縄県
						4年目	初	2年目	3回目	5回目	2年目	5年目	初	3回目	初	2年目	5年目	4年目	3回目	2回目	5年目
						3	14	8	7	9	12	17	7	12	6	12	21	13	13	11	6
1	行政関係	1	県・市担当主管課（町・村含む）	12	21		●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	
		2	県・市教育委員会（特別支援教育課を含む）	9			●			●	●	●		●		●	●	●		●	
2	教育関係	3	学校長会（特別支援学級設置校含む）	2	22												●			●	
		4	特別支援学校長会	1		●															
		5	小・中学校・高校	5		●							●		●			●			●
		6	専門学校・大学	3				●						●			●				
		7	特別支援学校（学級含む）	7			●		●		●		●				●	●	●		
		8	特別支援学校（盲学校）	1									●								
		9	特別支援学校連絡協議会	1			●														
		10	特別支援学校体育連盟	2						●		●									
3	スポーツ関係	11	県・市・町体育協会	7	49		●	●		●	●	●				●		●			
		12	県レクリエーション協会	6							●	●					●		●	●	●
		13	スポーツ推進委員協議会	6			●			●	●	●					●		●		
		14	一般競技スポーツ団体	11			●		●	●		●		●	●	●	●		●	●	●
		15	スポーツ関連団体（スポーツ施設管理団体等含）	7		●	●					●		●			●	●		●	
		16	スポーツ振興財団	1											●						
		17	総合型地域スポーツクラブ	6				●	●		●			●					●	●	
		18	スポーツ医科学センター（研究・測定関連組織・団体等含）	3							●					●	●				
		19	企業スポーツ団体	0																	
		20	プロスポーツ団体	2						●									●		
4	医療関係	21	県理学療法士会	3	4		●					●				●					
		22	県作業療法士会	1			●														
5	福祉関係	23	県・市・町社会福祉協議会	5	33			●	●								●	●	●		
		24	障がい児・者施設	1									●								
		25	身体障害者福祉協会	4			●	●				●								●	
		26	身体障害者団体連合会	2								●					●				
		27	視覚障害者協会	3								●	●	●							
		28	聴覚障害者協会	3														●	●	●	
		29	知的障害者福祉協会	3													●		●	●	
		30	手をつなぐ育成会	4													●	●	●	●	
		31	精神障害者福祉会連合会 精神保健福祉連合会	1													●				
		32	社会参加推進センター	2				●									●				
		33	障害者施設協議会	2											●		●				
		34	市・町福祉事務所	1															●		
		35	その他　障がい者団体	2						●							●				
6	障がい者スポーツ関係	36	障がい者競技スポーツ団体	12	32		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●		●
		37	障がい者スポーツ関連団体	5				●				●		●		●					●
		38	障がい者スポーツセンター 身体障害者福祉センター	4			●				●	●						●			
		39	勤労身体障害者体育施設・教養文化体育施設	1														●			
		40	パラリンピックサポートセンター	2							●			●							
		41	障がい者スポーツのクラブ・サークル	8			●					●	●		●	●	●	●			●
7	その他	42	市・町民生委員	1	10											●					
		43	人権擁護委員連合会・協議会	1												●					
		44	メディア（新聞社、放送局等）	4					●		●	●				●					
		45	一般企業	2						●							●				
		46	ボランティア連絡協議会・センター	1										●							
		47	社会奉仕団体	1										●							

今年度の本事業の連携先は 7 区分 47 種の団体があげられ、実施団体の多くが、県・市町村の行政「担当主管課」や「教育委員会」、「特別支援学校（学級含む）」、「一般競技スポーツ団体」、「障がい者スポーツ競技団体」、「障がい者スポーツ関連団体」等による連携を基盤として事業を展開した。

昨年度の同事業における連携先の変化をみてみると、今年度は、「スポーツ関係」との連携をしている取り組みが多くみられた。

実施事業の傾向からも、障がいの有無に関わらず、スポーツをみんなで楽しむための環境の整備を推進する事業や、東京 2020 パラリンピックを契機に障がい者スポーツや障がいそのものに対する理解を促進するための事業が増えてきていることが要因の一つであると考えられる。

特に、今年度の「スポーツ関係」では、新規の事業実施団体においても、県レクリエーション協会や一般競技スポーツ団体と連携をすることで、指導者・支援者の資質向上や障がい当事者のスポーツに関する技術向上に向けた取り組みがみられた。限られた人材で身近な地域の障がい者スポーツ環境整備にあたっている各県協会において、このような団体との連携を強めることで、支援環境を整備していくことは、継続的にスポーツ活動を行っていくためには重要なことである。

また、昨年度と比較しても「メディア（新聞社、放送局等）」との連携を図りながら事業を進めている団体が増加傾向にある。本事業において、障がい者スポーツの理解啓発事業を数多くの団体が実施しているが、情報発信の際に様々な媒体を活用していることがみえた。

地域における支援者の拡大という点では、日頃、障がい者スポーツに触れる機会の少ない人たちへの働きかけをすることで、様々な側面から支えてもらう・応援してもらう人材、団体との「つながるきっかけづくり」を推進していることが重要であるといえる。

各県協会が、地域において、様々な分野の団体と多面的な連携を図っていき、本事業を活用しながら地域の好循環を見据えた戦略的な取り組みを展開していることが伺える。

４　障がい者スポーツ指導者の活動

１）具体的な役割を担い、主体的な活動へ向けた働きかけがなされている

企画から運営まで深く関わるような役割・取り組みが増え、主体的に活動するための働きかけや仕組みづくりを意識した事業が多くみられた。

＜本事業での主な取り組み＞

北海道では、障がい者スポーツ指導者資格を有する地域の指導者を対象に事業のサポートを依頼し、スタッフとして協力を得た。

岩手県では、高齢な指導者の割合が高く、競技性が高い内容の事業では参加率が低くなるため、運動強度が低く指導も容易に行うことができるユニバーサルスポーツを活用した事業を実施し、指導者の活動が促進された。また、同時に事業に協力したスポーツ推進委員の資格取得希望も増加した。

埼玉県では、経験豊富な指導者が講師を担当し、競技・ルールの説明を行う「事前研修会」の開催、指導者の持ち味やスキルに応じた適材適所での人員配置を行うなど工夫した。

三重県では、フェスティバル事業にて実行委員の一員として福祉団体、学校、競技団体と共に企画段階から積極的に関わり、当日の運営も指導者のスキルが活かせるように人員配置した。

兵庫県では、指導者協議会の理事を 10 の行政区分毎に選任し、定例会議の開催を通して「地域に根ざした障がい者スポーツの振興」に取り組むことで指導者が主体的に活動するための体制が組まれた。

和歌山県では、指導者がスポーツ教室の運営・指導を行い、ルール説明や審判などの役割を担当した。参加者と事業の中で交流し、スポーツの楽しさを伝えるという大きな役割を担った。

山口県では、地域差はあるものの、各地域の障がい者スポーツ指導者が企画・運営し、連携団体の協

力も得て、継続的にスポーツ教室を行った。また、準備段階では事前の打合せにも参加し、大会では運営スタッフや審判員、講習会では講師や補助スタッフとして活躍した。

愛媛県では、県障がい者スポーツ協会と指導者が多くの事業で企画・運営・検討等を行う中で連携し、事業を実施した。特に、体験会では競技団体の補助的役割や種目によっては中心的存在として事業運営を行い、指導者が講師を務める勉強会も実施できた。

高知県では、県東部・西部の指導者が活動する機会は少ない状況にあるが、本事業においては、東部・西部で開催するにあたり、準備段階からその地元の指導者を活用できた。また、イベントのポスター製作を指導者が担当するなど、事前段階から具体的な役割を持って活動できた。

鹿児島県では、県指導者協議会が主体となって、県協会等と連携し、企画運営を行った。また、指導者が関係者と協議しながら企画し、会場の確保、当日の教室運営（指導含む）、終了後の書類整理なども行った。

沖縄県では、積極的な活動をしている指導者が、資格取得後間もない指導者等への指導を行った。また、企画会議の段階から参加しアイデア等を引き出すなど、運営にも積極的に参加することにより、県内の障がい者スポーツへの理解・啓発への発展を図ることができた。

２）指導に対する意識や指導力の向上につながった

他団体との連携や多世代間の交流によって、指導に対する意識の向上や、知識習得やスキルアップにつながる取り組みがみられた。

＜本事業での主な取り組み＞

宮城県では、障がい者スポーツ指導者が学生ボランティアに対し、助言・指導を行いながら事業を行い、指導者自らの指導力やコーディネート力の向上につながった。

福島県では、障がい者スポーツ指導者が主となり、教室の運営・進行を行っているが、クラブマネジャーと障がい者スポーツ指導者が連携し、総合型地域スポーツクラブ内で事業を実施することで障がい者に配慮した教室等を実施し、双方にとって強みとなる指導法の獲得につながった。

静岡県では、サポート的な役割での活用となったが、なるべく開催地域近辺の指導者の活用を重視し、経験者と未経験者との連携により、新しい発想に触れる機会につながった。

長野県では、各地区で実際に指導を行う指導者が固定化されている現状があるものの、事業の継続により、指導者の知識習得とスキルアップにつなげることができた。

広島県では、福祉施設職員や学校教員、各種スポーツクラブの指導者等で障がい者スポーツ指導者資格を所持していない参加者が、指導者資格への興味・関心を持ち、指導者養成講習会を受講する等、指導者の養成につなげることができた。

３）さらなる指導者の活動促進に向けた課題が浮き彫りとなった

本事業を契機に、今後の指導者のより良い活動に向けて、課題が明確となった。

＜主な課題＞

- 経験豊富な指導者が各地域に出向くことが多くなる傾向があるため、新たに指導者になった者との経験を積む機会に偏りが生じている。
- 活動機会の増加に伴い、キーパーソンとなる指導者を継続して養成・活用する必要がある。
- 指導者の活動が大会等の行事に直接参加・活動する「直接型」に終始している傾向があるため、指導者個々の生活スタイルに合わせた取り組みを検討する必要がある。

5　地域振興事業の成果

地域のスポーツ環境は異なっており、各団体が様々なアプローチでスポーツ推進に取り組んでいることがわかる。本事業を継続することでみえてきた成果を含めて、本事業の「6 事業区分」ごとに各地域での成果をあげる。

1）障がい者のスポーツ教室事業

・地域におけるサポート体制強化を図るため、今年度より教職員や保護者等を対象とした教室を実施した。また、離島での教室開催では、ほぼ全ての生徒が障がい者スポーツを初めて経験したことで、スポーツへの関心が芽生え、スポーツの楽しさを感じることができた。
・地域における一般のスポーツ振興に携わる方々とのネットワークが深まった。
・障がい児がのびのびと運動する姿を見て、保護者の満足度が高かった。また、卓球バレーを通し、障がいの有無、年齢に関係なく楽しめるスポーツ活動を普及したことで、総合型地域スポーツクラブでの開催が見込まれることとなった。
・総合型地域スポーツクラブと連携し、障がいのある方のスポーツ活動を指導していくことで、地域において障がいのある方がスポーツを行う機会が増える可能性を見出すことができた。
・指導者を中心に運営し、参加者の障がいの状況やニーズに合わせたスポーツを行うことで、参加しやすい教室を開催できた。また、活動を通じ、障がい者スポーツ指導者と一般スポーツ関係団体との連携や保護者同士の交流を図ることができ、ネットワークの構築につながった。
・地域障がい者スポーツ体験教室では、知的障がい者のバレーボール体験会後に女子選手がチームに入部し、女子チームが試合に出場できるようになった。また、ゴールボール体験会に参加の視覚障がいのある生徒による日本ゴールボール協会主催の練習会への参加や、盲学校の体育の授業への導入などがみられた。
・スポーツ活動の機会を安定的に提供することができた。また、身近な地域でスポーツができる環境づくりを展開し、新たな人材発掘やネットワークの構築が図られた。
・障がい者スポーツの裾野拡大にゴールボールとカヌーを導入しスポーツ教室を開催した。その結果、競技団体との連携が深まった。
・地域障害者スポーツ教室が継続的に行われるようになり、障がい者も障がい者スポーツ指導者も身近な地域でスポーツを楽しみ、交流ができるようになった。また、スポーツ教室で行うスポーツも種目が増え、指導者の工夫の様子が伺えた。
・県内 12 の特別支援学校で開催し、多くの教員の参加があったことで、障がい者スポーツの振興を図る上でのキーパーソンにアプローチでき、スポーツの拠点作りとしても評価できる内容となった。また、障がい者バレーボール教室開催事業では、知的障がいチームの競技力は確実に向上し、聴覚障がいチームでは、全日本クラスの選手の参加もあり、男子チームは次年度のブロック大会に参加する目処が立った。また、指導スタッフと教員の連携は、人材確保に悩む本県の好事例となった。

2）障がい者スポーツ指導者の育成事業

・陸上競技の人づくり事業では、本事業を契機に関係者の連携が進み、3 月末にチームが結成される予定である。
・障がい者スポーツサポーター養成事業においては、「障害者スポーツ応援協定」で連携している複数の企業や大学と障がい者スポーツの現場の需要と供給が一致し、関係性が発展した。
・医･科学サポート相談会では、県歯科医師会から情報提供したいという申し出があり、障がい者スポーツを支援していただけるきっかけとなった。

3）障がい者スポーツ指導者の派遣事業

・ファーストチャレンジ指導者派遣事業において、一度実施したところからの再依頼が多く好評であることが伺えた。さらに実施した先からの紹介で他地域からも開催要望があった。

4）選手発掘・育成事業

・自主的な教員間のネットワークも生じ、チーム主導で中学校や高等学校バレーボールチームとの練習試合や合同練習会を別途開催することができた。また、選手発掘においても大きな成果があった。

5）障がい者スポーツ理解啓発事業（大会等イベントも含む）

・地域の人や団体と協働し実行委員会を編成して進めたことにより、関係団体の関わりが強化され、それぞれの専門性や得意分野を活かした役割を担うことで、単独では実施できなかった大会を開催できた。また、関係団体と顔がみえる関係づくりができ、今後の取り組み・連携についての意見交換ができた。
・様々な事業と連携し開催したことで、障がい者スポーツへの理解が広がった。さらに、指導者養成講習会への参加人数の増加、障がいのある方がスポーツをしたいとの相談件数が増加した。
・「見てほしい、知ってほしいパラスポーツ！」（見る・触れる・交流）パラリンピック写真展は反響が大きく、各市町の自治体、大学や企業から好評であった。本事業に関わった各市町の自治体、地域スポーツ関係団体、福祉関係団体との連携が深まった。
・障害者交流スポーツ大会では、障がいの有無に関わらず、スポーツを楽しみ交流したことから、競技により関わろうと審判資格を取得する指導者もみられ、より専門性の高い障がい者スポーツ指導者が増え、資質の向上につながっている。
・それぞれの地域で障がい者スポーツ指導者として協力いただける人たちの養成を併せて行なったことで、障がい者スポーツの裾野拡大を図ると共に各地域の問題点や課題等も理解することができた。また、事業の重要性が県に認められ、来年度より一部の事業が県予算で実施可能となった。
・本事業の会場は県中心部から 2 時間以上かかる位置にあり、県中心部のイベントに参加する機会の少ない人が参加できたことは大きな意義があった。また、プロスポーツ球団など、日頃障がいのある人と接する機会の少ない人たちが、障がいのある人々の「悔しがる姿」や「笑顔」に触れたことは広い視点での地域づくりにつながった。また、委員が講師として学校に出向く事業では、子どもたち自身が考える機会や自分自身を見つめなおす機会となったことが感想文から読み取れた。

6）組織連携推進強化事業（組織連携を主たる目的とした事業）

・県内 4 地域において講習会・体験会を実施することで、指導者への知識習得とスキル向上の機会を提供することができた。また、各地域の教育委員会・スポーツ施設と連携がとれたことで、今後の障がい者スポーツ振興に向けた組織連携強化のきっかけとなった。

本事業の目的である「障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境をつくる」という視点でみると、障がい者が本事業を通じてスポーツに参加する機会が拡充し、個々の生活の中にスポーツを楽しめる環境が着実に進み、スポーツがより身近になってきたといえる。

特に、昨年度よりスポーツ用具の購入が認められたことで、事業内容の充実に加え、購入した用具の貸与により、スポーツの機会の拡充をさらに推し進めることができた。

また、上記の「成果」にもあるように、本事業は県障がい者スポーツ協会が中心となり、障がい者スポーツ指導者協議会を中心に、行政、競技団体や学校・施設関係者と事業当日のみの連携だけではなく、

事業実施に至る過程においても顔の見える関係づくりを意識しながら実施したことで、今後の拠点整備をさらに充実させるための礎とすることができた。

さらに、自立した活動へ向けた取り組みとして、事業実施において行政関係者に関わりを持ってもらうことで、事業の意味や重要性について理解してもらい、次年度県予算での実施につなげることができた成功例があり、また、事業を通した連携強化の中で、チームを設立し、今後自立した活動につなげていける成功例もあった。事業を通して、様々な協力団体と連携を築き、スポーツ活動の拠点を整える中で、いかに活動を自立し継続していけるかがこの事業の肝である。少しずつ着実に実ってきたこの成果を今後も拡げていく活動を期待したい。

6　今後の課題

今後の地域振興事業における課題について、以下のようにまとめた。

1）自立した活動に繋げるための指導者の育成と協力体制の構築が今後さらに必要となる

・今後、県中心部外での本事業開催を安定的に行いたいと考えているが、指導者の確保が今後の課題である。
・大会や体験交流会の成果が各団体の主体的かつ持続的な活動には至っていないため、今後はさらに行政、団体、スポーツ指導者等と連携を深めていくことが課題である。そして、地域で自立した活動を進めていくために、スポーツ指導者等を対象に企画立案やコーディネートができる指導者や支援者の育成にも力を入れていく必要がある。
・地域格差を解消し、身近な場所でスポーツに参加できる環境づくりを推し進めるため、『障がい者スポーツ地域コーディネーター』のより効果的な活用が今後の課題である。
・身近な地域で継続的にスポーツに参加できる環境づくりを行うための障がい者スポーツ指導者の確保・育成が図れていないため、支援者の資質向上を積極的に行い、一人で負担を抱え込まずに複数で各地域において活動できる体制づくりの推進が課題である。
・大会を支えるスタッフの確保に苦労しており、指導者の育成や関係団体との連携が課題である。このため、障がい者スポーツに関心を持ってもらう講習会や障がい者スポーツ指導者に情報を提供できる相談会を開催し、人材の確保や資質向上に努める必要がある。

2）組織間（行政・学校・地域クラブ等）の連携強化による拠点整備充実と地域格差解消が急務である

・障がい児の運動経験の場を提供することが課題のため、各地区の教育委員会と連携を取り、体育の授業の充実を図ることを含め、教育委員会との連携をより深めることが必要である。
・地域における障がい者スポーツがスポーツに参加できる環境づくりに関して、総合型地域スポーツクラブの担う役割は大きいため、今後も連携を強化し、障がい者スポーツの振興・普及に励んでいく必要がある。
・東京 2020 オリンピック・パラリンピックの影響により、競技志向の体験会が多く求められてきているが、地域における実施体制の強化が課題である。
・県下広域で均等に振興していくための体制づくりとしては、まだまだ発展途中であり、体制の整備が必要である。そのために各市町村の福祉担当者やスポーツ推進委員との連携を今後も続けていき、さらなるネットワークの構築を図っていく事が今後の課題である。
・市町の地域スポーツを担う「スポーツ振興課」の計画と、特別支援学校、障がい者就労事業所、福祉施設等の組織・福祉分野の団体との関係性をさらに醸成させていくことが課題である。
・地域によって参加者が少ない、開催市町が少ないといった課題が挙がっている。継続的な実施、広報

方法など検討し、引き続き指導者の育成や組織間の連携に努めていくことが課題である。
・地域での障がい者スポーツ教室においては、継続的に活動している地域と継続的な活動に繋がっていない地域とがあり地域間格差の解消が課題である。
・県予算で拠点整備を実施できることとなったが、地域間温度差の解消や周知方法等、意見交換会での意見もしっかりと踏まえた上で改善を図っていくことが課題である。
・県の公共交通網の脆弱さが浮き彫りになったが、こうした課題に行政、社会福祉協議会、民間企業と連携して取り組む必要があり、障がい者スポーツや障がい者の社会認知を進めていくことが課題である。
・障がい者スポーツの競技団体は組織としても競技力に関してもまだまだ発展途上であり、指導者の経験も不足しているため、今後のさらなる組織間連携を築くことが課題である。

3）県内各地域において気軽に継続的にスポーツに取り組める環境をつくる必要がある
・スポーツ大会や体験会、フェスティバルなどへの参加者が固定化してきており、また、選手の発掘・育成にも繋がっていないため、今後いかに新たな参加者を集め、発掘していくかが課題である。
・団体競技においては、若年層を対象に、身近な地域で継続した教室を開催することで、選手を取り込み、チームを永続的に活性化させていくことが、今後の重要な課題である。

4）障がい者スポーツ協会が県内のスポーツ振興の統括組織として、各関係機関と連携しながら財源や人材確保や実施に向けた調整を進め、事業展開をしていくことが必要である
・事業の連携団体である総合型地域スポーツクラブや地域社会福祉協議会において、独自で事業を開催する意向はあるが、財源がなく実施には至っていないケースがある。事業実施の実現に向けて、いかに予算を確保していくかが今後の課題である。
・地域の企業、学校等の関係機関と連携し、事業を実施していくためには、平日実施の希望も多いため、用具の確保・運搬、スタッフや講師・選手の安定した派遣などの調整をしていくことが課題である。

本事業は平成 23 年度から始まり 7 年目を迎えた。その間、多くの関係者や関係団体との連携・協働が生まれ、障がいのある方が身近な地域でスポーツを楽しめる環境を整備する中で、着実にスポーツの振興を推し進めてきた。そのような中、今回の事業ではいくつかの課題が見えてきた。

一つ目は、地域で障がいのある方のスポーツ活動の振興を活性化していく上で欠くことのできない存在である「事業を支える障がい者スポーツ指導者の育成と協力体制の構築」についての課題である。障がい者スポーツ指導者には、障がいに関する知識や安全管理能力はもちろんのこと、スポーツの指導力やコミュニケーション能力、事業の企画運営のマネジメント力や地域で様々な支援者、連携団体と共に取り組んでいく環境を整えるコーディネート力、時にはリーダーシップを発揮し、皆をまとめ、計画を進めていく推進力など様々な資質が求められている。地域においては、上記資質を兼ね備えた活動の核となるリーダーの育成と同時に、個々の得意分野や専門性を活かして、活動を陰でしっかりと支える役割を担う存在もまた欠くことができない。それぞれの持つ能力や活動に対する思いを汲み取った活動機会の提供が、障がい者スポーツ指導者の身近な地域での活動活性化に繋がっていくことを今後さらに期待したい。

二つ目は、障がいのある方のスポーツ活動の裾野を拡大していくために必要な「組織間（行政・学校・地域クラブ等）の連携強化による拠点整備の充実と地域格差解消」についての課題である。多くの団体が県域における障がい者スポーツ振興の地域格差の解消を課題としており、特にこれまで振興が進んで

いなかった地域をターゲットにして、スポーツ振興の柱である「人」「場所」「物」を整えていく「拠点づくり」を推し進める取り組みが広がってきた。この拠点づくりに不可欠なものは「人と人との繋がり」から発展した「組織間の繋がり」である。事業を行う際に関係する組織の繋がりがより強化されるような人員配置や、その地域の実情や問題を共有できるような計画がなされていたり、それぞれの実情に応じた工夫も多くなされていた。このような取り組みがさらに広がることを期待したい。

三つ目は、目的達成に向けた事業運営を行うための「県障がい者スポーツ協会の組織体制強化」についての課題である。県障がい者スポーツ協会が、目的達成に向けた事業運営を行うためには、専任職員の配置・増員、予算確保など組織の体制基盤を強化する必要がある。また、障がい者スポーツ関連団体だけではなく、一般のスポーツ関連団体、行政、福祉、医療関係との連携・協働の動きに応じていくことも必要である。体制強化と合わせて、これらの地域資源とのネットワークをより広く深く築いていくことが、ニーズを掘り起こすための効果的な情報収集・発信を行うことにもつながり、事業への参加者の固定化や支える人材不足等、それぞれの地域が抱える課題解決の糸口発見へとつながることを期待したい。

7　おわりに

当協会の掲げる「日本の障がい者スポーツの将来像（ビジョン）」においては「障がいのある人たちが、障がいの種類や程度、さらにはライフステージに応じて、身近な地域でみんなと一緒に日常的にスポーツを楽しめる生涯スポーツの環境の整備」を挙げている。その目標を達成するためには、各都道府県・政令指定都市の障がい者スポーツ協会と障がい者スポーツ指導者、地域の関連団体が連携・協働しながら地域に根差した障がい者スポーツの推進体制を構築していくことが重要である。

今回、16の団体が本事業を実施する中で、それぞれの地域において、目的や取り組みは異なるが、行政、教育・スポーツ・福祉・医療等の関係団体との協力関係を着実に深めながら、事業実施の運営基盤をより強固にし、地域の課題解決に向けた取り組みがなされていた。

本事業を通じて、各都道府県・政令指定都市の障がい者スポーツ協会が地域における障がい者スポーツ振興の統括組織として、地域の関係者を巻き込みながら進めてきた事業運営の中での「連携・協働のしくみづくり」は、この地域振興事業の大きな成果の一つであり、今後さらに多くの団体が取り組む上での指針（ガイドライン）となることを期待したい。

北海道における障がい児者スポーツの振興事業

◆全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業

公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会

北海道における障がい児者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

「スポーツ王国北海道」の実現を目指す本道においては、平成２５年３月に北海道スポーツ推進計画を策定し、「学校と家庭・地域における子どもの運動・スポーツ機会の推進」、「世界の舞台で活躍する競技者の育成」、「若者から高齢者までのライフスタイルに応じた地域スポーツ活動の推進」、「道民が自ら進んで参画するスポーツ環境の充実」を計画の基本方針としている。

障がい者のスポーツ活動については、からだを動かすことによる健康づくりをはじめとして、自己実現や生きがいを見いだし、人々との交流を通じて積極的に社会参加することが期待されるなど、大きな意義があると計画に謳われている。

障がい者スポーツの裾野の拡大を図るためには、学齢期の障がい児に対する早期のアプローチが肝要であるという観点から、特別支援学級の児童・生徒を対象とした巡回教室を平成２６年度から３年間実施し、一定の成果を挙げてきたが、１７９市町村の小中学校に４千を超える特別支援学級がある本道の状況を踏まえ、今後も中長期にわたって継続的に本事業に取り組む必要がある。

②事業の目的・ねらい

本事業は、本道の障がい児者が、身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくり、さらには、障がい者スポーツが本道に根付くことを目指し、スポーツ教室を通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、自主的、積極的、継続的にスポーツに取り組む意欲を促し、障がい児者の健康の維持と社会参加の促進を図ることを目的としている。

また、学校関係者等と連携し、地域の実情に応じた障がい者スポーツの普及を図るとともに、事業終了後も、その地域で活動が持続する基盤を構築することを目標とした。

③事業実施概要

（1） 障がい児者スポーツ教室の開催

事　業　名	全道巡回障がい児者スポーツ教室開催事業
日　　時	平成 29 年 7 月 24 日～12 月 14 日　計 24 回
場　　所	道内の小中学校　体育館　計 23 か所
参　加　者	1,050 名（支援学級生 326 名、通常学級生 364 名、教員保護者 360 名）
スタッフ	講師 53 名、サポート補助員 1 名、ボランティア補助指導員 16 名
補　助　員	サポート　NPO 法人 あ・り―さだ所属 1 名 ボランティア　公認障がい者スポーツ指導員 16 名
協　　力	北海道特別支援学級設置学校長協会 北海道内の小中学校
連携組織	NPO 法人 あ・り―さだ
事業内容	・講義説明（DVD 等） ・競技用車椅子の紹介及び試乗体験 ・競技実技（車椅子リレー、フライングディスク、ボッチャ、ゴールボール、シッティングバレーボール等） ・公認障がい者スポーツ指導員のボランティアを募り、教室に参加協力 ・参加者全員に修了証書を授与

事業の様子









④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

本事業の継続性を重視し、指導経験が豊富な上級障がい者スポーツ指導員をメイン講師に据え、教室の企画から運営までを主導した。また、資格を有する地域の公認スポーツ指導員を対象に、当協会のホームページにおいて、教室の年間カレンダーの情報公開やボランティアを随時募集し、教室当日のスタッフとして協力を求めた。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

メイン講師を担う上級障がい者スポーツ指導員が代表を務める「ＮＰＯ法人あ・りーさだ」は、障がいのある子どもを対象とした放課後スポーツ教室を開催している団体であり、事業前までは、当協会の事業活動に直接関わることはなかった。

（2）実際の事業での役割分担

本事業の実施にあたり、メイン講師は、当日の教室運営を計画立案するとともに、補助ボランティアに対する指導も担った。

当協会においては、主体的に本事業の方向性を定め、年間の実施計画や、予算の執行状況を管理し、教室事業全般について総合的なプロデュースを行った。

（3）事業後の関係性の変化

事業実施後は、機会あるごとに協働パートナーとして相互の支援協力を行っている。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

教室プログラムで好評の競技用車椅子体験試乗のため、車椅子を数台購入し、教室内容の充実を図った。また、視覚障がい競技にも興味を向けるため、ゴールボール用アイシェードを購入し、教室メニューに取り入れた。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

本事業に活用することを主目的に当協会において管理し、必要に応じて長期の貸出しも行う予定である。

⑦事業の成果および評価（達成度）

・　地域におけるサポート体制の強化を図るため、今年度から関係者（教職員やPTAなど）を対象とした教室を実施したが、それぞれの立場から良い体験になったと好評だった。
・　離島での教室は、ほぼすべての生徒が初めて障がい者スポーツに触れることとなったが、障がい者スポーツに関心が芽生え、スポーツ本来の楽しさを感じることができたとの評価を得た。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

豊かなスポーツ環境づくりを目指し、ピラミッドの裾野を成す「普及」を促進するためには、本事業を今後も継続していく必要がある。

また、これからは、道内に数か所、障がい児者スポーツの活動拠点となる場所を設け、年に複数回の教室事業を開催するなど、障がい児者スポーツのネットワークを全道に構築していくことが求められている。

⑨おわりに

（1）所感

スポーツに触れる機会の少ない環境にある特別支援学級の児童生徒を対象にスタートした本事業だが、2年目からの混合教室や、昨年度からの複数の学校による合同教室の実施により、障がい児と健常児の相互理解が深まり、近隣の学校間の連携強化を促すことができた。

また、今年度は新たに離島での教室実施や関係者を対象とした教室を実施することにより、本道における障がい者スポーツの認知度を高めることができた。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

今年度の教室では、前半にパラリンピックのDVDを観賞し、障がい者スポーツに対する関心を高め、実技では、様々な種類の車椅子に試乗し、誰もが簡単に楽しめるフライングディスクなど、幅広いメニューを用意するとともに、障がいの種別を問わずスポーツを楽しめるプログラムを提供した。

障がいのある選手が、各々の残存機能を存分に活用しながら活躍していることを児童生徒が本教室で学ぶことにより、障がい者スポーツ全般に興味を示すようになるとともに、自主性や活動意欲が向上するという波及効果も得られた。

（3）事業を継続実施した成果・変化（前年度の課題に対し、どんな意識で取組み、工夫したか）

本事業を継続開催することにより、巡回教室に対する需要は年々増えており、教室を体験した学校は、次年度以降もリピート開催を希望するケースが多い。

また、自閉症・情緒障がいのある児童は、集中力が持続せず、注意散漫になる時間帯もあったことから、事前に講師から教室の内容と時間配分を丁寧にわかり易く説明することによって、児童の不安が解消し、教室のメニューに集中して取り組むことができるようになった。

⑩資料

開催要項、チラシ、教室内容報告資料（写真付）

「平成29年度地域における障がい者スポーツの振興事業」

全道巡回障がい児者スポーツ教室開催要項

1　目　的

本道の障がい児者が、身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくり、さらに障がい児者スポーツが地域に根付くことを目指し、スポーツ教室を通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、自主的、積極的、継続的にスポーツに取り組む意欲を涵養し、障がい児者の健康の維持と社会参加の促進を図ることを目的とする。

2　ねらい

障がい児者スポーツが地域に根付くため、学校関係者や社会奉仕団体と連携し、地域の実情に応じた障がい者スポーツの普及を図るとともに、事業終了後も、その地域で活動が持続する基盤を構築する。

3　主　催

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会

4　共　催

ＮＰＯ法人あ・りーさだ、北海道障害者スポーツ指導者協議会

5　開催期日

平成２９年６月から平成２９年１２月末まで（平日の2時間を原則）

6　開催場所

全道の小中学校の体育館（14振興局全エリアの20校予定）

7　教室内容

小中学校の特別支援学級の児童・生徒を対象として、障がい児者に適応したスポーツ種目を紹介するとともに、競技用具や競技ルールの説明を行い、基礎的な実技指導および応用技術やトレーニング方法などについて指導する。

8　講　師

正木 英之 氏（ＮＰＯ法人あ・りーさだ代表理事　日本障がい者スポーツ協会公認上級指導員）
補 助 講 師（日本障がい者スポーツ協会公認有資格者）

9　参加対象者

(1) 特別支援学級及び通常学級の児童・生徒
(2) 小中学校の教職員・PTAなど　その他地域関係者

10　参加費

無料

11　申込先

公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会
〒060-0002　札幌市中央区北2条西7丁目　かでる2・7　4階　担当：細田
TEL 011-261-6970　FAX 011-261-6201　Email：tanto-3@do-syospo.or.jp

12　その他

(1) 参加者は、スポーツに適した服装・上靴を着用すること。
(2) 主催者は、参加者を対象とした傷害保険に一括加入する。

平成29年度 地域における障がい者スポーツの振興事業

全道巡回 障がい児者スポーツ教室

参加無料

お申込受付中

講師が全道の小中学校に出向き、特別支援学級に就学する児童・生徒を対象としたスポーツ教室を開催します。
この教室に、障がいのない児童・生徒も一緒に参加することもできます。
また、学校関係者（教職員・PTA・地域など）のみの実施も可能です。
別紙「開催申込書」に必要事項をご記入の上、お申込みください。

開催場所
全道の小中学校体育館

2017年6月～2017年12月末まで

平日の2時間

参加対象者 特別支援学級及び通常学級の児童・生徒・小中学校の教職員・PTAなど

参加者は、スポーツに適した服装・上靴の着用をお願いいたします。

障がい児者に適応したスポーツ種目を紹介するとともに、競技用具や競技ルールの説明を行い、基礎的な実技指導および応用技術、トレーニング方法について指導いたします。

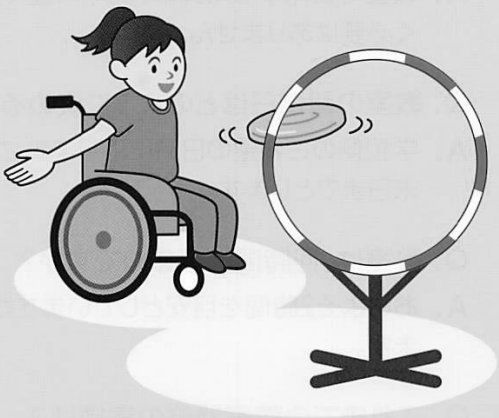
講　師

●**正木 英之**（NPO法人あ・りーさだ 代表理事）**ほか**

あ・りーさだは、「公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会」との共同事業により、北海道全域の特別支援学級への出張教室を行っています。

教室内容例

●フライングディスク ●ボッチャ ●ゴールボール
●ドッチビー など



お申込先 公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会 担当／細田（ほそだ）
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 4階
TEL 011-261-6970 FAX 011-261-6201
E-mail tanto-3@do-syospo.or.jp

裏面もご覧ください
『よくある質問（FAQ）』

主 催／公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会
共 催／NPO法人あ・りーさだ、北海道障害者スポーツ指導者協議会

平成29年度地域における障がい者スポーツの振興事業

全道巡回障がい児者スポーツ教室

よくある質問（FAQ）

Q.「全道巡回障がい児者スポーツ教室」は、どんな内容なのですか？

A. 全道の特別支援学級の児童・生徒を対象としたスポーツ教室です。教室開催を希望する学校に講師を派遣し、学校の体育館で出前教室を行います。

Q. 教室の開催地域や参加者に制限はあるのですか？

A. 道内であれば、どの地域にも出向いて教室を開催します。参加者は、特別学級及び通常学級の児童・生徒に加え、学校関係者（教職員やPTA・地域など）のみの実施も可能です。

Q. 教室の開催に費用はかかるのですか？

A. 学校側で負担する費用は一切ありません。教室に参加する児童・生徒や教職員の皆さんの参加も無料です。

Q. 講師はどうするのですか？

A. 当協会と事業提携しているNPO法人あ・りーさだの代表理事である正木 英之氏をはじめ、障がい児者スポーツに精通している指導者数名を現地に派遣します。講師陣は、日本障がい者スポーツ協会の公認指導者の資格を有しています。

Q. 競技用具はどうするのですか？

A. 教室で使用する用具は、現地に赴く講師が全て持参しますので、学校側においてご準備いただく必要はありません。

Q. 教室の開催日はどのように決めるのですか？

A. 学校側のご希望の日時に応じます。ただし、平成29年度の単年度事業ですので、平成29年12月末日までとします。

Q. 教室は、何時間になるのですか？

A. おおよそ2時間を目安としていますが、児童・生徒の体力等を勘案して、時間は弾力的に調整します。

Q. これまでの教室開催の実績は？

A. 昨年度は、全道各域の小中学校において３０回の教室を開催しました。

Q. 教室開催の申込方法は？

A. 別紙「開催申込書」に必要事項をご記入の上、お申込みください。教室の詳細については、別途、ご相談いたします。

是非、この機会に、障がい児者スポーツ教室をご体験ください。

学校名	北広島市立北の台小学校																				No,	1
実施日	2017	年	7	月	24	日	金	曜日	実施時間	10:35	~	12:10	2	時限	95分							
参加数	通常級	62	名	支援級	4	名	職員	7	名	父兄	0	名	合計	73	名							
スタッフ	講師	3	名	ｻﾎﾟｰﾄ	0	名	ボラ	1	名	その他	0	名	合計	4	名							
距離	50	km	時間	1ｈ	分	高速	無し	宿泊	無し													
希望するスポーツ	ゴールボール他、楽しい競技を実施																					
要望																						
連絡事項																						








学校名	小樽市松ヶ枝中学校																				No,	2
実施日	2017	年	8	月	22	日	火	曜日	実施時間	18:30	~	20:30	2	時限	120分							
参加数	通常級	0	名	支援級	2	名	職員	16	名	父兄	15	名	合計	33	名							
スタッフ	講師	2	名	ｻﾎﾟｰﾄ	0	名	ボラ	1	名	その他	0	名	合計	3	名							
距離	119	km	時間	2h24	分	高速	無し	宿泊	無し													
希望するスポーツ	FD・ゴールボール・その他																					
要望	教職員対象																					
連絡事項	映像器材																					








学校名	函館市立亀田中学校										No,	3
実施日	2017 年 9 月 1 日 金 曜日				実施時間 9:00 ~ 11:00				2	時限 120分		
参加数	通常級	0 名	支援級	41 名	職員	19 名	父兄	0 名	合計	60 名		
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	1 名	その他	0 名	合計	3 名		
距離 300 km	時間 5h34 分		高速 無し		宿泊 1泊							
希望するスポーツ	FD・ボッチャ・ドッヂビー・特に希望なし											
要望	函館市内の中学校支援学級宿泊学習で実施（9校約40名参加）会場は元小学校を改築した宿泊施設（ふるる函館）											
連絡事項	映像機器											








学校名	中標津町立中標津東小学校										No,	4
実施日	2017 年 9 月 19 日 火 曜日				実施時間 10:35 ~ 12:10				2	時限 95分		
参加数	通常級	0 名	支援級	32 名	職員	11 名	父兄	2 名	合計	45 名		
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	1 名	その他	0 名	合計	3 名		
距離 337 km	時間 6h 分		高速 無		宿泊 1泊							
希望するスポーツ	FD・ドッヂビーなど											
要望	発達障害の子どもが在籍しており体の動かし方に不器用さのある児童が多くいます。そのような子も楽しめるスポーツを希望											
連絡事項												








学校名	旭川市立明星中学校										No,	5
実施日	2017 年 9 月 29 日 金 曜日				実施時間 9:45 ~ 11:35		2	時限 110分				
参加数	通常級	0 名	支援級	14 名	職員	3 名	父兄	0 名	合計	17 名		
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	2 名	その他	0 名	合計	4 名		
距離 131 km	時間 2h43 分		高速 無		宿泊 無							
希望するスポーツ												
要望												
連絡事項												









学校名	北海道今金高等養護学校1学年										No,	6
実施日	2017 年 10 月 4 日 水 曜日				実施時間 10:30 ~ 12:15		2	時限 105分				
参加数	通常級	0 名	支援級	24 名	職員	5 名	父兄	0 名	合計	29 名		
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名		
距離 243 km	時間 4h39 分		高速 無		宿泊 1泊							
希望するスポーツ												
要望												
連絡事項												








学校名	北海道今金高等養護学校2学年										No,	7
実施日	2017 年 10 月 4 日 月 曜日					実施時間 13:00 ～ 14:40				2 時限 100分		
参加数	通常級	0 名	支援級	32 名	職員	4 名	父兄	0 名	合計	36 名		
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名		
距離 243 km	時間 4ｈ39 分		高速 無		宿泊 1泊							
希望するスポーツ												
要望												
連絡事項												








学校名	長万部町立長万部中学校												No,	8
実施日	2017 年 10 月 6 日 金 曜日						実施時間 13:15 ～ 15:00				2 時限 105分			
参加数	通常級	0 名		支援級	6 名		職員	4 名		父兄	0 名		合計	10 名
スタッフ	講師	2	名	ｻﾎﾟｰﾄ	0	名	ボラ	0	名	その他	0	名	合計	2 名
距離 219 km	時間 3ｈ35 分			高速 無			宿泊 1泊							
希望するスポーツ	FD・ボッチャ													
要望	脳性麻痺で車いすの生徒や動作の遅い生徒も楽しめるスポーツ													
連絡事項														








学校名	恵庭市立島松小学校（石教研）									No,	9
実施日	2017 年 10 月 13 日 金 曜日			実施時間 13:35 ~ 15:05		2	時限 90分				
参加数	通常級	0 名	支援級	0 名	職員	131 名	父兄	0 名	合計	131 名	
スタッフ	講師	3 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	2 名	その他	0 名	合計	5 名	
距離 50 km	時間 57 分		高速 無		宿泊						
希望するスポーツ											
要望											
連絡事項											








学校名	利尻富士町立鴛泊中学校									No,	10
実施日	2017 年 10 月 23 日 月 曜日			実施時間 13:20 ~ 15:10		2	時限 110分				
参加数	通常級	55 名	支援級	1 名	職員	14 名	父兄	0 名	合計	70 名	
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名	
距離 385 km	時間 8ｈ14 分		高速 無		宿泊	2泊					
希望するスポーツ	FD・車いす										
要望											
連絡事項											








学校名	厚真町立厚真中央小学校										No,	11
実施日	2017 年 10 月 27 日 金 曜日				実施時間 10:00 ~ 12:00			2	時限	120分		
参加数	通常級	0 名	支援級	6 名	職員	7 名	父兄	5 名	合計	18 名		
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	1 名	その他	0 名	合計	3 名		
距離 48 km	時間 57 分		高速 無		宿泊 無							
希望するスポーツ	お任せします											
要望	競技用車いすの体験											
連絡事項												









学校名	旭川市立愛宕中学校										No,	12
実施日	2017 年 11 月 2 日 木 曜日				実施時間 10:45 ~ 12:35			2	時限	110分		
参加数	通常級	0 名	支援級	13 名	職員	2 名	父兄	0 名	合計	15 名		
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	1 名	その他	0 名	合計	3 名		
距離 157 km	時間 2ｈ52 分		高速 無		宿泊 無							
希望するスポーツ	FD・車いすバスケ（ラグビー）											
要望												
連絡事項												









学校名	旭川市立高台小学校									No,	13
実施日	2017 年 11 月 7 日 火 曜日			実施時間 13:30 ~ 15:05		2 時限 95分					
参加数	通常級	0 名	支援級	26 名	職員	9 名	父兄	0 名	合計	35 名	
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	1 名	ボラ	2 名	その他	0 名	合計	5 名	
距離 143 km	時間 2h53 分		高速 無		宿泊 無						
希望するスポーツ	難聴①知的②情緒⑨肢体車いす①の児童が楽しめるスポーツ										
要望											
連絡事項											








学校名	石狩市立南線小学校									No,	14
実施日	2017 年 11 月 9 日 木 曜日			実施時間 10:30 ~ 12:10		2 時限 100分					
参加数	通常級	0 名	支援級	15 名	職員	5 名	父兄	0 名	合計	20 名	
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	1 名	その他	0 名	合計	3 名	
距離 90 km	時間 1h40 分		高速 無		宿泊 無						
希望するスポーツ	FD以外の競技										
要望											
連絡事項											








学校名	秩父別町立秩父別小学校									No,	15
実施日	2017 年 11 月 10 日 金 曜日			実施時間 10:40 ~ 12:10		2 時限 90分					
参加数	通常級	27 名	支援級	5 名	職員	5 名	父兄	0 名	合計	37 名	
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名	
距離 130 km	時間 2h30 分		高速 無		宿泊 1泊						
希望するスポーツ	FD・ボッチャ										
要望	1.2年生ルールの簡単なスポーツ希望										
連絡事項											








学校名	恵庭市立恵み野小学校									No,	16
実施日	2017 年 11 月 13 日 月 曜日			実施時間 10:30 ~ 12:05		2 時限 95分					
参加数	通常級	2 名	支援級	3 名	職員	2 名	父兄	0 名	合計	7 名	
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名	
距離 51 km	時間 57 分		高速 無		宿泊 無						
希望するスポーツ	FD・ドッヂビー										
要望											
連絡事項											









学校名	江別市立江別第二小学校									No,	17
実施日	2017 年 11 月 15 日 火 曜日			実施時間 8:40 ~ 10:15		2	時限	95分			
参加数	通常級	0 名	支援級	26 名	職員	16 名	父兄	0 名	合計	42 名	
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	1 名	その他	0 名	合計	3 名	
距離 60 km	時間 1ｈ15 分		高速 無		宿泊 無						
希望するスポーツ	小中合同										
要望	昨年同様と新しいスポーツ										
連絡事項											








学校名	白石区PTA/北白石中学校									No,	18
実施日	2017 年 11 月 16 日 木 曜日			実施時間 15:00 ~ 17:00		2	時限	120分			
参加数	通常級	13 名	支援級	0 名	職員	0 名	父兄	14 名	合計	27 名	
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名	
距離 65 km	時間 1ｈ20 分		高速 無		宿泊 無						
希望するスポーツ											
要望											
連絡事項											








学校名	別海町立中春別小学校										No,	19
実施日	2017 年 11 月 20 日 月 曜日				実施時間 8:40 ~ 12:00			2	時限	220分		
参加数	通常級	81 名	支援級	10 名	職員	12 名	父兄	0 名	合計	103 名		
スタッフ	講師	4 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	4 名		
距離 356 km	時間 5ｈ50 分		高速 無		宿泊 1泊							
希望するスポーツ	FD・自転車・ゴールボール・ボッチャ・ドッヂビー・車いす											
要望	3年間、通常級を今年は。											
連絡事項												








学校名	函館市立日吉が丘小学校										No,	20
実施日	2017 年 11 月 24 日 金 曜日				実施時間 13:30 ~ 15:05			2	時限	95分		
参加数	通常級	57 名	支援級	1 名	職員	3 名	父兄	0 名	合計	61 名		
スタッフ	講師	3 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	3 名		
距離 292 km	時間 5ｈ33 分		高速 無		宿泊 1泊							
希望するスポーツ	FD											
要望												
連絡事項												








学校名	釧路市立中央小学校										No,	21
実施日	2017 年 11 月 30 日 木 曜日				実施時間 13:35 ~ 15:10			2	時限	95分		
参加数	通常級	0 名	支援級	11 名	職員	7 名	父兄	0 名	合計	18 名		
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名		
距離 295 km	時間 5h10 分		高速 無		宿泊 1泊							
希望するスポーツ	ボッチャ・ドッヂビー											
要望	10月30日～12月21日の間で開催希望　車いす利用3名											
連絡事項												








学校名	岩見沢市立岩見沢小学校										No,	22
第2希望日	2017 年 12 月 4 日 月 曜日				実施時間 10:30 ~ 12:00			2	時限	120分		
参加数	通常級	0 名	支援級	12 名	職員	8 名	父兄	6 名	合計	26 名		
スタッフ	講師	3 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	1 名	その他	0 名	合計	4 名		
距離 58 km	時間 1h15 分		高速 無		宿泊 無							
希望するスポーツ	①～⑤年生までの児童がいます。体の動かし方がうまくない、①年生が7名在籍、簡単に楽しめる運動を											
要望												
連絡事項												








学校名	江別市立大麻東中学校									No,	23
実施日	2017 年 12 月 8 日 金 曜日			実施時間	9:30 ~ 11:30	2	時限	120分			
参加数	通常級	0 名	支援級	18 名	職員	7 名	父兄	9 名	合計	34 名	
スタッフ	講師	2 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	0 名	その他	0 名	合計	2 名	
距離 63 km	時間 1ｈ17 分		高速 無		宿泊 無						
希望するスポーツ	特になし										
要望	基本お任せ										
連絡事項											








学校名	石狩市立紅南小学校									No,	24
実施日	2017 年 12 月 14 日 木 曜日			実施時間	9:15 ~ 11:25	2	時限	130分			
参加数	通常級	67 名	支援級	24 名	職員	12 名	父兄	0 名	合計	103 名	
スタッフ	講師	3 名	ｻﾎﾟｰﾄ	0 名	ボラ	1 名	その他	0 名	合計	4 名	
距離 87.4 km	時間 1ｈ38 分		高速 無		宿泊 無						
希望するスポーツ	FD・ゴールボール・ボッチャ・ドッヂビー										
要望	お任せします										
連絡事項											








障がいのある方々の「競技スポーツ・生涯スポーツ・リハスポーツ」推進事業

◆スポーツ教室開催事業

◆パラリンピック選手発掘・育成強化事業

◆障がい者スポーツ導入研修会

◆各市町村連携及び地域人材活用事業

一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会

障がいのある方々の「競技スポーツ・生涯スポーツ・リハスポーツ」推進事業実績報告書

①はじめに

これまで本県のスポーツ振興組織は、健常者が県教育委員会スポーツ健康課、障がい者が保健福祉部障がい保健福祉課が所管していたが、2016 年の希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の開催を契機として、スポーツ行政の一元化の機運が高まり、本年度より岩手県文化スポーツ部が新設されたところである。さらに、国体・大会を契機として障がい者スポーツを専門的かつ包括的に推進する組織として岩手県障がい者スポーツ協会を設立・法人化を後押しした。これによりスポーツ参加の窓口の明確化と社会的な信用を高め、組織の基盤強化と様々な関係団体と連携したネットワーク作りを併せて進めることとしている。

まずは、具体的な事例を紹介する。2011 年東日本大震災により、すべてのスポーツイベントが中止になり、われわれは被災地支援に入った。その際に、現地の当事者から県スポーツ大会開催希望の声が上がっていた。理由を聞くと、唯一のスポーツをするチャンスを奪われたとの回答。この事実に愕然とするとともに、地域におけるスポーツ参加の環境作りの必要性を強く感じ進めているところである。

現在、地域のスポーツ振興の鍵を握る市町村の体育協会、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等との連携を進めている。先方からも障がい者の受入れの希望があるが、リスクマネジメントと福祉関係者とのネットワーク作りが課題となり、具体的企画を進める程、ハードルが上がっていく傾向にある。これらの問題を解消するためにはスポーツを安全に導入するための研修が必要となる。

また、希望郷いわて大会での岩手県選手団の活躍は連日報道され、大きな話題となった。県議会でも障がい者スポーツ協会設立とアスリート支援が話題となるなど、本県のスポーツ行政にも大きな影響を与えている。このことから、トップアスリートの活躍は、障がい者スポーツ振興全体にも大きな影響を与えると考えられる。とりわけ、2020 年の東京オリパラを目指す選手の出現は、多くの県民から期待されているところである。

以上のことから、障がい者スポーツ振興に対する 3 つの視点（目的）を持ちながら進めたい。1 つ目は競技スポーツの取組みによる競技力向上である。2 つ目は生涯スポーツの推進で、地域におけるスポーツ参加の拠点作りとともに進めたい。3 つ目はリハビリテーションスポーツで何らかの理由により、未だにスポーツに取り組めていない、あるいは、引きこもっている等の問題を抱える方々を生涯スポーツのステージに引き上げる取り組みである。また、今後、われわれに求められる役割は、自らが障がい者に対してスポーツ参加の場を提供する「直接的な支援」に加えて、障がい者へのスポーツイベント企画から運営までをサポートする側に回る「間接的な支援」が重要となる。

②事業の目的・ねらい

「直接的な支援」はある意味、閉鎖的であり、「間接的な支援」を積極的に行うこと、つまり、個の力だけではなく、地域における人材、施設、ネットワーク等を活用し、地域における自立した普遍的な障がい者のスポーツ活動拠点作りを継続的に行うことで定着を図る。

③事業実施概要

（1） スポーツ教室開催事業

①事 業 名　フライングディスク教室
＊日　　時　第1回：平成29年5月20日、第2回：平成29年6月17日
＊場　　所　ふれあいランド岩手・陸上競技場
＊参 加 者　第1回：25名（知的21名、身体4名）、第2回：24名（知的21名、身体3名）
＊スタッフ　講師2名、指導員5名、協会職員2名
＊補 助 員　障がい者スポーツ指導員（初級4名、中級1名）
＊連携組織　岩手県障がい者フライングディスク協会、岩手県障がい者スポーツ指導者協議会
＊事業内容
・全国障害者スポーツ大会への出場を目指す方々の強化練習
・これからフライングディスクを始めたい方々への導入教室
・アキュラシー、ディスタンスに加え、ロングアキュラシー（20m）、ディスクゴルフなどフライングディスクを活用したゲームを実施。
＊事業の様子






②パークゴルフ＆キャンプ体験教室

＊日　　時　平成 29 年 9 月 10 日（日）～11 日（月）

＊場　　所　おおのパークゴルフ場（パークゴルフ）、グリーンヒルおおの（キャンプ）

＊参 加 者　30 名（身体 25 名、健常者 5 名）

＊スタッフ　講師 2 名（中級 1 名）、社会福祉協議会 3 名

＊連携組織　洋野町身体障がい者協議会、久慈市身体障害者協議会、九戸村身体障害者協会
　　野田村身体障害者協議会、岩手県障がい者スポーツ指導者協議会

＊事業内容

・パークゴルフ体験教室、パークゴルフ大会

・各市町村団体からの情報交換会→各市町村でのスポーツ行事、スポーツ協会への要望調査 等

・バーベキューを通しての懇親会

＊事業の様子





③マリンスポーツ体験教室

＊日　　時　平成 29 年 10 月 15 日（日）10：00～15：00

＊場　　所　リアスハーバー宮古

＊参 加 者　20 名（身体 10 名、健常者 10 名）

＊スタッフ　講師 3 名、サポートスタッフ 4 名、障がい者スポーツ指導員 2 名（初級 1 名、中級 1 名）

＊連携組織　NPO 法人いわてマリンフィールド、宮古市シーカヤック協会、宮古市身体障害者福祉会、
　　山田町身体障害者協議会、岩手県障がい者スポーツ指導者協議会

＊事業内容

・シーカヤックの基本操作→パドル操作、カヤックへの乗降方法、フィッティング

・港内での実技→前進・後進の方法、方向転換、ブレーキ、加速方法

・救助ボートでのクルージング（荒天により内容変更）

＊事業の様子





（2）パラリンピック選手発掘・育成強化事業

①水泳競技育成強化事業（8回）

A：選手強化練習

＊期　　日　5月20日（土）、7月8日（土）、11月11日（土）、1月27日（土）／14：30～16：30

＊参 加 者　延べ48名（身体21名、知的24名、精神3名）

B：育成普及練習

＊期　　日　5月21日（日）、7月9日（日）、11月12日（日）、12月10日（日）／10：00～12：00

＊参 加 者　延べ47名（身体名24、知的21名、精神2名）

＊会　　場　盛岡市立総合プール

＊スタッフ　講師3名（初級3名）、サポートスタッフ5名（初級2名）

＊連携組織　岩手県水泳連盟（障がい者委員会）、公益財団法人盛岡市体育協会、ドルフィンズ岩手
　　岩手県障がい者スポーツ指導者協議会

＊事業内容

・選手強化練習・・・競技力向上を目的とした練習会

・育成普及練習・・・これから水泳を始めたいジュニアを対象とした水泳教室





②卓球競技育成強化練習（6回）

＊日　　時　5月20日（土）、6月17日（土）、10月21日（土）、11月18日（土）
　　12月16日（土）、1月20日（土）／13：00～16：00

＊場　　所　ふれあいランド岩手体育館

＊参 加 者　延べ127名（身体55名、知的62名、健常者10名）

＊スタッフ　講師3名（中級1名、初級2名）、指導者6名（初級5名）
　　ボランティア15名（初級8名）

＊連携組織　岩手県卓球協会障がい者スポーツ委員会、ＦＴＣ（ふれあい卓球クラブ）
　　パラ卓球クラブ「飛天」、岩手県障がい者スポーツ指導者協議会

＊事業内容

・競技力向上を目的とした練習会

・卓球マシン練習

＊事業の様子





③北海道・東北パラ陸上競技選手権派遣事業

＊期　　日　7月22日（土）～23日（日）

＊場　　所　福島市とうほう・みんなのスタジアム

＊参 加 者　11名（身体8名、知的3名）

＊スタッフ　9名（支援学校教員3名、OT3名、施設職員1名、保護者1名、協会事務局1名）

＊連携組織　岩手県特別支援学校連絡協議会、岩手県作業療法士会

＊事業内容

・本県で強化を進めてきた選手に競技大会参加の機会を提供する

・9月に行われるジャパラ陸上競技大会への意識を高める。

＊競技成績一覧

氏名	性別	クラス	種目	記録
栗木 友花	女	T20	100m 200m	15秒31（5位） 33秒54（2位）
菊地 美香	女	T38	100m 1500m	18秒49（1位） 8分12秒39（1位）
北村 大吾	男	T20	200m 400m 800m	25秒77（準決勝棄権） 54秒49（2位） 2分6秒13（決勝棄権）
柴田 真聖	男	T54	100m 200m	18秒92（2位） 36秒82（1位）
梅原 祐	男	T54	100m 200m	22秒13（3位） 45秒90（2位）
昆野 雅行	男	T20	100m 走幅跳	15秒59（予選敗退） 4m22（4位）
小野寺 萌恵	女	T34	100m 200m	24秒89（1位） 53秒28（1位）
安倍 百香	女	T54	100m 200m	体調不良により欠場
村上 傑	男	F31	こん棒投げ	12m11（1位）
佐藤 将太	男	T44	100m	16秒25（1位）
佐野 幸広	男	T42	100m	17秒78（2位）







④ボッチャ甲子園出場チーム支援事業

A：強化練習会

＊日　　時　平成 29 年 7 月 12 日（水）

＊場　　所　岩手県立盛岡となん支援学校・体育館

＊参 加 者　18 名（身体 6 名、教員 8 名、保護者 2 名、協会事務局 1 名）

＊スタッフ　講師 1 名（大分県障害者スポーツ指導者協議会 相談役 堀川 裕二 氏）

＊連携組織　盛岡となん支援学校

＊事業内容

・障害に応じた投球方法、基本戦術について、試合の進め方、ポイント獲得方法 等

B：ボッチャ甲子園参加事業

＊日　　時　平成 29 年 7 月 20 日（木）～21 日（金）

＊場　　所　港区スポーツセンター（東京都港区）

＊参 加 者　10 名（身体 3 名、教員 7 名）

＊事業の様子





⑤アーチェリー競技強化練習会

＊日　　時　平成 29 年 7 月 29 日（土）

＊場　　所　盛岡市立太田スポーツセンター

＊参 加 者　20 名（身体 5 名、健常者 15 名）

＊講　　師　1 名（種部 浩司 氏）、指導者 2 名（岩手県アーチェリー協会・いずれも初級）

＊連携組織　岩手県アーチェリー協会、岩手県身障者アーチェリー協会

＊事業内容

・競技力向上を目的とした個別指導

・コンパウンド技術の向上

＊事業の様子




⑥車椅子レーサー競技者養成講習会

＊日　　時　平成 29 年 10 月 22 日（日）10：00～15：00

＊場　　所　ふれあいランド岩手・研修室等（台風の影響により花巻日居城野陸上競技場より変更）

＊参 加 者　20 名（身体 5 名、健常者 15 名～中級 2 名、初級 6 名）

＊講　　師　一般社団法人チャレンジドアスリートクラブ会長 千葉 祇暉 氏

＊スタッフ　講師 1 名、介助者 1 名、協会事務局 2 名

＊連携組織　岩手県障がい者スポーツ指導者協議会、岩手県作業療法士会

＊事業内容

・講師自己紹介、車椅子スポーツに関して、車椅子レーサー競技者の実態と障害別特性（講義）

・スタート方法～加速方法、障害種別に合わせた指導方法、自分に合ったグローブを作ろう（実技）

＊事業の様子





⑦パラリンピック選手から学ぼう～障がい者スポーツ育成研修会

＊日　　時　平成 29 年 9 月 24 日（日）13：00～14：00

＊参 加 者　64 名（身体 25 名、知的 19 名、健常者 20 名）

＊会　　場　ふれあいランド岩手・体育館

＊スタッフ　講師 1 名、実技補助 2 名（ウィルチェアラグビー選手)、岩手県文化スポーツ部 5 名

＊連携組織　岩手県障がい者スポーツ指導者協議会、独立行政法人日本スポーツ振興センター

＊事業内容

・ウィルチェアラグビーとの出会いとパラリンピック（講義）

・ウィルチェアラグビー体験（実技）

＊事業の様子





（3）障がい者スポーツ導入研修会

①ユニバーサルスポーツ活用研修会

＊日　　時　平成 29 年 6 月 17 日（土）13：00～16：00

＊参 加 者　35 名（大船渡市、住田町、陸前高田市のスポーツ推進委員）

＊会　　場　岩手県立福祉の里センター

＊スタッフ　講師 1 名（中級 1 名）、サポートスタッフ 3 名（中級 2 名、初級 1 名）

＊連携組織　大船渡市、住田町、陸前高田市スポーツ推進委員協議会、釜石市体育協会
　　大船渡市教育委員会、岩手県障がい者スポーツ指導者協議会

＊事業内容

・障がい者スポーツの歴史について（講義）

・スポーツと法～国の施策について（講義）

・スポーツ実施率と地域での拠点作りと地域における組織連携について（講義）

・ユニバーサルスポーツとは（講義）

・卓球バレーについて（実技）

＊事業の様子





②第 1 回卓球バレー指導者養成講習会

＊日　　時　平成 29 年 7 月 1 日（日）10：00～15：00

＊参 加 者　23 名（作業療法士 7 名、理学療法士 3 名、スポーツ推進委員 6 名、その他 7 名）

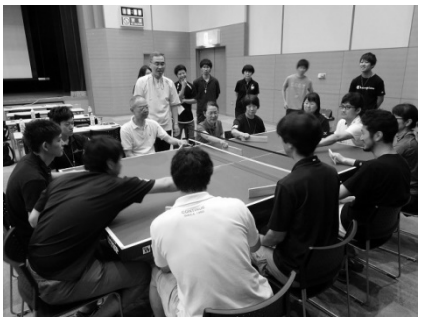
＊会　　場　ふれあいランド岩手・ふれあいホール

＊スタッフ　講師 1 名（中級 1 名）、サポートスタッフ 3 名（初級 3 名）

＊連携組織　岩手県作業療法士会、岩手県障がい者スポーツ指導者協議会

＊事業の様子







③知的・発達障がい者のためのスポーツ導入研修会

＊日　　時　平成 29 年 7 月 15 日（土）15：10～7 月 16 日（日）17：10

＊参 加 者　33 名／教室参加者 15 名（知的 13、身体 2 名）、研修受講者 18 名

＊会　　場　ふれあいランド岩手・研修室（講義）、体育館（実技）

＊スタッフ　講師 1 名、補助講師 1 名、サポートスタッフ 5 名（中級 2 名、初級 3 名）

＊連携組織　公益財団法人岩手県体育協会、岩手県理学療法士会、岩手県作業療法士会
岩手県スポーツ推進委員協議会、盛岡市手をつなぐ育成会、ふれあいランド岩手

＊事業内容

・障がい者へのスポーツ指導方法（講義）

・知的・発達障害について（講義）

・リスクマネジメントについて（講義）

・アダプティブ運動教室（実技～障害児者への運動指導の実践）

＊事業の様子





④障がい者スキーサポート講習会

＊日　　時　平成 30 年 1 月 21 日（日）9：30～14：30

＊参 加 者　12 名（身体 1 名、知的 1 名、健常者 10 名）

＊会　　場　安比高原スキー場

＊スタッフ　講師 5 名（身体 2 名、初級 2 名）、アシスタント 1 名、事務局 1 名

＊連携組織　岩手チェアスキークラブ

＊事業内容

・モノスキーとバイスキーの介助方法

・テザーロープの使用方法

・モノスキーとバイスキーの指導方法

＊事業の様子





（4）各市町村連携及び地域人材活用事業

①卓球バレー普及講習会

＊日　　時　平成 29 年 8 月 6 日（日）9：00～11：00

＊参 加 者　25 名（身体 10 名、健常者 15 名）

＊会　　場　久慈市民体育館・会議室

＊スタッフ　講師 1 名、サポートスタッフ 5 名（久慈市スポーツ推進委員～すべて初級指導員）

＊連携組織　久慈市、久慈市教育委員会、普代村教育委員会、久慈市スポーツ推進委員協議会
久慈地域卓球バレー協会、岩手県障がい者スポーツ指導者協議会

＊事業内容

・卓球バレーの活用方法（講義）

・卓球バレー競技説明（実技）

＊事業の様子





②卓球バレー指導者養成講習会

＊日　　時　平成 29 年 9 月 3 日（日）10：00～15：00

＊参 加 者　18 名（身体 6 名、健常者 12 名）

＊会　　場　大船渡市民体育館・サブアリーナ

＊スタッフ　講師 1 名、サポートスタッフ 2 名（大船渡市スポーツ推進委員～すべて初級指導員）

＊連携組織　大船渡市教育委員会、大船渡市スポーツ推進委員協議会、大船渡市体育協会
大船渡市身体障がい者協会、岩手県障がい者スポーツ指導者協議会

＊事業内容

・ユニバーサルスポーツの活用方法、地域における組織連携（講義）

・卓球バレー競技説明、卓球バレー指導方法及び審判方法（実技）

＊事業の様子





③高齢者スポーツ大会

＊日　　時　平成 29 年 9 月 30 日（木）8：00～12：00

＊参 加 者　85 名（身体 6 名、健常者 79 名）

＊会　　場　大船渡市民体育館

＊スタッフ　15 名（スポーツ推進委員 10 名、体協職員 2 名、教育委員会 2 名、スポーツ協会 1 名）

＊連携組織　大船渡市教育委員会、一般財団法人大船渡市体育協会、大船渡市スポーツ推進委員協議会
　　岩手県障がい者スポーツ指導者協議会

＊事業内容

・地域別のスポーツ交流大会で第 31 回目の開催

・高齢者スポーツと障がい者スポーツの交流事業

・卓球バレーのルール説明

・卓球バレーとスカットボールリレー

＊事業の様子





④盛岡地区卓球バレーユニバーサル大会

＊日　　時　平成 29 年 11 月 5 日（日）10：00～15：00

＊参 加 者　89 名（身体 45 名、知的 16 名、精神 8 名、健常者 20 名）

＊会　　場　岩手県勤労身体障がい者体育館

＊スタッフ　スタッフ 18 名（中級 6 名、初級 8 名、その他 4 名）

＊連携組織　公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団、岩手県障がい者スポーツ指導者協議会

＊事業内容

・オールフリールール（障がいの有無に関わらず参加可能）による卓球バレー大会

＊事業の様子





⑤宮古地区卓球バレーユニバーサル大会

＊日　　時　平成 29 年 11 月 23 日（木）10：00～15：00

＊参 加 者　76 名（身体 33 名、知的 14 名、精神 5 名、健常者 24 名）

＊会　　場　宮古市総合体育館・サブアリーナ

＊スタッフ　スタッフ 14 名（中級 1 名、初級 8 名、その他 5 名）

＊連携組織　NPO 法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット、一般財団法人宮古市体育協会 他

＊事業内容　オールフリールール（障がいの有無に関わらず参加可能）による卓球バレー大会

＊事業の様子





⑥卓球バレー地域探訪（洋野町編）

＊日　　時　平成 29 年 12 月 18 日（月）10：00～12：00

＊参 加 者　27 名（身体 2 名、高齢者 23 名、講師 1 名、協会事務局 1 名）

＊会　　場　種市武道館（洋野町）

＊連携組織　洋野町教育委員会、洋野町体育協会、洋野町スポーツ推進委員協議会

⑦卓球バレー地域探訪（久慈市編）

＊日　　時　平成 29 年 12 月 19 日（火）13：00～15：00

＊参 加 者　22 名（身体 16 名、健常者 4 名、講師 1 名、協会事務局 1 名）

＊会　　場　ひばり療護園（久慈市）

＊連携組織　久慈市スポーツ推進委員協議会、久慈地域卓球バレー協会

⑧卓球バレー地域探訪（釜石市編）

＊日　　時　平成 29 年 12 月 20 日（水）①10：00～12：00、②13：00～15：00

＊参 加 者　48 名（身体 10 名、高齢者 32 名、講師 1 名、協会事務局 1 名、その他 4 名）

＊会　　場　①青葉ビル、②上中島仮設住宅集会所

＊連携組織　釜石市体育協会、釜石市社会福祉協議会、大船渡市スポーツ推進委員協議会






④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

活動に参加している障がい者スポーツ指導員は高齢者の割合が高い。開催目的において競技性が高いイベントになると、参加率が低くなる傾向となる。そこで、卓球バレー等、運動強度が低く、指導も容易に行うことができるユニバーサルスポーツを活用しながら情報提供をしている。これにより、比較的、高齢者が多いスポーツ推進委員の資格取得者の増加にもつながっている。

また、競技指導者においては、特別支援学校の体育科教員が中心であるが、資格取得に対して、意識が低いため、事業参加の際に積極的に周知を行い、徐々にではあるが、取得率が上がってきている。指導者としての意識の低さは、校外での活動に消極的な傾向と直結しているようにも思う。

上記から、すでに取得した方への情報提供の工夫や、競技指導者に指導者としての自覚を持っていただくという意味で半強制的に資格取得を勧めることにより、全体の指導員数並びに活動への参加者も増加している。

さらに、現在は理学療法士や作業療法士の資格取得の問い合わせが多い。これは、希望郷いわて大会をきっかけに選手団役員の中にリハビリ関係者を多く配置したことも1つの要因と思われる。特に、これからスポーツを始めようとする方々を安全に受け入れるスポーツ導入の場面では、彼らの役割は大きく、今後のスポーツ振興に対しては大きな戦力となると期待している。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

これまでも岩手県体育協会、岩手県スポーツ推進委員協議会、岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会など県単位組織との連携はあるが、地域における拠点整備には市町村単位組織とつながる必要性が感じている。今年度は、久慈地域、大船渡地域に重点を置き進めてきた。

具体的な動きとして、久慈地域では久慈市スポーツ推進委員協議会が中心となり、全国では初めてとなる卓球バレーの地方組織「久慈地域卓球バレー協会」を設立、平成30年7月には、障害の有無に関わらず大会開催に向けて、準備を進めている。また、大船渡地域でも同様の動きがある。

（2）実際の事業での役割分担

当協会とスポーツ推進委員や母体組織である教育委員会が協同で事業実施をすることにより、横のつながりが広がりを感じる。また、スポーツ推進委員単独で障がい者団体との連携構築や普及教室の開催など、自立した事業展開の動きもある。事業運営においても、中心的な役割を担うケースが増え、任せる部分が多くなっているとともに、他のスポーツ推進委員にもこの動きを広げている。

（3）事業後の関係性の変化

現在、障がい者スポーツ関係の研修会の参加状況を見ると、福祉関係者よりも、一般のスポーツ振興のキーパーソンとなる団体からの参加者を多く、ある意味逆転現象が起きている。しかしながら、当事者への発信源はあくまでも、福祉関係職員であることから、彼らとの関係性は継続し、事業に取り込んでいく必要がある。

（4）その他

スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブは行政の所管であり、行政の特徴として前例を作ることが重要である。その意味では、1つの市町村で取組みを進めることであっても大きな効果が期待される。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

ボッチャ投球台がなく、思うように練習ができない事例もあった。参加希望者には、筋ジストロフィーの生徒も多く、投球台の有効活用により、彼らにも活動機会を提供できる。

また、もともとグラウンドゴルフ、パークゴルフは身障者の人気種目であるが、それ以外の障害種別でも十分に楽しむことができる種目である。今後は、比較的ルールが容易で取組みやすいパークゴルフを通して、多くの方々にアウトドアでスポーツを楽しむきっかけを作りたい。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

用具の保管とメンテナンスは当協会が行う。当協会の主催事業での活用が中心となるが、積極的に貸出し用具の PR も行い、学校、施設、地域等でのスポーツ交流事業に役立てていきたい。

⑦事業の成果および評価（達成度）

今回の事業の一番の成果としては、地域における一般のスポーツ振興に携わる方々とのネットワークの深まりである。地域にも、素晴らしい人材、熱い気持ちが溢れていることを実感した。この取組みを継続して、他の地域にも広げていきたい。

また、障がい当事者のスポーツ参加の可能性を広げるためには、支援者や保護者の意識を変えることが重要であることが明確となった。受け入れる側のキーパーソン、参加する側のキーパーソンがおり、この両面からアプローチする大切さを今回の事業で学んだように思う。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

事業①⇒可能であれば事業種類、事業数を増やしたい。併せてニーズを把握したり、ニーズを促すための取組みが必要。これができれば継続する意義は大きい。単発事業ではあまり効果がない。
事業②⇒東京オリパラ以降も継続していきたい。現役のパラのトップ選手は中間の世代（20 代～30 代）が少ないように思う。中間世代にもターゲットにした実施により継続価値は増すと思う。
事業③⇒導入教室は最も重要視しなければならない。地域に広がる際のリスクマネジメントにも取り組む必要がある。地域へ広がるとともに事故の増加も防ぐ取組みも検討を要す。
事業④⇒今年度、ターゲットにした久慈エリア、大船渡エリアをさらに広げ、三陸全体を障がい者スポーツの拠点作りのモデル地域としたいと考えている。

⑨おわりに

（1）所感

平昌や東京オリパラの開催により、「競技スポーツ」の意識は高まっているが、「生涯スポーツ」や「リハスポーツ」に好影響を与えるためには、様々な配慮が必要であると感じている。

現状は、スポーツの競技面がクローズアップされ、「スポーツ＝競技」という認識から、導入時には壁となるケースもある。競技だけではなく、スポーツ活動に参加すること、交流すること、応援に出かけて一緒に盛り上がることなども、人生における楽しみであり、多種多様なスポーツの価値感を参加者とともにふれあいながら共有していきたい。

これまで述べてきたことに共感する方もいると思うが、あくまでエピソード的な話で万人に対しての説得力としてはまだ不十分である。具体的な効果を明示する方策を考えつつ、まだ不十分であるという自覚はしっかり持ち、地道に取り組んでいきたいと思う。

（２）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

・地域の特性、特徴を理解するために、事業実施までに複数回、現地との情報交換を行う。
・障害種別、年齢、生活環境により、異なるニーズに柔軟に対応すること。
・重度及び高齢障がい者の参加に配慮すること。
・ユニバーサルスポーツを健常者に体験させ、共生社会への理解を促進すること。
・被災地域や障がい者スポーツへの意識の低い地域での実施回数を増やすこと。

宮城県障害者スポーツ振興事業

◆障害児運動・あそびの広場開催事業

◆卓球バレー交流会開催事業

宮城県障害者スポーツ協会

宮城県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

平成25年度に策定された「宮城県スポーツ推進計画」では、施策の柱1として「生涯にわたるスポーツ活動の推進」があり、その基本方向「子どもの遊ぶ（身体活動）機会の創出」の中で、「児童生徒の障がいの種類や程度の応じて、安全にあそび（身体活動）ができるように配慮します。」とされている。また、支援学校の部活動（実際は聴覚支援学校のみではあるが）の充実も目標とされている。

（公財）宮城県体育協会の事業計画の中にも、障がい者スポーツの支援が謳われており、当協会との連携協力、および競技団体と当協会の連携し大会を開催することが目標とされている。

「未就学児および児童のあそび場がない」という保護者からの話をもとに、平成22年12月より県内各地にて開催してきた。当初は、仙台市内での活動ではあったが、市外からの参加者も徐々に増えはじめ、遠く石巻市や白石市、亘理町からの参加者も増え始め、県内各地での開催を求められている。どうしても仙台市内での活動が中心となってしまうため、保護者からの要望もあり、各地域での活動を地域のスポーツ指導者を中心とし、総合型クラブによる会場の確保、また、地元の大学生やボランティア等による協力のもと、事業展開できる体制づくりが急務となっている。

②事業の目的・ねらい

障害児がのびのびと身体を動かせる機会や場を提供し、障害児の健康増進、運動あそび実践のきっかけ作りをサポートすることを目的として開催した。また、宮城県内での卓球バレーの普及と大会開催により意欲を高めるとともに、広く社会参加の促進に寄与することを目的として開催した。また、県内各地で開催することにより、その地域の指導員をはじめとする関係者主導で継続開催できるよう、指導していくことに重点を置いて行った。

③事業実施概要

（1） 障害児運動・あそびの広場開催事業

事　業　名	障害児運動・あそびの広場
日　　時	第1回：平成29年　8月26日　10:30～11:00 第2回：平成29年　9月16日　14:00～15:30 第3回：平成29年10月14日　14:00～15:30 第4回：平成29年11月 3 日　14:00～15:30 第5回：平成29年12月 9 日　14:00～15:30 第6回：平成30年　1月20日　14:00～15:30
場　　所	第1回：仙台市宮城野体育館 第2回：石巻市総合体育館 第3回：セキスイハイム・サブアリーナ 第4・5回：多賀城市総合体育館 第6回：カメイアリーナ仙台

参　加　者	延べ 274 名
ス タ ッ フ	協会職員 2 名／看護師 2 名
補　助　員	延べ 249 名 障がい者スポーツ指導員 80 名／学生 134 名／個人ボランティア 35 名
協　　力	宮城県障害者スポーツ指導者協議会
連 携 組 織	石巻専修大学／東北福祉大学／宮城学院女子大学／東北文化学園大学 東北大学／仙台白百合女子大学／東北工業大学／宮城教育大学 NPO 法人石巻市体育協会／NPO 法人多賀城市民スポーツクラブ
事 業 内 容	マット、平均台、フライングディスク、パラシュット、バルバレー、ティボール等を使用しながら、遊びを通して体を動かすことの楽しさを身につける。

事業の様子





（2） 卓球バレー交流会開催事業

事　業　名	卓球バレー普及事業
日　　時	第 1 回：平成 29 年　8 月 6 日 10:00～ 17:00 第 2 回：平成 29 年　9 月 3 日 10:00～ 12:00 第 3 回：平成 29 年 10 月 21 日 10:00～ 12:00 第 4 回：平成 29 年 11 月 11 日 10:00～ 12:00 第 5 回：平成 29 年 12 月 16 日 10:30～ 12:00 第 6 回：平成 30 年　1 月 14 日 10:00～12:00 第 7 回：平成 30 年　1 月 23 日 10:00～12:00
場　　所	第 1 回：宮城県障害者総合体育センター 第 2 回：富谷中央公民館 第 3 回：山元町体育文化センター 第 4 回：石巻市蛇田地区復興公営住宅集会所 第 5 回：東北工業大学一番町ロビー 第 6 回：石巻市蛇田地区復興公営住宅集会所 第 7 回：柴田町社会福祉協議会多目的ホール
参　加　者	延べ 129 名
ス タ ッ フ	宮城卓球バレー協会 33 名（延べ）

補　助　員	なし
協　　力	
連 携 組 織	宮城県身体障害者福祉協会／宮城県障害者社会参加推進センター NPO 法人アクアゆめクラブ／NPO 法人多賀城市民スポーツクラブ 富谷市／富谷市身体障害者福祉協会／富谷市社会福祉協議会 柴田町社会福祉協議会／山元町社会福祉協議会／石巻市社会福祉協議会 七ヶ浜町／七ヶ浜町社会福祉協議会
事 業 内 容	卓球バレー交流大会開催 卓球バレー体験会の開催 卓球バレー指導者養成講習会の開催

事業の様子





⑤連携について

（1） 事業前の関係性

在仙の大学や福祉団体については、以前から周知活動などの事業協力をお願いしていた。今回石巻市内の大学および体育協会、そして地域総合型スポーツクラブは、もともと当会の事業やボランティア活動に興味を示していたが、なかなかタイミングが合わず活動できずにいた。

（2）実際の事業での役割分担

事業の周知活動、会場の確保などを行っていただいた。石巻専修大学においては、石巻地区の障がい者スポーツ活動などの活動を行う際のボランティア組織を立ち上げ、石巻地区での活動を始めている様子である。

（3）事業後の関係性の変化

地域総合型クラブからの数名が初級障がい者スポーツ指導員資格を取得するなど、小学生や高齢者の活動の際に、障がい者スポーツを取り入れている。各地で事業を行いたいと考えている様子だが、そのための資金面で苦労している様子である。

（4）その他

今回我々で各地へ出向き、活動を行う中で、各地方でイベントを行うにしても、資金面で苦労している団体が多くみられた。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

スポーツ用具やレクリエーション用具は、高価なため設置している施設も少なく、あそびの広場については、参加者のニーズに合わせ、数多くの種類を用意しなければならず、現状では不足していたので、この度の購入で対応することができた。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

備品は当協会にて管理し、メンテナンスを行うこととした。また、今後の事業に引き続き使用していく。

⑦事業の成果および評価（達成度）

「障害児運動・あそびの広場事業」の実施を通して、障がい児がのびのびと遊ぶ姿を見ることができ、保護者も満足そうであった。また、活動を通じ、参加した保護者同士の交流や、協力団体と学生との連携を図ることができ、地域での活動に学生らが協力する体制ができつつある。また、障がい者スポーツ指導者も学生にアドバイスすることにより、自らの資質の向上を図るよい機会となった。

「卓球バレー交流会開催事業」では、卓球バレーの手軽さと楽しさを参加者に体験していただくことができた。また、総合型クラブ指導者もこの競技に興味を示し、競技用具を購入し活用するなど、競技の普及へのきっかけとなっており、今年度開催した交流大会では、昨年より出場チーム数も増えていている。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

本事業の実施に当たり連携できた関係各所とさらなる連携を図り、また、実施していない地域での普及活動を行うなど、県内全域へ広がっていくよう強化していく。

また、「障害児運動・あそびの広場」については、地域総合型クラブなどを活用しての開催を目指したが、やはり地域での自主的な開催となると、地域任せでは困難な事業でもある。率先して活動できる専門の指導者を育成することが課題となった。

⑨おわりに

（1）所感

地域での障がい者スポーツの振興はまだまだ進んでおらず、現在行っているスポーツ教室なども、仙台市内での活動がメインであり、仙台市を除く地域での活動は定着することは困難であった。

今回、障がい児がのびのびとあそぶことができる場所の提供と定着を目標に各地へと出向いたが、スポーツ振興の地域格差、指導者の人材不足が課題となった。

また、卓球バレーについては、障がい者だけでなく、子供から老人までが楽しめる競技特性に、教員や総合型クラブの指導者も興味を示すなど、ある程度の成果は得られた。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

・指導者と学生、また、各大学間の交流を図った。
・障がい児と保護者の分離により、保護者がくつろげる時間を作り、保護者間の交流につながった。
・安全面に留意した人員体制を心がけた。
・地域の活動において核となる人材の発掘を行った。

（3）事業を継続実施した成果・変化（前年度の課題に対し、どんな意識で取組み、工夫したか）

・仙台市以外の地方で活動においては、その後事業を継続して開催することによる地域での事業の定着を目的として行った。地区の福祉行政、市町村体育協会、マスコミ等を活用し、事業実施の周知などを行った。

・石巻地域では５年間継続して事業を行っているが、仙台地区から学生や指導者を動員し、行動を見せることにより、地元の大学生や高校生、推進員の方々がイベントでの対応に慣れ、継続して積極的に事業へ参加するようになってきた。

・卓球バレー事業では、昨年の事業協力者により、県協会を立ち上げ、県内各地での事業の主催協力を得られるような動きを作ることができた。



【 開催日時・会場 】

平成29年 8 月 26 日（土）	仙台市宮城野体育館・障がい者アリーナ	10：00～11：30
9 月 16 日（土）	石巻市総合体育館・武道場	14：00～15：30
10 月 14 日（土）	セキスイハイム・サブアリーナ	14：00～15：30
11 月 3 日（金）	多賀城市総合体育館・小体育室	14：00～15：30
12 月 9 日（土）	多賀城市総合体育館・大体育室	14：00～15：30
平成30年 1 月 20 日（土）	カメイアリーナ仙台・第２競技場	14：00～15：30

【 対 象 】

身体障害者手帳または療育手帳を有する４歳から 12 歳までの幼児・児童及びその家族（兄弟・姉妹の参加も可能）

参加費無料！

※ 屋内での活動ですので、室内用シューズをご持参ください。



【 お問合せ 】 宮城県障害者スポーツ協会 TEL：022-257-1005 ／ FAX：022-257-1062
e-mail：kensupo1988@poplar.ocn.ne.jp ／ URL：http://mpsa.jp/

宮城 みんなの「卓球バレー」！

今・話題のユニバーサルスポーツ・いつでも・どこでも・誰もができる。

～ 希望郷いわて大会～オープン競技として開催 ～

（全国障害者スポーツ大会（平成２８年）・・・ ４０チーム・７００名以上の参加者）



卓球バレーとは

子どもからお年寄りまで、障がいの有無に関わらず競技を楽しめるスポーツです。
☆一言でいうと「６人制のゴロ卓球」
☆全員が座ってプレー（左画像参照）
☆重度の障がいがあっても参加できます。
☆会議室でもプレーできることから年間を通して楽しむことができます。

「ふれあいランド岩手」にて



希望郷いわて大会の様子から

１チーム６名です。試合の時は卓球台１台に１２名の選手がプレーします。卓球台が１０台で１度に１２０名の選手がプレーしていることになります。当然のことですが車椅子の選手や応援団が歓声を上げて競技しています。近年、東北でもブームとなっています。

～話の輪が広がります。～
～そこには、理由があるのです。～

「宮城卓球バレー協会」 H．２９年４月１日・設立 ！笑顔 飛び出せ！

どんなに重い障がいがあっても・飛んだり跳ねたりは苦手だけど・スポーツがしたい！試合がしたい

☆競技特性・・・リスクマネジメントの負担が少ないことから福祉領域以外の方でも「卓球バレー」の普及に携われます。このことは障がいのある方々のスポーツ参加に大きな可能性をもたらします。
☆協会は卓球バレー関係の資料や技術を提供し指導者の養成を行います。
・指導者養成：毎月１回・宮城県障害者福祉センターにてフォローアップ教室。８月・２月に指導者講習会。
・体験教室（普及）：福祉施設、サービス事業所、ホーム等普及活動を行います。要望により出向教室を行います。
☆大会等（平成２９年度）
・東フロック（関東・東北・北海道）交流大会 ：７月（於：岩手県・ふれあいランド岩手）
・第１回宮城卓球バレー協会杯 宮城県卓球バレー交流大会：８月（於：宮城県障害者体育センター）
・日本卓球バレー連盟主催 全国交流大会（京都）：１２月

【 お問合せ先 】 宮城卓球バレー協会 事務局：０９０－４５５９－３１２９
※ 宮城県障害者スポーツ指導者協議会 ホームページもあわせてご覧ください!!

MGTVA 宮城卓球バレー協会

老若男女集まれー！！

みんなで、「卓球バレー」しませんか！

障がいのある人もOK！！ 車椅子でもできますよ～！

椅子に座ってしま～す！！ 難しい動き無し！

「卓球バレー」ってなーに？ 卓球なの？ バレーなの？

一般の卓球台を使って、視覚障害者卓球の音の鳴る球を使います。バレーボールのルールが基になっています。

卓球台を囲むようにして椅子に座り、6対6で対戦する競技です！ 30cmの板ラケットを持って、音の鳴る球を3打以内で相手コートに打ち転がし返球します！

その際、ネットの下をくぐらして返球します。

椅子からお尻が浮いたら、ピー！反則です。とにかく楽しいので、みんなで笑いながら体験してみてください！





宮城卓球バレー協会 フォローアップ教室のご案内

平成２９年４月１日（土） 宮城卓球バレー協会 設立
みなさん！ これからどうぞヨロシクおねがいします！！

フォローアップ教室は、卓球バレーに興味のある方、卓球バレーをやってみたい方に参加してもらい、楽しさを体験してほしいです。
障がい者スポーツ指導員の方や卓球バレー指導員の方にも体験していただき、指導者としてのレベルアップにもお役立てください。

フォローアップ教室の予定

8月5日（土） 13：00～17：00
幸町・障害者福祉センター １階 図書室
9月2日（土） 13：00～17：00
幸町・障害者福祉センター ３階
10月7日（土） 13：00～17：00
幸町・障害者福祉センター ３階
11月4日（土） 13：00～17：00
幸町・障害者福祉センター ３階
12月2日（土） 13：00～17：00
幸町・障害者福祉センター ３階
1月6日（土） 13：00～17：00
幸町・障害者福祉センター ３階

※参加費お一人 ￥１００-
体験のあと、みんなでお茶を飲みながらお話ししましょ！

※宮城県・仙台市障害者スポーツ指導者協議会に所属していない方は、保険の対象外となります。ケガの無いよう自己責任にてご参加ください。

ジャンプアップふくしま２０１７

◆福島地域スポーツ教室

◆陸上競技審判実践講習会

◆総合型地域スポーツクラブ協働トライアウト事業

公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会

福島県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

自県のスポーツ環境の特色、実情、課題点、事業を計画した経緯など

・本県は、東日本大震災の影響により、屋外での運動が制限され、運動不足等が問題となった。その改善策として豊かなスポーツライフの創造を目指すため、「楽しむ」、「育む」、「競う」、「つなぐ」の４つの視点から８つの推進施策を掲げた。その施策において障がい者のライフステージに合った運動機会を作り、継続することが重要である。また、総合型地域スポーツクラブ等の地域に密着した組織と連携することが地域スポーツの向上を図る上で求められている。

②事業の目的・ねらい

・本事業では、地域スポーツ教室をより身近なものとするため、同年度同様６支部体制とし、各地域で定期的にスポーツ教室を開催することでスポーツを継続的に行う機会の定着を図る。その上で、総合型地域スポーツクラブとも連携し、支部だけでは把握しきれない範囲を対応してもらうことでさらなる障がい者スポーツの振興を図ることを目的としている。

また、2017 年ジャパンパラ陸上競技大会が開催されるため、障がい者競技団体だけでなく、一般競技団体を巻き込んだ指導員養成を行い、大会以降も長く活躍できる指導員の育成を図る。

③事業実施概要

（１） 障がい者のスポーツ教室事業

事　業　名	福島地域スポーツ教室
日　　時	平成 29 年 6 月～1 月
場　　所	県北支部：だての郷、二本松市岳下住民センター、福島県あづま総合運動公園、ラウンドワンスタジアム福島、福島県立視覚支援学校、本宮市荒井体育館 いわき支部：いわきサン・アビリティーズ 県中支部：福島県立郡山支援学校、郡山市障害者福祉センター、郡山総合体育館 会津支部：会津若松市ふれあい体育館 県南支部：福島県勤労障がい者体育館 相双支部：相馬市社会福祉協議会はまなす館、LumixBowl 原町、スポーツアリーナそうま、新地町総合体育館
参　加　者	県北支部：延 310 名、いわき支部：延 123 名、県中支部：延 159 名 会津支部：延 377 名、県南支部：延 50 名、相双支部：延 88 名
スタッフ	県北支部：延 98 名、いわき支部：延 38 名、県中支部：延 91 名 会津支部：延 206 名、県南支部：延 33 名、相双支部：延 22 名
補　助　員	県北支部：延 3 名、いわき支部：延 16 名、県中支部：延 4 名 会津支部：延 29 名、県南支部：延 0 名、相双支部：延 9 名
協　　力	東北発電工業労働組合会津分会 福島県障がい者スポーツ指導者協議会 サンアビリティーズサポーターズクラブ

連携組織	会津若松市 会津若松市社会福祉協議会 会津テニス協会 福島民報社 福島民友新聞社 いわきサンアビリティーズ いわき市 郡山支援学校 福島県社会福祉事業団
事業内容	障がいの有無を問わず、誰もが参加でき、楽しむことのできるスポーツの実践（フライングディスク、ボッチャ、吹き矢、卓球バレー、風船バレー、キンボール、ハンドアーチェリー、風船バレー　等）

事業の様子













（２）障がい者スポーツ指導者の育成事業

事　業　名	陸上競技審判実践講習会
日　　時	平成 29 年 7 月 22 日（土)、23 日（日）
場　　所	とうほうみんなのスタジアム
参　加　者	福島県陸上競技協会　　67 名 福島パラ陸上競技協会　27 名 福島県障がい者スポーツ指導者協議会　15 名
ス タ ッ フ	福島県スポーツ課 3 名、福島県障がい者スポーツ協会 1 名
協　　力	福島県文化スポーツ局スポーツ課 日本パラ陸上競技連盟 福島陸上競技協会 福島パラ陸上競技協会 福島県障がい者スポーツ指導者協議会
連 携 組 織	福島県文化スポーツ局スポーツ課 福島陸上競技協会 福島パラ陸上競技協会 福島県障がい者スポーツ指導者協議会
事 業 内 容	22 日（日本パラ陸上競技連盟　宮田　英明　氏による審判講習会） ・国際陸上競技連盟競技会規則とＩＰＣ陸上競技規則の共通点と相違点 ・相違点についての解説 ・パラ陸上競技に使用される補助具等について ・クラスについて ・伴走者及びコーラーの役割とルールについて ・質疑応答 23 日（県障がい者スポーツ指導者協議会指導員対象） ・北海道・東北パラ陸上競技選手権のスタッフとして実践

事業の様子　　・日本パラ陸上競技連盟　宮田　英明　氏による審判講習会





（６）組織連携推進強化事業

事　業　名	総合型地域スポーツクラブ協働トライアウト事業
日　　時	①平成 29 年 11 月 2 日(木)、15 日(水)、29 日(水)、12 月 5 日(火) ②平成 29 年 11 月 6 日(月)、13 日(月)、20 日(月)
場　　所	①二本松市立小浜小学校 ②南相馬元気モール
参　加　者	①延 233 名（小浜小学校 1～6 年生） ②延　36 名（はらまちクラブ理事長、クラブマネージャー、会員）
スタッフ	①県障がい者スポーツ協会職員 2 名、指導者協議会 4 名 うつくしま広域スポーツセンター職員 1 名 いわしろスポーツクラブ　クラブマネージャー2 名 福島県シッティングバレーボール協会 2 名 ②県障がい者スポーツ協会職員 2 名　県スポーツ課職員 1 名
協　　力	福島県文化スポーツ局スポーツ課 うつくしま広域スポーツセンター 福島県障がい者スポーツ指導者協議会 福島県シッティングバレーボール協会 福島県ボッチャ協会 いわしろふれあいスポーツクラブ はらまちクラブ
連携組織	福島県文化スポーツ局スポーツ課 うつくしま広域スポーツセンター いわしろふれあいスポーツクラブ はらまちクラブ
事業内容	①いわしろふれあいスポーツクラブ　障がい者スポーツプログラム ・二本松市立小浜小学校の児童を対象に障がい者スポーツ指導 ・実技競技：ボッチャ、シッティングバレーボール ・少人数でも実施できる障がい者スポーツプログラムの作成 ②はらまちクラブ　ボッチャ教室 ・ボッチャのルール及び競技の特性について ・ボッチャの実践 ・補助具の紹介と使用方法 ・補助具を用いた競技の実践 ・審判のやり方 ・審判の実践 ・大人数に対してボッチャを指導する方法について ・質疑応答

事業の様子

①いわしろふれあいスポーツクラブ　障がい者スポーツプログラム





②はらまちクラブ　ボッチャ教室





④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

事業①：障がい者スポーツ指導員が主となり、教室の運営・進行を行っている。参加者とその保護者とコミュニケーションをとりながら、各参加者の障がい状況を考慮し、楽しく目標を持ってスポーツに取り組めるよう指導をしている。また、指導員間でも情報を交換し、共有することでより良い教室となるよう努めている。

事業②：福島パラ陸上競技協会には数多くの障がい者スポーツ指導員が所属しており、今回の審判講習会を受講したことで、ジャパンパラ陸上競技大会だけでなく、それ以降の陸上競技教室での指導にも生かしていく。また、今回の事業で福島陸上競技協会と連携をすることで一般競技団体の中においてパラスポーツの存在を確立し、指導員の増加も図っていく。

事業③：クラブマネージャーと障がい者スポーツ指導員が連携し、総合型地域スポーツクラブの事業を実施することで、より障がい者に配慮した教室等を実施することができる。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

事業①：昨年度も教室を運営するにあたり、連携・協力をいただいていた。

事業②：福島県障がい者総合体育大会の運営を主に協力してもらっていた。また、昨年より 2017 ジャパンパラ陸上競技大会の運営に向けて協力体制にある。

事業③：クラブマネージャー等が当協会主催の初級障がい者スポーツ指導員養成講習会や導入講習会に参加していた。

（2）実際の事業での役割分担

事業①：教室の周知やボランティアの派遣を主に担っていただいた。また、昨年に引き続き参加していただいた方々に関しては指導員とともに競技の説明や指導も行っていただいた。

事業②：当面の目標であるジャパンパラ陸上競技大会の運営に向けてパラ陸上競技の競技規則や一般競技と異なる点を講習会で学んでもらった。

事業③：障がい者スポーツ（シッティングバレー、ボッチャ）のルールや指導方法について講習を行い、学んでもらった。また、教室を開催し、一緒に指導も行った。

（3）事業後の関係性の変化

事業①:今後も教室の周知やボランティア派遣を主に協力・連携を図っていく。またそこに加え、教室等に指導員として参加していただけるよう指導員養成講習会の周知やイベントの周知等も連携して行っていく。

事業②：審判講習会を経て、ジャパンパラ陸上競技大会を終えた現在、今後のパラ陸上競技大会についても運営に関わっていきたいという話が出ている。また、来年度以降の障がい者スポーツ指導員養成講習会を受講し、資格取得も検討しているとの話があったため、パラスポーツに対して関心を得られたといえる。今後も積極的に協力を依頼し、連携しながら各事業を実施していきたい。

事業③：障がい者スポーツを知り、指導方法も学んだことによって、総合型地域スポーツクラブ主催で教室等を開催したいという熱が高まっているようだった。そのためのプログラム作成や指導員の派遣等に積極的に協力し、障がい者スポーツの普及・振興に努めていきたい。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

・総合型地域スポーツクラブでは、障がいのある方だけでなく、健常者、高齢者も参加しているため、障がいの有無に関わらず楽しめる競技が望ましいことから「ボッチャ」を選定し、購入し、指導した。比較的簡単なルールのため、参加者はすぐに理解し、最終的には自分達で教室を運営し、簡単な指導ならできるようになった。今後は総合型地域スポーツクラブでも教室を開催し、各地域で競技の普及に努めていく。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

・管理は当協会で行い、各スポーツクラブから貸出の要請があった場合、貸出を行うこととする。

⑦事業の成果および評価（達成度）

事業①：昨年度と比較して参加者、そして指導員の数も増えた。この要因として各団体と連携して周知を強化したこと、そして参加者のリピート率、コミュニティでの口コミによるところが大きかったと思う。その一方、地域の団体と連携が取れていない相双支部は参加者が減ってしまった。しかし、全体的には参加者及び参加指導員も増えたので今後も継続して気軽に運動ができる機会の拡大を図っていく。

事業②：昨年に引き続き、審判講習会を実施した。昨年の審判講習会では、まだパラ陸上競技の競技規則に触れて間もない時期だったため、質問等も少なく、完全に受け身の講習会だったが、昨年から現在に至るまで各競技団体で競技及び競技規則に向き合ってきたため、今回の講習会は質問等が多く挙がり、より内容の濃い講習会となった。そのため、ジャパン

パラ陸上競技大会は成功を収め、今後の活動の自信に繋がった。

事業③：総合型地域スポーツクラブと連携し、障がい者スポーツを指導していくことで、地域において障がいのある方がスポーツをする機会が増える可能性を見出すことができた。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

事業①：今回参加者及び参加指導員が増え、昨年度よりは運動をする機会を提供できたかと思うが、障がい者の運動実施率という点で見るとまだまだ目標値には達していないので、今後も継続的に教室を開催することでスポーツを常態化し、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境を整えていく。

事業②：定期的に審判講習会を開催することで、今回学んだ知識や技能を再確認することが重要である。また、講習会のレベルを上げ、大きな舞台で大会運営や競技に関わる指導員育成の講習会を開催することも検討していきたい。

事業③：スポーツ庁で挙げているスポーツ実施率を向上させるためには、各地域でスポーツを行う機会の確保はとても重要である。今後も総合型地域スポーツクラブと連携を図り、障がいのある方がスポーツを行う機会の増加とそれに伴う指導員の増加を目的に実施していきたい。

⑨おわりに

（1）所感

事業①については、昨年に引き続き、実施したことで教室の参加者及び指導員の参加率が増えた。その要因としては、やはり連携組織が周知をより強固なものとしてくれたことが挙げられる。また教室の質の高さが評価され、参加者のコミュニティ内での口コミで教室の存在が認知されたことも一因として挙げられる。今後も指導員、そして各組織と連携しながら参加者が気軽に参加できて楽しく安全にスポーツを行う機会を提供していく。

事業②については、ジャパンパラ陸上競技大会という大きな目的に向かって2年連続で審判講習会を行ったことで、障がい者競技団体だけでなく、一般競技団体の指導員に対してもパラスポーツを理解してもらう良いきっかけになった。今後の県内のパラスポーツの振興・普及においても協力体制をとっていく。

事業③については、地域においての障がい者スポーツに関して、総合型地域スポーツクラブの担う役割は大きいものだと再認識した。今後も連携し、障がい者スポーツの振興・普及に励んでいく。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど

・事前に関係者で打ち合わせ等の準備を行った。
・参加者の障がい状況に合わせて実施スポーツを工夫した。
・参加者が不安にならないよう笑顔で対応した。
・指導員の参加の有無を明確にすることを徹底した。
・新人指導員に関しては担当箇所を決めて動きやすいようサポートした。

（3）事業を継続実施した成果・変化（前年度の課題に対し、どんな意識で取組み、工夫したか）

・昨年度に引き続き、意識したことは変わらず、障がいのある方がスポーツをする機会を多く提供すること。ここに行けばスポーツができるという環境を増やし、スポーツをするということを常態化することである。そのために今回は総合型地域スポーツクラブと連携し、より地域に近い団体の中で障がい者スポーツをする機会を提供できるように心掛けた。

第１７回
会津障がい者スポーツ大会

微笑み・笑顔・感動



日	時	平成29年10月22日　（日曜日） AM10：00～PM4：00
会	場	会津若松市　ふれあい体育館
主	催	福島県障がい者スポーツ指導者協議会　会津支部 会津若松身体障がい者福祉会
共	催	障害者の明日を考える会
後	援	(公財) 福島県障がい者スポーツ協会 福島県障がい者スポーツ指導者協議会 会津若松市　会津若松市社会福祉協議会 会津テニス協会　福島民報社　福島民友新聞社
協	力	東北発電工業労働組合　会津分会

地域スポーツ振興事業

＜＜２０１７　会津障がい者スポーツ教室　開催要項＞＞

・目　的：障がい者がスポーツの楽しさを知ることと、障がい者スポーツ指導員が身近な地域において障がい者とその家族に対し運動をする機会を提供し、指導力の向上を図ることを目的とする。
・主　催：(公財)福島県障がい者スポーツ協会
・主　管：福島県障がい者スポーツ指導者協議会　会津支部
・協　力：(一財) 会津若松市公園緑地協会　会津若松社会福祉協議会
・日時/会場

No.	日時		会場
①	6月　3日（土）	13：00～16：00	会津若松市 ふれあい体育館 会津若松市一箕町大字八幡字八幡２番地の１
②	6月 24日（土）		
③	7月　1日（土）		
④	7月 30日（日）		
⑤	8月 13日（日）		
⑥	8月 26日（土）		
⑦	9月　9日（土）		
⑧	9月 30日（土）		
⑨	10月 21日（土）		
⑩	11月　4日（土）		
⑪	11月 19日（日）		
⑫	12月　2日（土）		
⑬	12月 24日（日）		
⑭	1月 14日（日）		

・内　容　　フライングディスク、ボッチャ、卓球バレー、風船バレー、吹き矢など
・参加費　：無料
・申込方法：事前申し込みはいりません。教室当日、直接会場へおいでください。
・備　考　①参加にあたっては、運動に適した服装でお願いします。
②室内での運動になりますので、上ばきをご持参ください。
③傷害保険は主催者側にて一括加入いたしますが、いかなる事故に対しても責任は負いませんので、参加にあたっては自己の責任において、健康と安全に十分留意してください。(保険証のコピーを持参するなどお願いします。)
④参加は、障がい者だけでなく付添いの方やご家族の参加なども大歓迎です。
⑤その他、教室に関する事、不明な点などについては、事務局までお問い合わせください。

＜事務局＞　福島県障がい者スポーツ指導者協議会　会津支部　事務局：熊田　洋子
〒965-0001
会津若松市一箕町松長 2-1-6
携　帯　：090-2029-9091
E-mail：nonohana41@techima.co.jp

地域スポーツ振興事業

＜＜２０１７　県北支部障がい者スポーツ教室　開催要項＞＞

・目　的：障がいの有無に関わらずスポーツを気軽に楽しめる場として、スポーツ教室を開催する。体を動かす楽しさと喜びを体験してもらい健康増進につなげるとともに、障がい者スポーツの普及と振興を目的に実施する。
・主　催：(公財)福島県障がい者スポーツ協会
・主　管：福島県障がい者スポーツ指導者協議会　県北支部
・日時/会場

No.	日　時	会　場	申込〆切日
①	6月17日(土)	二本松市　岳下住民センター体育館 二本松市三保内 72-1　☎0243-22-0306	6月　2日(金)
②	7月15日(土)	福島県立盲学校体育館 福島市森合町6－34　☎024-534-2574	6月30日(金)
③	8月19日(土)	二本松市　岳下住民センター体育館 二本松市三保内 72-1　☎0243-22-0306	8月　4日(金)
④	9月16日(土)	本本宮市　荒井体育館 本宮市荒井字笊籬5　☎0243-33-2012	9月　1日(金)
⑤	10月21日(土)	福島県営あづま総合体育館　サブアリーナ (チャレンジカップ2017) 福島市佐原字神事場1　☎024-593-1111	10月6日(金)
⑥	10月22日(日)	だての郷 伊達市保原町字中瀬町 100　☎024-576-7799	10月6日(金)
⑦	12月16日(土)	福島県立盲学校体育館 福島市森合町6－34　☎024-534-2574	12月1日(金)
⑧	1月20日(土)	ボウリング 福島市内ボウリング場を予定※参加費 1,500 円くらい	1月5日(金)

・日　程　受付　午前９時００分～
開会　午前９時３０分～
教室　午前９時４０分～
（風船バレー、卓球バレー、フライングディスク、ボッチャなど参加人数にって内容を決めます。）
閉会　～午後１２時
・参加費　：無料（1/20のボウリングは有料になります。当日徴収予定です。）
・申込方法：同封の参加申込書に必要事項を記入の上、事務局へ郵送、メールまたはＦＡＸにて期限までにお申込みください。参加希望の教室開催日も忘れずにお願いします。

・備　考　①参加にあたっては、運動に適した服装でお願いします。
②室内での運動になりますので、上ばきをご持参ください。
③傷害保険は主催者側にて一括加入いたしますが、いかなる事故に対しても責任は負いませんので、参加にあたっては自己の責任において、健康と安全に十分留意してください。(保険証のコピーを持参するなどお願いします。)

平成２９年度福島県障がい者スポーツ指導者協議会
相双支部　障がい者スポーツ教室　実施要領

１．目　的：障がい者がスポーツを通して、心身の維持増強と積極的な社会参加意識の高揚を図り、本県障がい者の自立・共生に資すると共に、本県の障がい者スポーツ、特に東京パラリンピックの普及と振興を目的に実施する。
２．主　催：(公財) 福島県障がい者スポーツ協会
３．共　催：(公財) 日本障がい者スポーツ協
４．主　管：福島県障がい者スポーツ指導者協議会　相双支部
５．対　象：県内在住の障がい者（身体・知的・精神）の方、または準ずる方
６．指導者：障がい者スポーツ指導員をはじめ、競技専門の指導者

７．内　容

教室名	日時	会場
ボウリング教室	平成２９年６月９日（金） １６時～１８時	LumixBowl 原町
ボッチャ教室	平成２９年７月２日（日） ９時～１２時	相馬市総合福祉センター 「多目的ホール」
卓球教室	平成２９年９月３日（日） ９時～１２時	新地町総合体育館
スポーツ吹き矢教室	平成２９年１０月１５日 （日）９時～１２時	相馬市総合福祉センター 「多目的ホール」

８．申込方法：申込先に直接御連絡ください。
（１）申込先　〒979-2533　相馬市坪田字下高松１１５
TEL：0244-36-2033　佐原　英夫

（２）連絡事項
①参加者は運動の出来る服装等各自準備してください。
②開始時間１５分前から受付いたします。
③保険に関しては主催者側で一括加入いたします。
④当日参加できなくなった場合に関しましては必ず御連絡ください。
⑤御不明な点がございましたら事務局に御連絡ください。

地域スポーツ振興事業（見本）

＜＜２０１７　県中地域障がい者スポーツ教室　開催要項＞＞

・目　的：障がいの有無に関わらずスポーツを気軽に楽しめる場として、スポーツ教室を開催する。体を動かす楽しさと喜びを体験してもらい健康増進につなげるとともに、障がい者スポーツの普及と振興を目的に実施する。
・主　催：(公財)福島県障がい者スポーツ協会
・後　援：あれば記入してください。
・主　管：福島県障がい者スポーツ指導者協議会　県中支部
・協　力：
・日時/会場

No.	日　時	会　場	申込〆切日
(1)	6月　4日(日)	郡山市障害者福祉センター　体育室 郡山市香久池１丁目１５－１５ ０２４－９３４－５８１１	5月26日(金)
(2)	7月　2日(日)		6月23日(金)
(3)	8月　6日(日)		7月28日(金)
(4)	9月　3日(日)		8月25日(金)
(5)	10月　1日(日)		9月22日(金)
(6)	11月　5日(日)		10月27日(金)
(7)	12月　3日(日)	第５回　エンジョイスポーツフェスティバル 郡山市障害者福祉センター　体育室 郡山市香久池１丁目１５－１５ ０２４－９３４－５８１１	11月24日(金)
(8)	1月　7日(日)	郡山市障害者福祉センター　体育室 郡山市香久池１丁目１５－１５ ０２４－９３４－５８１１	12月22日(金)

・日　程　受付　午前９時００分～
開会　午前９時３０分～
教室　午前９時４０分～（風船バレー、卓球バレー、フライングディスク、ボッチャなど参加人数によって内容を決めます。）
閉会　～午後１２時
・参加費　：無料
・申込方法：同封の参加申込書に必要事項を記入の上、事務局へ郵送、メールまたはＦＡＸにて期限までにお申込みください。参加希望の教室開催日も忘れずにお願いします。

地域スポーツ振興事業

＜＜２０１７　会津障がい者スポーツ教室　開催要項＞＞

・目　的：障がい者がスポーツの楽しさを知ることと、障がい者スポーツ指導員が身近な地域において障がい者とその家族に対し運動をする機会を提供し、指導力の向上を図ることを目的とする。
・主　催：(公財)福島県障がい者スポーツ協会
・主　管：福島県障がい者スポーツ指導者協議会　会津支部
・協　力：(一財) 会津若松市公園緑地協会　会津若松社会福祉協議会
・日時/会場

No.	日時		会場
①	6月　3日（土）	13：00～15：00	会津若松市 ふれあい体育館 会津若松市一箕町大字八幡字八幡２番地の１
②	6月 24日（土）		
③	7月　1日（土）		
④	7月 30日（日）		
⑤	8月 13日（日）		
⑥	8月 26日（土）		
⑦	9月　9日（土）		
⑧	9月 30日（土）		
⑨	10月 21日（土）		
⑩	11月　4日（土）		
⑪	11月 19日（日）		
⑫	12月　2日（土）		
⑬	12月 24日（日）		
⑭	1月 14日（日）		

・内　容　　フライングディスク、ボッチャ、卓球バレー、風船バレー、吹き矢など
・参加費　：無料
・申込方法：事前申し込みはいりません。教室当日、直接会場へおいでください。
・備　考　①参加にあたっては、運動に適した服装でお願いします。
②室内での運動になりますので、上ばきをご持参ください。
③傷害保険は主催者側にて一括加入いたしますが、いかなる事故に対しても責任は負いませんので、参加にあたっては自己の責任において、健康と安全に十分留意してください。(保険証のコピーを持参するなどお願いします。)
④参加は、障がい者だけでなく付添いの方やご家族の参加なども大歓迎です。
⑤その他、教室に関する事、不明な点などについては、事務局までお問い合わせください。

＜事務局＞　福島県障がい者スポーツ指導者協議会　会津支部　事務局：熊田　洋子
〒965-0001
会津若松市一箕町松長 2-1-6
携　帯　：090-2029-9091
E-mail：nonohana41@techima.co.jp

福島地域スポーツ教室開催事業

＜＜２０１７　県南支部　障がい者スポーツ教室　開催要項＞＞

・目　的：障がいの有無に関わらずスポーツを気軽に楽しめる場として、スポーツ教室を開催する。体を動かす楽しさと喜びを体験してもらい健康増進につなげるとともに、障がい者スポーツの普及と振興を目的に実施する。
・主　催：(公財) 福島県障がい者スポーツ協会
・主　管：福島県障がい者スポーツ指導者協議会　県南支部
・共　催：(公財) 日本障がい者スポーツ協会
・日時/会場

No.	日　時	会　場	申込〆切日
(1)	H29.6.18（日） 13：00～15：00	福島県勤労者体育館	H29.6.15
(2)	H29.7.16（日） 13：00～15：00		H29.7.13
(3)	H29.8.20（日） 13：00～15：00		H29.8.17
(4)	H29.9.18（日） 13：00～15：00		H29.9.15
(5)	H29.10.15（日） 13：00～15：00		H29.10.12
(6)	H29.12.17（日） 13：00～15：00		H29.12.14
(7)	H30.1.21（日） 13：00～15：00		H30.1.18

・日　程
受付　午後：12時45分～
開会　午後：　1時00分～
教室　午後：　1時00分～（準備運動、ボッチャ、フライングディスク、卓球バレーなど）
閉会　午後：　3時00分

・参加費　：無料

・申込方法：同封の参加申込書に必要事項を記入の上、事務局へ郵送、メールまたはＦＡＸにて期限までにお申込みください。参加希望の教室開催日も忘れずにお願いします。

・備　考　①参加にあたっては、運動に適した服装でお願いします。
②室内での運動になりますので、上ばきをご持参ください。
③傷害保険は主催者側にて一括加入いたしますが、いかなる事故に対しても責任は負いませんので、参加にあたっては自己の責任において、健康と安全に十分留意してください。(保険証の

平成２９年度福島県障がい者陸上競技審判等講習会開催要項

1　目　的
２０１７ジャパンパラ陸上競技大会の本県開催に向け、国際パラリンピック委員会の陸上競技規則に基づいた大会の実施を図るため、審判等講習会を実施する。

2　主　催
公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会

3　共　催
福島パラ陸上競技協会

4　日時・場所
平成２９年７月２２日（土）１５時００分～１７時００分（全団体対象）
平成２９年７月２３日（日）　９時００分～１７時００分（県陸指協会対象）
とうほう・みんなのスタジアム会議室（福島県福島市佐原字神事場１番地）
※受付：開始１５分前より開始

5　受講対象団体（者）
(1)　一般財団法人福島陸上競技協会　主任審判員
(2) 福島パラ陸上競技協会　競技担当者
(3) 福島県障がい者スポーツ指導者協議会　陸上競技担当者

6　内　容
一般社団法人日本パラ陸上競技連盟に講師の派遣を依頼して講習会を開催する。

7　その他
(1) 受講対象団体は、受講者名簿（別紙様式）を作成の上、下記まで申込みをする
(2) 受講に係る旅費は、公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会で負担する。

8　問い合わせ先
公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会事務局　担当　末永
（福島市杉妻町２－１６県スポーツ課内）電話　０２４－５２１－７３１２

総合型スポーツクラブ協働トライアウト事業実施要綱

事業目的
（１）県内の総合型地域スポーツクラブにおいて、障がい者がスポーツを楽しむ環境を整え、地域における障がい者スポーツの振興と地域コミュニティへの参画をとおして交流を図る。
（２）本事業をとおして、総合型地域スポーツクラブ内での障がい者スポーツの在り方を考えるきっかけとすることを目的とする。

主　催　　公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会

協　力　　福島県障がい者スポーツ指導者協議会
福島県障がい者フライングディスク協会
福島県ボッチャ協会
福島県シッティングバレーボール協会

後　援　　公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

実施回数　県内の総合型地域スポーツクラブ２か所で実施
※各クラブの実施回数については各クラブとの打合せにて決定する。

対象者　　（１）総合型地域スポーツクラブに勤務する職員・スタッフ
（２）地域にお住いの障がい者
（３）学校教育関係機関の児童（生徒）及び職員

開催期日　　各実施要領による。

募集申込み　当協会へ直接申し込むこととする。申し込み後、事前打ち合わせを数回実施する

スポーツ保険　　主催者で一括加入

問い合せ先　〒９６０－８６７０　福島市杉妻町２－１６　文化スポーツ局スポーツ課内
公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会　増子、丸山内
電話０２４－５２１－８０４２　FAX０２４－５２１－７８７９

埼玉県障がい者スポーツ地域連携づくり事業

◆障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）

◇ちちぶ ふれあいピック 2017

◇障がい者スポーツ体験交流会

◇障がい者スポーツ体験交流会　みんなでパラスポ体験 Day in ちちぶ

◇趣旨説明会、報告会

◆障がい者スポーツ地域拠点づくり調査研究事業

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

埼玉県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

埼玉県スポーツ推進計画は、平成 25 年度から 29 年度までの 5 か年を計画期間としている。

幼児から高齢者まで、性別や障がいの有無にかかわらず、全ての県民が生涯にわたってスポーツと関わる活動全般を対象としており、「生涯にわたるスポーツ活動の推進」、「国内・国際大会に向けた競技スポーツの推進」の項目において、障がい者のスポーツに関する記載がされている。

この計画の中、埼玉県内では、2020 年東京パラリンピックの気運醸成の取り組みとして、障がい者のスポーツ、特にパラリンピックの競技種目の紹介などを盛り込んだイベントを実施する自治体が増加しているが、地域における障がい者スポーツの振興までは至っていない。

本事業は、当協会と埼玉県障害者交流センターが協働し、昨年度は、秩父地域に限定し、地域でのスポーツ活動の取り巻く環境の把握や、障がいの有無に関係なく皆で楽しめるスポーツ種目の提供、連携づくりを中心に実施した。

二年目となる今年度は、スポーツをする人、支える人を繋ぐきっかけづくりを様々な角度から行うことで、環境基盤整備を図ることを主眼におき事業を展開した。

県全域の障がい者スポーツ地域拠点づくりに向けては、具体的なデータがない障がい者スポーツ指導者及びスポーツ推進委員の活動状況や、特別支援学校体育施設の開放状況の基礎調査を行うこと、また関係団体がそれぞれ行っている障がい者スポーツについての取組みや情報の共有等、相互の連携協力が不可欠であるため、団体・関係者のつながりをより強化する必要がある。

②事業の目的・ねらい

・秩父地域の実情に応じて地域で自立したスポーツ活動ができるような基盤整備
・継続したスポーツ活動の場を根付かせる
・地域の人と人、団体や組織間の連携づくり
・スポーツ活動を推進する人材の掘りおこしと育成
・秩父地域、県北部の障がい者スポーツ指導員間のネットワークづくりと活動の場の提供
・重度障がい児・者が身近な地域でスポーツにふれあう機会をつくる
・障がい者スポーツ指導員の活動の場づくりの提供
・障がい者スポーツ地域拠点づくりに向けた現状把握

③事業実施概要

（1） 障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）

事　業　名	ちちぶ ふれあいピック 2017
日　　時	11 月 3 日（金祝） 10:00～14:30
場　　所	埼玉県立秩父特別支援学校　グラウンド・体育館・校舎
来　場　者	240 名（参加者 160 名、来賓等 10 名、保護者・関係者 70 名）
スタッフ	70 名（実行委員 14 名、障がい者スポーツ指導員 13 名 特別支援学校体育連盟 16 名、スポーツ推進委員 4 名 スポーツ吹矢協会 4 名、ボランティア 12 名 交流センター2 名、スポーツ協会 5 名）
協　　力	埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会、埼玉県特別支援学校体育連盟、 太鼓大好きどこんこクラブ、埼玉県スポーツ吹矢協会、 本庄市スポーツ推進委員、有限会社新井武平商店、メモリアル秩父
連携組織	埼玉県、埼玉県教育委員会、秩父市、横瀬町、皆野町、長瀞町、小鹿野町
事業内容	○地域の人・団体と協働して、身近な地域でスポーツにふれる機会やきっかけづくりの場を提供すること等を目的に、誰でも気軽に体験できるスポーツ大会を開催 ○実行委員会を組織し、企画や実施内容等の決定、役割分担、準備・当日の運営、振り返りを主体的に実施 【構成団体】 （行政）秩父市障がい者福祉課、横瀬町健康づくり課、 皆野町健康福祉課、長瀞町健康福祉課、小鹿野町福祉課 （障がい者団体）秩父市身体障害者福祉協会 横瀬町身体障害者福祉協会、秩父手をつなぐ育成会 （学校）埼玉県立秩父特別支援学校、 （施設）清心会さやかグループ、キックオフ、パレット秩父 （主催者）埼玉県障害者交流センター、埼玉県障害者スポーツ協会 【委員会】 第 1 回 8 月 1 日（火）16:00～18:30 秩父特別支援学校 会議室 15 名 第 2 回 10 月 12 日（木）16:00～17:15 秩父特別支援学校 会議室 16 名 第 3 回 1 月 30 日（火）15:30～16:45 秩父市福祉女性会館 集会室 13 名 ○大会当日に参加するスタッフ、ボランティアを対象に、事前研修会（大会概要説明、実施種目の紹介・体験）を実施 10 月 12 日（木）17:30～19:30 秩父特別支援学校 会議室・体育館 21 名

事業の様子

事前研修会





ちちぶ ふれあいピック 2017





























事　業　名	障がい者スポーツ体験交流会
日　　時	①横瀬小学校　ふれあい教室 10 月 6 日（金） 13:50～15:30 ②秩父特別支援学校　体験交流会 10 月 12 日（木） 9：30～11：00 ③よこぜまつり「健康まつり」　ボッチャ体験コーナー 10 月 29 日（日） 10:00～15:00 ④みんなの皆野ふれあいまつり　ボッチャ体験コーナー 10 月 29 日（日） 10:00～15:00　＊台風に伴う雨天のため中止
場　　所	①横瀬小学校　第 2 グラウンド・体育館 ②埼玉県立秩父特別支援学校　体育館 ③横瀬町　スポーツ交流館 ④皆野町役場前　おまつり広場
参　加　者	①87 名（特別支援学級児童 6 名、3 年児童 71 名、教員 10 名） ②61 名（高等部（知的障がい）生徒 43 名、教員 18 名） ＊上記の他、当日、肢体不自由部門児童・教員数名参加 ③約 130 名
スタッフ	①6 名 （講師：プロ野球 OB クラブ選手 2 名、スタッフ 2 名 サポート：スポーツ協会 2 名 ②4 名（交流センター2 名、スポーツ協会 2 名） ③4 名（障がい者スポーツ指導員）
協　　力	埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会、プロ野球 OB クラブ
連携組織	横瀬町立横瀬小学校、県立秩父特別支援学校、横瀬町、皆野町
事業内容	体験交流会実施希望団体と日程・種目等を調整し、体験交流会を開催 ①ティーボール　特別支援学級児童・普通学級児童との交流 ②フライングディスクのデモンストレーションと体験 ③ボッチャの体験コーナーを設置し、来場者が自由に体験

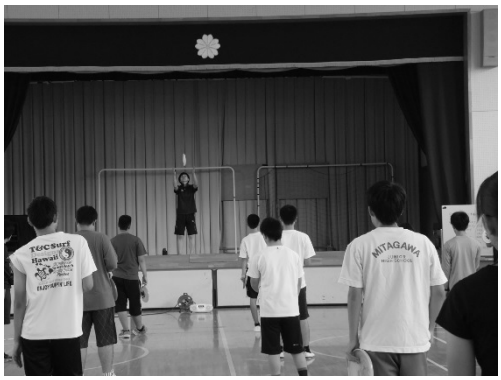
事業の様子

①横瀬小学校　ふれあい教室





②秩父特別支援学校　体験交流会









③よこぜまつり「健康まつり」　ボッチャ体験コーナー





事　業　名	障がい者スポーツ体験交流会　みんなでパラスポ体験 Day in ちちぶ
日　　時	1 月 23 日（火）　13:00～17:00　＊積雪のため中止 1 月 24 日（水）　12:00～19:00 1 月 25 日（木）　10:00～17:00
場　　所	23 日　横瀬町民会館ホワイエ 24・25 日　秩父宮記念市民会館けやきフォーラム A・B
来 場 者	111 名（24 日 32 名、25 日 79 名）
スタッフ	17 名　（24 日　スポーツ指導員 6 名、スポーツ協会 3 名） （25 日　スポーツ指導員 5 名、スポーツ協会 3 名）
協　　力	埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会
連携組織	埼玉県、埼玉県教育委員会、秩父市、横瀬町、皆野町、長瀞的、小鹿野町
事業内容	日頃、障がい者スポーツに関わりの少ない方々が障がい者スポーツに触れること、体験することを通して、障がいや障がい者スポーツの理解を深め、今後の障がい者スポーツを支える人、応援者を増やすと共に、人材や関係団体との連携のもと、秩父地域の障がい者スポーツの振興体制を推進させることを目的に展示・体験イベントを開催 ・競技用具やパネルの展示・紹介 ・競技体験（ボッチャ、競技用車いす乗車） ・秩父地域市町共催の障害者差別解消法住民・事業者・行政合同講演会が行われる会場のロビースペースでの実施を計画（1/23）

事業の様子









事業名	趣旨説明会、報告会
日　　時	①趣旨説明会　6 月 27 日（火）　16:00～18:30 ②報告会　1 月 30 日（火）　17:00～18:30
場　　所	①埼玉県立秩父特別支援学校　会議室 ②秩父市福祉女性会館　集会室
参 加 者	①22 名 （行政）横瀬町健康づくり課、皆野町健康福祉課、長瀞町教育委員会、 小鹿野町福祉課 （社会福祉協議会）小鹿野町 （障がい者団体）秩父市身体障害者福祉協会、横瀬町身体障害者福祉会 長瀞町身体障害者福祉協会、秩父手をつなぐ育成会 （学校）埼玉県立秩父特別支援学校 （施設）清心会さやかグループ、自立工房山叶本舗、キックオフ、 作業所ケルン、パレット秩父、きづな作業所、アクセス （オブザーバー）埼玉県障害者福祉推進課 （主催・事務局）スポーツ協会 ②17 名 （行政）秩父市障がい者福祉課、横瀬町健康づくり課、長瀞町健康福祉課 （障がい者団体）横瀬町身体障害者福祉会 （学校）埼玉県立秩父特別支援学校、光の村養護学校秩父自然学園 （施設）清心会さやかグループ、キックオフ、パレット秩父 （指導員）埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会 （主催・事務局）交流センター、スポーツ協会
事業内容	・関係者との繋がりの構築、事業内容及び、地域の情報やニーズを共有するとともに、今後の取り組みや、各々の立場で取り組むべきことなどを整理することを目的に開催。 ・体育施設開放の情報提供として、秩父特別支援学校体育施設の見学会の実施。 ■課題 ・継続ができていない。スポーツを日常にどのように取り入れていくか ・指導員の育成 ・参加者が固定 ■今後の取組み、提案 ・30 年度も実行委員会形式でちちぶふれあいピックを開催する ・実施種目の用具を長期で貸出し、練習機会を提供、大会参加を促す ・新たな団体への情報提供や、多種多様な情報発信

（2） 障がい者スポーツ地域拠点づくり調査研究事業

事　業　名	障がい者スポーツ地域拠点づくり調査研究事業
日　　時	平成 29 年 6 月～平成 30 年 1 月
場　　所	埼玉県障害者交流センター　会議室　ほか
スタッフ	埼玉県障害者交流センター 埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会 埼玉県障害者スポーツ協会
協　　力	埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会 埼玉県特別支援学校長会
連携組織	埼玉県障害者福祉推進課・スポーツ振興課・特別支援教育課 埼玉県スポーツ推進委員協議会　埼玉県体育協会
事業内容	・障がい者スポーツ地域拠点づくりに向けた基礎調査 ・相互の連携協力による推進体制を強化 ①関係機関事業打合せ （県障害者福祉推進課・スポーツ振興課・特別支援教育課） 6 月～随時 ②県スポーツ推進委員協議会、障害者スポーツ関係団体との意見交換会 9 月 2 日（土）埼玉県立スポーツ総合センター　201 室 17 名（スポーツ推進委員協議会 6 名、スポーツ振興課 2 名、 障害者福祉推進課 3 名、障がい者スポーツ指導者協議会 1 名、 交流センター1 名、協会 4 名） ・関係団体の概要及び事業内容等の共有 ・障がい者スポーツの取り組み、今後の連携についての意見交換 ＊県スポーツ推進委員協議会研修会年 2 回のうち 1 回を障がい者のスポーツに関するテーマで実施 ③関係機関事業打合せ（県体育協会） 12 月 13 日（水）県体育協会　会議室 6 名（体育協会 4 名、協会 2 名） ・総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団での障がい者スポーツの取り組み、障がいのある人の活動状況の把握 ・事業内容等の共有 ・今後の連携についての意見交換 ④地域における障がい者スポーツの連携づくりに関するアンケート調査（障がい者スポーツ指導員） ■概要 身近な地域でスポーツ活動に取り組める環境づくりを行うためには、スポーツを「支える」障がい者スポーツ指導者の果たす役割は大きい。

埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会は、現在、1,057 名の指導員が登録されているが、活動の状況については把握しきれていない。
そのため、全会員に向け、以下 5 項目のアンケート調査を行った。
1　指導員が住んでいる地域についての現状
2　指導員の現在の活動状況について。
3　活動のポイントについて
4　今後、協力依頼があった場合の活動の有無
5　ご自身の思いや考え、要望など
アンケートの回収率は 16.9%であった。協力依頼の回収率などに比べ、回収率が高かったことは、指導者の地域でのスポーツの取り組みに興味、関心があるのではないかと考えられる。活動についても、今までどおり、積極的に活動したいと回答した指導員は 93%と非常に高かった。しかし、協力可能な立場としては、当日の運営協力が 79%であり、企画運営から協力したい指導者は 18%と低いことが分かった。
今後、地域でスポーツ活動を根付かせるには、指導者の積極的な取り組みが期待される。そのために、企画、立案などの研修や中級障がい者スポーツ指導員講習会の実施なども視野に入れ、指導者の活動を拡充していきたい。

⑤『障がいのある人たちが地域（特別支援学校）で生涯にわたって運動に親しむため』拠点校づくりに関するアンケート調査（特別支援学校）

■概要

特別支援学校を活用した地域における障がい者スポーツの拠点づくりを進めていくための基礎調査として、県内特別支援学校 41 校（分校・私立を除く）の県立学校体育施設開放事業の利用状況等のアンケート調査を行った。

・回答 33 校（回収率 80%）
・学校開放（団体利用）実施校は 33 校、うち 4 校は個人利用も可能
・開放施設は体育館とグラウンドは 80%を超え、プールの開放は半数以下
・サッカーゴール等付帯備品の使用は可能な学校が多かったが、ボッチャやフライングディスク等用具の使用が可能な学校はわずかであった
・利用登録は 28 校で 309 団体（最少 1・最多 48 団体）、うち障がい者団体は 79 団体
・4 校では、障がい者団体が優先して利用可能

今後、特別支援学校を活用した拠点づくりを進めていくには、アンケート調査結果をもとに検討に移行し、関係団体と連携をはかり、スポーツ用具の整備も含めて取り組んでいきたい。

④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

事前研修会では、経験豊富な指導員が講師を担当し、競技・ルール説明等を行った。

交流センター・スポーツ協会ともに参加できない体験交流会については、事前に主担当の指導員と事務局で打合せを行い、当日はコーディネーターの役割をお願いした。

大会、体験交流会では、ルール説明や審判等の運営としての役割とともに、参加者と一緒に活動・交流し、スポーツの楽しさを共有・広める大切な役割を担ってくれた。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

県体育協会、スポーツ推進委員協議会とは繋がりはあったが、初めて障がい者のスポーツについての事業内容等の情報共有を行い、今後の連携についての意見交換をすることができた。

（2）実際の事業での役割分担

秩父地域関係団体とは、昨年度の活動効果もあり、地域の状況や課題点などの情報共有、広報、関係団体との連絡調整、会場の調整や日程提案、協賛企業の募集、会議への参加、実行委員や運営スタッフとしての協力をいただいた。

ちちぶふれあいピックに運営スタッフとして、スポーツ推進委員の協力を得ることができた。

（3）事業後の関係性の変化

秩父地域関係団体とは、次年度大会や指導員養成講習会の実施に向け、調整を続けている。

（4）その他

地域での活動を根付かせる土台作りのため、ますます関係団体と連携を深める必要性を感じた。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

カーリング、フライングディスク用具を購入し、大会（ちちぶふれあいピック）を実施することができた。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

当協会にて備品を管理・保管・貸出を行い、地域での継続したスポーツ活動への活用を促していく。

⑦事業の成果および評価（達成度）

（1）障がい者スポーツ地域連携づくり事業（秩父地域）

地域の人や団体と協働して実行委員会を編成して進めたことにより、関係団体の関わりが強化され、それぞれの専門性や得意分野を活かした役割を担うことで、単独では実施できなかった大会を開催できた。参加者アンケートの結果では、満足度は85%を超え、90%を超える方から今後もこのようなイベントに参加したいとの回答があり、これからに向けて確実な一歩を踏み出せた。

（2）障がい者スポーツ地域拠点づくり調査研究事業

関係団体と顔がみえる関係づくりができ、今後の取組み・連携についての意見交換ができた。アンケート調査では、県内の状況把握が進んだが、スポーツ推進委員（63市町村2,177名）の調査は、調整がしきれず、指導員資格取得者数や市町村単位での研修会等実施状況の把握までは進めることができなかった。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

秩父地域での事業は、大会や体験交流会の成果が各団体の主体的かつ持続的な活動には至っていないため、今後は地域でいかに日常的な活動としてスポーツを取り入れ、活動を根付かせていくかをテーマとして、行政、団体、スポーツ指導員等と連携を図りながら、事業を進めていく必要がある。継続した取組みにより、さらにスポーツにふれあい、親しむ機会の充実、人材の掘りおこし・育成の機会として、秩父地域での初級障がい者スポーツ指導員養成講習会の実施に繋げていきたい。

調査研究事業については、アンケート調査結果をもとに検討に移行し、関係団体と連携をはかり、他県等での取り組みや成功事例などを参考にしながら、障がい者スポーツ地域拠点づくりの整備をすすめる必要がある。また、地域で自立した活動を進めていくために、スポーツ指導員等を対象に企画立案やコーディネートができる指導者や支える人の育成にも力を入れていきたい。

⑨おわりに

（1）所感

秩父地域の事業では、ちちぶふれあいピックの実施に向けて、地域の人や団体と協働して実行委員会を編成し、ひとつの大会を企画から開催まで作り上げることができたことは、大きな一歩であり、今後の活動の糧となるのではないかと感じている。事業を通じて、障がい者のスポーツへの理解や関心は得られつつあるが、地域での主体的かつ持続的な活動に繋げて、根付くまでには、今までとは違った視点からのアプローチ等も含め、これからも様々な仕掛けが必要になることが考えられる。地域の人や団体と連携し、自立したスポーツ活動ができるように基盤整備に努めていきたい。

障がい者スポーツ地域拠点づくりの整備を進めていくには、関係団体との連携は不可欠であり、意見交換会等を通して関係性を強めることができた。障がい者スポーツを取りまく環境の変化に対応して、情報を適確に得るとともに、関係団体同士を繋げ、県全体の基盤強化、ネットワークの構築に向け、継続して取り組んでいきたい。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

・地域の人や団体と協働して実行委員会を編成し、大会開催を進めた。
・支える人が繋がるきっかけづくりとして、障がい者スポーツ指導員、特別支援学校体育連盟、スポーツ推進委員を所属団体ごとに分担するのではなく、混ぜて役割編成を行った。
・継続的なスポーツ活動につなげるため、障がいのある人の身近にいる人（施設職員や教員、家族等）にも一緒に体験していただき、まずは身近にいる人に楽しさを実感してもらった。
・参加者アンケートを実施し、課題やニーズを検証し、次年度に繋げる。
・今後の県での予算獲得に向けて、県行政関係各課に情報を共有し事業を行った。

（3）事業を継続実施した成果・変化

昨年度事業の報告会で「秩父地域でプチ大会が開けない」との声があがったことから、ちちぶふれあいピックに向けて、地域の人や団体と協働して実行委員会を編成して事業を進めることができたのは、昨年度の事業をとおして、行政や学校、施設関係者等に障がい者のスポーツ活動の必要性を実感していただけたことが大きい。

また、大会や体験交流会を実施する中で、スポーツ指導員の存在を知ることにより、スポーツ指導員の役割や地域での必要性への理解が進み、指導員資格の受講を目指す動きへの波及もあった。

ちちぶ ふれあいピック 2017
実施要項

1 目的
身近な地域でスポーツにふれる機会・きっかけづくりの場を提供すること等を目的に、誰でも気軽に体験できるスポーツ大会を開催します。

2 主催
一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 埼玉県障害者交流センター

3 共催
埼玉県立秩父特別支援学校

4 後援
埼玉県、埼玉県教育委員会、秩父市、横瀬町、皆野町、長瀞町、小鹿野町

5 運営
ちちぶふれあいピック実行委員会
【構成団体】
秩父市、横瀬町、皆野町、長瀞町、小鹿野町
秩父市身体障害者福祉協会、横瀬町身体障害者福祉協会、秩父手をつなぐ育成会、
県立秩父特別支援学校、清心会さやかグループ、キックオフ、パレット秩父
一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会、埼玉県障害者交流センター

6 運営協力（予定）
埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会、埼玉県特別支援学校体育連盟、どこんこクラブ ほか

7 日時
平成 29 年 11 月 3 日（金・祝）10:00～14:30
オープニングイベント 10:00
ファイナルイベント 14:10
＊雨天時は、競技種目を中止または規模を縮小して行います。
＊台風等荒天の際は、大会を中止する場合があります。実施態度は大会当日午前 6 時に決定し、
埼玉県障害者スポーツ協会 Facebook ページ（fb.com/sainokunisasa）に情報を掲載します。

8 会場
埼玉県立秩父特別支援学校 グラウンド・校舎・体育館

9 対象者
秩父地域在住の障がいのある人、高齢者、共にスポーツを楽しみたい人

10 費用
無料（ただし、交通費、昼食代等は各自負担）

11 実施競技・種目、イベント

競技・種目/イベント	時間	場所	雨天時の対応
オープニングイベント	10:00-10:20	グラウンド	体育館に変更
陸上記録会 50m または 30m 走	10:30-12:00	グラウンド	中止
陸上記録会 ジャベリックスロー	10:30-12:00	グラウンド	中止
陸上記録会 ビーンバック投	10:30-12:00	グラウンド	中止
フライングディスク	10:30-12:00 12:30-14:00	グラウンド	場所変更
グラウンド・ゴルフ	12:30-14:00	グラウンド	中止
スポーツいろいろ体験	10:30-14:00	体育館	一部場所変更
ボッチャ（体験）	10:30-12:00	校舎	
ボッチャ（交流大会）	12:30-14:00 ＊参加希望者 集合時間 12:15	校舎	
スポーツ吹矢	10:30-12:00	校舎	
ファイナルイベント	14:10-14:30	グラウンド	体育館に変更
出店コーナー	10:30-13:30（予定）		

＊競技・種目の概要は別紙参照

12 表彰
グラウンド・ゴルフ、ボッチャ（交流大会）のみ、表彰を行います。
ボッチャの組合せは、主催者で抽選にて決定します。

13 申込み
（1）施設・学校・グループなどの団体
団体ごとに、10 月 3 日（火）までに下記①または②の方法でお申込みください。
①申込書電子データ（エクセル）に入力のうえ、10 月 3 日（火）までに埼玉県障害者スポーツ協会の
E-mail アドレスまで、添付ファイルにて送付
②申込書に必要事項を記入して、埼玉県障害者スポーツ協会に郵送・FAX（要受信確認）で提出
＊当日参加も可能ですが、準備の関係上、できる限り事前申込みへの協力をお願いします。
（2）個人
事前申込不要です。

14 ボランティア募集
競技の準備、体験コーナーのスタッフなど、大会運営のサポートをしてくれる人を募集します。
■事前説明会 【日時】10/12(木) 17:30～19:30 【会場】秩父特別支援学校
■大会当日 【日時】11/3（金・祝）集合 9:00 解散 15:30 【会場】秩父特別支援学校
（1）参加申込み団体
団体ごとの申込書に協力者名を記入のうえ、10月3日（火）までに埼玉県障害者スポーツ協会に提出してください。

（2）個人
10 月 3 日（火）までに下記①または②の方法でお申込みください。
①埼玉県障害者スポーツ協会 web サイト（http://sainokuni-sasa.or.jp/）から申込み
②ボランティア登録票に必要事項をご記入のうえ、埼玉県障害者スポーツ協会に提出

15 出店団体募集
会場において、食品や授産製品の販売を行う団体を募集します。
希望する団体は、出店申込書に必要事項を記入のうえ、10 月 3 日（火）までに埼玉県障害者スポーツ協会に提出してください。
食品は現地での調理行程がない物に限ります。詳細は出店団体募集のお知らせをご覧ください。

16 傷害保険の加入
主催者において、参加者を被保険者とした普通傷害保険（レクリエーション傷害保険）に加入します。

17 その他
（1）健康管理
参加者は各自の責任において健康管理し、十分にウォーミングアップを行い自己責任において参加してください。主催者は大会期間中の応急処置のみを行います。
（2）参加者の服装・持ち物
服装は運動に適したものを着用してください。
体育館シューズ、タオル、その他必要なものは、各自で用意してください。
（3）写真等の使用について
大会で撮影する写真等は、主催・運営団体の会報・ホームページなどに掲載する場合、及び障がい者のスポーツに関する広報用として使用する場合があります。また、新聞・テレビ・雑誌・インターネット・パンフレットなどに報道・掲載・利用されることがありますので、ご了承の上参加してください。

■問合せ・申込み先
一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会
〒330-8522 さいたま市浦和区大原 3-10-1 埼玉県障害者交流センター内
tel ：048-822-1120
fax：048-822-1121 ＊fax で申込みの場合は、電話で受信確認をお願いします
E-mail:2004@sainokuni-sasa.or.jp

実施競技・種目説明




陸上記録会


グラウンド・ゴルフ


フライングディスク


スポーツいろいろ体験


ボッチャ


スポーツ吹矢

ちちぶ ふれあいピック 2017

Sport Together! みんなで一緒にスポーツを楽しもう

誰でも気軽に楽しめるスポーツ大会を開催します
さまざまなスポーツを体験できるチャンスです
初めての人も気軽にご参加ください!!

とき 平成29年11月3日(金・祝)
10:00～14:30

ところ 秩父特別支援学校

対象者 秩父地域在住の障がいのある人、高齢者
共にスポーツを楽しみたい人

参加費 無料

申込み 不要 ＊施設等団体での参加は、10/3までに
埼玉県障害者スポーツ協会に申込書をご提出ください。

主催 一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 埼玉県障害者交流センター
後援 埼玉県 埼玉県教育委員会 秩父市 横瀬町 皆野町 長瀞町 小鹿野町
運営 ちちぶふれあいピック実行委員会
運営協力 埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会 埼玉県特別支援学校体育連盟 どこんこクラブ ほか

■問合せ・申込み先
一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会
tel 048-822-1120 fax 048-822-1121
webサイト http://sainokuni-sasa.or.jp/

ちちぶ ふれあいピック 2017

♥タイムスケジュール

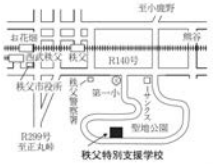
	グラウンド	体育館	校舎
10:00-10:20	★オープニングイベント 挨拶・来賓紹介・ダンス		
10:30-12:00	■陸上記録会 30m/50m ジャベリックスロー ビーンバッグ投 ■フライングディスク ディスゲッター9 アキュラシー	■スポーツ いろいろ体験 カーリング 輪投げ テーブルホッケー スカットボール などを予定	■ボッチャ 体験コーナー ■スポーツ吹矢
12:00-12:30	昼休み		昼休み
12:30-14:00	■グラウンド・ ゴルフ ■フライングディスク ディスゲッター9 アキュラシー		■ボッチャ 交流大会 参加希望者集合時間 【12:15】
14:10-14:30	★ファイナルイベント みんなで秩父音頭・秩父屋台囃子 成績発表・表彰		

ゆるキャラの登場や
食品・授産製品の販売
出店もあります

＊雨天時は、競技種目を中止または規模を縮小して行います。
中止になる競技 陸上記録会・グラウンドゴルフ
＊台風等荒天の際は、大会を中止する場合があります。
実施態度は大会当日午前６時に決定し、
埼玉県障害者スポーツ協会Facebookページ
(fb.com/sainokunisasa) に情報を掲載します。

♥持ち物・服装
体育館シューズ、運動ができる服装

秩父特別支援学校へのアクセス



秩父鉄道秩父駅から徒歩30分 タクシーあり
西武鉄道西武秩父駅 タクシーあり

♡ ♡ ♡ **ボランティア募集のお知らせ** ♡ ♡ ♡

競技の準備、体験コーナーのスタッフなど、大会運営のサポートをしてくれる人を募集しています。
参加者の皆さんと交流しながら、楽しくボランティアをしませんか。 初めての人も大歓迎!! 皆さまのご協力をお待ちしています。

■事前説明会 【日時】10/12(木) 17:30～19:30 【会場】秩父特別支援学校
■大会当日 【日時】11/3（金・祝）集合9:00 解散15:30 【会場】秩父特別支援学校

お申込みは、10/3(火)までに下記①または②の方法でお申込みください。
①埼玉県障害者スポーツ協会webサイト（http://sainokuni-sasa.or.jp/）から申込み
②ボランティア登録票を埼玉県障害者スポーツ協会に提出

ちちぶふれあいピック 2017　参加者アンケート　集計結果　　【回収数　107 件】

1. 年齢

回答	10 歳未満	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上	
件数	7	33	10	7	7	7	8	15	12	106
割合	6.6%	31.1%	9.4%	6.6%	6.6%	6.6%	7.5%	14.2%	11.3%	

2. 性別

回答	男	女	
件数	59	47	106
割合	55.7%	44.2%	

3. 障がいの有無

回答	あり	なし	
件数	71	34	105
割合	67.6%	32.4%	

4. お住まいの地域

回答	秩父市	横瀬町	皆野町	長瀞町	小鹿野町	その他	
件数	69	13	5	8	7	4	106
割合	65.1%	12.3%	4.7%	7.5%	6.6%	3.8%	

5.「ちちぶふれあいピック 2017」が開催されることを何で知りましたか（複数回答可）

回答	市町の広報誌	学校団体	友人知人	チラシ	その他	
件数	14	65	13	7	10	109
割合	12.8%	59.6%	11.9%	6.4%	9.2%	

6. 参加した競技（複数回答可）

回答	陸上記録会	フライングディスク	グラウンドゴルフ	スポーツいろいろ体験	ボッチャ	スポーツ吹矢	
件数	59	49	37	45	46	33	269
割合	21.9%	18.2%	13.8%	16.7%	17.1%	12.3%	

7.「ちちぶふれあいピック 2017」の満足度について

回答	とても満足	やや満足	普通	やや不満	とても不満	
件数	74	19	12	0	0	105
割合	70.5%	18.1%	11.4%	0%	1.3%	

8. 今後もこのようなイベントがあれば参加したいですか

回答	参加したい	参加したくない	わからない	
件数	96	0	10	105
割合	90.6%	0%	9.4%	

9. 感想やご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

□ 楽しく一日が過ぎました。(70 代)
□ 楽しかった(20 代)(70 代)
□ とても楽しかった(20 代)(70 代)
□ 役員の皆様おつかれ様でした。とても楽しかったです。(60 代)
□ 親子 2 人で来ましたが、知っている人が多くて楽しくよかったです。(50 代)
□ 地元なので、知ってるお友達や先生に会えたので、楽しくできてよかったです。場所も学校なので、とても使いやすくてよかったです。(20 代)
□ 他の方の笑顔もとても、印象に残りました。(40 代)
□ 天気も良く楽しく参加できて良かったです。4 才と 6 才の子供も楽しかったようです。(30 代)
□ ありがとうございました。(80 代)
□ 私は初めてのふれあいピックを参加して、とても楽しかったです。陸上記録会をがんばりました。(20 代)
□ 楽しかった。特にフライングディスクが楽しかった。(10 歳未満)
□ 何もできなかったけど楽しかった。(10 代)
□ 陸上記録会が楽しかった。(10 代)
□ 今日は楽しくいられました。また、イベントがあったら来たいです。(10 代)
□ なつかしい方々に会えてうれしかったです。久しぶりにいろいろな競技がなつかしかった。とても楽しかったです。
体育館から多目的室に移る時、土足、上ばきとはきかえるのが大変でした。特に高齢になると。(60 代)
□ 久しぶりの参加で良い汗をかきました。(60 代)
□ 育館～ボッチャの会場まで上ばきのまま行けたら良かったな！と思いました。なつかしい先生にお会い出来て嬉しそうでした。(40 代)
□ 下足と上ばきの着脱が多くて少し考慮が必要だなと思いました。
なつかしい方々にお会い出来て良かったです。(70 代)
□ 障害者と一緒に競技ができる場はなかなかないので、これからも続けてほしいです。(40 代)
□ 全体的にバラバラといった感じで、もっと競技をまとめて実行してもらったと思いました。(60 代)
□ イベント参加の前に、エントリーシートの用紙を各自、持参して下さいと、伝えてほしかった。(50 代)
□ お天気が良かったので、もう少しテントや日かげがあれば良かった。(10 代)
□ 役員の方御苦労様です。なつかしい人に会えてうれしかったです。
体育館から多目的室に移る時、土足から上ばきとはきかえることが多く、特に高齢になると大変です。(30 代)
□ とてもよかった競技は陸上記録会やフライングディスク・スポーツ吹矢などがとてもいい競技でした。
□ プチふれあいピックが楽しかったです。来年も参加したいです。(20 代)
□ 素晴らしい取り組みですね！これからも参加したいと思います。(30 代)
□ また秩父でやって下さい。(30 代)

みんなでパラスポ 体験 Day in ちちぶ 実施計画書

1 目的

日頃、障がい者スポーツに関わりの少ない方々（地域住民、スポーツ関係者、施設職員、教員等）が障がい者スポーツに触れること、体験することを通して、障がいや障がい者スポーツの理解を深め、今後の障がい者スポーツを支える人、応援者を増やすと共に、人材や関係団体との連携のもと、秩父地域の障がい者スポーツの振興体制を推進させることを目的とします。

2 主催

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 埼玉県障害者交流センター

3 後援

埼玉県、埼玉県教育委員会、秩父市、横瀬町、皆野町、長瀞町、小鹿野町

4 運営協力

埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会 ほか

5 日時

平成 30 年 1 月 23 日（火）13:00～17:00
平成 30 年 1 月 24 日（水）12:00～19:00
平成 30 年 1 月 25 日（木）10:00～17:00
＊大雪等荒天の際は、イベントを中止する場合があります。実施態度は埼玉県障害者スポーツ協会 Facebook ページ（fb.com/sainokunisasa）に情報を掲載します。

6 会場

1/23 横瀬町民会館 ホワイエ
1/24・25 秩父宮記念市民会館 けやきフォーラム A・B

7 内容

・障がい者スポーツのパネル展示、紹介
・障がい者スポーツに関する競技用具の展示、紹介
・障がい者スポーツの体験
・障がい者スポーツ DVD の上映

8 対象者

障がい者のスポーツに興味・関心のある方、体験してみたい方
（障がいの有無にかかわらず誰でも参加できます）

9 費用

無料

10 写真等の使用について

イベントで撮影する写真等は、主催者の会報・ホームページなどに掲載する場合、及び障がい者のスポーツに関する広報用として使用する場合があります。また、新聞・テレビ・雑誌・インターネット・パンフレットなどに報道・掲載・利用されることがありますので、ご了承の上参加してください。

■問合せ先

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会
〒330-8522 さいたま市浦和区大原 3-10-1 埼玉県障害者交流センター内
tel ：048-822-1120
fax：048-822-1121
E-mail:2004@sainokuni-sasa.or.jp

パラスポーツを知って・観て・体験しよう!!

みんなで パラスポ 体験Day inちちぶ



競技体験



競技用具の
展示・紹介



パネル展示

入場無料

横瀬会場

1.23（火） 13:00ー17:00

横瀬町民会館 ホワイエ

横瀬町大字横瀬2000

秩父会場

1.24（水） 12:00ー19:00

1.25（木） 10:00ー17:00

秩父宮記念市民会館 けやきフォーラムA・B

秩父市熊木町8-15

誰でもご参加いただけます

■主催　一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会　埼玉県障害者交流センター
■後援　埼玉県　埼玉県教育委員会　秩父市　横瀬町　皆野町　長瀞町　小鹿野町
■問合せ　一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会　tel　048-822-1120　fax　048-822-1121

大雪等荒天の際は、イベントを中止する場合があります。
実施態度は埼玉県障害者スポーツ協会Facebookページ（fb.com/sainokunisasa）に情報を掲載します。

みんなでパラスポ体験 Day in ちちぶ　来場者アンケート　集計結果　　【回収数　77 件】

1. 年齢

回答	10 歳未満	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上	
件数	1	3	5	15	13	10	17	11	2	77
割合	1.3%	3.9%	6.5%	19.5%	16.9%	13.0%	22.1%	14.3%	2.6%	

2. 性別

回答	男	女	
件数	39	38	77
割合	50.6%	49.4%	

3. 障がいの有無

回答	あり	なし	
件数	4	73	77
割合	5.2%	94.8%	

4. お住まいの地域

回答	秩父市	横瀬町	皆野町	長瀞町	小鹿野町	その他	
件数	65	6	1	0	3	2	77
割合	84.4%	7.8%	1.3%	0%	3.9%	2.6%	

5.「みんなでパラスポ体験 Day in ちちぶ」が開催されることを何で知りましたか（複数回答可）

回答	市町の情報	学校団体	友人知人	チラシ	通りすがり	その他	
件数	22	1	9	13	33	0	78
割合	8.2%	0.4%	3.3%	4.8%	12.3%	0%	

6.「みんなでパラスポ体験 Day in ちちぶ」の満足度について

回答	とても満足	やや満足	普通	やや不満	とても不満	
件数	55	18	2	0	1	76
割合	72.4%	23.7%	2.6%	0%	1.3%	

7. ①今まで、障がい者のスポーツに興味はありましたか

回答	とても興味があった	やや興味があった	どちらでもない	あまり興味はなかった	全く興味はなかった	
件数	9	44	14	9	0	76
割合	11.8%	57.9%	18.4%	11.8%	0%	

7. ② 障がい者のスポーツについて、魅力を感じた内容や今後知りたい情報がありましたら、ご自由にお書きください

とても興味があった

□ パラ選手の活躍もすごいと思いますが、雲の上の様でした。今日、一般の人もできることを知りました。（ボッチャ）楽しめると思います。
□ 障がいのあるなしに関わらず、一緒にスポーツを楽しめる機関の情報を知りたい。

やや興味があった

□ 各市町村で大会が出きたらと思う。各市町村にてきした（できるしせつがあるところ）があると思う。
□ スポーツは障がい者もすごく努力して楽しんでいることがわかりました。私達も今の自分に甘える事なく、いろいろと努力しなければと思わせて頂きました。
□ ボッチャについて一度拝見していましたが、実際とは大ちがいで皆さんと共に喜んでやれるといいと思います。チャンスを作ります。
□ 自分が障がい者になってもスポーツができると思えた。
□ 競技としてのおもしろさを多くの人に感じてほしいので、体験会などあれば参加したいと思いました。
□ 見るのと、やるのでは、とても違うように感じた。
□ 各競技のむずかしさがわかった。
□ ものすごく努力、練習をしているところが感動しました。

どちらでもない

□ 目の見えない人のために、中にすずの入ったボウルがあることが、とても良いアイディアだなと思った。
□ 障がい者と健常者が共に生き生かされる社会づくりに大いに役立つと考えます。大いにパラスポを広めていけるとよいと思う。
□ とてもおもしろく障がいの無い人でも参加出来ると思います。

あまり興味はなかった

□ テニスやバスケットのイスの発展に興味をもちました。
□ 初めて知ったスポーツ（ボッチャ）があったので、体験できて楽しかったです。いろいろな車イスも体験でき、有意義な体験でした。
□ 今まで想像もつかなかったようなスポーツがありました。（ボッチャ）
□ 競技用の車いすなど、とても軽く機動性が高かったです。車いすの方にとってみると参加してみたくなるのではないでしょうか。
□ 一番おもしろかったのは、バスケットです。とてもむずかしいところと、おもしろいところがあったところ。
□ 魅力は、競技にあった使いやすさで、スポーツの道具をつくっているところです。

8. 感想やご意見がありましたら、ご自由にお書きください

□ もっと宣伝すればいっぱい人がきたのに・・・ いい経験ができました。
□ もっと障がい者へのお知らせが必要と思う。障がい者への体験ができれば良いと思う。
□ 自分はスポーツ吹矢を行っています。吹矢も障がい者のクラスがあります。障がい者の参加率を高める努力をしたい。
□ 初ボッチャ体験させて頂きました。とても楽しかったです。
□ 競技する方と一緒に楽しんで喜んでいただけると最高だと考えています。
□ とても工夫が出来ていて、見るのが楽しそうに思えた。
□ 体験が楽しかった。
□ 車イス競技に関して、非常に力強いイメージを持ちました。
□ 障害者もパラリンピックに多数参加してメディアに紹介していただければと思います。
□ 身近に感じられた。
□ 実際に車いす等に乗ることができて良かった。
□ 施設の利用者さんと参加しました。車イスにのせてもらったり、ボッチャをしたり、楽しい時間がすごせました。施設でできるスポーツをやってみたいと思いました。
□ パラリンピックを是非観たいと思います。（2020TOKYO）
□ これからも今回のような体験活動を、是非、継続的に行って下さい。
□ 体験してみたら楽しかったです。
□ ボッチャの体験をし、良かったです。
□ 近年は、スポーツニュース等で、障がい者スポーツをよく観ます。実際に使用している器具が体験でき楽しかったです。
□ テレビ等で、障がい者スポーツを知っていましたが、初めて体験させていただきました。ありがとうございました。
□ 大変参考になりました。
□ テレビで見て知ってはいましたが、体験してむずかしさが判りました。

□ 貴重な体験をありがとうございました。もっと広報があったら、多くの方に体験していただけると思います。
□ ボッチャ、奥深く楽しかったです。運動能力でなく戦略が重要にもなってくるところが面白かったです。
□ 会場の案内板がなく、わかりにくかった。
□ 息子が柔道を大学までしておりました。その時の大学にパラリンピックに出場した選手が練習に来ていたので、少し興味がありました。これからは少しずつですが興味を持ちたいと思います。
□ テニスをやりたい。 ボッチャおもしろかった。
□ ボッチャが、とてもおもしろかったです
□ 体験してみて楽しかったです。（ボッチャ）
□ いろいろ体験できて、とても楽しかったです。もっと、みんなに知らせますね。
□ ここに来てよかったです。とても、スタッフさんのせつめいがよくわかって、また、やってみたいです。学校でも、こんなことを授業でやりました。ボッチャを学校でやりましたが、ぜんぜんちがったです。
□ 障がいの無い人に比べて、とてもハンデがあるので大変だなーと感じました。

地域における障がい者スポーツの連携づくりに関するアンケート＜発送部数 1057/返信部数 179＞

【資格・職業】（179）

質問項目		回答数	%
資格	初級	130	73
	中級	34	19
	上級	14	8
	スポーツコーチ	2	1
その他の資格	スポーツ推進委員	23	13
	スポーツリーダー	8	4
	競技別指導員	29	16
職業	医療関係	23	13
	福祉関係	34	19
	教育関係	24	13
	スポーツ関係	9	5
	障害者スポーツ関係	12	7
	その他の職業	43	24
	学生	4	2
	その他	30	17

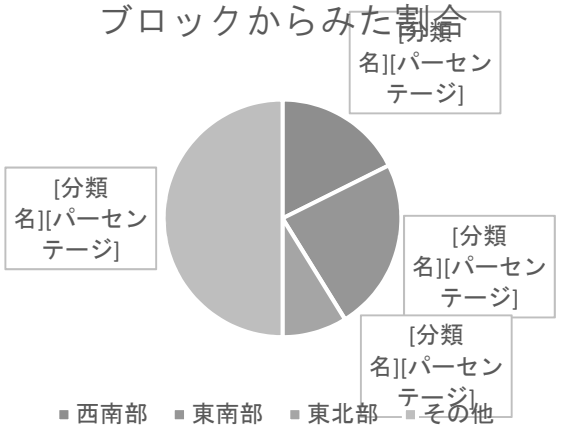
13　7

競技別指導員

水泳 7、カヌー 3、アーチェリー 2、エアロビクス 2、ボッチャ 2、卓球 2
卓球バレー 2、シンクロスクエアステップ、ティボール、テニス、陸上競技、
軟式野球、トランポリン、スキー、バレーボール、吹き矢、ボート、FD

１－１）地域で障がいのある人のスポーツに関する事業や取組み

地域の取組み状況	回答数	%
ある	93	57%
予定	9	
過去にあった	8	43%
ない	7	
わからない	61	



無回答…1

※過去、ない、わからないに回答した方

あった方が良いと思うか	回答数	%
強く思う	18	100%
できればやった方が良い	55	
思わない	0	

無回答…３

強く思うまたはできればやった方が良い　の理由

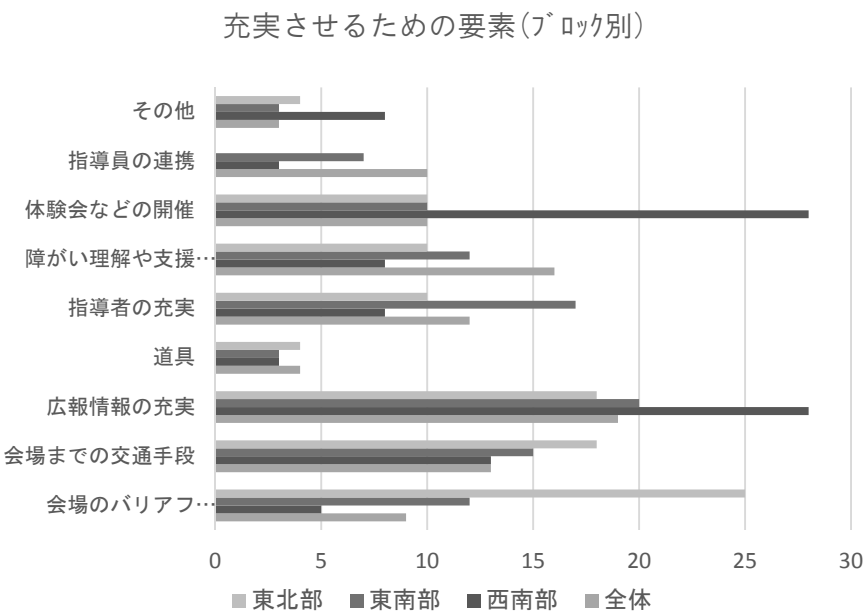
「高齢化社会が進むから」「地域のノーマライゼーションの普及」「障害の有無に関わらずスポーツを楽しみたい」
「外に出るチャンスを増やすために」「もっと知ってほしいから」「SO の団体と体験会を行う」

※コメントからとれる実施における課題点

「人数集めや周知が大変そう」（同 2 件）「障害のある方への理解、配慮、知識が乏しい」
「情報が少ない」（同 2 件）「行政主体で地域住民も巻き込みながら実施しなければ本当の取組にならない」
「減免がないため市内での活動には比較的多くの費用がかかる（実質できない）」

1－2)地域で充実するために必要だと思う項目

必要だと思う項目(2項目選択)	回答数	%
会場のバリアフリー化	34	9
会場までの交通手段	49	13
広報情報の充実	69	19
道具	13	4
指導者の充実	42	12
障がい理解や支援方法	57	16
体験会などの開催	35	10
指導員の連携	36	10
その他	11	3



<u>具体的なアイディアの一例</u>（一部抜粋）

交通手段「シャトルバスの運行」「交通はデイサービス等の業者へ」**広報**「学校、施設の広報の充実、web、ネット、SNS の活用」**道具**「市での予算化とともに用具づくりに取り組む」**指導者の充実**「スポ推進委員と協力」「指導者講習会を近隣地域で実施」「指導者確保のため単位制にして継続させる」**体験会開催**「小中学校での体験会」「市の教育委員会や関係団体が積極的に盛り上げてくれれば…」**指導員の連携**「エリアマネージャーを決め担当エリアの指導員の連携を促し、年数回のエリアミーティングで連携強化をはかる」「地区在住している指導員の名簿作成」**その他**「当事者の気持ち」「親や施設の理解と協力」「『障がいのある人のスポーツ』とくくらないで大会と併設して企画する」「指導員への謝礼や手当」など

1－3)地域で活用できる（できそうな）施設(171)

活用できる施設	回答数	%
知っている・使ったことがある	109	64
わからない	62	36

無回答…8

２活動状況について（複数回答）

活動状況　（複数回答）		回答数	%
協議会(139)	大会･イベント	75	54
	研修会	61	44
	その他	3	21
協議会以外(218)	教室	37	17
	大会イベント	52	24
	サークル	28	13
	競技団体	30	14
	個人	30	14
	特になし	24	11
	その他	17	8

※協議会依頼のものについては回答なしが 81

２－２）活動地域範囲(171)

		回答数	%
活動範囲	在住地域	88	51
	県内	55	32
	県内外問わず	28	17

無回答…８

３活動するポイント

		回答数	%
日程 (167)	平日	8	5
	土日祝日	103	62
	問わず	56	34
時間 (162)	午前	13	8
	午後	8	5
	問わず	141	87
その他	開催場所の距離	103	33
	交通手段	65	21
	事業内容	104	33
	対象者	26	8
	謝礼金等の有無	13	4
	その他	5	2

４今後の活動について

今後の活動（171）	回答数	%
積極的に活動したい	91	53
今までどおり	69	40
活動の希望はない	11	6

希望はないの理由「子育て・育児」「学業」「体調不良」など

無回答…8

4－1)協力可能な立場

可能な立場（128）	回答数	%
企画･運営から	23	18
当日のリーダー的な協力	8	6
当日の運営協力	94	73
その他	3	3

4－2)直接連絡しても良いか

直接連絡	回答数	%
可能	113	63

＜地域別＞連絡可能な方と可能な役割

地域	連絡可能	企画運営	当日ﾘｰﾀﾞｰ	当日運営	その他
さいたま市	15	2	1	10	
川口市	8	3	1	4	
越谷市	8	3		6	
所沢市	6	1		2	1
上尾市	5	2	1	5	
入間市	5	1	1	2	
戸田市	5			4	
深谷市	5	2		3	
春日部市	4			3	
熊谷市	4	1		2	
飯能市	4	1		2	
草加市	4	1		4	
伊奈町	3			1	3
川越市	3			2	
久喜市	3			3	
鴻巣市	3	2		3	
鶴ヶ島市	3			3	
桶川市	2	1		1	
北本市	2		1		1
坂戸市	2			1	
新座市	2	1	1	1	
ふじみ野市	2			1	
本庄市	2			2	
朝霞市	1				
加須市	1			1	
狭山市	1				
杉戸町	1			1	
秩父市	1			1	
羽生市	1				
東松山市	1			1	
日高市	1				
松伏町	1				
三郷市	1				
八潮市	1			1	
吉川市	1			1	

※その他

身体機能評価 2

長野県における障がい者のスポーツ活動環境強化支援事業

◆　障がい者スポーツ体験教室開催事業

◆　アスリートセミナー開催事業

公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会

長野県における障がい者のスポーツ活動環境強化支援事業の実績報告書

① はじめに

長野県スポーツ推進計画において、県民一人一人が、年齢や性別、障害の有無等を問わず、関心や適性等に応じて、日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画できる環境を整えていく必要があるとし、基本理念である、「スポーツが変える」～人・くらし・地域・未来～のための基本目標のひとつである「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」として、県民誰もが、年齢、体力、技術、適正、興味・目的に応じて安全にスポーツに親しむことのできる生涯スポーツ社会の実現に向けた取組を進めるとしている。

障がい者スポーツは、パラリンピックをはじめとする競技スポーツ分野が著しく向上してきたほか、障がいの重度化・重複化、高齢化など、障がいの種類、程度や年齢層の変化により、スポーツを行う目的も多様化してきた。

これまで本県は、1998 年の長野パラリンピック冬季世界大会や 2005 年のスペシャルオリンピックス冬季世界大会を開催した経験を有するが、スポーツに親しむ障がい者や国際舞台等で活躍するアスリートが減少傾向にあるほか、県民の障がい者スポーツへの参加、協力、支援の輪も広がっていない現状にある。

東京パラリンピックの開催を控え、障がい者スポーツが注目と関心を集めるこの機会に、県内で暮らす約 15 万人の障がい者の中の多くの方が、スポーツの価値や意義を享受するとともに、障がいの有無に関わらず、相互に人格と個性を尊重し合う共生社会の実現に寄与する体制づくりに取り組むことが求められている。

② 事業の目的・ねらい

前年度より継続して、本県の障がい者スポーツ振興の課題である「すそ野の拡大」「競技力の向上」「県民の理解と応援の輪の拡大」を推進するためには、一般スポーツ界との連携による地域の身近な場所でスポーツに参加できる環境づくりが不可欠であることから、スポーツに接する機会が少ない障がい者がスポーツの楽しさを体験し習慣化へつなぐ契機とするとともに、各地域で障がい者スポーツ指導員と一般スポーツ関係者との支援者ネットワークを構築し、地域における障がい者スポーツの普及振興と認知度の向上を図る体験教室開催と、障がい者スポーツ指導員研修会と合わせ障がい者スポーツの現状と課題、これからのあるべき姿を共に共有し、地域における障がい者スポーツの更なる普及振興を図るため障がい者スポーツセミナー開催を主体に、本事業を実施した。

③ 事業実施概要

（1）障がい者スポーツ体験教室開催事業

ア）スポーツ体験教室（県内５地区）

県内５地区の障がい者スポーツ指導員が中心となり、県レクリエーション協会等の一般スポーツ関係団体等と連携協力して、体験教室を開催した。

東信地区

事 業 名	2016 リオ・パラリンピック ボッチャメダリストが東御市にやって来る
日　　時	平成 29 年 7 月 1 日（土）　10:00～17:00
場　　所	東御市　東御中央公園第１体育館
参 加 者	167 人（障がい者、家族、介助者）
スタッフ	50 人（障がい者スポーツ指導員、スポーツ推進委員、ボッチャ協会、実行委員会）
補 助 員	―
協　　力	「みんなの健康×スポーツ」実行委員会、日本ボッチャ協会、長野県ボッチャ協会、障がい者スポーツ指導者東信地区協議会、身体教育医学研究所、パラリンピックサポートセンター、県障がい者福祉センター、スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ東信地区連絡協議会、東信レクリエーション協会、上田養護学校、小諸養護学校
連携組織	県、県教育委員会、県体育協会、東御市、信濃毎日新聞社
事業内容	・パラリンピック正式種目「ボッチャ」の体験とメダリストとの交流 ・選手、指導者を対象としたスキルアップのためのセミナー

事業の様子









東信地区

事 業 名	楽しもう！“みんなのスポーツ”体験会
日　　時	平成 29 年 11 月 5 日（日）　13:00～15:30
場　　所	佐久市　佐久市立泉小学校体育館
参 加 者	53 人（障がい者、家族、介助者）
スタッフ	44 人（障がい者スポーツ指導員、スポーツ推進委員、レクリエーション協会、ソーシャルイノベーショングループ、Ｄ－ＳＨｉＰＳ32、実行委員会）
補 助 員	5 人（長野大学）
協　　力	障がい者スポーツ指導者東信地区協議会、「みんなの健康×スポーツ」実行委員会、フライングディスク協会、ボッチャ協会、レクリエーション協会、スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ東信地区連絡協議会、上田養護学校、小諸養護学校
連携組織	佐久市、佐久市教育委員会、信濃毎日新聞社
事業内容	ボッチャ、フライングディスク、ダブルダッチ、ラダーゲッター

事業の様子









中信地区

事 業 名	中信地区障がい者スポーツ体験教室　～エンジョイ　スポーツ～
日　　時	平成 29 年 12 月 10 日（日）　9:00～11:30
場　　所	塩尻市　塩尻市立塩尻西小学校体育館
参 加 者	25 人（障がい者、家族、介助者）
スタッフ	15 人（障がい者スポーツ指導員、ＳＯ日本・長野コーチ、スポーツ吹矢協会公認指導員、手話通訳）
補 助 員	―
協　　力	障がい者スポーツ指導者中信地区協議会
連携組織	グレープファイターズしおじり、スポーツ吹矢協会
事業内容	フロアホッケー、スポーツ吹矢、新聞紙活用トレーニング

事業の様子








北信地区５

事 業 名	北信地区障がい者スポーツ体験教室（中野市）　楽しくスポーツ体験
日　　時	平成 29 年 11 月 25 日（土）　13:30～16:30
場　　所	中野市一本木　中野市市民体育館
参 加 者	51 人（障がい者、家族、介助者）
スタッフ	16 人（障がい者スポーツ指導員、看護師、日本フロアホッケー連盟、レクリエーション協会、社会福祉協議会）
補 助 員	―
協　　力	県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会
連携組織	北信レクリエーション協会、ブラインドサッカー協会
内　　容	ティーボール、ユニカール、ボッチャ、フライングディスク、フロアホッケー

事業の様子













北信地区

事 業 名	北信地区障がい者スポーツ体験教室（長野）　クリスマススポーツ体験
日　　時	平成 29 年 12 月 24 日（日）　14:00～16:15
場　　所	長野市　長野県障がい者福祉センター体育館及び卓球室
参 加 者	52 人（障がい者、家族、介助者）
スタッフ	19 人（障がい者スポーツ指導員、手話通訳）
補 助 員	―
協　　力	県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会
連携組織	北信レクリエーション協会
事業内容	ボッチャ、ＳＴＴ、卓球バレー、レクリエーション競技

事業の様子













イ）スポーツ喚起用ポスター等の制作

障がい児者に向けたスポーツ喚起用のポスター及びチラシを制作し、県内の障がい者スポーツ競技団体や特別支援学校等に広く配布した。

数　　量	ポスター　　400 枚（B2 版） チラシ　12,000 枚（A4 版）
配　布　先	障がい者スポーツ競技団体 特別支援学校 市町村 福祉関係団体　　等



ウ）スポーツ用具の購入

障がい者スポーツの利用体験用として、次のスポーツ用具を購入した。

・ボッチャボール　　１組
・ボッチャ用ランプス　　１台
・卓球バレー用具セット　　５組
・ブラインドサッカーボール　　１０個

（2）アスリートセミナー開催事業

障がい者スポーツの支援・指導に携わる人、これから携わろうと思う人を対象に、本県の障がい者スポーツの現状と課題、これからの姿を共に共有し、地域における障がい者スポーツの更なる普及振興を図るため障がい者スポーツ指導員研修会とセミナーを合同で開催した。

事　業　名	長野県障がい者スポーツセミナー及び障がい者スポーツ指導員研修会
日　　時	平成 29 年 12 月 17 日（日）　13:00～16:30
場　　所	松本市　松本大学講義室
参　加　者	65 人（障がい者スポーツ指導員、選手、コーチ、教員、県、市町村）
ス タ ッ フ	16 人（講師、障がい者スポーツ指導員、スポーツ吹矢協会、手話通訳）
補　助　員	―
協　　力	障がい者スポーツ指導者協議会、障がい者スポーツ指導者中信地区協議会、長野県
連 携 組 織	日本スポーツ吹矢協会信州ききょう支部、松本大学
事 業 内 容	講演会：「障がい者スポーツとこれからの長野県」 分科会①：「思いを語ろう　スポーツ座談会」 分科会②：「体験しよう　スポーツ吹矢」 分科会③：「実技で学ぶ　ケガをしない運動指導」

事業の様子



講　演　会



分科会①



分科会②



分科会③

④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

本事業は、長野県障がい者スポーツ指導者協議会との連携により、体験教室、セミナーの企画・実施をした。本県おける障がい者スポーツ振興の課題として、障がい者スポーツ指導員資格取得後に各地区で実際に指導を行う指導員が固定化されており、障がい者スポーツ指導員の積極的な参加を呼び掛けた。本事業の実施により、各地区の障がい者スポーツ指導員に対する指導の知識習得とスキルアップに繋げることができたが、諸事情により体験教室が実施できない地区があり、事業を実施する際には障がい者スポーツ指導者と障がい者スポーツ協会との継続した連携の大切さを改めて感じた。

⑤ 連携について

（1）事業前の関係性

体験教室、セミナーでは障がい者スポーツ指導者地区協議会が中心となり、総合型地域スポーツクラブ、レクリエーション協会等一般スポーツ関係団体に周知活動など事業協力をお願いした。前年度から協力いただいている、「みんなの健康×スポーツ」実行委員会ではリオ・パラリンピックボッチャメダリストによるボッチャ体験会、セミナーを開催することとなった。

（2）実際の事業での役割分担

体験教室では各団体が、事前準備会への参加、用具の手配、スタッフ募集、当日のスポーツ指導・準備体操・受付等を担当したほか、参加者と一緒に障がい者スポーツ種目を体験していただいた。

（3）事業後の関係性の変化

体験教室開催後に総合型地域スポーツクラブや特別支援学校のほか、地区の運動会などで障がい者スポーツ種目（ボッチャ・フライングデスク・シッティングバレー）の開催や、団体が主催するイベントに初めて障がい者スポーツ指導員が参加要請されるなど連携が高まった。

また、セミナーで講師を務めていただいた団体(スポーツ吹矢協会)についても、今回のセミナーを契機に、今後、障がい者を対象とした体験会等に協力支援いただける関係が構築できた。

⑥ スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

今回のスポーツ用具購入（ボッチャボール・ランプス、卓球バレー用具、ブラインドサッカーボール）により、より競技に近い形で体験教室を実施することができ、参加者に対して競技の特性を正しく理解してもらえた。また、指導現場における対象者に応じた指導知識を習得してもらうことができた。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

当協会にて備品を管理・保管し、ホームページで用具貸出要領を示し申請があれば貸し出しを行い、障がい者スポーツの普及振興に役立てていく。また、今後も用具の貸し出しについて各種会議や機関誌、ホームページ等により広報し、活用していきたい。

⑦ 事業の成果および評価（達成度）

継続実施と積極的な広報の効果で、当協会の事業についての周知が広がり、体験教室やセミナーへの参加者が増えた。

「障がい者スポーツ体験教室」事業では、継続開催を望む声が多くあり、地域の身近な場所でスポーツに参加できる環境づくりのため４地区から 10 地区を目標としたが、実施できない地区もあり最終的に５地区での実施となった。指導員を中心に運営し、参加者の障がいの状況やニーズに合わせた障がい者スポーツを行うことで、参加しやすい教室を開催できた。

また、活動を通じ、障がい者スポーツ指導員と一般スポーツ関係団体との連携や保護者同士の交流を図ることができた。

「アスリートセミナー」事業では、今回障がい者アスリートやその家族、指導者等を対象に専門的知識習得のセミナーを開催予定だったが、県内の障がい者スポーツのすそ野及び応援の輪の拡大を図るため、障がい者スポーツの支援・指導に携わる指導員等を対象に、「長野県障がい者スポーツセミナー及び障がい者スポーツ指導員研修会」として実施した。本年度より活動をしている障がい者スポーツ地域コーディネーターの講演会のほか、運動指導、スポーツ体験(スポーツ吹矢)等の分科会を開催し、参加者の資質向上に役立った。

⑧ 事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

オリパラの影響を受けて、障がい者スポーツも競技思考で捉えている部分も多いが、地区での体験教室開催や、研修会・講習会等を続けて、地域の身近な場所でスポーツに参加できる環境づくりが不可欠であり、それと合わせて地域格差を減らしていきたい。

また、本事業の実施にあたりご協力いただいた、長野県障がい者スポーツ指導者協議会を始め、総合型地域スポーツクラブ、レクリエーション協会等関係機関との連携を図りながら、本年度より設置した、障がい者スポーツ地域コーディネーターを活用して、引き続き、県内全域で障がい者スポーツの普及振興に取り組んでいきたい。

⑨ おわりに

（1）所感

地域の身近な場所でスポーツに親しめる環境を強力に推進していく必要があるが、掛け声だけでは進まない実態もある。こうした中、前年度に引き続き本事業により、障がい者スポーツ関係者と一般スポーツ関係者が共通目標をもって一緒に実践する場ができたことで、地域の支援者相互に顔の見える関係が築け、今後のネットワークづくりに踏み出すことができた。

また、本事業は、障がい者スポーツ指導員の存在や役割について、広く理解される契機ともなった。

引き続き、当協会としても様々な事業を企画し実施することで活動を知っていただく必要があるため、継続して事業を行いたい。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

・各地区の障がい者スポーツ指導員が企画・運営、関係団体との連携、参加者の募集等で主体的に活動した。
・居住地域での障がい者スポーツ普及振興を目指し、可能な限り実施会場を分けた。
・可能な範囲で地区ごとに一般スポーツ関係者を含めた準備会や反省会を開催した。
・地区のスポーツ体験教室への参加者が増え、障がい者スポーツへの理解が深まった。
・参加者の障がい状況に合わせて実施スポーツを工夫し、常に笑顔で対応した。
・ポスター、チラシ配布では、当協会加盟競技団体や特別支援学校を主体に行い、障がい者へのスポーツ喚起を行う機運を図った。
・将来的に指導者等の身近な相談相手となっていただけるよう、セミナーの講師は県内の専門家にお願いした。
・体験教室やセミナー参加者の意見を集約・検証をして次回に繋げる。

（3）事業を継続実施した成果・変化（前年度の課題に対し、どんな意識で取組み、工夫したか）

・今回の事業は普段、スポーツに接する機会がないもしくは少ない方々への参加をしてもらうこ

とを意識し、その結果障がい者スポーツへの関心をもってもらうことが少なからずもできた。
・体験教室の回数を重ねることで、一般スポーツ関係団体との繋がりが深まり、協力体制が確立できてきたが、実施できない地区もありその差が表れた。
・このような事業を継続し、地域でスポーツを行う障がいのある人に様々な場を提供することで、障がいのある人の健康・福祉の増進が図られていくものと考える。

⑩ 資料

開催要項、チラシ、参加申込書、新聞記事





『パラリンピアン交流イベント』開催要項

1. 目的
地域の方々が障がい児者への理解を深めるとともに、当事者やその家族が運動・スポーツを実施することに対してより積極的になり、障がいがある人もない人も一緒に、誰もが身近で運動・スポーツに親しめる環境を地域につくることを目的とする。
また、パラリンピック正式種目「ボッチャ」を競技スポーツとして目指している選手の技術向上及び指導者の指導力向上を目的に実施するものとする。

2. 主催　『みんなの健康×スポーツ』イベント実行委員会(東御市)
【実行委員会構成団体】
東御市身体障害者福祉協会　東御市手をつなぐ育成会　語だまりの会　ひかそくらぶ　はニベの会
東御市　東御市スポーツ推進委員会　NPO 法人東御市体育協会　長野県ボッチャ協会
社会福祉法人みすき福祉会　社会福祉法人東御市社会福祉協議会　社会福祉法人ちいさき園福祉会
公益財団法人身体教育医学研究所

3. 共催　日本ボッチャ協会 長野県ボッチャ協会 長野県障がい者スポーツ指導者協議会東信地区協議会

4. 主管　公益財団法人身体教育医学研究所

5. 協賛　公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会

6. 後援　長野県　長野県教育委員会　公益財団法人長野県体育協会
東御市　東御市教育委員会　NPO 法人東御市体育協会　信濃毎日新聞社

7. 協力(予定)　日本財団パラリンピックサポートセンター　長野県障がい者福祉センター
佐久スポーツ推進委員協議会 上小スポーツ推進委員協議会
長野県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会東信地区
上田養護学校　小諸養護学校　東信レクリエーション協会
とうみユニバーサルスポーツクラブ　東信ジャーナル社　FM とうみ

8. 日　時　平成 29 年 7 月 1 日(土)　10:00〜17:00

9. 場　所　東御中央公園　第 1 体育館（〒389-0502 長野県東御市鞍掛１７７−２）

10. 講　師　2016 リオデジャネイロパラリンピック　ボッチャ銀メダリスト
選手 杉村　英孝 氏　　廣瀬　隆喜 氏
ヘッドコーチ 村上 光輝 氏　アシスタント 新井 大基 氏　トレーナー 前野　香苗 氏

11. 対　象：以下のとおり

12. 参加費：無料

13. 周知方法：マスコミ（信毎、FM とうみ）、広報誌、チラシ配布

14. 内容及びタイムスケジュール

時　間		内　容	備考
【第１部】「楽しもう！みんなのスポーツ体験会」 〜メダリストとパラリンピック競技「ボッチャ」を体感しよう〜 対象：一般地域住民			
9：30	30	開場・受付	
10：00	15	開会・歓迎のことば 講師紹介	
10：15	105	①コーチによるボッチャの説明 ②メダリストによるボッチャのデモンストレーション ③ボッチャ体験タイム	ボッチャコート 10 面設置可
12：00	−	写真撮影・閉会	
＜ 昼食 ・ 休憩 ＞			
【第２部】 ボッチャセミナーin 東御 対象：主にボッチャの選手、指導者、その他ボッチャの指導・支援に興味のある方			
13：00	30	開場・受付	
13：30	15	開会・講師紹介	
13：45	195	①メダリスト及びコーチによる参加者へのコーチング ②メダリスト公開練習	
17：00	−	閉会	

15. 申込・問い合わせ先：
次の①〜④の情報を電話、下記まで FAX・郵送・E-mail で 6 月 28 日(水)までに、申込んでいただく。
なお、上田・小諸養護学校の児童・生徒については学校を通じて、事務局へ申し込んでいただく。
①名前・年齢　②電話番号　③住所　④障がいの有無　⑤次のいずれかを選択⇒ A 体験会　B セミナー　C 観戦
(公財)身体教育医学研究所　担当：岡田佳度　〒389-0402 東御市布下 6-1
tel/fax :0268-61-6148　E-mail:wakuwaku @pedam.org

16. その他　平成 29 年度日本障がい者スポーツ協会地域における障害者スポーツの振興事業及び
長野県信州チャレンジスポーツ DAY 2017 地域イベント開催支援事業の同時開催

中信地区障がい者スポーツ体験教室
～エンジョイ　スポーツ！～

参加者募集

日　時　平成29年12月10日（日）
9時00分から11時30分まで（受付開始8時30分）

場　所　塩尻市立塩尻西小学校　体育館
（塩尻市大門5番町4－55）

対象者
・中信地区に居住する身体・知的・精神に障がいのある方
・中信地区に居住し特別支援学校等に在籍する児童生徒
・障がい者のスポーツ活動を支える方（家族、教員、施設職員等）

内　容　お楽しみスポーツ（ミニホッケー・スポーツ吹矢など）の体験
フロアホッケーも体験できます。

※参加される方は、運動のできる服装、体育館シューズ、手袋、汗拭きタオル、飲み物を各自持参してください。
※1時間での参加も可能です。

主　催　長野県障がい者スポーツ指導者中信地区協議会
共　催　グレープファイターズしおじり、一般財団法人長野県障がい者スポーツ協会

※お申込みは、下記申込先まで郵送、Mail にて申込書を提出いただくか、電話にてご連絡ください。
（締め切り：平成29年12月4日）

【申込先】
長野県障がい者スポーツ指導者中信地区協議会　事務局　堀内雅文
〒399-7104　安曇野市明科七貴7342
電話　090-7518-6459　0263-62-3690
Mail　mos.horiuchi@city.azumino.nagano.jp



ひりのりゅ

中信地区障がい者スポーツ体験教室参加申込書

平成29年　月　日

		年齢	性別	障がいの有無
ふりがな 氏　名		歳	男・女	有（　　） 無
住　所	〒	電話 FAX		

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等本教室運営に必要と認められる目的以外には利用しません。

家族や支援者の方で参加を希望される方は下記にご記入ください。（保険加入のため）

保護者 支援者	ふりがな 氏　名		住所		性別	男・女	年齢	歳

北信地区障がい者スポーツ体験教室（中野市）

楽しくスポーツを体験しませんか

日　時　平成２９年１１月２５日（土）
１３時半～１６時半（受付開始　１３時）

場　所　中野市市民体育館（中野市一本木５９０－１）

対象者
・北信地区（長野市、須坂市、中野市、飯山市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、信濃町、飯綱町、小川村及び栄村）に居住する身体、知的及び精神に障がいのある方
・障がいのある方のスポーツ活動を支える方（家族、教員、施設職員等）

内　容　ティーボール　ユニカール　ボッチャ　フライングディスク
フロアーホッケー

※　参加される方は、運動のできる服装・体育館シューズ・飲み物を各自持参してください。

主　催　長野県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会

共　催　長野県北信地区レクリエーション協会
一般財団法人長野県障がい者スポーツ協会

申込書はＦＡＸまたは郵送、電子メールにて、下記申込先まで、お申込みください。（締切　平成２９年１１月１８日）
電話連絡も可能です。*当日参加も可能です。*
〒３８０－０８０３　長野市三輪９－２－１８　北村方
長野県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会事務局　北村　孝子
ＴＥＬ　０９０－３２１３－４２６４　０２６－２４１－７２７８
ＦＡＸ　０２６－２４１－７２７８　電子メール　hokushin@hotmail.co.jp

ひりのりゅ

北信地区障がい者スポーツ体験教室参加申込書（中野市）

平成２９年　月　日申込		年　齢	性　別	障がいの有無
ふりがな 氏　名		歳	男・女	有 （　　） 無
住　所	〒	電話 ＦＡＸ 電子メール		

家族や支援者の方で参加を希望される方は、保険加入のため下記にご記入ください。

保護者・支援者 ふりがな 氏　名	住　所	性別	年齢
		男・女	歳

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等本教室運営に必要と認められる目的以外には利用しません。
□特に配慮してほしい事項があればご記入ください。（手話通訳の手配など）

北信地区障がい者スポーツ体験教室（長野市）

クリスマスにスポーツ体験しよう！申し込み先着２０名（障がいのある方）には
クリスマスプレゼントがあります！！



日　時　平成２９年１２月２４日（日）
１４時～１６時１５分（受付開始　１３時４０分）

場　所　長野県障がい者福祉センター（SUN APPLE）体育館及び卓球室
（長野市下駒沢５８６）

対象者
・北信地区（長野市、須坂市、中野市、飯山市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、信濃町、飯綱町、小川村及び栄村）に居住する身体、知的及び精神に障がいのある方
・障がいのある方のスポーツ活動を支える方（家族、教員、施設職員等）

内　容　ボッチャ　サウンドテーブルテニス　レクリエーション競技

※　参加される方は、運動のできる服装・体育館シューズ・飲み物を各自持参してください。

主　催　長野県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会

共　催　長野県北信地区レクリエーション協会　一般財団法人長野県障がい者スポーツ協会

申込書はＦＡＸまたは郵送、電子メールにて、下記申込先まで、お申込みください。（締切　平成２９年１１月１６日）
電話連絡も可能です。*当日参加も可能です。*
〒３８０－０８０３　長野市三輪９－２－１８　北村方
長野県障がい者スポーツ指導者北信地区協議会事務局　北村　孝子
ＴＥＬ　０９０－３２１３－４２６４　０２６－２４１－７２７８
ＦＡＸ　０２６－２４１－７２７８　電子メール　hokushin@hotmail.co.jp

ひりのりゅ

北信地区障がい者スポーツ体験教室参加申込書（長野市）

平成２９年　月　日申込		年　齢	性　別	障がいの有無
ふりがな 氏　名		歳	男・女	有 （　　） 無
住　所	〒	電話 ＦＡＸ 電子メール		

家族や支援者の方で参加を希望される方は、保険加入のため下記にご記入ください。

保護者・支援者 ふりがな 氏　名	住　所	性別	年齢
		男・女	歳

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等本教室運営に必要と認められる目的以外には利用しません。
□特に配慮してほしい事項があればご記入ください。（手話通訳の手配など）

平成29年度長野県障がい者スポーツセミナー
及び長野県障がい者スポーツ指導員研修会

目　的　　障がい者スポーツの支援・指導に携わる人、また、これから携わろうと思う人が一同に会し、長野県障がい者スポーツの現状と課題、これからのあるべき姿を共に共有し、地域における障がい者スポーツの更なる普及振興を図る。

日　時　　平成29年12月17日（日）
13時から16時30分まで（受付開始12時）



場　所　　松本大学講義室（松本市新村２０９５－１）

対象者　　・障がい者スポーツ指導者協議会会員
・障がい者スポーツの支援・指導に携わる方
・障がい者スポーツの普及振興に関心のある方　等

内　容　　講演会「障がい者スポーツとこれからの長野県」
講　師：全日本シッティングバレーボール強化指定選手
加藤　正氏（障がい者スポーツ地域コーディネーター）



分科会①「思いを語ろう　スポーツ座談会」
講　師：長野県障がい者スポーツ協会　加藤　正地域コーディネーター

分科会②「体験しよう　スポーツ吹矢」
講　師：日本スポーツ吹矢協会信州ききょう支部　角田　みやこ支部長ほか

分科会③「実技で学ぶ　ケガをしない運動指導」
講　師：ヒューマン クオーレ　田上　仁中級障がい者スポーツ指導員

主　催　公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会、長野県障がい者スポーツ指導者協議会
共　催　長野県障がい者スポーツ指導者中信地区協議会
後　援　長野県
協　力　一般社団法人日本スポーツ吹矢協会信州ききょう支部、松本大学



公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会
長野県障がい者スポーツ指導者協議会
事務局　半田直道・宮入和博
〒381-0008　長野市大字下駒沢５８６
ＴＥＬ　026-295-3661　　ＦＡＸ　026-295-3662
E-mail　info@nsad.or.jp　・　shido@nsad.or.jp

信濃毎日新聞　東北信
2017年（平成29年）7月2日　日曜日　地域　30

みんなでボッチャ「楽しい！」



広瀬選手（左）と一緒にボッチャを楽しむ子どもたち

地域交流へ東御でイベント　パラリンピックメダリストも参加

東御市身体障害者福祉協会などでつくる「みんなの健康スポーツ実行委員会」は1日、パラリンピックの正式種目「ボッチャ」を通じた交流イベントを市内の体育館で開いた。2008年リオデジャネイロパラリンピックのボッチャのチーム（脳性まひ）で銅メダルを獲得した杉村英孝選手（35）＝静岡県＝と広瀬順子選手（32）＝千葉県＝が参加、市内外から集まった約200人と競技を楽しんだ。

広瀬選手らによるボッチャセミナーがあった。本格的に競技に取り組む選手や指導者ら約30人が参加した。

東信ジャーナル
2017年（平成29年）7月5日（水曜日）

東御市を「ボッチャ」のまちに

メダリスト招き体験会

パラリンピック正式種目



メダリストを中心にした競技で、ルールや技の説明

パラリンピック正式種目「ボッチャ」の体験会と指導者向けセミナーが1日、メダリストの初参加で東御市の東御市立滋野第一体育館で開かれ、体験会だけでも約200人が参加した。主催は東御市身体障害者福祉協会や身体教育医学研究所、東御市身体障害者福祉協会など。

ボッチャは、コート内の白色のボールや赤、青6球ずつを投げ入れ、ジャックボールにいかに近づけるかを競う競技。車いすやや身体の動作ができなくても参加できる。

東御市では、平成25年に新しいスポーツを体験するイベントでボッチャを行い、パラリンピアンが訪れ、ともにスポーツクラブ「ボッチャクラブ」でボッチャのサークルができて10人ほどが参加し、市内でボッチャが普及してきている。

この日は、2016年リオで団体戦メダルを獲得した杉村英孝選手と広瀬順子選手、2012年ロンドン大会銅メダリストの藤井友里子選手（車いすバスケットボール）が参加。

藤井選手は「ボッチャは、ランプを使用した選手と一緒に体験した選手が同じ土俵で競えるのが魅力。地域のつながりをつくるスポーツにもなる。競技を広く普及には競技を支援する人の養成も必要」と話していた。

身体教育医学研究所の事務局、岡田佳奈さんは「初心者や関がいのある人もすぐにできるため、地域のつながりをつくるスポーツにもなる。競技を広く普及には競技を支援する人の養成も必要」と話していた。

北部版

障害者スポーツ体験

サンアップル　支援者ら交えて



サウンドテーブルテニスを楽しむ参加者

静岡県障がい者スポーツ地域連携普及振興事業

◆ファーストチャレンジスポーツ指導者派遣事業

◆スポーツ体験フォーラム開催（兼組織連携推進強化）事業

公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会

静岡県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

スポーツ環境の特色

「静岡県スポーツ推進計画」において、スポーツは、人格の形成、体力の向上、健康長寿の礎であるとともに、地域の活性化など、明るく豊かで活力に満ちた社会を形成する上で欠かすことのできないものであり、生涯にわたってスポーツに親しむことができる地域社会をつくることは大きな意義を有するとし、基本理念である「『ふじのくに』生涯スポーツ社会の実現」のための基本目標のひとつである「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」として、県民誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも安全にスポーツに親しむことができる環境の整備を目指し、障がいのある人とない人が共にスポーツができる機会の提供や、障がい者スポーツ指導者の養成と育成に努めるとしている。

実情と課題

障がいのある方の重度化・高齢化を踏まえ、スポーツやレクリエーション（人との交流）をしたくても、受入可能な場所が無い、場所はあるが遠くて（ひとりで）行くことが出来ない等の現状を改善するため、県内各地域の公認指導者と地域との連携により、障がい者スポーツの普及が進んでいない地域を重点的にスポーツのできる環境を整えること。

②事業の目的・ねらい

継続実施の効果で、各市町福祉担当課・生涯スポーツ担当課・理学療法士・スポーツ推進委員ほかとの連携は確実に進んでいるが、活動できる公認指導者の掘り起こしにつながっていないため、地域に根付かせることが出来ていない。教室を小さい地域で各所多数開催する際に、その地域のスポーツ推進委員等と協働することで、まずは障がい者がスポーツしたいときに受け入れることのできる環境を指導経験の中から構築していきたい。さらに、各市町の福祉担当課、生涯スポーツ担当課、体育協会や特別支援学校・学級などが主体となり障がい者スポーツ教室を開催できるような働きかけや指導を実施し、指導員を派遣しながら地域に根付かせていきたい。

地域に根付かせることを最優先目標とし、人の集まる場所での体験会等を開催することで障がい者スポーツの普及啓発を図りながら、各地域の実情を把握し、その状況にあったスポーツ環境や協力体制で、生涯スポーツとして継続発展させていきたい。

③事業実施概要

（1） ファーストチャレンジスポーツ指導者派遣事業

6月～1月　計51回

各市町障害者福祉担当課、生涯スポーツ担当課、県内特別支援学校、特別支援学級のある小中学校、障害者各団体、支援団体との連携を図り、障がい者スポーツ環境の少ない地区を中心に、県内各所へチラシを配布しスポーツ指導希望先を募集。教室開催会場、参加者の障がいの状況や日常のスポーツ活動状況を電話にて相談し、派遣指導員を決定。派遣指導員はプログラムを作成し、指導員同士で事前に打ち合わせ。教室開催終了後、指導員は報告書を提出。アンケートを実施。

開催				内容	参加人数						
回数	開催日	開催会場	市町		指導員	身体	知的	精神	職員	その他	合計
1	6/2	地域活動支援センターは一とぱる	静岡市	ボッチャ、フライングディスク	4			120	35		159
2	6/6	浜松市立可美中学校	浜松市	フライングディスク、ボッチャ	1		17		4		22
3	6/7	くぬぎの里	富士市	フロートR、ボッチャ、ボウリング	4	50	2		10		66
4	6/9	（福）たちばな会 たちばな授産所	浜松市	フライングディスク、ボッチャ	2	5	43		12		62
5	6/10	磐田市役所子育て支援課 発達支援	磐田市	風船バレー、フライングディスク、ボッチャ	2		20		10		32
6	6/12	（福）天竜厚生会 浜名	浜松市	ボッチャ	1	4			6		11
7	6/14	藤枝市立高洲小学校	藤枝市	バルバレー、フライングディスク、ボッチャ	2		13		5		20
8	6/15	静岡市立南中学校	静岡市	フライングディスク	2		7		1		10
9	6/16	ラポール・ファーム	静岡市	順送球、フライングディスク、バルバレー	3		20		6		29
10	6/17	（福）富岳会 富岳の郷	御殿場市	フライングディスク	1		8		5		14
11	6/23	NPO法人かがやき	静岡市	バスケット、フライングディスク、ボッチャ	2	3	35		16		56
12	6/30	藤枝すみれ会 北部すみれの家	藤枝市	風船バレー、フライングディスク、ボウリング	2		24		6		32
13	7/1	子ども発達センター たっく	浜松市	フライングディスク、ボウリング	1		15		4	7	27
14	7/1	ワークスとおがさ	沼津市	フライングディスク、ボッチャ	2	15	5		5		27
15	7/12	（株）アミ・ス　オーブ	静岡市	風船バレー、ボッチャ	2		19		6		27
16	7/13	（福）天竜厚生会 浜北学苑	浜松市	ボッチャ	2	15			4		21
17	7/18	（福）天竜厚生会　赤石寮	浜松市	フライングディスク	2		20		8		30
18	7/20	静岡市立美和中学校	静岡市	フライングディスク	1		7		2		10
19	7/21	（特非）笑美会	富士市	フライングディスク、ボッチャ	2	1	17		8		28
20	7/30	伊東の丘いずみ	伊東市	フライングディスク、ボッチャなど	2	17			3		22
21	8/2	なぎさホーム	静岡市	フロートR、ボッチャ	2	23			11		36
22	8/4	（福）天竜厚生会 アクシア藤枝	藤枝市	フライングディスク	1		8		3		12
23	8/5	静岡県立浜松特別支援学校	浜松市	フライングディスク、ボウリング	2		50		2	8	62
24	8/8	放課後支援事業所　あげは	静岡市	エアボール、フライングディスク、ボッチャ	2		26		12		40
25	8/9	おれんじ柳町	島田市	フライングディスク、ボッチャ	2		11		5		18
26	8/11	（特非）パシフィック・ドルフィン	焼津市	フライングディスク、ボッチャ、ペタボード	2	10	12		3		27
27	8/14	（福）天竜厚生会 厚生寮	浜松市	ボッチャ	1	3			6		10
28	8/19	ワークセンターコスモス	島田市	バルバレー、フライングディスク、ボッチャ	2	1	12		4		19
29	9/16	ニット工房ライク	静岡市	バルバレー、ボッチャ	2		9		2	3	16
30	9/21	（福）天竜厚生会 美浜	浜松市	フライングディスク	1		8		4		13
31	10/6	浜松市立可美小学校	浜松市	フライングディスク、ボッチャ	1		11		3		15
32	10/7	プラサーザ大泉	沼津市	ボッチャ、バルバレー	2	5	5		7		19
33	10/13	心身障がい者施設　ともの家	静岡市	フロートR、ボッチャ、ボウリング	1	5	6		5		17
34	10/14	（特非）すだち	浜松市	フライングディスク、バルーン、ボッチャ	1	1	5	5	3		15
35	10/16	静岡市立西豊田小学校	静岡市	フライングディスク	2		13	18	5		38
36	10/19	作業所せきれい	浜松市	フライングディスク、ボッチャ	1		6	6	3		16
37	10/24	磐田市立磐田西小学校	磐田市	フライングディスク、ボッチャ	2		38	20	12		72
38	11/6	御殿場市社会福祉協議会	御殿場市	ボッチャ、フロートR、ボウリング	2	7			7		16
39	11/9	テラス・あとりえ	静岡市	フライングディスク、ボウリング、ボッチャ	2		14		3		19
40	11/10	ワークセンターやまばと	牧之原市	フロートR、フライングディスク、ボッチャ	2	2	16		4		24
41	11/15	ひびきワーク	静岡市	ボッチャ	2	12	7		10		31
42	11/21	（福）天竜厚生会 赤松寮	浜松市	フライングディスク	1	8	5		3	10	27
43	11/22	つくしホーム	牧之原市	フライングディスク、ボッチャ	2	16			10		28
44	11/24	富士市立田子浦中学校	富士市	フライングディスク、ティーボール	1		4		1		6
45	12/6	静岡県立静岡北特別支援学校南の丘分校	静岡市	フライングディスク、ボッチャ	1		15		3		19
46	1/11	静岡市立観山中学校	静岡市	フライングディスク、ボッチャ	1		2		1		4
47	1/17	ガゼルの森	藤枝市	ボッチャ	2		20		10	30	62
48	1/19	富士市立吉原小学校	富士市	フライングディスク	2		15	7	6		30
49	1/20	聖隷子ども発達支援事業所かるみあ豊田	磐田市	バルーン、フライングディスク、ボッチャ	2		9		3	9	23
50	1/25	（福）天竜厚生会 あかいし学園	浜松市	フライングディスク	1		9		4		14
51	1/27	（福）青い鳥 日本平学園	静岡市	ボッチャ、ペタボード	2		27		4		33
計					90	203	635	176	315	67	1,486





















（２） スポーツ体験フォーラム開催（兼組織連携推進強化）事業

① ブラインドサッカー教室と障がい者スポーツ推進フォーラム

日　　時	平成 29 年 6 月 18 日（日）10：00～15：00
場　　所	静岡県総合社会福祉会館 6 階体育館・5 階音楽室（静岡市葵区）
参 加 者	計 34 名
連携組織	（一社）静岡県サッカー協会・（特非）静岡ＦＩＤサッカー協会・（特非）日本ブラインドサッカー協会・静岡県障害者政策課・（公社）静岡県視覚障害者協会・静岡県特別支援学校体育連盟他
事業内容	日本代表選手講演・ブラインドサッカー実技指導・体験







② パラマウントチャレンジカヌーin 静岡

日　　時	平成 29 年 6 月 25 日（日）10：00～15：00
場　　所	掛川市Ｂ＆Ｇ海洋センター（掛川市）
参 加 者	計 19 名
連携組織	（一社）日本障害者カヌー協会・静岡県障害者政策課・静岡パラカヌー実行委員会・(公社）静岡県理学療法士会・Ｂ＆Ｇ財団他
事業内容	パラカヌー体験・デモンストレーション







③ ＢＯＣＣＩＡキャラバン 2017in 静岡

日　　時	平成 29 年 8 月 10 日（木）13：00～13：50　14：10～15：00 平成 29 年 8 月 11 日（金）13：30～14：20　14：40～15：30
場　　所	清水ナショナルトレーニングセンター体育館（静岡市清水区） 静岡市南部体育館（静岡市駿河区）
参 加 者	計 70 名
連携組織	（一社）日本ボッチャ協会・静岡県ボッチャ協会・静岡県障害者政策課・静岡市スポーツ交流課・静岡市障害者福祉課・静岡県特別支援学校体育連盟他
事業内容	日本代表選手ボッチャ実技指導・体験・公開練習







④ 体育フェスタ超ドＳＰＯ【パラスポーツ体験ブース】

日　　時	平成 29 年 10 月 14 日（土）10：00～15：00 平成 29 年 10 月 15 日（日）10：00～15：00
場　　所	ツインメッセ静岡・南館（静岡市駿河区）
参 加 者	計 500 名　（イベント全体 13,429 名）
連携組織	静岡新聞社・静岡放送・静岡県・静岡県教育委員会・静岡県体育協会・静岡県レクリエーション協会・静岡市・静岡市教育委員会他
事業内容	14 日　日本代表選手によるパラ陸上体験・講演 15 日　日本代表選手によるウイルチェアーラグビー体験・講演













⑤ 第 5 回ふじさんっこ応援フェスタ【障害者スポーツ体験ブース】

日　　時	平成 29 年 11 月 10 日（金）10：00～16：00
場　　所	プラザヴェルデ（沼津市）
参 加 者	計 500 名　（イベント全体 13,000 名）
連携組織	静岡県子ども未来課・障害者政策課・東部 17 市町他
事業内容	障害者スポーツ紹介・ボッチャ体験







⑥ パラサイクリング体験・運動能力測定 in ジャパンパラサイクリングカップ

日　　時	平成 29 年 11 月 18 日（土）10：00～16：00
場　　所	伊豆ベロドローム（伊豆市）
参 加 者	計６０名　（大会全体参加人数未確認）
連携組織	（一社）パラサイクリング連盟・(公財）日本自転車競技連盟・(一財）日本サイクルスポーツセンター・静岡県障害者政策課・オリンピック・パラリンピック推進課・伊豆市東京オリンピック・パラリンピック推進課・(公社）静岡県理学療法士会他
事業内容	パラサイクリング試乗体験・バーチャルサイクリングシステム体験・運動能力測定





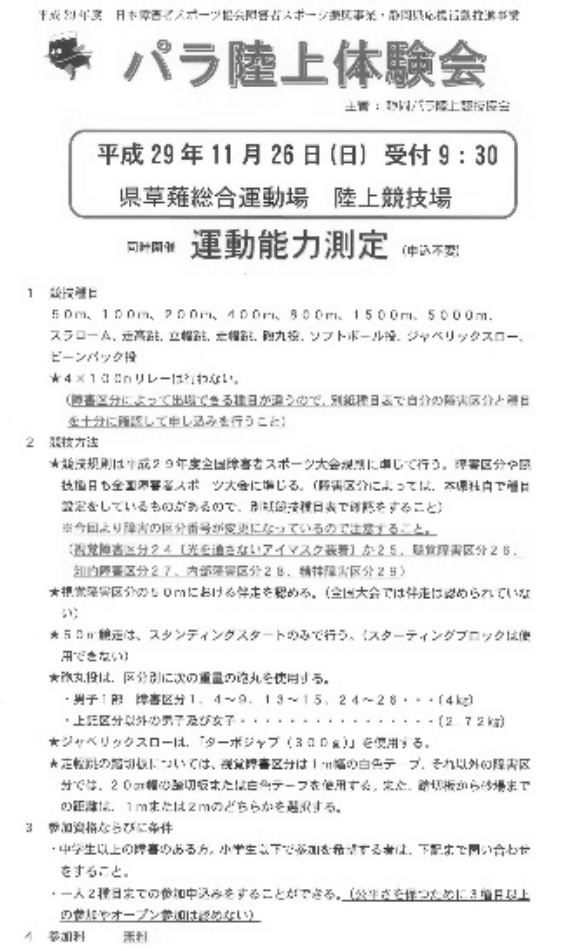






⑦ パラ陸上体験会・運動能力測定

日　　時	平成 29 年 11 月 26 日（日）9：30～15：00
場　　所	草薙総合運動場（静岡市駿河区）
参 加 者	計 181 名
連携組織	静岡パラ陸上競技協会・静岡県障害者政策課・教育委員会・(公社）静岡県理学療法士会・静岡県障害者スポーツ指導者協議会他



平成29年度　日本障害者スポーツ協会障害者スポーツ振興事業・静岡県地域活動推進事業

パラ陸上体験会

主管：静岡パラ陸上競技協会

平成29年11月26日(日)　受付9：30
県草薙総合運動場　陸上競技場

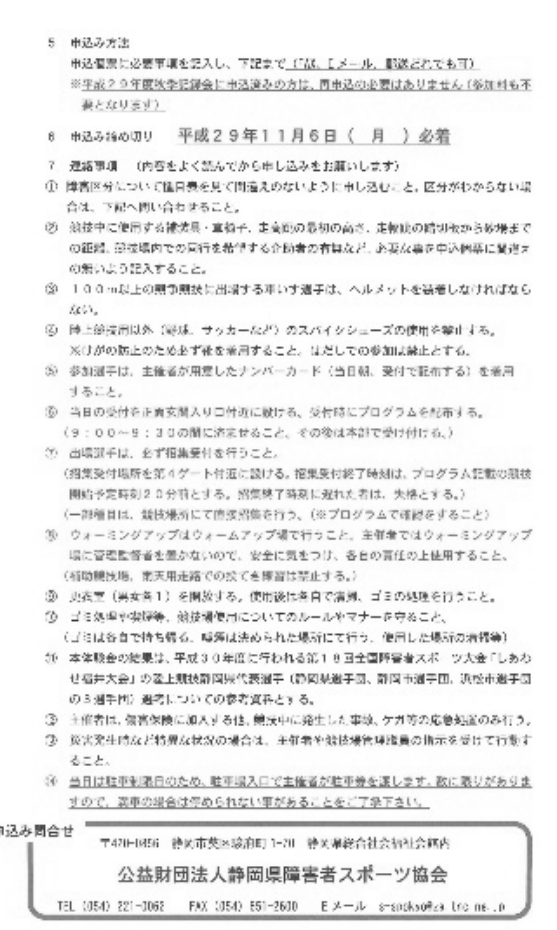
同時開催　運動能力測定（申込不要）

1　競技種目
５０ｍ、１００ｍ、２００ｍ、４００ｍ、８００ｍ、１５００ｍ、５０００ｍ、
スラローム、走高跳、立幅跳、走幅跳、砲丸投、ソフトボール投、ジャベリックスロー、ビーンバッグ投
★４×１００ｍリレーは行わない。
（障害区分によって出場できる種目が違うので、別紙種目表で自分の障害区分と種目を十分に確認して申し込みを行うこと）

2　競技方法
★競技規則は平成２９年度全国障害者スポーツ大会規則に準じて行う。障害区分や競技種目も全国障害者スポーツ大会に準じる。（障害区分によっては、本県独自で種目設定をしているものがあるので、別紙競技種目表で確認をすること）
※今回より障害の区分番号が変更になっているので注意すること。
（視覚障害区分２４（光を通さないアイマスク装着）か２５、聴覚障害区分２６、知的障害区分２７、内部障害区分２８、精神障害区分２９）
★視覚障害区分の５０ｍにおける伴走を認める。（全国大会では伴走は認められていない）
★５０ｍ競走は、スタンディングスタートのみで行う。（スターティングブロックは使用できない）
★砲丸投は、区分別に次の重量の砲丸を使用する。
・男子１部　障害区分１、４～９、１３～１５、２４～２８・・・(４kg)
・上記区分以外の男子及び女子・・・・・・・・・・・・・・・・(２.７２kg)
★ジャベリックスローは、「ターボジャブ（３００ｇ）」を使用する。
★走幅跳の踏切板については、視覚障害区分は１ｍ幅の白色テープ、それ以外の障害区分では、２０cm幅の踏切板または白色テープを使用する。また、踏切板から砂場までの距離は、１ｍまたは２ｍのどちらかを選択する。

3　参加資格ならびに条件
・中学生以上の障害のある方。小学生以下で参加を希望する者は、下記まで問い合わせをすること。
・一人２種目までの参加申込みをすることができる。（公平さを保つために３種目以上の参加やオープン参加は認めない）

4　参加料　無料



5　申込み方法
申込書類に必要事項を記入し、下記まで（FAX、Eメール、郵送どれでも可）
※平成２９年度秋季記録会に申込済みの方は、再申込の必要はありません（参加料も不要となります）

6　申込み締め切り　平成２９年１１月６日（月）必着

7　連絡事項　（内容をよく読んでから申し込みをお願いします）
① 障害区分について協議表を見て間違えのないように申し込むこと。区分がわからない場合は、下記へ問い合わせすること。
② 競技中に使用する補装具・車椅子、走高跳の踏切の高さ、走幅跳の踏切板から砂場までの距離、競技場内での移行を補佐する介助者の有無など、必要な事を申込書欄に漏れの無いよう記入すること。
③ １００ｍ以上の競争競技に出場する車いす選手は、ヘルメットを装着しなければならない。
④ 陸上競技用以外（野球、サッカーなど）のスパイクシューズの使用を禁止する。
※けがの防止のため必ず靴を着用すること。はだしでの参加は禁止とする。
⑤ 参加選手は、主催者が用意したナンバーカード（当日朝、受付で配布する）を着用すること。
⑥ 当日の受付を正面玄関入り口付近に設ける。受付時にプログラムを配布する。
（９：００～９：３０の間に済ませること。その後は本部で受け付ける。）
⑦ 出場選手は、必ず招集受付を行うこと。
（招集受付場所を第４ゲート付近に設ける。招集受付終了時刻は、プログラム記載の競技開始予定時刻２０分前とする。招集終了時刻に遅れた者は、失格とする。）
（一部種目は、競技場所にて直接招集を行う。（※プログラムで確認をすること）
⑧ ウォーミングアップはウォームアップ場で行うこと。主催者ではウォーミングアップ場に管理監督者を置かないので、安全に気をつけ、各自の責任の上使用すること。
（補助競技場、常設用走路での投てき練習は禁止する。）
⑨ 更衣室（男女各１）を開放する。使用後は各自で清掃、ゴミの処理を行うこと。
⑩ ゴミ処理や清掃等、競技場使用についてのルールやマナーを守ること。
（ゴミは各自で持ち帰る。喫煙は決められた場所にて行う。使用した場所の清掃等）
⑪ 本体験会の結果は、平成３０年度に行われる第１８回全国障害者スポーツ大会「しあわせ福井大会」の陸上競技静岡県代表選手（静岡県選手団、静岡市選手団、浜松市選手団の３選手団）選考についての参考資料とする。
⑫ 主催者は、傷害保険に加入する他、競技中に発生した事故、ケガ等の応急処置のみ行う。
⑬ 災害発生時など特異な状況の場合は、主催者や競技場管理職員の指示を受けて行動すること。
⑭ 当日は駐車制限日のため、駐車場入口で主催者が駐車券を渡します。数に限りがありますので、駐車の場合は停められない事があることをご了承下さい。

申込み問合せ
〒420-0856　静岡市葵区駿府町1-70　静岡県総合社会福祉会館内
公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会
TEL (054) 221-0062　FAX (054) 651-2600　Eメール　s-spokyo@za.tnc.ne.jp



















⑧　第３回静岡障がい者サッカーフェスティバル

日　　時	平成30年１月６日（土）　９：00～15：00 平成30年１月７日（日）10：00～14:00
場　　所	清水ナショナルトレーニングセンターＪステップ・清水庵原中学校・ＩＡＩ日本平スタジアム
参 加 者	計950名
連携組織	（特非）静岡ＦＩＤサッカー連盟・（一財）静岡県サッカー協会・（特非）清水サッカー協会・しずおか精神障害者スポーツ推進協議会・静岡県電動車椅子サッカー協会・静岡県他
事業内容	試合（知的・電動車椅子・精神フットボール・アンプティー）・教室（ブラインド・アンプティ・ごちゃ混ぜ）





●静岡障がい者サッカーフェスティバルスケジュール

1月6日(土)　場所：清水ナショナルトレーニングセンターJ-ステップ・清水庵原中学校

カテゴリー	時間	場所
知的一般エンジョイ(8人制)、スタンダード	9:00~15:15	東西ピッチ
知的中学生(8人制)	9:30~14:00	清水庵原中学校 決勝、表彰のみ西ピッチ
知的小学生	14:00~15:00	西ピッチ
ブラインドサッカー教室	9:00~10:30	体育館
アンプティサッカー教室	12:30~15:00	フットサル練習場
電動車椅子サッカー大会	10:30~15:00	体育館

1月7日(日)　場所：清水ナショナルトレーニングセンターJ-ステップ・IAI日本平スタジアム

カテゴリー	時間	場所
知的県代表 vs 横浜マリノスフトゥーロ	11:00~14:00	IAIスタジアム
ごちゃ混ぜサッカー(試合)※	10:30~11:30	東ピッチ
アンプティサッカー東西対抗	11:00~14:00	西ピッチ
ソーシャルフットボール大会	10:00~14:30	体育館
ごちゃ混ぜサッカー(体験会)※	10:00~12:00	フットサル場

●障がい者サッカーについて知ろう!

日本知的障がい者サッカー連盟JFFID　http://jffid.com/
日本電動車椅子サッカー協会JPFA　http://www.web-jpfa.jp/
日本脳性麻痺7人制サッカー協会JCPFA　http://jcpfa.jp/
日本ろう者サッカー協会JDFA　http://jdfa.jp/
日本ブラインドサッカー協会JBFA　http://www.b-soccer.jp/
日本アンプティサッカー協会JAFA　http://j-afa.com/wp/
日本ソーシャルフットボール協会JSFA　http://jsfa-official.jp/

●出場・教室参加のお問い合わせ
第3回静岡障がい者サッカーフェスティバル実行委員会
電話 / 054(221)0062　FAX / 054(651)2600
E-mail / s-spokyo@za.tnc.ne.jp










⑨ チャレンジスポーツ in 三島

日　　時	平成 30 年 1 月 21 日（日）　13：00～15：00
場　　所	三島市立北小学校体育館（三島市）
参 加 者	計 150 名
連携組織	三島市障がい福祉課・教育委員会・静岡県障害者スポーツ指導者協議会・三島市身体障害者福祉会・静岡県車いすバスケットボールクラブ他
事業内容	障がい者スポーツ体験（車いすバスケットボール・車いす体験スラローム・ボッチャ・フライングディスクアキュラシー・ストラックアウト）



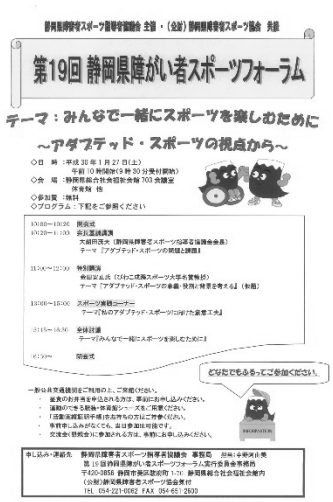




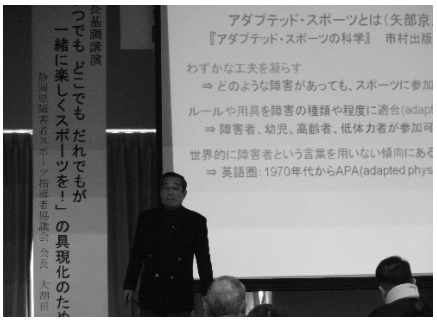



⑩ 第 19 回静岡県障がい者スポーツフォーラム

日　　時	平成 30 年 1 月 27 日（土）　10：00～17：00
場　　所	静岡県総合社会福祉会館（静岡市葵区）
参 加 者	計 60 名
連携組織	静岡県障害者スポーツ指導者協議会・静岡県障害者政策課・しずおか精神障害者スポーツ推進協議会他
事業内容	講演・スポーツ指導実践・全体討議



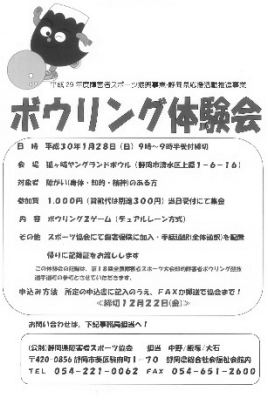






⑪ ボウリング体験会

日　　時	平成 30 年 1 月 28 日（日）　9：35～12：00
場　　所	狐ヶ崎ヤングランドボウル（静岡市清水区）
参 加 者	計 65 名
連携組織	静岡県ボウリング連盟・静岡県障害者ボウリング競技部会・狐ヶ崎ヤングランドボウル・静岡県障害者スポーツ指導者協議会他
事業内容	2ｹﾞｰﾑ（デュアルレーン方式）





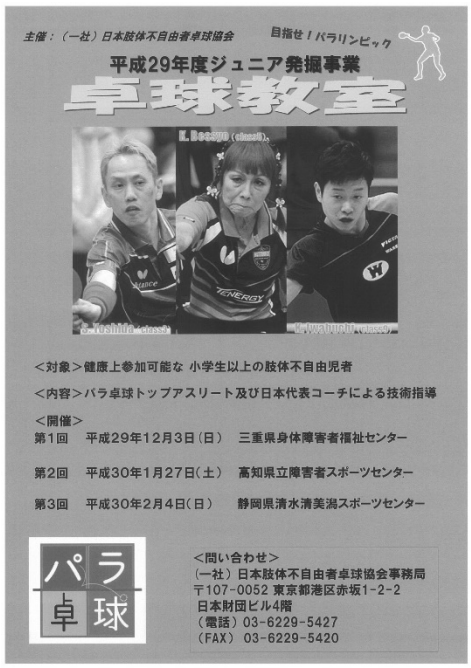







⑫ 平成 29 年度ジュニア発掘卓球教室兼静岡市身体障害者中部交流卓球大会

日　　時	平成 30 年 2 月 4 日（日）　9：30～16：00
場　　所	清見潟公園スポーツセンターアリーナ（静岡市清水区）
参 加 者	計 80 名
連携組織	（一社）日本肢体不自由者卓球協会・静岡県身体障害者卓球協会・静岡市身体障害者卓友会・(特非）静岡市身体障害者団体連合会・静岡市清水区身体障害者福祉協会・静岡市清水みなとふれあいセンター他
事業内容	試合・日本代表選手並びにナショナルコーチによる技術指導・リオパラ報告会









④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

指導者派遣事業に関しては、事務局の情報のみをベースに、障がいの状況等に合わせたプログラムを作成し、指導員同士での事前打合せや用具の準備、当日の急な変更に対応する判断力や指導経験、障がいに対する深い理解が必要とされる。また、施設や学校への派遣に関しては平日昼間が多いことから、指導員の高齢化・固定化による負担増が懸案事項となっている。

理解啓発・組織連携事業に関しては、オリパラの影響を大きく受けており、主導が競技団体、県

市町、当協会など様々で、関わり方もそれぞれであることから、開催目的に沿ったサポート的な役割での指導員の活用となった。このような場合には、なるべく開催地域近辺の指導員の活用を重視し、経験者と未経験者との連携も可能となるため、新しい発想に触れる機会にもなった。

⑤連携について

（1） 事業前の関係性

オリパラの影響もあり、各市町（福祉・生涯スポーツ）・福祉関係団体等との連携が確実に進んでいるため、県内の障がいのある方への周知協力などは、年々広く浸透してきていると感じる。

（2） 実際の事業での役割分担

多くの競技体験会を開催できたことで、専門的競技知識による運営方法や競技審判とは違う指導員の役割などについて、出来ることやるべきこと・指導員にしか出来ないことなどを改めて考える機会が多かった。

（3） 事業後の関係性の変化

継続実施により、スポーツ推進委員、理学療法士との関係性もだいぶ構築出来た。
スポーツ推進委員は、各市町の障がい者スポーツ振興のための事業実施について、理学療法士は、各所属病院などでの障がいのある方へのスポーツ紹介に関しての相談がさらに増えてきた。

⑥スポーツ用具について

派遣事業で用具を使用して体験した種目について、各施設や学校独自での開催の相談が増えてきた。実際に体験したことに対する施設学校側の考え方や参加者が、その用具があれば同じ体験ができることをイメージできていることに、用具の役割や気持ちにも働きかける効果を実感している。

借用希望も年々増えてきており、安全に貸出ができるよう、整理整頓、保管状況の確認を定期的に実施する。

⑦事業の成果および評価（達成度）

指導者派遣事業に関しては、一度実施したところの再希望が多く、また実施先からの紹介などもあり、時間的・にお断りしたところが多くなった。また、障がい者スポーツ体験の無いところを優先したいと考えていたが、受入側の体制についてや地域の実情などの調整が必要である。

理解啓発事業については予定回数よりも多く開催できたが、結果的には連携開催が多く、企画から全てを主導したものばかりでは無かったが、新聞や広報などでの効果で、県内の障がいのある方のスポーツの理解は確実に拡がってきた。その体験会から選手発掘にも繋がった。

県市町の各担当課・体育協会・学校等が各自で開催する際の指導方法・運営方法などについての講習会開催を予定したが、あまりにも各所からの要望が多く、事業実施ではなく、電話や直接相談と用具の貸与で独自開催できるような支援をしたが、事業報告としてまとめることができなかった。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

5年間、各地域に障がいのある方がスポーツをしたい時にできる環境の構築を目的にと事業を実施させていただいてきたが、地域に根付かせることや、指導員の掘り起こしに繋げることが出来なかったと反省が残る。
ただし、この事業のおかげで県民の障がい者スポーツへの理解は、大きく変化してきたと確信している。

実情が似ている県の事業内容を教えてもらいながら、全国各所で事業実施が進んでいくことは、特にスポーツセンターの無い県にとっては必要だと思う。

⑨おわりに

（1） 所感

オリパラの影響が大きい時期、競技志向の体験会が多く求められてきているが、スポーツ関係者が障がいを
理解し地域に障がい者スポーツ環境が共存する状況を願う部分と、自分達障がい者スポーツ指導員しかできないことを各地域で小さな活動からでも継続実施していくことを、これからもサポートできる体制をつくらなければならないと感じる。

（2） 特記事項

スペースや時間などが許す限り、理学療法士会にお願いし、運動能力測定を実施した。結果からアスリートを発掘する目的だけでなく、障害のある方も保護者含む関係者も、なんらかの基準や目標を持てる機会となった。今後も継続していきたいと考えている。その効果で、今年度、理学療法士向け中級講習会を開催できた。

指導スキルのある指導員を一機に大量に増やすのは難しいことから、経験豊富な指導員と未経験の指導員との、得意とする分野での活動を通し、地域を支える指導員を増やして行きたい。

（3）事業を継続実施した成果および変化

この5年間を振り返ると、計画時には昨年度の反省含め目標や計画を立てて、実際は受託事業以外の業務に追われ、ひとつひとつの事業に対しての検討をしっかりできないまま実施していたため、目的の達成に到っていないと思われる。

各地域に根付かせると同時に、当県としてこのような事業を自主開催していく方法をどうしたらよいか、各団体との連携という形で模索することができた。

初級指導員養成講習会への参加人数の増加や、スポーツをしたいとの相談件数の増加は、様々な場の提供からの成果および変化である。

三重県障がい者スポーツ振興事業

◆三重県障がい者スポーツフェスティバル 2017

◆地域障がい者スポーツ体験教室

◆陸上競技の人づくり事業

◆水泳選手の発掘・育成事業

三重県障がい者スポーツ協会

三重県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

平成 33 年に開催する全国障害者スポーツ大会（三重とこわか大会）の開催に向けて個人競技選手の発掘・増加、団体競技の育成・強化を図っているが、練習、大会等が中勢地区を中心に開催されているため、交通の便が悪い地区の参加が少ない。知的障がい者は「行く方法」「場所」「お金」、重度の障がい者は「支援者確保」、精神障がい者は「社会の目」等の理由により参加を妨げており、選手の確保、育成が難しい状況である。

地域で楽しみながら気軽に参加し、交流や健康維持が図れる環境作りができておらず、県内の中学校、特別支援学校の生徒が授業以外で運動しておらず、学校卒業後にスポーツを辞める人も多く、また、障がいを理解した支援者や協力者の確保も難しい状況である。

②事業の目的・ねらい

東京パラリンピック及び第 21 回全国障害者スポーツ大会（三重とこわか大会）の開催にむけて、県民への障がい者スポーツの啓発、大会開催の機運の向上を図るため、フェスティバルや障がい者スポーツの体験会を行ない身近な地域で継続的にスポーツに参加できる環境づくりを行うと共に障がいを理解した指導者や協力者の確保・育成を図ることを目的に実施する。

③事業実施概要

（1） 三重県障がい者スポーツフェスティバル 2017

事　業　名	三重県障がい者スポーツフェスティバル 2017
日　　時	平成 29 年 10 月 9 日(月・祝) 10 時 00 分～15 時 00 分
場　　所	三重県身体障害者総合福祉センター(津市一身田大古曽 670-2)
参　加　者	142 名(身体 11 名、知的 42 名、精神 3 名、その他 86 名)
ス タ ッ フ	116 名(ﾊﾟﾈﾘｽﾄ 2 名、司会者 1 名、手話通訳 2 名、競技団体 49 名、 県障がい者スポーツ指導員 15 名、県理学療法士会 4 名、県作業療法士会 4 名、 県立特別支援学校長会 1 名、県知的障害者福祉協会 1 名、相好株式会社 1 名、 県スポーツ推進委員 1 名、学生 5 名、協会 8 名、県 4 名) 前日準備 18 名
協　　力	PR コーナー:県身障者スポーツ吹矢協会、県知的障がい者バレーボールチーム、 県知的障がい者ボウリング協会、県電動車椅子サッカー協会　他
事 業 内 容	・パラリンピック出場選手等によるパネルディスカッション ・障がい者スポーツ体験　・陸上競技用車いす試乗・義足の歩行体験 ・障がい者スポーツのパネル展示、紹介 ・障がい者スポーツに関する競技用具の展示、紹介 ・県内障がい者スポーツ競技団体のＰＲ　・アンチ・ドーピング啓発














（2） 地域障がい者スポーツ体験教室

事　業　名	知的障がい児・者スポーツ体験教室①　バレーボール・バスケットボール
日　　時	平成 29 年 11 月 5 日（日） 9：30～12：30（バレーボール）　13：30～16：00（バスケットボール）
場　　所	三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園 体育館（名張市美旗町南西原 229-2）
参　加　者	バレーボール：13 名　バスケットボール：9 名
スタッフ	バレーボール：7 名　　バスケットボール：3 名　(各チームのコーチ・協会)
協　　力	名張市ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ協会 4 名、三重県知的ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙﾁｰﾑ・三重県知的ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙﾁｰﾑ
連携組織	地元小学校
事業内容	伊賀地区での知的障がい者バレーボール・バスケットボールの体験




事　業　名	知的障がい児・者スポーツ体験教室②　バレーボール
日　　時	平成 29 年 11 月 26 日（日）9：30～12：30
場　　所	三重県立特別支援学校玉城わかば学園 体育館（度会郡玉城町宮古 726-17）
参 加 者	20 名
スタッフ	8 名　(チームのコーチ・協会)
協　　力	県知的障がい者バレーボールチーム
連携組織	県立特別支援学校玉城わかば学園
事業内容	南勢地区にある県立特別支援学校でのバレーボールの体験





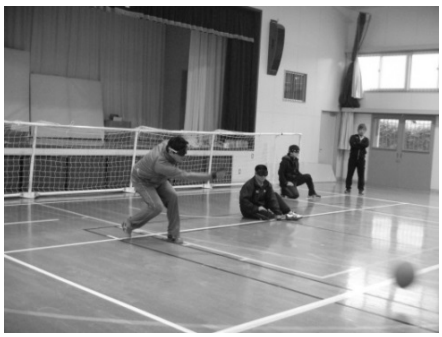
事　業　名	知的障がい児・者スポーツ体験教室③④　バレーボール・バスケットボール
日　　時	③平成 29 年 12 月 10 日（日）9：30～12：00　13：00～16：00 ④平成 30 年　1 月　7 日（日）9：30～12：00　13：00～16：00
場　　所	四日市市障害者体育センター（四日市市西日野町 4070-1）
参 加 者	③平成 29 年 12 月 10 日（日）バレーボール 23 名・バスケットボール 8 名 ④平成 30 年 1 月　7 日（日）バレーボール 11 名・バスケットボール 12 名
スタッフ	③平成 29 年 12 月 10 日（日）バレーボール 5 名・バスケットボール 4 名 ④平成 30 年　1 月 7 日（日）バレーボール 7 名・バスケットボール 4 名 （各チームのコーチ・協会）
協　　力	三重県知的バレーボールチーム・三重県知的バスケットボールチーム
事業内容	北勢地区にある県立特別支援学校隣接体育館でのバレーボール、バスケットボールの体験

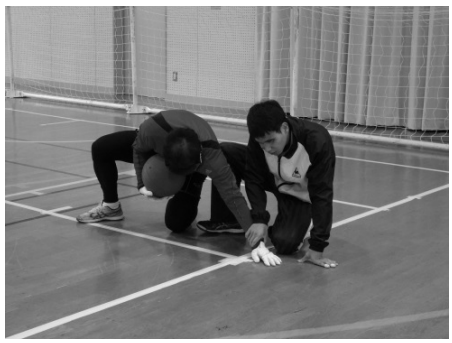




事業名	視覚障がい児・者スポーツ体験会　（ゴールボール）
日時	平成 29 年 12 月 17 日（日）13：00～16：00
場所	三重県立盲学校　体育館（津市高茶屋 4-39-1）
参加者	体験者 9 名（視覚障がい者 5 名、一般 4 名）
スタッフ	三重県障がい者スポーツ協会 2 名
協　力	日本ゴールボール協会 8 名（男子選手 6 名、スタッフ 2 名）
連携組織	三重県立盲学校、三重県視覚障害者協会
事業内容	日本ゴールボール協会によるゴールボールの体験 （ルールを知りミニゲームを体験）








事 業 名	肢体不自由児・者スポーツ体験会　（ボッチャ・陸上競技等）
日　　時	平成 30 年 1 月 24 日（水）9：50～11：40
場　　所	三重県立度会特別支援学校　（度会郡度会町大野木 1825）
参 加 者	74 名（小学部 10 名、中学部 13 名、高等部 14 名　教員 35 名 重度心身障害者支援施設職員 2 名）
スタッフ	三重県障がい者スポーツ協会 3 名
連携組織	三重県立度会特別支援学校、重度心身障害者支援施設なでしこ
事業内容	重度の肢体不自由障がい児童・生徒と教員及び障がい者支援施設に対する 障がい者スポーツの体験と紹介。





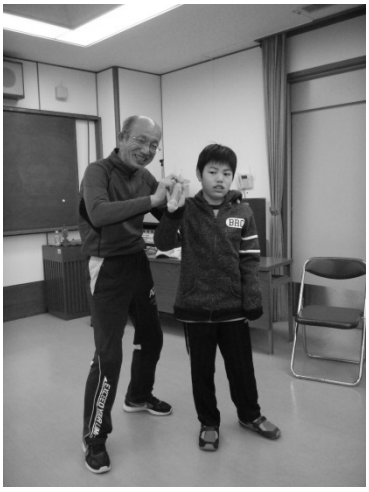
（3） 陸上競技の人づくり事業

事 業 名	陸上競技指導者講習会
日　　時	平成 29 年 11 月 12 日（日）10：00～16：00
場　　所	三重県身体障害者総合福祉センター(津市一身田大古曽 670-2)
参 加 者	12 名
スタッフ	講師 1 名、視覚障がい選手 1 名、肢体不自由選手 1 名
連携組織	県陸上競技協会、県立特別支援学校、県障がい者スポーツ指導者協議会
事業内容	・陸上競技の講義（障害区分・種目、3 障がいについて等） ・視覚障がい者の伴走・音響走の実技 ・スラローム、レーサー、ジャベリックスローの実技 ・障がい者スポーツをしている選手の体験談を聞く。





事業名	身体障がい者陸上競技教室
日時	平成 30 年 2 月 11 日（日）13：00～16：00
場所	三重県身体障害者総合福祉センター(津市一身田大古曽 670-2)
参加者	障がい者 3 名、家族 3 名
スタッフ	講師 1 名、県陸上競技協会 1 名、県障がい者スポーツ指導員 4 名、協会　2 名
連携組織	県陸上競技協会、県立特別支援学校、県障がい者スポーツ指導者協議会
事業内容	・陸上競技種目の実技及びウォーミングアップ等の体づくり ・陸上競技指導者講習会受講者のレベルアップ

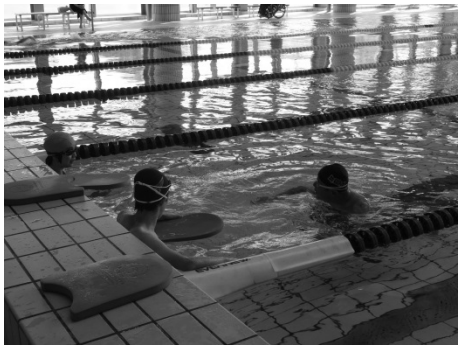




（4） 水泳選手の発掘・育成事業

事業名	三重県障がい者水泳記録会及び練習会
日時	平成 29 年 10 月 8 日（日）10：00～15：30
場所	三重交通 G スポーツの杜 鈴鹿　水泳場（鈴鹿市御薗町 1669）
参加者	11 名（肢体　2 名、聴覚　4 名、知的　5 名）
スタッフ	県水連審判員　8 名、障がい者スポーツ指導員　2 名、協会　4 名
連携組織	県水泳連盟、県障がい者スポーツ指導者協議会
事業内容	選手発掘を兼ねた水泳記録会及び練習会





事業名	身体障がい者水泳教室
日時	平成 30 年 2 月 17 日（土）15：00～18：00
場所	津市産業・スポーツセンター（サオリーナ）25mプール(津市北河路町 19-1)
参加者	5 名（肢体 5 名、視覚 0 名）
スタッフ	県水連　2 名、障がい者スポーツ指導員　1 名、協会 2 名
連携組織	県水泳連盟、県障がい者スポーツ指導者協議会
事業内容	肢体不自由者及び視覚障がい者で、初心者やブランクのある方を対象とした教室





④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

どんなイベントでも毎回、決まった指導員の協力であり、各地域で主となって活動する自信がないという声が多かったため、フェスティバル等で情報交換しながら交流を深め、一緒に参加することにより活動場所を増やしたり、競技団体と繋がったりしながら積極的に活動していけるように考えた。
特にフェスティバルでは、実行委員の一員として福祉団体、学校、競技団体と共に企画の段階で積極的に関わっていただき、当日の運営も指導員資格を活かせるスラローム・展示等に配置した。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

・県水泳連盟:全国障害者スポーツ大会の監督、教室開催時の講師のみ
・県立特別支援学校:会場借用の窓口のみで、イベント案内や当日の協力なし
・県教育委員会特別支援教育課:選手発掘・育成の募集案内のみ
・県理学療法士会、作業療法士会:年1回のイベント(準備体操)協力のみ
・名張市バレーボール協会：全く関わりなし

（2）実際の事業での役割分担

・県水泳連盟:水泳記録会の競技運営、教室の実技講師
・県立特別支援学校、県教育委員会特別支援教育課:会場準備・片付け、生徒引率、体験
・県理学療法士会、作業療法士会:義肢装具、レーサー体験コーナーでの対応
・名張市バレーボール協会：知的バレーボール体験教室の指導

（3）事業後の関係性の変化

・県水泳連盟:平成30年度県水連主催の大会に障がい者の部を設けて頂ける予定。
・県立特別支援学校: 全国障害者スポーツ大会の競技種目を知っていただき、体育の授業で継続的に取り入れたり、競技団体の練習会の案内をしたりしていただけるようになった。
・県教育委員会特別支援教育課:障害者理解の推進事業(目的:障がい者の適正に応じたスポーツ種目の理解を深める。教職員の指導力向上を図り、スポーツによる交流、共同学習を推進する)の事業に協力したことも含め、イベント、講習会への教職員の参加が増え、障がい者スポーツへの意識が高まった。
・県理学療法士会、作業療法士会:県大会での区分判定等、専門性を活かした協力が増えた。
・名張市バレーボール協会：知的障がいを知り、今後も練習等で協力して頂けるようになった。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

・ボッチャ、フライングディスク:県特別支援学校や施設の体験会で使用し、普及・啓発をすることにより、施設や県特別支援教育課主催のボッチャ交流会が開催されたり、定期練習会に繋がったりした。
・ターボジャブ、水泳補助具:指導者講習会、体験教室、選手発掘教室で使用することにより、障がい者だけでなく、支援者にも競技種目や支援方法を知っていただく機会となった。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

・ボッチャ、フライングディスク: 手作りの物を使ったり、遠方で借用が難しかったりする団体に貸出し規程を設けて一定期間貸し出し、地元で楽しみながら気軽に参加し、交流や健康維持が図れるようにしていきたい。
障がい者スポーツ指導員が普及・啓発を図るために優先的に貸出しをしていきたい。
・水泳タッチ棒・ビート板や陸上競技用具:県内の水泳・陸上競技の選手発掘・育成の体験会や指導員養成講習会や資質向上講習会等でも活用していきたい。

⑦事業の成果および評価（達成度）

・知的障がい者のバレーボール体験会後に女子選手がチームに入部し、女子が試合に出られるようになった。
・ゴールボール体験会に参加の視覚障がい生徒が、日本ゴールボール協会主催の練習会に参加したり、教員が体育の授業に取り入れてくれたりした。
・フェスティバルや教室開催等により、障がい者スポーツの啓発、大会開催の機運は高まっていると実感しているが、全体的に選手の参加が少なく、発掘・育成が進んでいない。
・水泳チームの立ち上げは保留となったが、陸上競技チームは３月末に結成予定。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

年々、県民の障がい者スポーツへの機運は高まってきていると実感している。しかし、県大会やフェスティバル、障がい者スポーツ体験会の参加者は固定化してきており、選手の発掘・育成に繋がっていない。また、身近な地域で継続的にスポーツに参加できる環境づくりを行うための障がい者スポーツ指導員の確保・育成も図れていない。

参加者のニーズに応えるため、まずは、支援者の資質向上を積極的に行い、一人で負担を抱え込まずに複数で各地域で活動できる人づくりをしていく必要があると思われる。

今年度の事業を単年度で終わらせることなく、継続的に実施し、身近な地域で継続的にスポーツに参加できる環境づくりを行い、大会、教室への積極的な参加に繋げていきたい。

⑨おわりに

（１）所感

今年度初めて事業を実施し、フェスティバル実行委員会の開催、関係機関との調整、場所・支援者の確保など、実施準備期間が短く、事務局が中心となり何とか事業を実施した。

フェスティバル実行委員会の反省会では、委員から次年度の内容・場所等の積極的な意見が出ており、また、今まで関係が薄かった団体と連携できたことは、今後の大会や選手育成に繋がっていくことである。次年度は更に、障がい者スポーツ指導員等と協力して一つでも多く、地域での活動場所を増やす事業に展開できればと思う。

（２）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

・フェスティバルでは身体障がい選手増加に向けて、陸上パラ選手にパネリストを依頼し、実行委員も関係性が広がるように人選した。
また、体験教室、人づくり事業等の開催を特別支援学校だけでなく、市町の障がい福祉課、相談支援センター、社会福祉協議会、体育協会等に案内した。
・大きなイベントと重ならないよう、事前調査し日程を決定した。

⑩資料

開催要項、参加申込書、チラシ、新聞記事、アンケート結果

平成 29 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」
肢体不自由児・者スポーツ体験教室

開催日：平成 30 年 1 月 24 日（水）9：50～11：40
場　所：三重県立度会特別支援学校　（度会郡度会町大野木 1825）
参加者：小学部 10 名、中学部 13 名、高等部 14 名　教員 35 名
　　なでしこ職員（重度心身障害者支援施設）　2 名
　　三重県障がい者スポーツ協会　3 名　　計　77 名

内容・成果：
　今回の会場となった学校は重度の重複障がい児が多く、県障がい者スポーツ大会への参加が難しく、卒業後も身近な地域で継続的にスポーツに参加したいが何から始めたらよいかがわからないと言う相談を受け、ボッチャの体験と全国障害者スポーツ大会競技種目の紹介とレーサー、ビーンバック投げ、ジャベリックスローの体験をしていただいた。
　ボッチャは 2 コートに分かれ、ほとんどの生徒がランプを使って対戦し、応援にも熱が入り時間が足らないくらい意欲的に行い、笑顔も多く見ることができた。
教員もルールを意欲的に覚えようと質問が多く、今後も体育の授業で実施したいので、コートを残してほしいと希望があった。
なでしこの職員も地元で継続的にできるスポーツであるため、定期的に練習ができるように支援者と場所を確保していきたいと話してみえた。
また、一部の生徒さん、教員もレーサーに乗ったり、ジャベリックスローやビーンバックを投げたりして、肢体不自由者でもできるスポーツがあることを改めて知ったようであった。冷暖房付き、バリアフリー、身障トイレもある体育館で環境的に恵まれているが、交通の便の問題がある。しかし、身体を動かす機会の少ない方に少しでも楽しみながら参加できるように支援していきたい。





平成 29 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」
知的障がい児・者スポーツ体験教室　玉城会場（バレーボール）

開催日：平成 29 年 11 月 26 日（日）9：30～12：30
場　所：三重県立特別支援学校玉城わかば学園　体育館（度会郡玉城町宮古 726-17）
協　力：三重県知的障がい者バレーボールチーム
参加者：体験者　5 名（男子 3 名、女子 2 名）
　　県知的障がい者バレーボールチーム　男子 11 名、女子 4 名、スタッフ　7 名
　　三重県障がい者スポーツ協会　1 名　　計　28 名

内容・成果：
　県知的障がい者バレーボールチームの主な練習拠点は津市であり、今回開催した玉城地域から練習に参加することがなかなか難しい現状である。選手発掘のため、県立特別支援学校の体育館をお借りし、体験教室を開催した。玉城わかば学園在校生及び卒業生 5 名が参加され、チーム選手と一緒にウォーミングアップをし、バレーボールの基礎であるパスとサーブを体験した。意欲的に体験されており、体験後には、全員「楽しかった」と言ってみえた。
　参加者のうち、男子 2 名は 1 月の四日市会場での体験会にも参加したいとのことであった。また、女子 1 名は、中学生の時にバレーボール部に所属しており、今後も続けられたらと前向きに検討していただいている。






平成 29 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」
知的障がい児・者スポーツ体験教室　四日市会場（バレーボール）

開催日：平成 29 年 12 月 10 日（日）9：30～12：00
場　所：四日市市障害者体育センター（四日市市西日野町 4070-1）
協　力：三重県知的障がい者バレーボールチーム
参加者：体験者　9 名（男子 5 名、女子 3 名、一般 1 名）
　　県知的障がい者バレーボールチーム　男子 12 名、女子 2 名、スタッフ 4 名、
　　三重県障がい者スポーツ協会　1 名　　計　28 名

内容・成果：
　県知的障がい者バレーボールチームの主な練習拠点は津市であり、今回開催した四日市地域から練習に参加することがなかなか難しい現状である。選手発掘のため、県立特別支援学校に隣接する体育館をお借りし、体験教室を開催した。チーム選手と一緒にウォーミングアップをし、バレーボールの基礎であるパスとサーブを体験した。今回は西日野にじ学園在校生の参加が数名あり、近場で開催することにより参加しやすいということが感じられた。また、玉城会場に参加された方も四日市まで参加してくださり、人数が多く賑やかな体験会となった。寒い時期ということもあり、体験者の中には手がかじかんだり、ボールが当たって痛がったりする方もみえたため、また来年度以降、体験教室を開催する際には、時期等も考慮しなければならないと感じた。






平成 29 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」
知的障がい児・者スポーツ体験教室　四日市会場（バスケットボール）

開催日：平成 29 年 12 月 10 日（日）13：00～16：00
場　所：四日市市障害者体育センター（四日市市西日野町 4070-1）
協　力：三重県知的障がい者バスケットボールチーム
参加者：体験者　4 名（男子 2 名、女子 1 名、一般 1 名）
　　県知的障がい者バスケットボールチーム　男子 3 名、女子 1 名、スタッフ 3 名、
　　三重県障がい者スポーツ協会　1 名　　計　12 名

内容・成果：
　県知的障がい者バスケットボールチームの主な練習拠点は津市であり、今回開催した四日市地域から練習に参加することがなかなか難しい現状である。選手発掘のため、県立特別支援学校に隣接する体育館をお借りし、体験教室を開催した。以前、体験会に参加してくださった小学 6 年生の男児、西日野にじ学園、くわな特別支援学校の卒業生の参加がされ、県バスケットボールチーム選手と交流を深めながら体験していただいた。付添の保護者や見学に来られた保護者と話をしたところ、チームのことを知らなかったようであり、体験会だけでなく、選手募集等のチーム案内についてもしていく必要があると感じた。今回参加してくださった女性 1 名は、保護者も意欲的であり、チーム練習のほうへも参加を検討していただいている。






平成 29 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」
知的障がい児・者スポーツ体験教室　四日市会場（バレーボール）

開催日：平成 30 年 1 月 7 日（日）9：30～12：00
場　所：四日市市障害者体育センター（四日市市西日野町 4070-1）
協　力：三重県知的障がい者バレーボールチーム
参加者：体験者 4 名（男子 3 名、障がい者スポーツ指導員 1 名）
　　県知的障がい者バレーボールチーム　男子 6 名、女子 5 名、スタッフ 6 名、
　　三重県障がい者スポーツ協会　1 名　　計 22 名

内容・成果：
　冒頭に体験者が自己紹介をし、次にチームの監督が普段の練習等の説明を行った。そして、ウォーミングアップを皆で行った後、体験者はトスやレシーブ、サーブ等の基礎練習を行った。最後には、全体でゲーム形式の練習を行った。体験者がサーブをし、チームのメンバーがレシーブをするというものであった。体験者はまだサーブをミスすることも多かったが、周りが励ましながら、よい雰囲気でプレーをしていた。年始の連休ということもあり、体験者は少なかったが、その分、細かく指導を受けることができていた。体験者は皆、今後も練習に参加したいと感想を述べていた。






平成 29 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」
知的障がい児・者スポーツ体験教室　四日市会場（バスケットボール）

開催日：平成 30 年 1 月 7 日（日）13：00～16：00
場　所：四日市市障害者体育センター（四日市市西日野町 4070-1）
協　力：三重県知的障がい者バスケットボールチーム
参加者：体験者 6 名（男子 3 名、女子 1 名、一般 1 名、障がい者スポーツ指導員 1 名）
　　県知的障がい者バスケットボールチーム　男子 5 名、女子 1 名、スタッフ 3 名
　　三重県障がい者スポーツ協会　1 名　　計　16 名

内容・成果：
　最初に体験者、チームメンバー、全員でそれぞれ自己紹介をした。その後、皆でウォーミングアップを行った後、シュートやパスなどの基礎練習を行った。体験者のほとんどは、バスケットボールの初心者で、思うようにボールを扱えない様子であったが、監督が練習を競争形式にするなど、楽しみながら体験できるよう工夫してもらった。体験者はチームメンバーとペアを組むなどし、交流も図れた。終了後には、体験者はチームの練習日の案内を受けるなどし、今後、チームの練習に参加を希望する体験者も数名いた。






三重県障がい者スポーツフェスティバル　協力者アンケートまとめ

回答：63 名　スタッフ：116 名　回答率：54.3%

１．開催日程について（開催時期・曜日等）

①よかった：37 名　　②ふつう：25 名　　③よくなかった：1 名

【具体的にご意見をお聞かせください】

・スポーツの秋でよかった。
・パネルディスカッション良かった。途中で障害を持つことになっても、前向きに生きてみえる希望の目標を持って頑張ってみえる姿に感動した。
ふつうの女の子、女性として生きている。
・夏場ではなく、快適な環境でできた。
・3 連休最終日なので、参加しやすかった。
・三連休の為、お客様が少ないかと心配したが、たくさんの方が来て良かった。
・朝の 1 時間が無駄だった。・祝日だったので、参加しやすかった。
・みんなで楽しく協力ができ、いいフェスティバルの会だった。
・様々な競技の体験ができる非常に良いイベントです。
・季節的にはいい時期だと思う。
・大きな大会とかぶらず、選手に来てもらえて良かった。
・他の行事、イベントと重なりやすい日だった。
・津祭りの次の日だった、個人的には疲れた。前日の準備手伝えなかった。
・体育の日がベスト。・祝日、仕事が休みでよかった。
・土日よりも祝日で集まり易かった。・祝日で予定も合わせやすかった。
・他の日は他のイベントが入っている。・日曜日が最も良いと思う。
・連休だったので、土日祝日など、休日にあると参加しやすいと思った。
・祭日だったので、来客が見えなかったのかと思う。
・祭日は会員も親も仕事の所があった。・可能ならば連休を外してもらいたかった。
・土曜日の方が良い。・振替曜日であり、参加できた。
・祝日は仕事の部員が多いので、できれば日曜日が良い。

２．開催場所について

①よかった：38 名　　②ふつう：16 名　　③よくなかった：8 名　　④無回答：1 名

【具体的にご意見をお聞かせください】

・サオリーナを使用できたら、来年度はサオリーナを希望する。屋内だと車椅子の方でも移動範囲が狭く行動しやすいし、いろんな競技に参加でき、経験して頂けるため。
・駐車場もたくさんあり、とても良かったと思う。身障者センターなのでバリアフリーなのも良かった。
・狭いことも大切だと思った。身近に感じ、いろいろな方と触れ合いができた。
・三重県の中心でどこからでもアクセスしやすい。・ここで問題ない。
・津市民なので、近くて良かった。　・1 つの会場でよかった。
・交通の便が良く、北部からも南部からも訪れやすく分かり易い。
・グランド、体育館が広いので、すごく良かった一日だった。

・物品の搬入 etc 考えると身障センターしかない。
・リハ室でスペースも広く、行いやすかった。　・行きなれたところでよかった。
・楓さんに走ってもらえなかったのは、残念だった。
・屋外にすることで、レーサーはハンドリングを体験できた。
・P が広々、障がい者にはバリアフリー（トイレ）があって良かった。
・テニスコートや体育館、その他の設備や部屋が広く、今回の開催に向いていたと思う。
・設備が整っているから。
・スポーツスタッフが使い慣れてみえるので、指示や対処が早くできる。
・天候に恵まれなかったが、場所的には問題なし。
・雨天時を考えて、四日市ドーム等はどうか？・電車で少し不便だった。
・少し手狭な感じがするが、他に適当な場所を見つけるのは、難しいと思う。
・前回と同じなので。・駐車場が分かりづらかった。
・雨天の場合とかグランド状態の悪い場合の対応方法を考えておく必要があると思った。
・雨天後の水はけが悪く苦労した。
・いつも使わせていただいているグランドなので、用具の準備が楽でよかった。
・サオリーナにしてほしかった。雨天時の際の体験場所が少ない。
・毎年狭いと感じる。今の来場者を見込んでいるのであれば良いが、もっと多い来場者を目指しているのであれば。　・外でも中でもできるような広さが欲しい。
・交通アクセスが良くない。サオリーナでしてほしかった。

３．担当した役割について

（1）担当していただいた役割は何でしたか。（複数回答可）

①参加者受付・案内：2 名
②駐車場案内：1 名
③体験コーナー
ア．車いすテニス：7 名　イ．グランドソフトボール：6 名
ウ．フライングディスク：14 名　エ．ボッチャ：1 名
オ．サウンドテーブルテニス：2 名　カ．義足歩行体験：3 名
キ．スラローム：4 名　ク．競技用車いす体験：7 名
ケ．アンチドーピング啓発：1 名
④展示コーナー
ア．競技用具展示：3 名　イ．バレーボール：3 名
ウ．ボウリング：3 名　エ．スポーツ吹矢：2 名
オ．電動車椅子サッカー：1 名
⑤その他：3 名（内 1 名ぬいぐるみ）

（2）スタッフの配置人員について

①適当であった：56 名　②少なかった：7 名　③多かった：0 名 ④その他：0 名

（3）担当していただいた役割で改善・合理化できる所があれば具体的にご記入ください。

・ボッチャ:説明する時間が少なかった。スタッフをもう少し増やして頂ければ説明と体験とにスタッフを配置できる。
・グラソフ:受付をする担当者がいると助かるかも。人数の確認もでき、終了してからの感想も記録できるのでは！！来場者に対して担当者が少なかった。雨天グランドの整備（水抜き）は大変疲れた。
・参加者受付・案内:パンフ配りについて、スタッフとお客様の区別が分かりにくかった。
・着ぐるみ:特にないが、一人で着ぐるみに入っていただいたので、着ぐるみに入れる人を2名配置した方が良かったのではないか。
・電動車椅子サッカー:見ていただく人数が少なかった。
・ボウリング:間際でもホワイトボードが借りられて助かった。お昼の案内放送があったらいいなと思った。
・バレー:来客が少なく、残念だった。
・競技用具展示:来場者の方が、その場で試せたりすると良いかなと感じた。また動画等流せば、もっと足を止めて頂けるかなと。「ボッチャのガイド」はありませんかという質問があった。
・競技用車いす体験:レーサー体験は非常に多くの体験者に来ていただいた。簡単なコースがあれば、なおレーサーに興味を持ってもらえると思う。勝手ながら椅子を持ち出すことになったが、荷物置き（体験者）が欲しかった。車いすの台数に限りがあり、待っていただく時間があった。待ち時間にできることを見つけられるといいなと思った。
・スラローム:コーナー用にメジャー・養生テープ・ウォッチが準備してもらえると良いと思う。
・義足歩行体験:階段を義足で歩きたい方がいた。どこまで行っていいか判断するのが難しかった。
・フライングディスク:雨天の場合はグラウンド状況を見て対応できれば良い。（今回は水たまりがあり良い状態ではなかった。天候の関係もあるが、外で行う、体育館で行う、一度決めたら変更は良くない。
・車いすテニス:時間割で担当を決めたり、スムーズでよかったと思う。
何をすれば良いかが分かりにくかったので、担当（競技をしている人）が最初にボランティアスタッフに説明をしてくれると良かった。

4．内容について（パネルディスカッション、体験コーナー、展示コーナー）

①よかった：40名　②ふつう：14名　③よくなかった：2名　④無回答：7名

【具体的にご意見をお聞かせください】

・整備の為、出席できなかった。　・各コーナーよく理解できた。
・体験コーナーは、義足の体験をさせてもらったが、よい経験になった。パネルディスカッションはパラリンピアンの方に実際に話を聞けて良かった。
・雨天のことを考えてほしい。・人数が少ない。
・選手と交流する時間が多く、良かったと思う。
・パネルディスカッションはとても楽しかった。分かり易くあっという間に時間が終了した。
・経験からの話はとても良いと思う。

・体育館の空いているスペースが利用できると良かったと思う。
・インタビュー形式でよかった。義足のことを直接質問しても良いという話がとても為になった。
・お二人の前向きな姿、目標持っている方のキラメキを感じた。司会者の方がうまく進めていただいて、楽しく時間を過ごせた。
・障がい者スポーツについて知り、体験することで楽しさが分かった。パラリンピックの選手の貴重な話が聞けて良かった。
今後の選手発掘の為にも非常に良い機会。
・進行役の方のトークが選手の持ち味を出せていた。
・競技されている方の声が直接聞けて良かった。
・普段馴染みのないスポーツが気軽に経験できて良かった。
・ディスカッションも面白く拝聴させていただきました。いろんな競技を体験できて良かった。
・スムーズに進行されて、ゲストの話も楽しかった。
・当事者の実際の話が多く聞けて良かった。司会者のつっこんだ質問が良かった。
・説明も具体的にして頂けたので、分かり易かった。
・大西さんと前川さんのパネルディスカッションの内容が充実していたので、良かった。
・パネル良かった、
・今回の車椅子ランスでボランティアさせて頂いたが、体験の内容や説明が分かり易く体験しやすいものだった。
・最後に少ししか見ることができなかったが、キレイな写真でもっとじっくりと見たかった。
・指導される先生がとても優しく、ユーモアのある方だったので、参加者の皆さんがとても楽しく体験されていたと感じた。
・パネルディスカッションの座席配置はもう少し檀上に近くても良いと思った。
・声が少し聞き取りづらかった。
・体験コーナーにいたので、見る時間がなかった。

５．安全管理について

［今後の積極的なリスクの防止を図るため、事故・トラブル等の情報（具体的に）と、可能であれば予防策アイデア等もご記述ください。］

・雨の降った後なので、水切りなどの道具がまともなものがなかった。
・実施内容に対してハード面でキャパシティを超えている。
・雨天時、場所がないため、外の場合は体験の人数が少なくなる。
・義足体験では、肘、膝のプロテクターを準備して頂けると良いかと思った。
・大きな屋内開催になると、熱中症のリスクは減るかも？
・場所の案内をお客様に分かり易く矢印とか張った方が良かったかなと思った。
・屋外は午後より日差しが強かったので、この時期でも熱中症対策は必要だと思った。
・広い会場
・体育館も土足で入れるように考えてほしい。入口でスリッパや体育館シューズに履き替える手間を省くことと、車椅子の方が体育館に入りづらいと思う。
・パネリストと触れ合う機会をもっと作ってほしい。

・競技用車いす体験で、数件後方への転倒リスクがあった。目を離したすきに発生しがちなので、場所の管理をより徹底すると良いと思う。
・車いすが多い通路は危険な感じがした。
・参加者に対してのリスクマネジメントは年々向上しているが、自己管理については再検討必要と思う。午後より暑くなり水分や帽子等。

６．このフェスティバルの感想や障がい者スポーツに関するご要望等、ご自由にお書きください。

・グラソフ:今回は来場者が 30 人以上だったので、選手（8 人）では少々疲れたのではないかと思う。晴天であれば選手 10 人以上は欲しい。
・もっと広く人の集まりがあれば良。
・楽しかった。いい勉強になった。
・様々な人が関わってもらえる機会をもっと増やしていくほうが良いよう思う。高校や大学にもっと声を掛けても良いかと思う。
・他の競技の体験もできると更に良いと思う。
・“ボッチャ”体験された方が、リピートで体験に来ていただき、皆さん“楽しい”“はまりそう”などの言葉を多く聞いた。
・もう少し人が集まるような広報の工夫をどうすれば良いのか、知恵を出しあわなければいけないと感じた。
・毎年決まった競技の体験になるので、新しい競技も体験したい。
・いろんな体験ができて良かった。
・様々な体験、そして PR をうまくでき、仲間を大切にでき、今後もっと楽しくこれからもできたらいいと思う。
・毎年続けることが大切なのかと思う。
・面白かった。実際にやってみることで、楽しさが良くわかった。
・これからも続けたい。もう少し一般に宣伝を！広報をもう少し考えたらと思う。
・競技用車いす体験が楽しかった。
・自身が様々な競技をさせて頂いて良い体験の機会となった。来場者の方も楽しみながら理解を深める機会となっていた。さらに多くの来場者が来て下さるよう、広報の工夫もできると良いと思う。
・障がい者→パラではだめか？
・次も多くの方、高校生、中学生を誘ってほしい。
・車いすテニスの指導の方が 2 名で 1 コートだけだったので、もう少しきていただければ、体験される方も増えたのではないかと思う。
・今後もこのようなイベントを積極的に開催していくと、障がい者スポーツが広まって良いと思う。
・ボランティア側も楽しませていただいた。
・スタッフが多く、参加される方が少ないので工夫が必要。
・このような体験の機会を増やしてもらえると嬉しく思う。健常者の参加が少なく思えたので、もう少し増えるよう、働きかけてほしい。
・雨天時の際の連絡を徹底してほしい。　・他会場での開催をしてみてはどうか。
・今後も続けてほしい。

・今回参加させていただき、体験もさせて頂いた。車椅子がどのような仕組みか知ることができ、車椅子テニスも体験や見学させてもらい良い体験だった。次回も参加させていただきたい。
・開会後のパネルディスカッションで義足を見てほしいというようなお話を聞いて驚いた。もっとパラリンピックや車椅子、義足などについて知りたいと思った。今回参加できて良かった。
・体験させてもらい、学んだことが多かった。車椅子は操縦が難しく、義足は歩くことがどれほど難しいか体感することができた。
・名札に責任者さんの TEL 番号を入れて頂いて安心だ。
・障がい者スポーツセンターでやるフェスティバルも良いが、一般の方が来やすい場所（たとえばサオリーナとか）で行えると障がい者スポーツを地域に根付かせることができるのではないかと思った。
・集まる人数が少なく感じた。もっと集まって喜んで頂ければ嬉しい。集まりやすい場所にすれば良いと思う。
・もっと開催してほしい。宣伝活動も積極的にしてもらいたい。
・スタッフがジャージなのは良くないのでは。最低襟付き（ポロシャツ等）が望ましいのでは（対外的な面を考えて）
・障がい者スポーツを体験できる機会が殆どなかったので、参加できて良かった。このようなイベントがもっと増えてほしいと思う。

三重県障がい者スポーツフェスティバル　参加者アンケートまとめ

回答：38 名　参加者：142 名　回答率：26.7%

1. 年齢について

① ～9 歳：4 名　②10 代：17 名　③20 代：3 名　④30 代：1 名　⑤40 代：4 名
⑥50 代：2 名　⑦60 代：4 名　⑧70 歳以上：2 名　⑨無回答：1 名

2. 性別について

①男性：8 名　②女性：29 名　③無回答：1 名

3. 障がいについて

①あり

(1) 肢体：2 名　(2) 肢体（車いす）：0 名　(3) 視覚：1 名　(4) 聴覚：0 名
(5) 知的：4 名　(6) その他：0 名

②なし：30 名　③無回答：1 名

4. このフェスティバルを何で知りましたか。

①ホームページ：2 名　②案内チラシ：14 名
③その他：22 名
・ラジオ　・スポーツ推進委員の勧め　・知人に教えてもらった。
・友人の Facebook　・学校でのボランティア募集　・先生からの勧め

5. パラリンピック出場選手のお話や抽選会はどうでしたか。

①よかった：27 名　②ふつう：6 名　③よくなかった：0 名　④無回答：5 名
理由・改善点等
・とても明るく、生き生きとした姿にパワーをもらった。
・陸上競技を始めてパラリンピック出場に至るまでの話と義足についての話が興味深かった。
・前向きな生活態度に感動した。
・パラリンピックのことがよくわからないので、お話聞けて良かった。義足のこととかもどうなっていて、どう普段過ごされているのかがわかった。
・実際に義足がどういうものか知ることができ、パラリンピックに出た人の話を目の前で聴けたのは初めてだったので、貴重な体験ができて良かった。
・色々なことを聞き、知れたから。　・かっこよかった。
・障がいについて知れた。
・初めてこういうものに参加したので、色々知り、良かった。
・今迄パラリンピックのことをまったく知らなかったが、今回のお話でたくさんのことを知ることができた。

・選手の方が楽しそうに話していたから。・陸上部なので、よりすごさが分かった。
・選手の方たちも司会者の方も面白い人だったので、楽しかったし、生き生きしていた選手の人たちを見て、元気をもらえた。
・パラリンピック出場選手のお話は、これから生きていく中でとても役に立つと思う。

6. 体験したものに○を付けてください。（複数回答可）

①車いすテニス：15 名　②グランドソフトボール：13 名
③フライングディスク：30 名　④ボッチャ：30 名
⑤サウンドテーブルテニス：18 名　⑥義足の歩行体験：19 名
⑦スラローム　：16 名　⑧パラ選手との交流：14 名
⑨アンチドーピング啓発：13 名　⑩競技用車いす試乗（しじょう）：18 名

7. 現在行っている障がい者スポーツや支援している障がい者スポーツがあれば、お書きください。

競技名	場　所
バレーボール	亀山市立神辺小学校体育館 三重県身体障害者総合福祉センター
吹矢	記載なし
サッカー	つばさ学園
バレーボール	三重県身体障害者総合福祉センター
車いすバスケ	三重県身体障害者総合福祉センター

8. 今後、やってみたい障がい者スポーツ、支援したい障がい者スポーツがあれば、お書きください。

・ボッチャ　・フライングディスク　・サッカー　・バレーボール・障がい者スキー、
・グランドソフトボール　・シッティングバレー　・車いすバスケットボール、
・アーチェリー　・義足の陸上　・バドミントン　・水泳　・車いすテニス

9. 障がい者スポーツを始めたり、続けたりするために必要なことがあれば、お書きください。

・近くに場所と指導者がいること。
・障がい者と健常者がともに楽しめるスポーツ（ボッチャ、フライングディスクなど）ができると大会、企画が増えると交流が進むと思う。
・どこでもだれでも参加できるようなところ。
・実際に義足をつけていらっしゃる方の話を聞く。
・パラ選手のお話でもあったが、義足への補助金を国から出してくれるよう理解を深めるべきだと感じた。
・たくさん体験の場所を増やす。

10. 今後、このような障がい者スポーツイベントで体験したい競技や内容等お聞かせください。

・STT　・バドミントン　・ダンス　・車いすの体験　・ボッチャ　・ソフトボール

・実際に選手に教えてもらいたい。　・義足での競技

11. このフェスティバルの感想や障がい者スポーツに関するご要望等、ご自由にお書きください。

・子供と一緒に障がい者スポーツを知ることができて良かった。

・オリンピアン同様の補助をお願いしたい。

・子供にもいろんな体験をさせられてよかった。

・競技用車いすや義足など、名前を知っていてなんとなくどういうものなのかはイメージできるが、実際に使用してみると難しさや扱い方を自分で感じることができて体験できて良かった。義足の歩き方を少し知ることができたので、この体験を学業で生かしていけるといいと思った。今、PT の学生なので、これからも障がい者スポーツなど知っていきたいと思った。

・障がい者スポーツに興味があったので、今日色々な体験ができて良かった。

・義足技術の向上と全額負担をこれからの改善策として健常者、全体が認識を持つことが大切と痛感した。社会全体の問題提起だ！

・実際に体験して難しさが少しわかった気がする。パラリンピックに興味を持った。

・初めてこのようなフェスティバルに参加して思っていた以上に面白かったので、また機会があれば来てみようと思う。

・すごく楽しかった！ありがとうございます。

・グランドソフトボールが思っていたより難しくびっくりした。

・体験の場所をのぞいて「どうぞ」と言っていただけなかった。やってみたかったのに残念。

・色々な体験ができてとても嬉しい。こういった人たちを少しでも支援できたらいいなと思う。

・とても楽しかった、特にパラリンピック選手との交流ができて良かった。

障がい者スポーツ連携推進プロジェクト 2017

◆チャレンジパラ！ゴールボール、カヌー体験教室

・ゴールボール体験教室

・カヌー体験教室

◆障がい者スポーツ指導者の育成

障がい者スポーツサポーター養成事業

◆障がい者スポーツの理解啓発

見てほしい知ってほしいパラスポーツ（見る・触れる・交流）

・パラリンピック写真展

・パラスポーツ普及啓発事業

公益財団法人兵庫県県障害者スポーツ協会

兵庫県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

平成 24 年 12 月に「兵庫県スポーツ推進計画」を策定し、重点目標に「障害のある人のスポーツ参加者の増加」を掲げ、（１）すそ野拡大（２）環境の整備（３）選手の育成・強化（４）理解向上を計画に推進させている。平成 27 年度からは県立特別支援学校（体育館・グランド）などを障害者スポーツ拠点の整備（施設整備・用具の充実）による活用を展開し、平成 28 年度は企業・大学、関係団体と「障害者スポーツ応援協定」を締結し、スポーツ施設、競技指導の支援を受ける体制に新たな事業も展開している。　また、障がい者スポーツ推進の基盤となる競技団体（連盟・協会）33 組織が設立されており、兵庫県障害者スポーツ協会からの事業助成を受けて活動を展開しているほか、パラスポーツ推進プロジェクトとして選手発掘育成事業、地域への振興目的に「出前スポーツ教室」、パラリンピック写真展を含むパラアスリトによる講演プログラムとして障がい者スポーツの理解啓発事業、兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会や全国車いすマラソン大会の開催などにより、障がい者の積極的な社会参加の促進等に取り組んでいる。兵庫県は、瀬戸内と日本海にまたがる地理的条件があり、障がい者スポーツ普及に地域格差は否めない。また、これまでの歴史の中で肢体不自由者のスポーツ、室内環境でのスポーツ普及に傾注してきた実情もある。その背景には、地域のスポーツ環境や障がい者スポーツ関連の事業数、市町のスポーツ推進委員との関係、障がい者スポーツ指導者の活動や地域総合型スポーツクラブの状況等、地域によってさまざまな条件に格差があることに起因する。

それぞれの地域における障がい者スポーツ推進への課題解決には、平成 28 年度取り組んだ障がい者スポーツ応援協定を締結した企業（23)、団体（７）や大学・専門学校（16）との連携への行動に期待がかかる。さらに競技関係団体や兵庫県障害者スポーツ協会から各団体・機関との連携を強化し、障がい者スポーツ教室の開催、障がい者スポーツ指導者の活用推進、地域スポーツ関係者の理解、教育関係者への呼びかけなどにより、この事業を実施し、障がい者スポーツのすそ野拡大を目指すとともに、今後の障がい者スポーツ推進の基礎となる体制づくりを推進することとする。

②事業の目的・ねらい

（１）障がい者スポーツ教室の開催

障がい者スポーツのすその拡大にゴールボールとカヌーを導入し、スポーツ教室を開催する。その企画・開催を地域スポーツ関係者や関係団体との連携を図ることで新たな関係化を創生させる。

（２）障がい者スポーツ指導者の育成

平成 28 年度に障がい者スポーツ応援協定を締結した大学等との協働で障がい者スポーツ指導者協議会やスポーツ団体の助言指導を受けながら障がい者スポーツ講座、プチ体験事業等の企画から実施に取り組む。その展開が企画力や実践力を育成させる。

（３）障がい者スポーツの理解・啓発

市町自治体、地域のスポーツ、福祉関係団体等と連携して、パラスポーツ体験交流事業、パラ写真展、講演事業を展開し、多くの市民への理解啓発を図る。

③事業実施概要

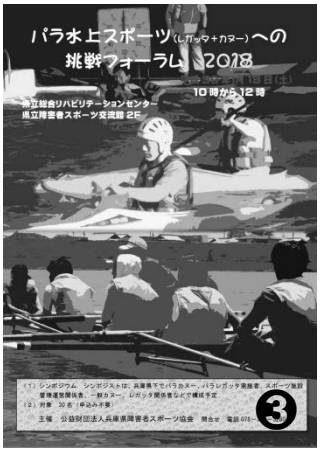
（1） 障がい者スポーツ教室の開催　　＊（ ）参加人数

事　業　名	チャレンジパラ！“ゴールボール、カヌー体験”教室
日　時	第1回　ゴールボール：平成29年6月18日(日)　9:30-16:30 第2回　ゴールボール：平成29年7月25日（火）9:30-15:00 第3回　ゴールボール：平成29年10月15日（日）13:30-15:00 第4回　ゴールボール：平成29年11月11日（土）10:00-12:00 第5回　ゴールボール：平成29年12月1日（金）13:20-15:10 第6回　カヌー体験　：平成29年12月2日（土）1000-16:30 第7回　パラ水上スポーツへの挑戦ふぉーらむ：平成30年1月13日(土) 10:00-12:00
場　所	第1回　神戸国際大学体育館　（兵庫県神戸市）(50) 第2回　御津体育館　（兵庫県たつの市）(40) 第3回　国立神戸視力障害センター（兵庫県神戸市）(20) 第4回　イーグレ姫路体育館　（兵庫県姫路市）(25) 第5回　福崎中学校体育館（兵庫県神埼郡福崎町）(274) 第6回　ふれあいスポーツ交流館（兵庫県たつの市）(33) 第7回　障害者スポーツ交流館（兵庫県神戸市）(12)
参　加　者	454名（障害者　91名、健常者　363名など）
ス　タ　ッ　フ	講師25名、指導員26名、協会職員10名
補　助　員	37名　施設職員　6名　大学職員　5名 障がい者スポーツ指導員　26名（初級22名、中級2名、上級2名）
協　力	兵庫県ゴールボール協会／姫路市ボランティアセンター／姫路市まちづくり機構／日本パラカヌー協会／スポーツクラブ21（地域総合型）
連　携　組　織	兵庫県障害者スポーツ連絡協議会／障害者スポーツネットひょうご 近畿地区カヌー関係組織／フレスコサポーティングクラブ 日本パラカヌー協会／加古川市教育委員会／兵庫県カヌー協会
事　業　内　容	（1）ゴールボール教室 ・ゴールボールの概要説明（歴史、競技規則、地域の普及状況） ・視覚障害学習（視覚障害の基礎知識、視覚障害と社会参加への手引き） ・ゴールボールの体験（投球、捕球、コントロール、周囲情報の獲得と動作、簡易ゲーム） ・交流プログラム（視覚障害選手との交流プログラム） ・ディスカッション「視覚障害者スポーツの支援と実践」 （2）カヌー体験教室　＊温水プールで7艇 ・カヌーの基礎知識（歴史、競技とレジャー、用具知識、介助の方法） ・カヌーの体験1（カヌーの扱い方、安全基礎知識、カヌーへの移乗、パドルの使い方、転覆時の対応） ・パラ水上スポーツへの挑戦フォーラム：パラレガッタとパラカヌー関係者との情報交換と水上スポーツ環境管理者との現状と課題から今後の取り組み発信へと導く。 ・フォーラムでは、4年前から取り組むパラレガッタ関係者、加古川漕艇場管理関わる加古川市スポーツ振興課との連携化を図る。

①ゴールボール　②カヌー体験教室　③パラ水上スポーツへの挑戦フォーラム







④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨　ゴールボール体験教室（講習、体験、交流）













⑩　⑪　⑫　⑬　⑭　カヌー体験教室（講習、体験、交流）　⑮フォーラム













（2）障害者スポーツ指導者の養成

事　業　名	障がい者スポーツサポーター養成事業
日　　時	第1回　平成29年7月5日（水）14：00-16:00 第2回　平成29年7月24日（月）13:00-16:00 第3回　平成29年9月30日（土）13:00-15:00 第4回　平成29年12月9日（土）15:00-16:30 第5回　平成30年1月13日（土）14:00-17:00
場　　所	第1回　兵庫県庁内会議室　（兵庫県神戸市）(49) 第2回　流通科学大学講習室・体育館（兵庫県神戸市）(90) 第3回　姫路市中央体育館　（兵庫県姫路市）(15) 第4回　姫路市商工会議所（兵庫県姫路市）(75) 第5回　兵庫県立障害者スポーツ交流館（兵庫県神戸市）(8)
参　加　者	237名　障害者スポーツ応援協定締結企業、大学関係者(49)、大学生(90)、スポーツ推進員リーダー(15)、スポーツ推進委員(75)
スタッフ	40名　講師(４)、日本パラリンピックサポートセンター(3)、大学教職員(10)、県障害者スポーツ協会(16)、兵庫県ローンボウルズ連盟(2)姫路エストレラ(2)、ボッチャ協会(2)、兵庫FD協会(1)、
補　助　員	13名　障害者スポーツ指導員(5)、姫路市スポーツ振興課(4)、アンプティサッカークラブメンバー(4)、
連携組織	流通科学大学、日本パラリンピックサポートセンター、兵庫県スポーツ振興課、姫路市スポーツ振興課、姫路市中央体育館、兵庫県ボッチャ協会、兵庫フライングディスク協会、兵庫県視覚障害者福祉協会
事業内容	（1）障害の理解と対応に「あすチャレアカデミー」を実施。 （2）「障がい者スポーツサポーター」講義：学生ができる障害者スポーツ支援(60分)、アンプティサッカー体験と障がい者との交流(60分)、障がい者スポーツ支援というテーマでディスカッション。 （3）スポーツ推進委員リーダー：障害の理解講義、パラリンピック写真から学ぶもの、ボッチャを素材にした各障害への応用体験授業。 スポーツ推進委員：生涯スポーツとしてのローンボウルズ導入について当事者が講師を務める。また、姫路市内で活動する知的障害者サッカーチーム「エストレラ」の実践報告。 （4）競技団体からのボランティア要望調整などの意見交換

①　障害者スポーツ応援協定締結企業・大学への講座　②　大学生を対象にしたサポーター養成
③　④　⑤スポーツ推進委員対象にした座学と体験プログラム ⑥　サポーター養成意見交換会













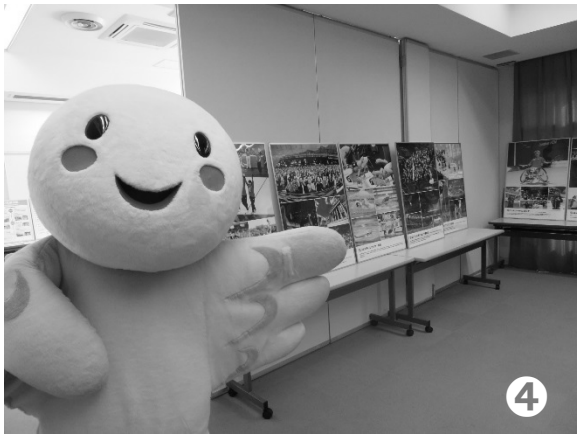
事　業　名	見てほしい知ってほしいパラスポーツ！（見る・触れる・交流） （1）パラリンピック写真展
日　　時	平成 29 年 6 月 5 日～1 月 26 日　全 96 日間
場　　所	三田市、神戸市高塚高校、高砂市総合体育館、神戸国際会議場、神戸市鈴蘭台小学校、たつの市新宮町光都、篠山市役所、姫路市中央体育館（3）、ユニバー記念競技場、滝野総合公園体育館スカイピア、富士通テン工場内、加古川市プラザホテル、明石駅前ホール、神戸しあわせの村、神戸ハーバーランド UMIE、神戸元町 6 丁目商店街、神戸トヨタハートフルプラザ、篠山市民ホール（2）、東リいたみホール　計 22 か所
参　加　者	15,766 名 単体事業または関係事業に合わせて実施した。
スタッフ	74 名　兵庫県障害者スポーツ協会(30)　会場施設職員（12）　実施主体職員（25）　企業（7）
補　助　員	12 名　　障害者スポーツ指導員
連携組織	市町福祉関係機関、地域公共スポーツ施設、小中高等学校、障害者スポーツ団体、ロータリークラブ、市町社会福祉協議会、市町体育協会など
事業内容	「パラリンピック写真展」（サイズ A1、50 枚）を通じて、障害者スポーツの理解啓発を図る。また、小中学校では当協会が年間通じて実施する「障害者スポーツ出前講座」（講演、障害者スポーツ教室、交流事業）の実施に合わせ数日前から学校内、公共スポーツ施設内に展示した。 企業においては「障害者スポーツ応援協定」締結の式典などの場で同時開催し、地域社会の環境を活用した取組み。

パラリンピック写真展　①木口記念会館　②スポーツ推進委員リーダー研修会
③ひめじ DO スポーツデイ事業会場　④パラスポーツ王国 HYOGO＆KOBE（こうべしあわせの村）









事　業　名	見てほしい知ってほしいパラスポーツ！（見る・触れる・交流） （２）パラスポーツ普及啓発事業（姫路市、伊丹市）
日　　時	（１）姫路市：平成 29 年 12 月３日(日)　10:00～16:00 （２）伊丹市：平成 30 年１月 26 日（金）18:30～20:30
場　　所	（１）姫路市：姫路市中央体育館 （２）伊丹市：東リいたみホール
参　加　者	1,303 名　障害者　106 名　一般　　1,197 名 姫路：障害者　98 名　一般 1,102 名 伊丹：障害者　８名　一般 95 名
スタッフ	324 名　兵庫県障害者スポーツ協会(9)　障害者スポーツ指導員(13) 会場施設職員 (12)　実施関係体職員 (25) 障害者スポーツ団体(55) 一般競技団体（210）
補　助　員	61 名　　ハーベスト専門学校(55)　伊丹アスリートクラブ（6）
連携組織	姫路市スポーツ振興課　姫路市まちづくり振興協会　JAM ネット　福祉関係機関、地域公共スポーツ施設、小中高等学校、障害者スポーツ団体、伊丹市体育協会など
事業内容	（１）「ひめじ Do！スポーツデイ」地域市民を巻き込んだ例年実施されるビッグイベントに共催。同事業に初の「障害者スポーツ」をプログラムに組み込み①ゴールボール②シッティングバレーボール③ボッチャ④フロアホッケー⑤障害者空手道⑥卓球バレー⑦パラトライアスロン⑧障害者ストリートダンスなどの協力で実施。会場には約 1200 名来場。一般スポーツ関係者との協働で企画実施した。 （２）「いたみ De 障害者スポーツ発信！ふぉーらむ」 伊丹市障害者スポーツ協会との共催で日本サッカー協会グラスルーツ推進部長松田薫二氏による基調講演、第２部パネルディスカッションではパネラーに伊丹市障害者スポーツ協会副会長吉野真旨氏、ヴィッセル神戸石末龍治氏、前段講師松田薫二による地域における障がい者スポーツのヒントを探る企画実施。同会場にはパラリンピック写真展同時開催。

①　ひめじ Do スポーツデイ　　②いたみ De 障がい者スポーツ発信！ふぉーらむ





★ひめじ Do スポーツデイ（体験、デモンストレーション、交流）＊⑨は学生ボランティア



















いたみ De 障がい者スポーツ発信！ふぉーらむ



















④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

本県においても、障がい者スポーツ指導者の活動には、「競技別・障害別」に支援関係化となることが否めない。その背景で地域における障がい者スポーツ振興を推進させるための方策は長年の課題である。その対応に県の行政区分である「阪神、神戸、東播磨、中播磨、北播磨、丹波、但馬、淡路、西播磨、淡路」地域に準じた障がい者スポーツ指導者協議会の理事を組織化し、定例会議（2ヶ月1度）を開催して「地域に根差した障がい者スポーツ」に取り組む機会が本事業に好影響を与えた。「ゴールボール体験教室」では、指導者協議会中播磨地域の会員を中心に活動が展開され、また、「カヌー体験教室」では、企画する主催者側も知識経験は皆無、先ずは同県内で開催される「チャレンジカヌー教室」に参加し、カヌースタッフに他県の障がい者スポーツ指導者が関与していた。県内の協議会から他府県の会員との関係が生まれることで活動への契機となることがあった。このカヌー事業への協力を募集すると日頃接することが少ない「カヌー」への関心は高く予定人数は即時応募を受け「活動」に好感度であった。「活用」とは活動するスポーツによって大きく変わることを実感した。

「障がい者スポーツサポーター養成事業」では、企業・大学やスポーツ推進委員を対象にしたプログラムから、平日日程や地域性も起因し障がい者スポーツ指導者の活動・役割設定が困難でもあった。今後は地域密着型で障がい者スポーツ指導者の存在周知を図り、活動の場を探り、創りだすことが活動を活性化し役割が明示された。障がい者スポーツ指導者の活動とは大会行事に直接活動する「直接型」に終始することなく、自分の生活スタイルに合わせた取り組みの可能性を認識された。具体には「障がい者スポーツ指導者」存在と活用周知作業や現ホームページコンテンツ「地域情報」を更新するなどこれまでとは異なる「役割」の意義と対応が急務である。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

事業実施に関わる障がい者スポーツ団体、障害者スポーツ協会、行政との接点は希薄であった。また、障がい者スポーツ指導者間と本協議会地域領域では十分な組織力がなかった。

（2）実際の事業での役割分担

・障がい者スポーツ団体：ゴールボール教室では、「兵庫県ゴールボール協会」が会場探し、参加促進、関係団体との調整し実施した。
・企業、大学での事業は、各主管者側の自主性を優先し、数度の打合せを重ねて実施要領を体験する役割分担であった。
・事業に係る手話通訳、要約筆記の手配など地域資源の活用は分担した。

（3）事業後の関係性の変化

・競技団体（ゴールボール）との活動が促進され、兵庫県障害者スポーツ協会と関係強化
・「ひめじDo！スポーツデイ」への共催から複数の会議に出席し、地域の関係団体・組織に地元行政と関わりが深まり、スポーツ行政として課題、今後の事業計画に障がい者スポーツ指導者協議会に兵庫県障害者スポーツ協会等が「協力団体」と認識された。
・「いたみDe障がい者スポーツ発信！ふぉーらむ」では、伊丹市障害者スポーツ協会、伊丹市体育協会との連携が発展し、「共生スポーツ」として推進された。

（4）その他

連携を仕掛けるキーマンの存在、そのひとを繋げる契機に兵庫県障害者スポーツ協会の組織機能が重要であることが検証された。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

・ゴールボールのボール、プロテクター（肘、膝、体幹)、アイシェードは、出前スポーツ教室必須用具で大活躍であった。また、自主的に「ゴールボール体験授業」を実施する学校からの借用希望もあり、貸し出しをした。

・障がい者スポーツフェスティバル「パラスポーツワールドひょうご 2017」(11 月 23 日神戸ハーバーランド)、「ひめじ Do！スポーツデイ」(12 月 3 日姫路市中央体育館)、「夢プロジェクトパラスポーツ王国 HYOGO&KOBE」(11 月 11 日神戸しあわせの村）においての体験コーナーで活用された。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

・管理：兵庫県立障害者スポーツ交流館（神戸市西区）で原則保管し、管理台帳と使用簿により活用する。また、一部は「兵庫県ゴールボール協会」に暫定保管とし、円滑な事業推進を図る。

・活用予定：「ゴールボール体験教室」は今後もゴールボール協会の自主事業として、兵庫県障害者スポーツ協会事業（出前教室、理解啓発体験イベント他)、地域福祉、学校教育や企業等からの要望に貸出し活用する。

⑦事業の成果および評価（達成度）

・スポーツ教室の開催

○ゴールボール体験教室：予定事業数を越えた回数を実施し、参加者数も目標に達した。各事業の企画、準備と調整による開催の流れは「兵庫県ゴールボール協会」に委ね事故もなく、ゴールボールを認知させる成果と考える。しかし、視覚障害児・者の参加促進は厳しく、盲学校（神戸市立、兵庫県立）への参入には「体育授業でゴールボールを実施している」との回答で学校授業内では、実施できなかった。

○カヌー体験教室：事業実施計画は２回、体験教室１回で 2 回目は「フォーラム」を実施する状況となった。体験事業では予定人数 40 名には達しなかったが日程、プール環境、サポートスタッフ数、障がい者スポーツ指導者向け講習実施には適した人数参加であった。その準備・運営には、日本パラカヌー協会強化指定選手（兵庫県 2 名）が参画し、今後の取組む関係が強化された。また、カヌー愛好家によるボランティア参加など予定外の協力は今後の活動に大きな成果となった。実施後も 4 市の関係機関、スポーツ施設から次年度開催申出があった。そして、会場となった「ふれあいスポーツ交流館」は県下初の障害者カヌー体験プログラム事業を計画し、その事業を支援協働するにカヌー4 艇を整備する。

・障害者スポーツ指導者の養成（障がい者スポーツサポーター養成事業）

○大学・企業対象：平成 28 年度兵庫県障害者スポーツ応援協定締結（50 団体）との関係から「大学や企業が支援する障がい者スポーツ」をキーワードに導入プログラムとして「あすチャレアカデミー」（日本財団パラリンピックサポートセンター）を実施。第 2 段階で具体の事業展開に大学 1 校、企業 1 社による学生及び企業従業員へのアプローチは次へ繋がることを実感。その後、メンタルケアフットサル大会、フライングディスク大会、他の障害者スポーツ事業にスタッフとして参加行動が現れている。また、スポーツ推進委員には「兵庫県スポーツ推進委員リーダー研修」を実施した結果、「兵庫県全県スポーツサミ

ット」での会場で障がい者スポーツの具体実践例を県下スポーツ推進委員へ講習会として導入することができた。また、これを契機に市町のスポーツ振興課より講習会・研修会企画の相談と実施への依頼があり同年度、次年度に実施される。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

○ゴールボール、カヌー体験教室：ゴールボールの普及には「ボール、プロテクター、アイシェード」などの専用用具を必要とし、今回の用具整備により継続性と普及の期待が十分に見込まれる。カヌー体験教室を企画実施したことは、障がい者スポーツの選択肢を増やすことは当然ながら支援者や関係組織に環境との必然の連携が生まれることを体験し、カヌー教室においては次年度への実施申請の相談件数が複数、また、公共施設屋外プールでは 9 月から 10 月の利用の拡大にヒントとなり、その関心が今回の発展形と継続を見込む。

○障害者スポーツ指導者の養成（障がい者スポーツサポーター養成事業）

本事業の実施にあたり、平成 28 年度本協会が取組む「障害者スポーツ応援協定」の事業推進に複数の企業や大学と障がい者スポーツの現場（大会、練習環境、指導、交流）の需要と供給に好循環に発展した。本年度においても応援協定の企業や大学は増えてる状況に「見る・する・支える」大きな効果と継続性が見込まれる。

○見てほしい知ってほしいパラスポーツ！（見る・触れる・交流）

「パラリンピック写真展」は、反響大きく市町の自治体や大学企業から好評を受け、貸出し日程調整、運搬方法、管理条件などの検討が余儀なくされる。本事業は写真展という単一事業ではなく、集客大きいイベント会場で実施することが重要であり、より事業周知を高めて発展させていけることは確実である。「ひめじ Do！スポーツデー」は共催姫路市からの評価高く、次年度も協働開催の申し出がある。その予算化や実施方法は今後の検討事項である。「いたみ De 障がい者スポーツ発信！ふぉーらむ」は、伊丹市体育協会、伊丹アスリートクラブの事業計画とマッチングさせた経緯で実現ができ、受講者も同市、それ以外の地域、他府県からの受講者があり、「地域における障がい者スポーツ振興」には、一般競技団体との関係づくりの発展の手掛かりと実感した。次年度は伊丹市障害者スポーツ協会と伊丹市体育協会との関係が強化され、同様の事業が実施される見込みである。

⑨おわりに

（1）所感

今年度の事業は、「オリンピック・パラリンピック東京 2020」の影響による市町スポーツ振興課、企業や大学の関心が功を奏していると実感する。さらに平成 27 年度から兵庫県が「障害者スポーツ推進プロジェクト」取り組む事業等が大きく好循環をもって取り組めたと考える。県市町スポーツ振興課をはじめ、企業や大学、団体とのネットワークを構築して行くことの重要性を再認識させ、更なる加速には「障がい者スポーツ」を拡大させた「生涯スポーツ」をも範疇に含んだ計画、スポーツを通じたコミュニティづくり、高齢社会に向けた健康づくりへの寄与に関連する事業計画が大切である。障がい者スポーツに支援したいがどのようにどこに誰に問い合わせたしたらと悩み迷う地域社会があることは大きな発見気づきであり、発信力と工夫次第でその期待と成果があるものと考える。「待つ」のではなく、営業的な計画と行動が障がい者スポーツの振興のカギを握り、2020 年以降への計画と見直し、2021 年ワールドマスターズゲームスへの協調と参画は言うまでもない。地域におけるコミュニティの希薄化は、障害ある者

も同様であり、不特定多数の個人を対象にした事業展開は厳しい現実も否めない。今後の取組みは、県下（市町）の地域スポーツ振興を担う「スポーツ振興課」の計画と特別支援学校、障害者就労事業所、福祉施設との関係づくりは、従来の福祉レベルの関係を醸成させることで目標達成への道筋と考えた。しかし、企業、学校関係においては平日実施者の確保、用具の運搬、障害スポーツ選手の安定供給、経費には別な不安があることも現実である。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

・体験型スポーツ教室：ゴールボールにおいては、既存の団体（県ゴールボール協会）の主体性を尊重した事業企画、実施、報告という分担を実施要領とした。カヌーにおいては、本年度日本パラカヌー協会強化指定選手（兵庫県2名）を軸に打合せ、準備を踏まえて実施した。また、単年度で終わることなく継続できる環境さがし、4年前から活動するレガッタチームとの協働で組織作りを念頭においた「フォーラム」に仕掛ける意図が動き始めた。

・障害者スポーツ指導者の養成（障がい者スポーツサポーター養成事業）：兵庫県障害者スポーツ協会と応援協定を締結した企業や大学のスポーツ施設の提供、指導の充実（実業団チーム）等は本事業と重ねたことが円滑な取組となった。

・見てほしい知ってほしいパラスポーツ！（見る・触れる・交流）：パラリンピック写真展においては、本協会が実施する「障害者スポーツ出前事業」、障害福祉サービス事業所で製造する 授産商品のコンテスト開催の「スィーツ甲子園」、市民が参集する「篠山市民センターまつり」など人が多く集まる機会に展開できることをポイントとした。

・「ひめじDo！スポーツデー」「いたみDe障がい者スポーツ発信！ふぉーらむ」：両事業はゼロから作り出す仕様ではなく、両市関係機関が計画する、または継続された事業に「障がい者スポーツ」をコラボレーションさせることで相互に時間、環境、運営スタッフ、経費の効率性を求めて実施した。

（3）事業を継続実施した成果・変化（前年度の課題に対し、どんな意識で取組み、工夫したか）

・前年度の地域における障がい者スポーツ推進に係る事業が、組織や口コミで広がりはじめ、相談依頼件数は増加する。

・スポーツ推進委員との関係強化を意識したことで市町関係部局との関係化が生まれ、次年度の研修企画、地域における事業提案、ハード整備（ユニバー札な施設環境）の助言などへの期待が伺える。

・前年度本協会独自で発刊した「ひょうごの障害者スポーツガイドブック」を活用することで障がい者スポーツの概要の理解啓発、各種事業を円滑に進める教材として十分な効果があった。

・前年度経験を活かして本協会が取組む通常事業への参考にした。よって、本来協会が実施する事業には円滑な進め方、事業の充実が高まった。

⑩資料

開催要項、参加申込書、チラシ、配布資料など

障がい者スポーツサポーター養成事業実施要項



障害者スポーツサポーター養成事業
（公財）日本障がい者スポーツ協会委託事業

主　催　（公財）兵庫県障害者スポーツ協会
協　力　流通科学大学
日　時　平成 29 年 7 月 24 日（月）12：30 集合　13：00－16：00
会　場　神戸市西区学園西町 3-1　☎078-794-3555（代表）
対　象　流通科学大学 90 名（一回生）
スケジュール　（1）座学　障がい者スポーツの概要と支援
（2）実習「アンプティサッカー体験と交流」

時間	内　容		備考
12:30	●集合（選手 4 名スタッフ 1 名予定）兵障害者スポーツ協会（2 名） 辻・川村・片岡・雨堤・平谷、PC		駐車 3 台 替え室等
12:55	●アスレチック棟に入場 ボール 10 個・コーン 6 個 スクリーン、プロジェクター・椅子等		
	実　習	座　学	
13:00	開校式　本日の流れ説明（入学例） ●挨拶・チーム紹介・障がい者ｽﾎﾟｰﾂについて 【兵会進行　平谷】 アンプティサッカーの紹介・DVD 鑑賞		電源
13:30 ～ 14：25	●選手によるデモンストレーション（1 分） ●学生 45 名体験 1 グループ約 12 名の 4 グループ 1 グループ 8 分×4 回（約 32 分） 学生：ミニゲーム 5 分×2 回 実証応答（約 10 分）	「障がい者スポーツの概要と支援」について 兵障害者スポーツ協会（増田） 谷PC、プロジェクター、スクリーン準備願います。 パワポ＋動画 DVD	
14:30 ～ 16：00	上記同様	上記同様	
16：00	閉　講　式		

障がい者スポーツサポーター養成事業意見交換会要項
平成 29 年度日本障がい者スポーツ協会委託事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」

1　趣旨
地域における障がい者スポーツの振興 には指導者の支援を必要としながら大会や競技力向上には専門性の知識経験が欠かせない。現在、全国障害者スポーツ大会の競技であるフライングディスク、STT（サウンドテーブルテニス）の県大会運営には 更なる円滑な運営を目的に、また、平成 33 年度全国障害者スポーツ三重大会の新競技として導入される ボッチャの競技運営に必要な審判員（補助員含む）の育成を推進させることを 目的とする。

2　主催
公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会

3　出席予定者
兵庫障害者フライングディスク協会、兵庫県ボッチャ協会、兵庫県視覚障害者福祉協会、兵庫障害者スポーツ交流館

4　日時
平成 30 年 1 月 13 日（土）14 時から 16 時

5　会場
兵庫総合リハビリテーションセンター内兵庫障害者スポーツ交流館
兵庫県神戸市西区曙町 1070　電話 078－927－2727

6　内容
（1）今後の取組み検討
（2）サポーター養成対策（期日、会場、受講者、経費など）
（3）その他

問合せ
〒650-8567　神戸市中央区下山手通 5 丁目 10－1　障害者支援課内
（公財）兵庫県障害者スポーツ協会　増田
☎　078-362-3280　FAX　078-362-9040

カヌー体験教室参加申込書



パラカヌー体験教室参加申込書　受付＿＿＿＿

該当項目に選択記入してください。
申込入の個人情報は、守秘し本事業以外では使用しません。
参申込者は本事業に付随する危険を十分理解し、万が一事故やケガについて応急処置対応するが、その責任は主催者側に問わないことを同意することとする。

氏名（フリガナ） 印	□男 □女	生年月日 昭・平　年　月　日　歳	血液型
障害名	補装具	具体に記入	
同意書：参加者が 20 歳未満の方は保護者の署名・捺印 保護者名　印　続柄			
住所　〒			
電話　携帯　FAX			
メールアドレス			
緊急連絡先　電話　名前　続柄			

（1）体験参加者記入

参加区分	□体験参加　□参加者の介助
カヌー経験	□なし　□過去に 1～3 回　□過去に 3～10 回 □過去に 10 回以上
コミュニケーション	□問題ない　□手話通訳要 □その他（具体）
泳力	□泳げる　□泳げない

（2）サポートスタッフ記入※当日午前 10－12 時講習受講必須

カヌー経験	□なし　□過去に 1～3 回　□過去に 3～10 回 □過去に 10 回以上
障害の有無	□ない　□有（障害名：　）
スポーツ関係資格	

問合せ先】〒650-8567　神戸市中央区下山手通 5 丁目 10－1　障害者支援課内
（公財）兵庫県障害者スポーツ協会「カヌー教室係」担当：増田
☎　078-362-3280　FAX　078-362-9040

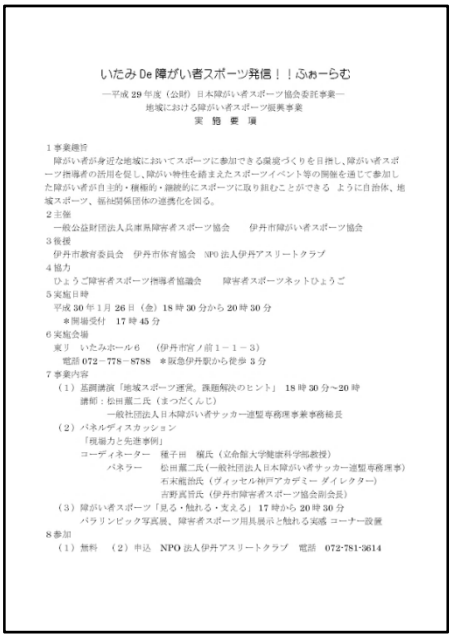


パラリンピック写真展ポスター

ひょうごの障害者スポーツガイドブック 2017
＊サポーター養成他各事業で活用（59 項）



いたみ De 障がい者すぽーつ発信！
ふぉーらむ企画書



いたみ De 障がい者スポーツ発信！！ふぉーらむ
―平成 29 年度（公財）日本障がい者スポーツ協会委託事業―
地域における障がい者スポーツ振興事業
実　施　要　項

1 事業趣旨
障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指し、障がい者スポーツ指導者の活用を促し、障がい特性を踏まえたスポーツイベント等の開催を通じて参加した障がい者が自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができる ように自治体、地域スポーツ、福祉関係団体の連携化を図る。
2 主催
一般公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会　　伊丹市障がい者スポーツ協会
3 後援
伊丹市教育委員会　伊丹市体育協会　NPO 法人伊丹アスリートクラブ
4 協力
ひょうご障害者スポーツ指導者協議会　　障害者スポーツネットひょうご
5 実施日時
平成 30 年 1 月 26 日（金）18 時 30 分から 20 時 30 分
＊開場受付　17 時 45 分
6 実施会場
東リ　いたみホール 6　（伊丹市宮ノ前 1－1－3）
電話 072－778－8788　＊阪急伊丹駅から徒歩 5 分
7 事業内容
（1）基調講演「地域スポーツ運営。課題解決のヒント」 18 時 30 分～20 時
講師：松田麗二氏（まつだくんじ）
一般社団法人日本障がい者サッカー連盟専務理事事業事務総長
（2）パネルディスカッション
「指導力と先進事例」
コーディネーター　種子田　穣氏（立命館大学健康科学部教授）
パネラー　松田麗二氏（一般社団法人日本障がい者サッカー連盟専務理事）
石末雅治氏（ヴィッセル神戸アカデミー ダイレクター）
吉野眞智氏（伊丹市障害者スポーツ協会副会長）
（3）障がい者スポーツ「見る・触れる・支える」 17 時から 20 時 30 分
パラリンピック写真展、障害者スポーツ用具展示と触れる実感 コーナー設置
8 参加
（1）無料　（2）申込　NPO 法人伊丹アスリートクラブ　電話　072-781-3614

和歌山県における障害者スポーツの振興事業

◆障がい者スポーツ教室開催事業

◆障がい者スポーツ活性化事業（団体競技重点的強化事業）

和歌山県障害者スポーツ協会

和歌山県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

本県では、平成29年3月に「第二期スポーツ基本計画」が策定され、「障害のあるなしに関わらずスポーツに参画できる環境を充実させる」という文言が新たに追加された。

また、施策目標の一つである「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」において、障害のある人が日常生活の中でより身近な地域でスポーツを行うことの重要性が、子どもや高齢者などの健常者と並列して明記されている。

他方で、平成27年に本県で開催された第15回全国障害者スポーツ大会により、県民の障害者スポーツに対する気運はますます高まりつつあり、さらなる障害者スポーツの普及拡大、定着が期待されている。

②事業の目的・ねらい

・障害者スポーツ教室を安定的に開催
　各地域において開催してきた教室をベースに、障害者スポーツを活性化させる。
・誰もが身近な地域でスポーツ楽しめる環境を整備
　地域でのスポーツ活動の推進のための人材発掘やネットワークを構築する。
・第15回全国障害者スポーツ大会を契機に形成されたチームの継続と競技力向上
　競技人口の増加に伴うスポーツ環境の維持拡大と、県民へのさらなる認知度アップを図る。また、スポーツを行う環境を継続的に提供することで、日常生活の中にスポーツを取り入れ、障害者の社会参加、健康の増進を図る。

③事業実施概要

（1）障がい者スポーツ教室事業

事　業　名	障がい者のスポーツ教室事業
競技・日時	①水泳　：平成29年8月19日　13:00～15:30 ②卓球バレー　：平成29年8月27日　13:30～15:30 ③カヌー　：平成29年9月 2日　13:30～15:30 ④アーチェリー　：平成29年10月7日　13:30～15:30 ⑤バリアフリーディスクゴルフ　：平成29年10月14日 13:30～15:30 ⑥卓球（悪天候のため中止）　：平成29年10月22日 13:30～15:30 ⑦バリアフリーディスクゴルフ　：平成29年11月12日 13:30～15:30 ⑧ボウリング　：平成30年1月18日　19:00～20:30 ⑨卓球　：平成30年1月21日　10:00～12:00 ⑩ボッチャ　：平成30年1月21日　10:00～11:30 ⑪バリアフリーディスクゴルフ　：平成30年1月21日　11:30～13:00
場　所	①②③④⑥　：和歌山県子ども･女性・障害者相談センター ⑤⑦　：和歌山市河西緩衝緑地公園 ⑧　：和歌山グラウンドボウル ⑨⑩⑪　：那智勝浦町体育文化会館
参　加　者	延べ　190名　（障害者171名・健常者19名） ① 13名　（身体　7名・知的　6名） ② 34名　（身体31名・知的　3名） ③ 27名　（身体　3名・知的24名） ④　6名　（身体　6名） ⑤　9名　（身体　4名・知的　5名） ⑦ 36名　（身体　8名・知的11名・健常者17名） ⑧ 19名　（知的19名） ⑨ 21名　（身体　9名・知的12名）

	⑩　8名　（知的　8名） ⑪ 17名　（身体　2名・知的13名・健常者2名）
スタッフ	延べ96名 障がい者スポーツ指導員15名（上級2名、中級5名、初級8名） 各競技団体30名、手話通訳者1名、卓球部会役員6名、カヌー部会10名、 協会職員4名※上記は実人数
協力 （連携組織）	県障害者スポーツ指導者協議会、県水泳連盟、県卓球バレー協会、 県アーチェリー協会、県障害者フライングディスク協会、県ボウリング連盟、 県スポーツ振興財団、新宮東牟婁障害者施設連絡協議会
事業内容	各競技の競技規則を学び、実技を行う。 バリアフリーディスクゴルフ（⑦⑪）は、指導者の研修会・実技実習を実施し、 体験交流大会に繋げ競技普及を行う。

















（2）障がい者スポーツ活性化事業（団体競技重点的強化事業）

事　業　名	団体競技重点的強化事業
日　　時	Ⅰバレーボール教室 ①第1回：平成29年　7月　1日（土）　10時～12時 ②第2回：平成29年　8月25日（土）　10時～12時 ③第3回：平成29年　9月23日（土）　10時～12時 ④第4回：平成29年11月　4日（土）　10時～12時 ⑤第5回：平成29年11月18日（土）　10時～12時 Ⅱフットベースボール教室 ①第1回：平成30年　1月13日（土）　10時～12時 ②第2回：平成30年　1月28日（日）　10時～12時 Ⅲ全国知的障害者親睦バレーボール大会 平成29年12月23日（土）13時～　24日（日）15時
場　　所	Ⅰ．バレーボール教室 ①④⑤：海南市立海南スポーツセンター　体育館 ②　　：海南市立拝待体育館 ③　　：海南市立総合体育館 Ⅱ．フットベースボール教室 ①：河西公園湊緑地　ソフトボール場 ②：河西公園松江緑地多　目的運動広場 Ⅲ．全国知的障害者親睦バレーボールわかやま大会 岩出市立体育館
参　加　者	延べ　449名 Ⅰ－①24名　②17名　③25名　④12名　⑤23名 Ⅱ－①　8名　②19名 Ⅲ　　321名
スタッフ	延べ　156名 Ⅰ　37名、Ⅱ　17名、Ⅲ　102名
協　　力 （連携組織）	和歌山県バレーボール協会 和歌山県立桐蔭高等学校、和歌山県立向陽高等学校 和歌山県立耐久高等学校、岩出市立岩出第二中学校 公益財団法人和歌山県スポーツ振興財団 わかやまスフィーダ・わかやまイーリス 和歌山県フットベースボールチーム 和歌山県障害者スポーツ指導者協議会
事業内容	Ⅰ、Ⅱについては、現チームの選手の状況をから、新たな選手や支援者の発掘・育成の機会とする教室を開催 Ⅲについては、西日本地域を中心に各地から参加チームを募り、競技力の向上、和歌山県内における障害者スポーツ振興を目的とし、親睦バレーボール大会を開催













④障がい者スポーツ指導員の活用・役割

和歌山県障害者スポーツ指導者協議会に協力依頼し、スポーツ教室の運営指導を行ってもらった。特に県内発の取組となったバリアフリーディスクゴルフの体験交流大会では、ルール説明や審判員などの役割とともに、参加者とともに活動・交流し、スポーツの楽しさを共有するなど、大きな役割を担ってもらっている。

課題としては、各地でスポーツイベント（教室や大会）を開催するにあたって、指導者の人材確保が重要となるが、一部の経験のある指導員が各地域に出向くことが多くなり、経験値に偏りが生じていることが上げられる。各地域毎で活動できる指導員を拡大させるためにも、県内各地での教室を積極的に開催し、スポーツ教室の運営指導を経験値を上げ、今後の活動に活かしてもらう必要がある。

⑤連携について

（1） 事業前の関係性：

安定的に教室等を開催することで、各競技団体及び県障害者スポーツ指導者協議会との連携が深まるとともに、中でも全国知的障害者バレーボール大会では、地域における高校・中学生との交流をはじめ、競技面においても数少ない他府県との実践の場となり、各チームとの友好の場の提供及び競技力の向上がなされ、より連携を深めることができた。

（2）実際の事業での役割：

各競技団体には、各種大会の審判、県障害者スポーツ指導者協議会には、運営・指導の協力を頂いている。当協会としては、事前準備として役員・補助員等の要請・合意や積極的な広報による参加者の確保、施設の確保、保険加入等、また当日のスケジュール管理や安全面の確保等、競技運営の全体的な進捗管理に努めている。

（3）事業後の関係性の変化：

障害者スポーツの各種イベントを新たに競技団体としての年間行事として組み込んでいただき、大会当日の人員配置や運営についてご協力していただけることを確認した。

また、各関係者とは機会あるごとに協働パートナーとして相互の支援協力を行うことができている。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について

・これまでボッチャの補助具（ランプス）を遠方に長期貸し出しすることは不可能でしたが、今回の事業による購入で可能となり、各事業所や学校での活動を長期的に広げることができた。
・ディスクゴルフのゴール等を購入したことで、競技紹介、体験教室、ミニ大会とつなげることができ、2019 年に当県で開催される「ねんりんピックわかやま 2019」に向けての競技普及の拡大が図れた。
・バレーボール、サッカーボールを購入することにより、教室時にひとり 1 球行き渡るようになり、ボールに触れる機会が増加した。

（2）事業後の管理方法と活用方法について

・各種スポーツ大会で活用することはもちろん、当協会における競技用具をホームページや広報誌等で活用を促し、貸し出し等を積極的に行うことで、さらなる競技普及を図る。

⑦事業の成果および評価（達成度）

・事業①⇒スポーツ活動の機会を安定的に提供することができた。また、本事業で購入した競技用具で、新たな競技種目の拡大を図るとともに、参加者のみならず指導者や関係機関と新たな資質向上の機会となった。また、各地域の主要な場所で開催することにより、イベント的要素も加味し、参加者が楽しめる機会を提供できた。また、身近な地域でスポーツができる環境づくりを展開し、新たな人材発掘やネットワークの構築が図られた。
・事業②⇒バレーボール教室では、和歌山県紀北・紀中地域の一般中学校の知的障害特別支援学級設置校に新たに教室開催の案内を行い、また自主的な教員間のネットワークも生じ、チーム主導で中学校や高等学校バレーボールチームとの練習試合や合同練習会を別途開催することができた。また、教室にはじめて参加した者が競技大会に参加するまでに成長した等、選手発掘においても大きな成果があり、選手間の交流、チーム間のネットワークの構築等が図ることができた。親睦バレーボールわかやま大会においては、競技団体とこれまで以上に連携を取ることが確認でき、大会の運営補助としてお手伝いいただいた中学校・高等学校生徒には、障害のある方とのふれあいにより、障害への理解が深まったものと推測される。

　フットベースボール教室では、事業を通じて他チームとの連携が図られ、和歌山県におけるフットベースボール競技の課題等を共有することができた。チーム間を越えた人材の発掘等、問題解決の足がかりとなる教室を開催することができ、今後のさらなる発展が期待される。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

・事業①⇒スポーツ教室を県下広域で均等に振興していくための体制づくりとしては、まだまだ発展途中であり、体制の整備が必要である。徐々に深まりつつ各市町村の福祉担当者やスポーツ推進員との連携を今後も続けていき、さらなるネットワークの構築を図る必要がある。そのためには、地域に出向き、問題点や課題を知る情報交換の機会を増やすことが今後の課題である。
・事業②⇒対象となった２競技については県外チームとの試合や練習の機会を提供することができ、全国規模の指導者同士の繋がりや選手間の交流が構築できたと感じている。
また、定期練習を継続してきたことで競技性の高まりが大きな効果となったが、一方で選手間の競技力の格差が生じていることも事実であり、継続的した教室開催により若年層の取り込み、選手層の拡大により、チームを永続的に活性化させることが重要なポイントとなると考えている。

⑨おわりに

（1）所感

　県内の地理・人員的な問題により、スポーツ教室は紀北地域、特に当センターも所在する和歌山市内に集中する傾向があり、同じ参加者が複数の教室に参加している現状もある。

　スポーツにふれる機会を増やし、様々な参加者を増加させるためにはスポーツに取り組んでいない若年層の参加者の確保が急務と考えられる。障害者の高齢化や開催地域における需要も様々であり、地域に応じた競技種目や課題等を取り入れながら、一元的な教室ではなく状況に応じた開催を行っていくことが必要である。夏休み等の長期休暇中や授業として日中に支援学校を会場としたスポーツ教室を開催するなど、スポーツに触れる機会を増やしていく必要性も感じられた。

そのための指導者確保の一つの方法としては、障害者スポーツ指導員資格を保有しているが活動できていない方々の活用が重要であり、その仕組み作りを複合的に検討する必要があると考えられる。

さらに、継続的にスポーツ教室を計画していく中で、柔軟なマネージメント力の必要性を感じている。多くのボランティアで支えられている競技団体や各種関係団体と年間通した連携で培った信頼関係を活かし、問題点が生じた際も充分なコミュニケーション等による関係性を構築して障害者スポーツの振興をさらに継続して参りたい。本事業を活用し、今回の課題を克服することで、地域に根ざした障害者スポーツになるよう務めていきたい。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

・スポーツ教室を開催するための準備段階として、まずは施設職員などに対して競技体験や紹介などを行った地域もあり、身近にスポーツ振興ができる人材へのアプローチを図ることが重要視された。
・各地域で参加しやすい環境となる学校や施設などを把握し、実践することができた。
・学生ボランティアに協力を得たことにより、若手ボランティア育成のきっかけ作りとなった。

⑩資料

・開催要項、参加申込書、募集チラシ、記録写真

障害者スポーツ教室（前期）

いっしょにスポーツしましょう!

はじめの一歩

★目的

障害者の特性に応じたスポーツ技術、ルール、心構え等の講習に通じ、スポーツに親しむ機会を設けることにより、障害者の福祉の増進に資する。



★参加資格

和歌山県内に住所を有すること。又は、県内に住所を有する施設等に入所・通所・通学している方。

競技を行うにあたり、健康上支障がない中学生以上の方。

身体障害者福祉法に定める身体障害者手帳を所得している身体障害者の方

療育手帳所持者あるいはその取得の対象に準ずる障害のある知的障害者の方

★開催教室





水　泳（25m目標の方）
8月19日（土）
13：30～15：30
身体障害者、知的障害者
子ども・女性・障害者相談センタープール
20名程度

卓球バレー
8月27日（日）
13：30～15：30
身体障害者、知的障害者
子ども・女性・障害者相談センター多目的ホール　30名程度

カヌー
9月2日（土）
13：30～15：30
身体障害者、知的障害者
子ども・女性・障害者相談センタープール
30名程度

アーチェリー
10月7日（土）
13：30～15：30
身体障害者
子ども・女性・障害者相談センターアーチェリー場
10名程度

卓　球
10月22日（日）
13：30～15：30
身体障害者、知的障害者
子ども・女性・障害者相談センター体育館
30名程度

★申込方法

申込用紙により、県障害者スポーツ協会に各教室開催日の５日前までに申し込んでください。

競技の規則や実技をおこないます。服装は、運動に適した服装でタオル、上履きなど必要と思われるものを各自用意してください。

★申込先・問合わせ先　和歌山県障害者スポーツ協会
電話 073-445-7314　ＦＡＸ 073-446-0036

障害者スポーツ教室（後期）

スポーツしよう！参加者大募集！

★目的

障害者の特性に応じたスポーツ技術、ルール、心構え等の講習に通じ、スポーツに親しむ機会を設けることにより、障害者の福祉の増進に資する。



★参加資格

和歌山県内に住所を有すること。又は、県内に住所を有する施設等に入所・通所・通学している方。

競技を行うにあたり、健康上支障がない中学生以上の方。

身体障害者福祉法に定める身体障害者手帳を所得している身体障害者の方

療育手帳所持者あるいはその取得の対象に準ずる障害のある知的障害者の方

精神障害者は、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方。あるいはその取得の対象に準ずる障害のある方

★開催教室

ボウリング
1月18日（木）
19：00～20：30
身体障害者、知的障害者
和歌山グランドボウル
30名程度

卓　球
1月21日（日）
10：00～12：00
身体障害者、知的障害者、精神障害者
那智勝浦町体育文化会館
30名程度

ボッチャ
1月21日（日）
10：00～12：00
身体障害者、知的障害者
那智勝浦町体育文化会館
20名程度

卓　球
2月11日（日）
13：00～15：00
身体障害者、知的障害者、精神障害者
子ども・女性・障害者相談センター
30名程度

テニス
3月11日（日）
10：00～12：00
身体障害者、知的障害者
和歌山市立河南総合体育館
30名程度

ふうせんバレー
3月11日（日）
14：00～16：00
身体障害者、知的障害者
和歌山市立河南総合体育館
30名程度



★申込方法

申込用紙により、県障害者スポーツ協会に各教室開催日の３日前までに申し込んでください。

競技の規則や実技をおこないます。服装は、運動に適した服装でタオル、上履きなど必要と思われるものを各自用意してください。

★申込先・問合わせ先　和歌山県障害者スポーツ協会
電話 073-445-7314　ＦＡＸ 073-446-0036

第2回全国知的障害者親睦バレーボール

わかやま大会



１２月２３日（土）１３：００～　開会式
男子予選リーグ
女子親睦戦

１２月２４日（日）　９：００～　男子決勝トーナメント
女子決勝リーグ

会　　場　岩出市立体育館（岩出市西野２６４）

出場チーム〔男子〕・三重ファイターズ　・ＳＯＮ京都
・春日井クラブ　・北九州ゆうあい
・兵庫排球倶楽部　・福井県男子（ＦＳＶ－Ｍクラブ）
・わかやまスフィーダ
〔女子〕・兵庫ＷＡＶＥＳ　・福井県女子（ＦＳＶ－Ｗクラブ）
・わかやまイーリス



お問い合わせは
和歌山県障害者スポーツ協会
ＴＥＬ　０７３－４４５－７３１４
ＦＡＸ　０７３－４４６－００３６
メール　wssk@nike.eonet.ne.jp

第2回　全国知的障害者親睦バレーボール　わかやま大会　組合せ

12月23日　第1日目

男子（予選リーグ）

A　ブロック					コート
第1試合	13:30～	春日井クラブ	VS	わかやまスフィーダ	A
第2試合	14:45～	福井県男子（FSV－Mクラブ）	VS	わかやまスフィーダ	A
第3試合	16:00～	春日井クラブ	VS	福井県男子（FSV－Mクラブ）	A

B　ブロック					コート
第1試合	13:30～	兵庫排球倶楽部	VS	北九州ゆうあい	B
第2試合	14:45～	SON京都	VS	三重ファイターズ	B
第3試合	16:00～	兵庫排球倶楽部	VS	三重ファイターズ	B
第4試合	17:15～	SON京都	VS	北九州ゆうあい	B

※　上記予選の勝率、獲得セット数、得失点差によりブロックに関係なく順位を決定する。

2日目のトーナメントの配置については、三重県を除く6チームで上位から順にあてはめる。

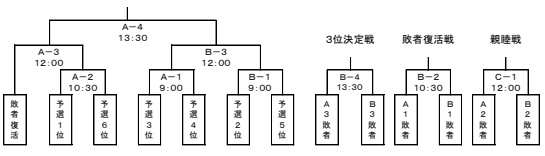
※ 試合展開により、コートを変更する場合があります。

女子（親睦リーグ）

					コート
第1試合	13:30～	福井県女子（FSV－Wクラブ）	VS	わかやまイーリス	C
第2試合	14:45～	三重県・福井県合同チーム	VS	わかやまイーリス	C
第3試合	16:00～	三重県・和歌山県合同チーム	VS	福井県女子（FSV－Wクラブ）	C

12月24日　第2日目

男子決勝トーナメント　A・B・Cコート



女子決勝リーグ

C　コート				
第1試合	9:00～	わかやまイーリス	VS	福井県女子（FSV－Wクラブ）
第2試合	10:30～	兵庫WAVES	VS	福井県女子（FSV－Wクラブ）
第3試合	13:30～	兵庫WAVES	VS	わかやまイーリス

※　勝率、獲得セット数、得失点差を元に順位を決定する。

※　男女とも、第1日目・第2日目の試合開始時刻は、試合展開により早くなることがあります。

広島県における障がい者スポーツ振興事業

◆組織連携推進強化事業（地域推進事業　障害者スポーツ体験会）

◆障がい者スポーツ理解啓発事業（市町開催障害者スポーツ体験会）

◆障がい者スポーツ理解啓発事業（パラスポーツイベント）

◆障がい者のスポーツ教室事業
（特別支援学校・小中学校障害者スポーツ体験会）

広島県障害者スポーツ協会

広島県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

1　はじめに

広島県では，平成 26 年 3 月に障害者プランが策定され，障害者スポーツ競技団体の組織化等の体制整備に向けて，関係団体との協議を進めてきた。また，同年 8 月には，広島県スポーツ推進計画が策定され，障害のあるアスリートが，パラリンピックを始めとする国際大会や全国規模の大会で活躍できるよう，障害者スポーツの県民への普及・啓発と，競技力強化につながる取組を推進し，障害者スポーツ競技団体の組織化などの体制整備に取り組んでいる。

このような背景の中，県内の障害者スポーツを統括する中核的な組織として，全ての県民が障害の有無に関わらず障害者スポーツに親しむとともに，障害者がスポーツ活動を通じて健康の保持・増進や地域社会との交流による社会参加に努め，また競技力向上に取り組むことができるよう，平成 28 年 1 月に広島県障害者スポーツ協会を設立した。

設立後，障害者スポーツの振興事業として様々な取組を実施してきた。昨年度から実施している本事業では，県内の各地域で活動できる障がい者スポーツ指導員の養成や，全ての県民に対し，障害者スポーツに対する興味・関心と理解が得られるよう，また，障害のある方が恒常的にスポーツに取組むきっかけづくりを目指し，普及・啓発を行っている。

本県では，障害者スポーツ指導員の活動の機会を増やすことや，より多くの県民が障害者スポーツを理解し，実際に携わるきっかけづくりを行うため，本事業の継続実施が不可欠となっている。

また，障害者が恒常的にスポーツに取組める環境の整備や，若年代からスポーツに取組むきっかけづくりと，アスリートの発掘・育成に繋げるため，必要な組織体制の整備が課題となっている。

2　事業の目的・ねらい

本事業は，昨年度に引き続き，県内の障がい者スポーツ指導員を始め，スポーツ推進委員や理学療法士等，各地域で障害者スポーツ指導を行える指導員の養成と活動機会の提供を行い，障害者スポーツ普及・振興のための体制づくりを行うことを目的として実施した。

また，パラリンピック競技や障害者スポーツの紹介および体験会を実施することにより，広く県民に対する障害者スポーツの興味・関心に繋げ，併せて障害者スポーツ選手の発掘や障害者スポーツの普及・啓発に繋げることを目的とした。特に，特別支援学校・特別支援学級に在籍する児童，生徒等，若年代を対象とした事業では，若年代からスポーツに取組むきっかけづくりを行うことや，学校および関係機関との連携を深めることをねらいとした。

3　実施概要

（1）◆組織連携推進強化事業（地域推進事業　障害者スポーツ体験会）

事 業 名	平成 29 年度広島県障害者スポーツ協会地域推進事業
日　　時	① 平成 29 年 9 月 2 日（土）　10：00～12：00 ② 平成 29 年 9 月 30 日（土）　13：00～15：00 ③ 平成 29 年 10 月 9 日（月・祝）　13：00～15：30 ④ 平成 29 年 12 月 9 日（土）　10：00～12：30　※時間を変更して実施
場　　所	① 福 山 市（福山市障害者体育センター） ② 廿日市市（廿日市市スポーツセンター　サンチェリー） ③ 三 次 市（広島県立みよし公園） ④ 東広島市（スポーツ交流センターおりづる）※会場を変更して実施
参 加 者	広島県内各地区のスポーツ推進委員，総合型地域スポーツクラブ会員，理学療法士，障がい者スポーツ指導員等　計 36 名 ① 福 山 市　　8 名 ② 廿日市市　15 名 ③ 三 次 市　37 名 ④ 東広島市　10 名
スタッフ	17 名（講師 12 名，スポーツ指導員 3 名，協会職員 2 名）
協　　力	広島県障害者スポーツ指導者協議会，広島大学アダプテッドスポーツクラブ，県立広島大学アダプテッドスポーツクラブ
連携組織	広島県，広島県教育委員会，広島県体育協会，広島県理学療法士会
事業内容	障害の有無にかかわらず参加可能なスポーツの体験会（指導者向け講習会） ［実施種目：ボッチャ・卓球バレー・風船バレー］

事業の様子



福山市（試合形式での風船バレー体験）



福山市（ボッチャの体験とルール説明）



三次市（卓球バレーのルール説明）



三次市（ボッチャでの得点解説）



庄原市（ボッチャにおける得点解説）



廿日市市（ボッチャでのランプ使用体験）



東広島市（風船バレーの体験とルール説明）



東広島市（試合形式での卓球バレー体験）

（2）◆障がい者スポーツ理解啓発事業（市町開催イベント　障害者スポーツ体験会）

事 業 名	リビング食育・健康フェア　障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 29 年 7 月 22 日（土）　10：00～17：00 平成 29 年 7 月 23 日（日）　10：00～17：00
場　　所	基町クレド・パセーラ　ＮＴＴクレドホール
参 加 者	広島県内全域（障害者，興味・関心のある方）自由参加 のべ約 330 名
スタッフ	4 名（スポーツ指導員 2 名，協会職員 2 名）
協　　力	広島県立障害者リハビリテーションセンター スポーツ交流センター
連携組織	広島リビング新聞社
事業内容	広島市で開催された，広島リビング新聞社主催「第 14 回リビング食育・健康フェア」内において，障害者スポーツ体験会を実施。 ［実施種目：フライングディスク，スポーツ吹き矢］

事業の様子



フライングディスク体験



スポーツ吹き矢体験

（3）◆障がい者スポーツ理解啓発事業（パラスポーツイベント）

事 業 名	パラスポーツイベント 2017 「パラバドミントン&障害者スポーツ・レクリエーションスポーツ体験会」
日　　時	平成 30 年 1 月 21 日（日）　10：00～15：00
場　　所	スポーツ交流センター
参 加 者	広島県内全域（障害者，興味・関心のある方）自由参加 のべ約 150 名
スタッフ	5 名（スポーツ指導員 2 名，協会職員 3 名）
協　　力	一般社団法人日本障がい者バドミントン連盟，広島大学，広島大学病院スポーツ医科学センター，広島県障がい者スポーツ指導者協議会，広島県アダプテッドスポーツ学生連盟，広島県立障害者リハビリテーションセンター スポーツ交流センター
連携組織	広島県，広島県教育委員会，東広島市教育委員会，広島県体育協会，広島県バドミントン協会，広島県理学療法士会
事業内容	① パラバドミントン選手によるデモンストレーションと体験交流会 ［講師］一般社団法人日本障がい者バドミントン連盟 古屋　貴啓コーチ 新妻　未来アシスタントマネージャー 藤原　大輔選手 大江　　守選手 ② 障害者スポーツ・レクリエーションスポーツ体験会 ［実施種目］車いすバスケットボール，ボッチャ，フライングディスク， 風船バレー，カローリング，スカットボール ③ 広島大学病院スポーツ医科学センターによる，障害者スポーツにおけるメディカルサポート・フィジカルサポートの事業紹介（パネル展示）

事業の様子



藤原 大輔選手と大江 守選手によるデモンストレーション



古屋コーチによるパラバドミントンの実技説明



障害者スポーツ体験（車いすバスケットボール）



障害者スポーツ体験（ボッチャ）



レクリエーションスポーツ体験（スカットボール）



レクリエーションスポーツ体験（カローリング）



選手と参加者の記念撮影

（4）◆障がい者のスポーツ教室事業（特別支援学校・小中学校での障害者スポーツ体験教室）

事 業 名	小中学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 29 年 10 月 5 日（木）　14：05～15：40
場　　所	北広島町立川迫小学校
参 加 者	小学 1～6 年生（特別支援学級含む）全児童 26 名，教員 10 名
スタッフ	3 名（指導員 1 名，協会職員 2 名）
協　　力	ひろしま障害者フライングディスク協会指導者，北広島町民生委員
連携組織	広島県，広島法務局，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
事業内容	障害者スポーツ体験（フライングディスク）

事業の様子





事 業 名	小中学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 29 年 10 月 18 日（水）　10：40～12：15
場　　所	広島市立亀崎小学校
参 加 者	小学 6 年生（特別支援学級含む）25 名，教員 5 名
スタッフ	4 名（講師 2 名，スポーツ指導員 1 名，協会職員 2 名）
協　　力	広島Ｒｉｓｅ，広島市民生委員
連携組織	広島県，広島法務局，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
事業内容	障害者スポーツ体験（車いすバスケットボール）

事業の様子





事 業 名	小中学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 29 年 11 月 4 日（土）　9：35～11：35
場　　所	東広島市立中央中学校
参 加 者	中学 1～3 年生全生徒（特別支援学級 2 クラス含む）640 名，教員 36 名
スタッフ	10 名（講師 9 名，協会職員 1 名）
協　　力	Ａ－ｐｆｅｉｌｅ広島，東広島市民生委員
連携組織	広島県，広島法務局東広島支局，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
事業内容	障害者スポーツ体験（アンプティーサッカー）

事業の様子





事 業 名	小中学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 29 年 11 月 7 日（火）　13：45～15：45
場　　所	広島市立翠町小学校
参 加 者	小学 4 年生（特別支援学級含む）87 名，教員 5 名
スタッフ	5 名（講師 3 名，スポーツ指導員 1 名，協会職員 1 名）
協　　力	広島Ｒｉｓｅ，広島市民生委員
連携組織	広島県，広島法務局，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
事業内容	障害者スポーツ体験（車いすバスケットボール）

事業の様子





事 業 名	小中学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 29 年 11 月 10 日（金）　10：40～12：15
場　　所	廿日市市立阿品台東小学校
参 加 者	小学 4 年生（特別支援学級含む）38 名，教員 5 名
スタッフ	3 名（指導員 1 名，協会職員 2 名）
協　　力	ひろしま障害者フライングディスク協会指導者，廿日市市民生委員
連携組織	広島県，広島法務局，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
事業内容	障害者スポーツ体験（フライングディスク）

事業の様子





事 業 名	小中学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 29 年 11 月 21 日（火）　13：00～14：30
場　　所	広島市立広島特別支援学校
参 加 者	高等部 1 年生 23 名，教員 10 名
スタッフ	13 名（フライングディスク指導者 1 名，スポーツ能力測定スタッフ 10 名，協会職員 2 名）
協　　力	ひろしま障害者フライングディスク協会指導者，ＴＳＲホールディングス株式会社，広島市民生委員
連携組織	広島県，広島法務局，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
事業内容	障害者スポーツ体験（フライングディスク），スポーツ能力測定

事業の様子





事 業 名	小中学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 29 年 11 月 28 日（火）　10：30～12：00
場　　所	竹原市立忠海小学校
参 加 者	小学 6 年生（特別支援学級含む）18 名，教員 5 名
スタッフ	4 名（講師 2 名，スポーツ指導員 1 名，協会職員 1 名）
協　　力	広島Ｒｉｓｅ，竹原市民生委員
連携組織	広島県，広島法務局，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
事業内容	障害者スポーツ体験（車いすバスケットボール）

事業の様子





事 業 名	小中学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 29 年 11 月 30 日（木）　10：00～12：00
場　　所	東広島市立河内西小学校
参 加 者	小学 1～6 年生（特別支援学級含む）全児童 25 名，教員 10 名
スタッフ	4 名（講師 2 名，スポーツ指導員 1 名，協会職員 1 名）
協　　力	広島Ｒｉｓｅ，東広島市民生委員
連携組織	広島県，広島法務局東広島支局，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
事業内容	障害者スポーツ体験（車いすバスケットボール）

事業の様子





事 業 名	小中学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 29 年 12 月 1 日（金）　13：55～15：45
場　　所	広島市立五日市観音小学校
参 加 者	小学 6 年生（特別支援学級含む）95 名，教員 5 名
スタッフ	5 名（講師 3 名，スポーツ指導員 1 名，協会職員 1 名）
協　　力	広島Ｒｉｓｅ，広島市民生委員
連携組織	広島県，広島法務局，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
事業内容	障害者スポーツ体験（車いすバスケットボール）

事業の様子





事 業 名	小中学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 29 年 12 月 5 日（火）　14：00～15：35
場　　所	広島市立楽々園小学校
参 加 者	小学 3，4 年生（特別支援学級含む）80 名，教員 8 名
スタッフ	4 名（講師 2 名，スポーツ指導員 1 名，協会職員 1 名）
協　　力	広島Ｒｉｓｅ，広島市民生委員
連携組織	広島県，広島法務局，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
事業内容	障害者スポーツ体験（車いすバスケットボール）

事業の様子





事 業 名	小中学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 29 年 12 月 6 日（水）　13：55～15：30
場　　所	広島市立深川小学校
参 加 者	小学 5 年生（特別支援学級含む）89 名，教員 10 名
スタッフ	5 名（講師 3 名，スポーツ指導員 1 名，協会職員 1 名）
協　　力	広島Ｒｉｓｅ，広島市民生委員
連携組織	広島県，広島法務局，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
事業内容	障害者スポーツ体験（車いすバスケットボール）

事業の様子





事 業 名	小中学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 29 年 12 月 11 日（月）　13：50～15：25
場　　所	広島市立口田小学校
参 加 者	小学 6 年生（特別支援学級含む）93 名，教員 8 名
スタッフ	5 名（講師 3 名，スポーツ指導員 1 名，協会職員 1 名）
協　　力	広島Ｒｉｓｅ，広島市民生委員
連携組織	広島県，広島法務局，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
事業内容	障害者スポーツ体験（車いすバスケットボール）

事業の様子





事 業 名	小中学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 30 年 1 月 11 日（木）　13：00～14：30
場　　所	広島県立黒瀬特別支援学校
参 加 者	高等部 3 年生 19 名，教員 8 名
スタッフ	3 名（フライングディスク指導者 1 名，スポーツ指導員 1 名，協会職員 1 名）
協　　力	ひろしま障害者フライングディスク協会指導者，東広島市民生委員
連携組織	広島県，広島法務局東広島支局，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
事業内容	障害者スポーツ体験（フライングディスク）

事業の様子





事 業 名	小中学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会
日　　時	平成 29 年 12 月 20 日（水）　14：05～15：40
場　　所	東広島市立造賀小学校
参 加 者	小学 5，6 年生（特別支援学級含む）36 名，教員 5 名
スタッフ	5 名（講師 3 名，スポーツ指導員 1 名，協会職員 1 名）
協　　力	広島Ｒｉｓｅ，東広島市民生委員
連携組織	広島県，広島法務局東広島支局，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
事業内容	障害者スポーツ体験（車いすバスケットボール）

事業の様子





4　障がい者スポーツ指導者の活用・役割

本事業は，広島県障がい者スポーツ指導者協議会との連携により，昨年度から継続実施した事業である。本県における障害者スポーツ振興の課題として，障がい者スポーツ指導員資格取得後，各地域で実際に指導を行える指導員が少ないことが挙げられている。本事業の実施により，各地域の障がい者スポーツ指導員に対する指導の知識習得とスキル向上に繋げることができた。また，福祉施設職員や学校教員，各種スポーツクラブ指導員等，障がい者スポーツ指導員資格を取得していない参加者が，指導者資格への興味・関心を持ち，障がい者スポーツ指導員養成講習会を受講する等，指導者の養成に繋げることができた。

また，本県では今年度初めて，広島県理学療法士会が主催する中級障がい者スポーツ指導員養成講習会が開催され，本事業においても，障害者のスポーツ指導に関心のある理学療法士の積極的な参加が見られた。

5　連携について

（1）　事業前の関係性

昨年度の事業では，広島県，広島県教育委員会，広島県体育協会，広島県理学療法士会に後援や広報を依頼した。

また，平成 28 年 10 月に締結した 4 者協定（国立大学法人広島大学，広島県障害者スポーツ協会，特定非営利活動法人ＳＴＡＮＤ及び広島県の 4 者による障害者スポーツ分野における連携協力に関する協定）によって，昨年までは主に，広島大学病院スポーツ医科学センターと連携をとり，障害者スポーツとメディカル・フィジカルサポートについて事業を行い，障害者スポーツ選手の全面的なサポートを依託している。

その他，広島法務局，広島リビング新聞社など，これまで連携のなかった機関と，本事業の実施のあたり，企画，運営等で初めて連携をとった。

（2）　実施の事業での役割分担

各事業では，県教育員会や県体育協会など，事業広報や参加者の拡大にご協力をいただいた。

また，県理学療法士会では，今年度初めて理学療法士を対象とした「障がい者スポーツ指導員養成講習会」を実施され，理学療法士が障害者スポーツに携わることへの取組が進められている。本事業でも，多くの理学療法士から参加・協力をいただいた。

また，県内 3 つの大学（広島大学，県立広島大学，広島国際大学）で立ち上げられている，アダプテッドスポーツクラブの学生には，サポーターとして各事業の企画から運営まで全面的なご協力をいただいた。

その他，障害者スポーツ競技団体には，理解啓発を目的とした事業における障害者スポーツ体験会の実技指導や，参加者との交流において多くのご協力をいただいた。

（3）　事業後の関係性の変化

広島大学，広島県理学療法士会とは，障害者スポーツにおける事業実施において，これまでよりも密に情報提供，情報交換を行うことができるようになり，相互の関係を深めている。

中でも，広島大学では，大学全体を通して障害者スポーツへの取組が進められており，多岐にわたる分野から協力を得られるようになっている。

また，学生主体のアダプテッドスポーツクラブには，多くの事業実施にボランティア協力を依頼している。

（4） その他

昨年度から継続して連携をとっている関係機関・団体とは，事業実施によって意見交換を行い，今後に繋がる関係性を持つことができるようになっている。

6　スポーツ用具について

（1） 購入した備品の活用について

特別支援学校や特別支援学級の児童・生徒たちが，より楽しく意欲的にスポーツに取組めるよう，フライングディスクで活用できる「ディスゲッターナイン」1台を購入させていただいた。障害のある子どもたちが，興味を持って楽しくスポーツに取組み，有意義な教室を実施することができた。

（2） 今回の事業後の管理方法と活用予定

購入させていただいた備品を当協会事務局において管理・保管し，要望に応じて，県内各地への貸し出しを行っている。今後も，障害のある子どもたちのスポーツ活動に活かしてもらえるよう，教室の実施や学校への貸出を行い，活用していきたい。

7　事業の成果および評価

事業（1）「広島県障害者スポーツ協会地域推進事業」を通して，県内各地域において，指導者への知識習得とスキル向上の機会を提供することができた。また，各地域の教育委員会やスポーツ施設と連携をとることによって，今後の障害者スポーツ振興に向けた組織連携強化に繋げることができた。

事業（2）「市町イベントでの障害者スポーツ体験会」では，多くの方に，障害者スポーツの楽しさや有効性を紹介するこができ，障害者スポーツの普及啓発に繋げることができた。

事業（3）「パラスポーツイベント」を通して，県民のパラスポーツへの興味・関心に繋げることができた。パラバドミントンの実技体験交流では，パラスポーツ選手に対する理解や，サポートの仕方等について知ってもらうことができた。

また，障害者がスポーツに取組むためのきっかけづくりを行うことができ，今後の障害者スポーツの振興に繋げることができた。

事業（4）「特別支援学校・特別支援学級を含む小中学校での障害者スポーツ体験教室」を通して，障害のある子どもたちのスポーツ活動の機会を提供することができた。普段，スポーツを行う機会の少ない子どもたちにとって，楽しくスポーツに取組む良い機会となった。また，障害者スポーツ大会への参加に向けた情報提供を行うことができた。

一般学校での実施では，障害者スポーツに対する興味・関心に繋げ，障害のある人への思いやりの心を学ぶ機会を提供することができた。

8　事業の今後の必要性

本事業の実施にあたりご協力いただいた関係機関，関係団体との組織連携を強化し，引き続き，県内全域での障害者スポーツの普及・振興に取組んでいきたい。

また，広島大学病院スポーツ医科学センター，広島県理学療法士会等の医療関係機関との連携を強化し，障害者スポーツ選手の育成・強化にも取組んでいきたい。

事業（1）⇒地域によっては参加者が少ない。継続的な実施により各地域との連携を深め，引き続き指導者の育成に繋げていきたい。

事業（2）⇒開催市町が少なかった。複数の市町において開催し，県内全域での障害者スポーツの普及啓発活動を行う必要がある。

事業（3）⇒多くの方に興味関心を持ってもらい，実際に障害者スポーツに携わる人を増やしていくためにも継続実施が必要である。また，障害者のスポーツ活動へのきっかけづくりと，選手の発掘・育成に繋げるためにも機会の提供が必要である。

事業（4）⇒広報時期が遅れ，実施校が予定数に満たなかった。年間行事予定が早期に決定する学校に対しては早めの広報を行い，多くの学校において実施していきたい。

9　おわりに

（1） 所感

本県では，障害者スポーツ指導員の活動の機会を増やすことや，より多くの県民が障害者スポーツを理解し，実際に携わる人を増やすこと，また，障害者が恒常的にスポーツに取組むきっかけづくりと，必要な組織体制の整備が課題となっていたが，本事業の実施により，特に，活動機会の提供，関係機関や障害者スポーツ競技団体との連携，障害者スポーツに対する理解において大きな成果が感じられた。

公的機関，医療機関，教育機関，マスコミ等からの問い合わせや要望も増え，障害者スポーツに対する関心が高まっていることがうかがえる。本事業はこれらの関係機関との連携を深める機会にもなり，障害者スポーツの普及振興に繋げることができた。

（2） 特記事項

・各地域のスポーツ施設に事業の目的を理解してもらうことにより，早めの会場確保を行った。
・県内 3 つの大学で学生主体となって活動する「アダプテッドスポーツクラブ」に協力を依頼し，若い世代の人材を活用した。
・イベント広報では 2,000 枚のチラシと 50 枚のポスターをカラー印刷で作成し，県内の小・中学校や高等学校，関係機関，施設等に配布した。

（3） 事業を継続実施した成果・変化

・昨年度は，事業計画から広報までの準備期間があまりなかったが，今年度は早い段階から準備を行い，広報期間を十分にとることができた。
・昨年度から継続して連携をとった機関，団体との関係を深め，今後の事業実施に向けた意見交換を行うことができた。
・障害者スポーツを支援するスポーツ指導員や理学療法士の活動機会を増やし，若い世代の経験の場を提供することができた。
・障害者スポーツの振興を目的とした事業実施に理解を得られやすくなった。

10　資料

（1） 地域推進事業：開催要項，受講申込書，チラシ
（2） 市町イベント障害者スポーツ体験会：掲載新聞記事
（3） パラスポーツイベント 2017：開催要項，チラシ，パンフレット
（4） 障害者スポーツ体験教室：実施要項

平成29年度広島県障害者スポーツ協会地域推進事業開催要項

1　目　的	県内の各地域で，障害のある人に関わりのある人や，これから関わりを持つ人に対して，障害の有無に関係なく共に楽しめる障害者スポーツを体験してもらうことにより，障害者スポーツの普及・振興を図ることを目的とする。
2　主　催	広島県障害者スポーツ協会
3　後　援	広島県　広島県教育委員会　広島県体育協会
4　協　力	広島県障がい者スポーツ指導者協議会　スポーツ交流センター 広島大学ＡＳＣ　県立広島大学ＡＳＣ
5　日　時	東部会場　9月2日（土）10:00～12:00［福山市障害者体育センター］ 西部会場　9月30日（土）13:00～15:00［廿日市市スポーツセンターサンチェリー］ 北部会場 10月9日（月・祝）13:00～15:30［広島県立みよし公園］ 広島会場 12月9日（土）13:00～15:30［マエダハウジング東区スポーツセンター］
6　開催場所	○福山市障害者体育センター　体育室 〒721-0964　福山市港町1-11-10（TEL 084-931-1833） ○廿日市市スポーツセンターサンチェリー　サブアリーナ 〒738-0033　廿日市市串戸6-1-1（TEL 0829-31-5980） ○広島県立みよし公園　アリーナ 〒728-0016　三次市四拾貫町神田谷カルチャーセンター内（TEL 0824-66-3366） ○マエダハウジング東区スポーツセンター　小体育室 〒732-0068　広島市東区牛田新町1-8-3（TEL 082-222-1860）
7　募集定員	各会場40名程度
8　参加資格	広島県内各地区のスポーツ推進委員，総合型地域スポーツクラブ会員，理学療法士，障がい者スポーツ指導員，教員，施設職員等
9　実施内容	指導者を対象とした障害者スポーツの講習・体験（ボッチャ・卓球バレー・風船バレー）
10　参加費	無料（ただし，参加に係る交通費，駐車場代等は参加者負担とする。）
11　申込み	所定の申込書に必要事項を記入の上，郵送，FAX，メールのいずれかで下記事務局までお申込みください。（申込書はHPからダウンロードできます。） URL　http://www.hpsa.info/　　E-mail　hiroshima-psa@vesta.ocn.ne.jp **《申込み締切：<u>各会場実施日の１週間前まで</u>》**
12　その他	① 必ず運動のできる服装で参加すること。（体育館シューズを持参してください。） ② 講習中の事故に対しては主催者側で応急処置はするが，その責任は負わない。 ③ 参加者は全員，主催者側にて傷害保険に加入する。

【申込先・お問い合わせ先】

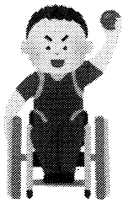
広島県障害者スポーツ協会事務局

〒739-0036　東広島市西条町田口295-3 スポーツ交流センター内

TEL（082）426-3333　FAX（082）425-6789

E-mail　hiroshima-psa@vesta.ocn.ne.jp　（担当：土居・内海・長岡）

平成２９年度広島県障害者スポーツ協会地域推進事業



広島県内４地域で開催

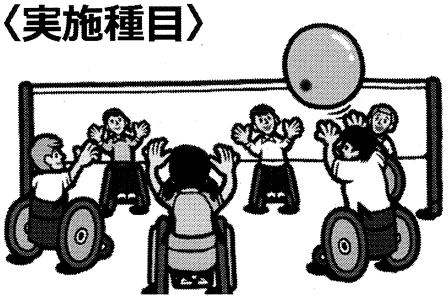
障害者スポーツ体験会

障害のある人に関わりのある人
これから障害のある人に関わりをもつ人
を対象とした指導者向け講習会

○東部会場　　**９月２日（土）福山市障害者体育センター　10:00～12:00**
○西部会場　　**９月30日（土）廿日市市スポーツセンターサンチェリー　13:00～15:00**
○北部会場　**10月９日（月・祝）広島県立みよし公園　13:00～15:30**
○広島会場　**12月９日(土)マエダハウジング東区スポーツセンター　13:00～15:30**

■参加資格　広島県内のスポーツ推進委員，総合型地域スポーツクラブ会員，
理学療法士，障がい者スポーツ指導員，教員，施設職員等
■定　　員　各会場40名程度
■申 込 み　所定の申込書に記入の上，下記事務局までご提出ください。

〈実施種目〉



- **ボッチャ**
- **卓球バレー**
- **風船バレー**



【主　催】広島県障害者スポーツ協会
【後　援】広島県　広島県教育委員会　広島県体育協会
【協　力】広島県障がい者スポーツ指導者協議会　スポーツ交流センター
広島大学ＡＳＣ　県立広島大学ＡＳＣ

【申込み・お問い合わせ】
広島県障害者スポーツ協会事務局　〒739-0036 東広島市西条町田口 295-3
TEL 082-426-3333　FAX 082-425-6789　Mail hiroshima-psa@vesta.ocn.ne.jp

平成２９年度広島県障害者スポーツ協会「パラスポーツイベント２０１７」開催要項

１　目　　的　パラスポーツ選手との交流やパラリンピック競技種目の体験会等を通して，県民の障害者スポーツへの興味・関心に繋げ，併せて障害者スポーツ選手の発掘や，障害者スポーツの理解および普及・啓発を図る。

２　主　　催　広島県障害者スポーツ協会

３　後　　援　広島県　広島県教育委員会　東広島市教育委員会　広島県体育協会　広島県バドミントン協会

４　協　　力　一般社団法人日本障がい者バドミントン連盟，広島大学，広島大学病院スポーツ医科学センター，広島県障がい者スポーツ指導者協議会，広島県アダプテッドスポーツ学生連盟，広島県立障害者リハビリテーションセンター スポーツ交流センター

５　日　　時　平成３０年１月２１日（日）　１０：００～１５：００

６　会　　場　広島県立障害者リハビリテーションセンター スポーツ交流センター アリーナ
（〒739-0036　広島県東広島市西条町田口 295-3　TEL 082-425-6800）

７　内　　容　10:00～　開会式
10:30～　パラバドミントンデモンストレーション
11:00～　パラ選手との交流，体験会
12:00～　障害者スポーツ＆レクリエーションスポーツ体験会
13:00～　パラバドミントンデモンストレーション
13:30～　パラ選手との交流，体験会
14:30～　閉会式（15:00　終了予定）

８　入 場 料　無料

９　申 込 み　不要

10　そ の 他　・体験会に参加する場合は，室内シューズを持参する。
・当日の傷害保険には主催者において加入するが，参加にあたっては，各自の責任において健康と安全に十分留意する。万一，発生した怪我等について，主催者においては応急処置しかできない。

【お問い合わせ】
広島県障害者スポーツ協会事務局
〒739-0036　東広島市西条町田口 295-3 スポーツ交流センター内
TEL（082）426-3333　FAX（082）425-6789
E-mail　hiroshima-psa@vesta.ocn.ne.jp
URL　http://www.hpsa.info/　　（担当：土居・内海・長岡）

TOKYO 2020
応援プログラム
スポーツ・健康

みんなで
パラスポーツを
盛り上げよう！

広島県障害者スポーツ協会
パラスポーツイベント２０１７

日本トップレベルの選手来場！

パラバドミントン

＆ 障害者スポーツ・レクリエーションスポーツ体験会



ふじはら　だいすけ
藤原 大輔 選手

平成30年
1月２１日（日）
10:00～15:00



おおえ　まもる
大江 守 選手

会場 スポーツ交流センター

広島県東広島市西条町田口 295-3
広島県立障害者リハビリテーションセンター内
〈会場へのアクセスは裏面をご覧ください。〉

【イベントスケジュール】

10:00～　開会式
10:30～　藤原選手・大江選手デモンストレーション
11:00～　パラバドミントン体験と選手との交流会
12:00～　障害者スポーツ　＆
　　レクリエーションスポーツ体験会
13:00～　藤原選手・大江選手デモンストレーション
13:30～　パラバドミントン体験と選手との交流会
14:30～　閉会式

■主催：広島県障害者スポーツ協会
■後援：広島県　広島県教育委員会　東広島市教育委員会　広島県体育協会　広島県バドミントン協会
■協力：一般社団法人日本障がい者バドミントン連盟　広島大学　広島大学病院スポーツ医科学センター
広島県障がい者スポーツ指導者協議会　広島県アダプテッドスポーツ学生連盟
広島県立障害者リハビリテーションセンター スポーツ交流センター

【お問い合わせ】広島県障害者スポーツ協会事務局
〒739-0036　広島県東広島市西条町田口 295-3　スポーツ交流センター内
Tel　082-426-3333　Fax　082-425-6789　Mail　hiroshima-psa@vesta.ocn.ne.jp
URL　http://www.hpsa.info/

平成29年度広島県障害者スポーツ協会

「小中高等学校および特別支援学校における障害者スポーツ体験会」実施要項

1	目　　的	県内の小中高等学校や特別支援学校の児童・生徒が，障害者スポーツを体験することにより，障害者スポーツへの興味・関心に繋げ，スポーツに親しむきっかけづくりとなることを目的とする。併せて，障害のある児童・生徒に対して，スポーツ能力測定を行うことにより，対象者に応じたスポーツの情報提供を行い，アスリート発掘に向けた取組を行うことを目的とする。
2	主　　催	広島県障害者スポーツ協会
3	共　　催	広島法務局人権擁護部，広島県人権擁護委員連合会，広島人権擁護委員協議会
4	協　　力	ひろしま障害者フライングディスク協会，広島Ｒｉｓｅ，Ａ－Ｐｆｅｉｌｅ広島，Ｔ・Ｓ・Ｒホールディングス株式会社，広島県立障害者リハビリテーションセンター スポーツ交流センター
5	実施期間	平成29年7月～平成30年1月（実施日は希望学校と調整し，決定する。）
6	実施会場	県内の小・中・高等学校，特別支援学校（全20校　※先着順）
7	実施時間	各校授業2時間（90分程度）
8	対 象 者	実施校に在籍する児童および生徒
9	実施内容	障害者スポーツ体験（車いすバスケットボール，アンプティサッカー，ブラインドサッカー，フライングディスクのいずれか） スポーツ能力測定（スプリント，敏捷性，ジャンプ力，バランス，反応ステップ等） ※スポーツ能力測定は特別支援学校のみ
10	講　　師	県内のアスリートまたは障害者スポーツ指導員
11	参 加 費	無料
12	そ の 他	・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会助成事業「地域における障がい者スポーツの振興事業」として実施。 ・広島法務局「障害者スポーツ人権教室」との連携事業とする。

【申込先・お問い合わせ先】

広島県障害者スポーツ協会事務局

〒739-0036　東広島市西条町田口295-3 スポーツ交流センター内

TEL（082）426-3333　FAX（082）425-6789

E-mail　hiroshima-psa@vesta.ocn.ne.jp　（担当：土居・内海・長岡）

広島都市圏

民生委員の制度100周年

中区で大会 3300人出席 役割再確認

民生委員制度が今年100周年を迎えたのを記念し、県民生委員児童委員協議会（広島市南区）は18日、中区の県立総合体育館で記念大会を開いた。約3300人が出席し、地域福祉の担い手として果たすべき役割を再確認した。

猪上優彦会長が「良き隣人として人々に寄り添う姿勢を守りながら、誰もが安心して暮らせる地域を目指し、まい進しよう」とあいさつ。全員で「あらゆる生活上の相談に応じ、自立の援助に努める」などとする5項目の信条を唱和した。

制度は、岡山県が1917年に貧困対策として設けた「済世顧問制度」をきっかけに全国へ広まった。住民の生活相談などにボランティアで応じている。

協議会には民生委員4059人が所属。高齢化や担い手不足が課題となっている。（奥田美奈子）



民生委員の役割を再確認した記念大会

ご葬儀は 平安祭典 0120-95-1111

〈20日の潮〉

広島港
満潮 9時53分 21時59分
干潮 3時42分 16時00分

呉港
満潮 9時56分 22時02分
干潮 3時44分 16時03分

尾道港
満潮 11時12分 23時12分
干潮 4時58分 17時15分

福山港
満潮 11時29分 23時28分
干潮 5時20分 17時37分

車いすバスケに挑戦

安佐北区の亀崎小6年生

広島市安佐北区の亀崎小の6年生24人が18日、車いすバスケットボールを体験した。障害者への理解を深めてもらおうと、広島法務局などが県障害者スポーツ協会とともに企画した。車いすバスケチームの広島Rise（ライズ）＝呉市＝が実技を交えて教えた。

チーム代表の向山義樹選手(45)＝呉市＝が、競技用車いすは車輪がハの字状に傾き、前部にバンパー、後部に転倒を防ぐ車輪があるなどの特徴を説明。猛スピードで自在に動いたり、ボール争奪戦で車いす同士が衝突する様子を実演したりすると、驚きの声が上がった。

児童は車いすで直進やジグザグ走行に挑んだが、うまく操作できずに回転するなど悪戦苦闘していた。福西真君(12)は「選手は動きの切れがすごかった。足が不自由な人の苦労を知って、思いやりの気持ちが大切だと感じた」と話していた。（山田英和）


向山選手（右端）からボールを奪おうと、車いすをこいで追い掛ける児童

2次リーグが21日スタート

高校サッカー県大会

全国高校サッカー選手権県大会の2次リーグが21日から、コカ・ウエスト広島スタジアムなどで始まる。1次トーナメントを突破した12校と観音、瀬戸内、山陽、崇徳のシード校4校を加えた16校が4組に分かれて総当たりで対戦する。

A組は今夏のインターハイに出場した観音が優位。B組はシード校の瀬戸内に、5大会連続出場を狙う皆実、県総体で皆実を破った工大高に、沼田も加わり激戦が予想される。C組は2月の県新人で優勝した山陽、D組は県総体3位に展開しそれぞれ各組上位5日からのメントに進

＜全国高校サッカー選手権県大会2次リーグ組み合わせ＞

	A組	B組	C組	D組
21日	13:30 呉市総合 観音 — 呉工	13:30 文化学園 工大高 — 沼田	11:00 呉市総合 山陽 — 広島工	11:00 文化学園 崇徳 — 祇園北
	13:30 竹ケ端運動公園 皆実 — 翔洋	13:30 コカ・ウエスト広島スタジアム 瀬戸内 — 皆実	11:00 コカ・ウエスト広島スタジアム 国際学院 — 修道	11:00 竹ケ端運動公園 盈進 — 如水館
22日	13:30 東広島運動公園陸上競技場 観音 — 翔洋	13:30 コカ・ウエスト広島スタジアム 工大高 — 皆実	11:00 東広島運動公園陸上競技場 国際学院 — 広島工	11:00 コカ・ウエスト広島スタジアム 崇徳 — 如水館
	13:30 山陽高 皆実 — 呉工	13:30 竹ケ端運動公園 瀬戸内 — 沼田	11:00 山陽高 山陽 — 修道	11:00 竹ケ端運動公園 盈進 — 祇園北
28日	—	11:00 皆実高 沼田 — 皆実	13:30 皆実高 修道 — 広島工	—
	—	11:00 山陽高 瀬戸内 — 工大高	13:30 山陽高 山陽 — 国際学院	—

呉市総合＝呉市総合スポーツセンター　コカ＝コカ・ウエスト広島スタジアム　東広島＝東広島運動公園陸上競技場　竹ケ端＝福山市竹ケ端運動公園　文化学園＝広島文化学園大


広島サーモンを観察する児童

に食べてほしい」とアピールした。

5年吉本直生君(10)は「詳しい話が聞けた。もっと調べてみたい」と興味を抱いていた。（山瀬隆弘）

バークスホッケースタジアムで強化合宿をし

更新時期を迎えている広島広域公園第二球技場のフィールド

莉奈さん(10)展で北海道を発見し、足を運んでアピールし

山口県における障害者スポーツの推進事業

◆地域障害者スポーツ教室開催事業

◆障害者交流スポーツ大会開催事業

◆障害者スポーツ指導者養成事業

公益社団法人山口県障害者スポーツ協会

山口県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

本県では、平成 25 年度を初年度とする「山口県スポーツ推進計画」（計画期間 10 年）が策定され、「生涯スポーツの推進」、「競技水準の向上」、「人材の育成」、「地域の活性化」という四つの基本方針と 12 の取組方向に基づきスポーツ推進施策を展開している。

この 12 の取組方向の中で、障害者がスポーツに参加しやすい環境づくり、競技力向上を目指した「障害者スポーツの推進」を掲げている。

当協会では、こうした取り組みを受けて、幅広い分野のスポーツ教室や大会の開催、障害者スポーツに欠かせない支援者、専門的知識を持った障がい者スポーツ指導員の養成、全国レベルの競技選手の育成・強化等の事業を推進している。

②事業の目的・ねらい

平成 23 年の全国障害者スポーツ大会「おいでませ山口大会」の成果の確実な継承を図るとともに、2020 年の「東京パラリンピック」を見据えた障害者スポーツの推進に努める。

このため、多様な障害や年齢、性別にかかわらず活動できるレクスポーツの地域への普及や健常者と障害者が一緒にスポーツを楽しめる交流スポーツ大会の開催、また、これらの障害者スポーツを支える指導員や支援者、ボランティアの養成など人材育成・確保を図る。

③事業実施概要

（１） 地域障害者スポーツ教室開催事業

事　業　名	地域障害者スポーツ教室
日　時 場　所	１．　5 月 16 日（火）　山陽小野田市立竜王中学校松原分校（山陽小野田市） ２．　5 月 20 日（土）　高千帆児童館（山陽小野田市） ３．　5 月 31 日（水）　維新百年記念公園（山口市） ４．　6 月 2 日（金）　アクトビレッジ小野（宇部市） ５．　6 月 11 日（日）　宇部フロンティア大学短期大学部（宇部市） ６．　6 月 17 日（土）　宇部フロンティア大学短期大学部（宇部市） ７．　6 月 18 日（日）　山口県身体障害者福祉センター（山口市） ８．　6 月 24 日（土）　サン･アビリティーズ光（光市） ９．　7 月 6 日（木）　山口ウッドムーンネットワーク（山口市） 10.　7 月 8 日（土）　維新百年記念公園（山口市） 11.　7 月 16 日（日）　山口県セミナーパーク（山口市） 12.　7 月 29 日（土）　高千帆児童館（山陽小野田市） 13.　8 月 3 日（木）　ＹＩＣリハビリテーション大学校（宇部市） 14.　8 月 13 日（日）　高千帆公民館（山陽小野田市） 15.　9 月 5 日（火）　山陽小野田市立本山小学校（山陽小野田市） 16.　9 月 7 日（木）　山口ウッドムーンネットワーク（山口市） 17.　9 月 9 日（土）　サンウイング熊毛（周南市） 18.　9 月 10 日（日）　高千帆公民館（山陽小野田市）

	19.　9月16日（土）　高千帆児童館（山陽小野田市） 20.　9月23日（土）　維新百年記念公園（山口市） 21. 10月15日（日）　やまぐちリフレッシュパーク（山口市） 22. 11月 2日（木）　山口ウッドムーンネットワーク（山口市） 23. 11月12日（日）　高千帆公民館（山陽小野田市） 24. 11月18日（土）　山口県身体障害者福祉センター（山口市） 25. 11月18日（土）　高千帆児童館（山陽小野田市） 26. 11月19日（日）　宇部フロンティア大学短期大学部（宇部市） 27. 11月26日（日）　周南市学び･交流プラザ（周南市） 28. 12月11日（月）　萩原自治会館（岩国市） 29.　1月11日（木）　山口ウッドムーンネットワーク（山口市） 30.　1月27日（土）　サン･アビリティーズ光（光市）
参　加　者	延べ895名
スタッフ	延べ135名 審判員7名、障がい者スポーツ指導員109名（初級55名、中級41名、上級13名)、ボランティア6名、看護師1名、協会職員12名
補　助　員	風船バレーチーム「さくらんぼ」
協　力 連携組織	宇部フロンティア大学短期大学部、ＹＩＣリハビリテーション大学校、一般社団法人山口県レクリエーション協会、一般財団法人山口県施設管理財団、有限会社リベルタス興産、山口県グラウンド･ゴルフ協会、山口県ボッチャ協会、山口県ふうせんバレーボール連盟、山口県立宇部総合支援学校、各市、各市教育委員会、各市社会福祉協議会、山口県障がい者スポーツ指導者協議会
事業内容	県内各地域で指導員が中心となってスポーツ教室を開催 学校等で障害者スポーツ体験教室を開催 ＜種目＞　ボッチャ、風船バレー、卓球バレー、スカイクロス、ビーンボウリング、カローリング、スラローム（陸上)、サウンドテーブルテニス、フライングディスク、グラウンド･ゴルフ、スポーツレクリエーション

事業の様子







スラローム



スカイクロス



カローリング



グラウンド･ゴルフ

（2） 障害者交流スポーツ大会開催事業

事　業　名	1．山口県サウンドテーブルテニス大会 2．山口県障害者交流スポーツフェスティバル 3．ヨット体験教室
日　　時	1．平成 29 年 6 月 25 日（日）　9 時 00 分～16 時 30 分 2．平成 29 年 7 月　8 日（土）　9 時 00 分～16 時 00 分 3．平成 29 年 8 月 23 日（水）　9 時 00 分～12 時 00 分
場　　所	1．山口県身体障害者福祉センター（山口市） 2．維新百年記念公園スポーツ文化センター（山口市） 3．山口県スポーツ交流村（光市）
参　加　者	延べ 403 名 （1．40 名、2．341 名、3．22 名）
スタッフ	延べ 133 名 審判員 49 名、障がい者スポーツ指導員 14 名（初級 10 名、中級 4 名）、講師 14 名、ボランティア 35 名、看護師 3 名、トレーナー1 名、手話通訳者 5 名、協会職員 12 名
協　力 連携組織	山口県障害者卓球協会、山口県卓球バレー協会、山口県ボッチャ協会、山口県ふうせんバレーボール連盟、山口県車椅子バスケットボール連盟、山口ウィルチェアラグビークラブ、山口県サウンドテーブルテニス協会、山口県卓球協会、公益社団法人山口県セーリング連盟、一般財団法人山口県施設管理財団、山口スポーツ交流村、山口県、山口県教育委員会、山口県特別支援学

	校長会、一般社団法人山口県身体障害者団体連合会、山口県障害福祉サービス協議会、山口県身体障害者施設協議会、山口県精神障害者福祉会連合会、一般財団法人山口県手をつなぐ育成会、一般財団法人山口県知的障害者福祉協会、山口県障害者社会参加推進センター、山口県障がい者スポーツ指導者協議会
事業内容	１．風船バレー、卓球バレー、ボッチャの交流体験会 風船バレー、卓球バレー、ボッチャ、卓球の競技大会 車椅子バスケットボールとウィルチェアラグビーのデモストレーションと体験 ２．視覚障害者を対象としたサウンドテーブルテニスの競技大会 ３．ヨット（アクセスディンギー)、モーターボート、バナナボートの体験 室積湾をクルージングし、潮風を感じる

事業の様子



フェスティバルでの準備体操



ウィルチェアラグビーの体験



サウンドテーブルテニス大会



ヨット教室

（３） 障害者スポーツ指導者養成事業

事業名	１．山口県障害者スポーツボランティア養成講習会 ２．障害者スポーツ医･科学サポート相談会
日時	１．平成 29 年 11 月 19 日（日）　9 時 30 分～16 時 30 分 ２．平成 29 年 12 月 17 日（日）　13 時 30 分～16 時 30 分
場所	１．山口県立山口南総合支援学校（山口市） ２．パルトピアやまぐち（山口市）

参　加　者	24名 （1．9名、2．15名）
スタッフ	29名 講師4名、障がい者スポーツ指導員1名（初級）、医・科学委員11名、トレーナー2名、手話通訳者2名、協会職員9名（延べ）
補　助　員	風船バレーチーム「るりがくえん」
協　力 連携組織	山口県、山口市、山口市教育委員会、山口市社会福祉協議会、山口市スポーツ推進委員協議会、山口県ふうせんバレーボール連盟、山口県ボッチャ協会、山口県障害者スポーツ医･科学サポート活用推進委員会
事業内容	１．「ボランティア論」の講義 「障害のある人々のスポーツ」の講義 障害者スポーツの体験（風船バレー、ボッチャ） ２．医･科学委員から情報の提供 「アンチ・ドーピングについて」 「発達障害者がスポーツ及びレクリエーションに取り組む意義について」 「日本卓球協会の医科学サポート体制」 「障害者スポーツへのデンタルサポートについて」 トレーナーから支援の実際の報告 全スポえひめ大会の帯同報告 男子知的バレーボールチームのトレーナー活動の報告

事業の様子



ボランティア講習会



医･科学サポート相談会

④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

地域障害者スポーツ教室では、地域差はあるものの、各地域の障がい者スポーツ指導者が企画、運営し、連携団体の協力も得て、継続的にスポーツ教室を行っている。スポーツ大会では、事前の打合せにも参加して準備段階から関わり、大会の運営スタッフや審判員として、講習会では講師や補助スタッフとして活躍している。

⑤連携について

（1）事業前の関係性

競技団体には、これまでも審判員の派遣をお願いしていた。

山口県ふうせんバレーボール連盟と山口ウィルチェアラグビークラブは昨年結成された競技団体で今年度から協力をお願いした。

（2）実際の事業での役割分担

事業では、施設の利用や当日の講師、運営スタッフとして協力していただいた。

競技団体には審判員の派遣もお願いした。

（3）事業後の関係性の変化

事業後、障害者スポーツボランティア講習会や初級障がい者スポーツ指導員養成講習会等当協会主催の講習会に参加してもらえた。

新しい競技団体とは連携を深め、今後も協力していきたい。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

今年度は購入していない。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

⑦事業の成果および評価（達成度）

地域障害者スポーツ教室が継続的に行われるようになり、障害者も障がい者スポーツ指導者も身近な地域でスポーツを楽しみ、交流ができるようになった。スポーツ教室で行うスポーツも種目が増え、指導者の工夫の様子が伺えた。

障害者交流スポーツ大会では障害の有無に関わらず、スポーツを楽しみ交流した。その経験から、競技により関わろうと審判の資格を取得する指導者も少なくない。より専門性の高い障がい者スポーツ指導者が増え、資質の向上に繋がっている。

医･科学サポート相談会では、山口県歯科医師会から情報提供したいという申し出があり、障害者スポーツを支援していただけるきっかけとなった。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

障害者が、生涯にわたって、身近でスポーツに親しむ環境づくりを進めるため、障害者スポーツの推進事業を継続して展開している。

地域障害者スポーツ教室においては、継続的に活動している地域と継続的な活動に繋がっていない地域とがあるため、当協会と障がい者スポーツ指導者協議会との連携・主導により地域間の格差の解消を目指したい。

障害者交流スポーツ大会においては、大会を支えるスタッフの確保に苦労しており、引き続き指導者の育成や関係団体との連携に取り組んでいきたい。また、競技団体の組織強化（運営、資金集め、人材確保等）の研修会の開催も検討したい。

障害者スポーツ指導者養成においては、障害者スポーツに関心を持ってもらう講習会や障がい者スポーツ指導者に情報を提供できる相談会を開催し、人材の確保や資質向上に繋げたい。

⑨おわりに

（1）所感

障害者がスポーツを楽しめる環境づくりに障がい者スポーツ指導者と共に取り組んできたことにより、障害者がスポーツ活動に親しむ機会を提供すると同時に、指導者のスキルも向上している。

リオパラリンピックでの選手の活躍や東京パラリンピック開催の影響を受けて、山口県では、障害者のみならず健常者にもボッチャへの関心が高まり、ボッチャを楽しむ人口が増えた。今後も障害者スポーツの普及、推進に取り組んでいきたい。

（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

・昨年、県内に風船バレーとウィルチェアラグビーの競技団体が立ち上がったので、連携を取って、事業を進めた
・スポーツフェスティバルの種目に人気のボッチャを取り入れ、参加者を増やした。
・障害者スポーツの体験では、障害者と共にスポーツをすることで、障害者への理解を深め、障害者スポーツを知るきっかけ作りとなった。

（3）事業を継続実施した成果・変化（前年度の課題に対し、どんな意識で取組み、工夫したか）

・県内の大学や専門学校にボランティアの依頼をし、学生ボランティアの確保に努めた。実際のボランティア活動を通して障害者スポーツに興味を持ち、他の大会や講習会にも参加してくれた。卒業後の活動にはまだ繋がっていないが、若い世代の協力者が増えるようにこれからも取り組んでいきたい。



障がい者スポーツ交流会

日　時：平成２９年６月１８日（日）

９時００分～１２時００分（受付開始８時３０分）

場　所：山口県身体障害者福祉センター　体育館・休憩室

〒753−0092　山口市八幡馬場３６番地の１

（TEL　083−925−2345）



内　容：　風船バレー

ニュースポーツ（スカイクロス・ビーンボウリング）

対象者：障がい者スポーツを体験してみたい方

障がい者スポーツに興味のある方なら、どなたでも！

参加費：一人　１００円(資料代等)

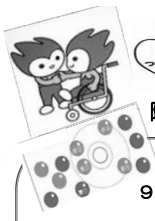
主催：ＡＨ
山口県障がい者スポーツ指導者協議会
〈山口・防府地域〉

共催：山口県障がい者スポーツ指導者協議会
公益社団法人
山口県障害者スポーツ協会

後援：山口県ふうせんバレーボール連盟

【問合せ先】携帯番号　080-1926-8886（会長　高津　節）
「17:30～19:00 の間にお願い致します」
【申込先】〒753-0001 山口市宮野上 3325−2 古屋　庸江
FAX:(083)921-1862　（事務局）
Mail：buon-appetito.2@arrow.ocn.ne.jp

※参加される方は、FAX または 郵送、Mail にて、
お申込みください。『締め切り H.29 年 ５月 28 日(日)』
※参加される方は、運動のできる服装・上靴・飲み物等を各自で
ご準備ください。



指導員用

障がい者スポーツ交流会（８回目）

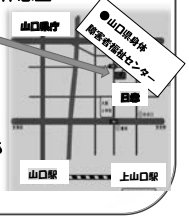
日　時：平成２９年１１月１８日（土）

９時００分～１２時００分（受付開始８時３０分）

場　所：山口県身体障害者福祉センター　体育館・休憩室

〒753−0092　山口市八幡馬場３６番地の１

（TEL　083−925−2345）



内　容：　ボッチャ・カローリング

対象者：障がい者スポーツを体験してみたい方

障がい者スポーツに興味のある方なら、どなたでも

参加費：一人　１００円(資料代等)

主催：ＡＨ
山口県障がい者スポーツ指導者協議会
〈山口・防府地域〉

共催：山口県障がい者スポーツ指導者協議会
公益社団法人山口県障害者スポーツ協会

後援：　山口県ボッチャ協会

【問合せ先】携帯番号　080-1926-8886（会長　高津　節）
「17:30～19:00 の間にお願い致します」
【申込先】〒753-0001 山口市宮野上 3325−2 古屋　庸江
FAX:(083)921-1862　（事務局）
Mail：buon-appetito.2@arrow.ocn.ne.jp

※参加される方は、FAX または 郵送、Mail にて、
お申込みください。『締め切り H.29 年１１月３日(金)』
※参加される方は、運動のできる服装・上靴・飲み物等を各自で
ご準備ください。

（切り取り線）

ＡＨ　障がい者スポーツ交流会　申込書（８回目）　**（指導員用）**

平成２９年　月　日　申込		性別	年齢	指導員資格	昼　食　会
(ふりがな) 氏名		男・女	歳	有・無	参加・不参加
住所	〒	TEL			
		Mail			

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等の大会運営に必要と認められる目的以外には利用しません。



第11回 パラスポーツレクリエーション

日　時:平成29年11月19日(日)

9時15分～11時45分(受付開始9時)

場　所:宇部フロンティア大学短期大学部

第2体育館(宇部市文京町5－40)



対象者:障がい者スポーツを体験してみたい方

障がい者スポーツに興味のある方なら、どなたでも！

内　容:風船バレーやボッチャ等のスポーツ体験

参加費:一人100円



主催：宇部・山陽小野田・美祢地域（USM）
パラスポーツレクリエーション実行委員会
共催：山口県障がい者スポーツ指導者協議会
宇部フロンティア大学短期大学部
公益社団法人山口県障害者スポーツ協会
後援：宇部市　宇部市社会福祉協議会
宇部市障害者ケア協議会スポーツ部会
宇部市スポーツコミッション
一般社団法人山口県レクリエーション協会
有限会社リベルタス興産
協力：山口県ふうせんバレー協会

【申込先】
FAX：(0836) 39-2272（宇部市民活動センター内）
Mail：usmpara@yahoo.co.jp（事務局）
【問合せ先】090-6842-2581（事務局：山本）

※申込書は FAX または Mail にて、上記申込先まで、お申込みください。(締切１１/１５)
※参加される方は、運動のできる服装・上靴・飲み物を各自でご準備ください。

（切り取り線）

宇部・山陽小野田・美祢地域　第１１回パラスポーツレクリエーション申込書

平成　年　月　日　申込		性別	年齢	指導員資格	障がいの有無
(ふりがな) 氏名		男 女	歳	有・無	有（　　）・無
住所	〒	TEL＿＿＿＿＿＿＿＿FAX＿＿＿＿＿＿＿＿ Mail			

※保護者や支援者の方で参加を希望される方は、保険加入のため下記にご記入ください。
（見学や引率のみの方は記入の必要はありません。）

保護者 支援者	(ふりがな) 氏名		住所		性別	男 女	年齢	歳

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等の本大会運営に必要と認められる目的以外には利用しません。



第10回 パラスポーツレクリエーション

日時　Part❶平成29年6月11日(日) 9時15分～11時45分(受付9時～)
Part❷平成29年6月17日(土) 9時15分～11時15分(受付9時～)

場所　❶❷とも　宇部フロンティア大学短期大学部 第2体育館
(宇部市文京町5－40)



対象者　障がい者スポーツを体験してみたい方・興味のある方なら、どなたでも！

内容　Part❶風船バレーやボッチャ、卓球バレーの体験
Part❷リオパラリンピックボッチャ銀メダリスト木谷隆行氏体験談及びボッチャ交流

参加費　Part❶のみ参加100円、Part❷のみ参加100円、❶❷とも参加200円

主催：宇部・山陽小野田・美祢地域（USM）
パラスポーツレクリエーション実行委員会
共催：山口県障がい者スポーツ指導者協議会
宇部フロンティア大学短期大学部
公益社団法人山口県障害者スポーツ協会
後援：宇部市　宇部市社会福祉協議会
一般社団法人山口県レクリエーション協会
宇部市障害者ケア協議会スポーツ部会
有限会社リベルタス興産

【申込先】
FAX：(0836) 39-2272（宇部市民活動センター内）
Mail：usmpara@yahoo.co.jp（事務局）
【問合せ先】090-6842-2581（事務局：山本）

※申込書は FAX または Mail にて、上記申込先まで、お申込みください。【締切：①6/9(金)、②6/15(木)】
※参加される方は、運動のできる服装・上靴・飲み物を各自でご準備ください。

（切り取り線）

宇部・山陽小野田・美祢地域　第１０回パラスポーツレクリエーション申込書

平成　年　月　日　申込		性別	年齢	指導員資格	障がいの有無
(ふりがな) 氏名		男 女	歳	有・無	有（　　）・無
住所	〒	TEL			（ ）①のみ参加 （ ）②のみ参加 （ ）①②とも参加

※保護者や支援者の方で参加を希望される方は、保険加入のため下記にご記入ください。

保護者 支援者	(ふりがな) 氏名		住所		性別	男 女	年齢	歳

※ご記入いただいた個人情報は、保険加入等の本大会運営に必要と認められる目的以外には利用しません。

愛媛県障がい者スポーツ理解啓発事業

◆障がい者スポーツ拠点整備事業

◆障がい者スポーツ紹介事業（体験事業）

愛媛県障がい者スポーツ協会

平成 29 年度「地域における障がい者スポーツの振興事業」実績報告書

◎愛媛県障がい者スポーツ理解啓発事業の実績報告書
☆障がい者スポーツ拠点整備事業
☆障がい者スポーツ紹介事業（体験事業）

①はじめに

平成 23 年 3 月に「愛媛県スポーツ振興計画（後期）」が策定され、具体的な取組として、子どもから高齢者・障がい者まで地域住民誰もが身近に好きなスポーツを気軽に楽しむことができるよう地域に根ざしたスポーツの振興を図ることとしている。平成 29 年に本県で開催された全国障害者スポーツ大会の開催基本方針においても、『障がいのある人もない人もスポーツを通じて、障がいに対する理解を深めるとともに、新たな可能性へのチャレンジと共に支えあう心の交流から生まれる愛顔を日本中につなげていく大会を目指す。』とされており、障がい者スポーツへの理解と認識を積極的に推進していく必要がある。このため、今回、誰もが身近でできる障がい者スポーツを楽しむ拠点の整備と体験会の事業を企画した。

②事業の目的・ねらい

障がいのある人たちが身近な地域で継続的に障がい者スポーツに参加できるよう、松山市以外の地域に障がい者スポーツのできる体制と拠点を整備する。また、スポーツ紹介事業については、体験要望等も徐々に増えてきており、障がい者スポーツ協会の定例的な事業として定着しつつある。今年度は、FD 競技、ボッチャ競技に加え車椅子で参加できる競技も積極的に取り入れ普及啓発事業を実施した。

③事業実施内容概要

（1）障がい者スポーツ拠点整備事業

地　　域：西予地区

日時場所：①平成 29 年 7 月 28 日(金) 松葉学園（障がい者 30 名・その他 0 名）
②平成 29 年 9 月 2 日(土)～3 日(日) 西予市宇和体育館（障がい者 30 名・その他 60 名）
③平成 29 年 11 月 18 日(日) 宇和特別支援学校（障がい者 60 名・その他 0 名）

実施競技：①フライングディスク②ボッチャ、フライングディスク、スラローム③ボッチャ












地　　域：新居浜地区

日時場所：①平成 29 年 9 月 12 日(火) 新居浜市障がい者福祉センター（障がい者 30 名・その他 10 名）

②平成 29 年 12 月 2 日(土)～3 日(日) 新居浜市総合福祉センター（障がい者 20 名・その他 30 名）

③平成 29 年 12 月 7 日(日) 四国中央市（障がい者 15 名・その他 5 名）

実施競技：①ボッチャ②スラローム、フライングディスク、ボッチャ③ボッチャ、ペタンク
















2017・四国中央市開催競技

地　　域：今治地区

日時場所：①平成 29 年 9 月 30 日(土) サン・アビリティーズ今治（障がい者 25 名・その他 0 名）

②平成 29 年 12 月 16 日(土) サン・アビリティーズ今治、（障がい者 16 名・その他 4 名）

③平成 30 年 1 月 13 日(土)～14 日(日) サン・アビリティーズ今治（障がい者 80 名・その他 70 名）

実施競技：①カローリング⑤ボッチャ⑥車いすバスケットボール、ボッチャ、フライングディスク

















(2) 障がい者スポーツ紹介事業(体験会)

事　業　名	障がい者スポーツ紹介事業(体験会)～障がい者スポーツの魅力!お伝えします!!～
日時・場 所	①平成 29 年 6 月 29 日（木）　身体障がい者福祉センター（フライングディスク） ②平成 29 年 6 月 30 日（金）　清流園（ボッチャ） ③平成 29 年 6 月 30 日（金）　身体障がい者福祉センター（車いすバスケット） ④平成 29 年 8 月 18 日（金）　松山市社会福祉協議会 会議室（ボッチャ） ⑤平成 29 年 9 月 15 日（金）　大洲市立内子小学校（フライングディスク） ⑥平成 29 年 11 月 8 日（水）　西条市立丹原小学校（フライングディスク） ⑦平成 29 年 11 月 28 日（火）　愛南町立平城小学校（車いすバスケットボール） ⑧平成 29 年 12 月 10 日（日）　身体障がい者福祉センター（ボッチャ）
参　加　者	①20 名(障がい者 20 名、その他　名) ②40 名(障がい者 40 名、その他　名) ③24 名(障がい者 12 名、その他 12 名) ④30 名(障がい者　名、その他 30 名) ⑤68 名(6 年生)　⑥50 名（4 年生 50 名） ⑦70 名(4 年生 37 名、6 年生 33 名)　⑧70 名（障がい者 70 名、その他　名）
協　　力 (連携組織)	県障がい福祉課、県教育委員会、各市町、小学校、松山市社会福祉協議会、身体障がい者福祉センター、愛媛県障害者フライングディスク協会、愛媛県障がい者スポーツ指導者協議会他
事 業 内 容	○体験会希望の各市町や学校等で障がい者スポーツ体験会を開催。 (今年度実施種目：ボッチャ、フライングディスク、車いすバスケット) 各体験会希望団体と体験種目(全国障害者スポーツ大会関係種目)・日程等を調整し、各競技団体・協力団体を派遣し事業を実施

事業の様子







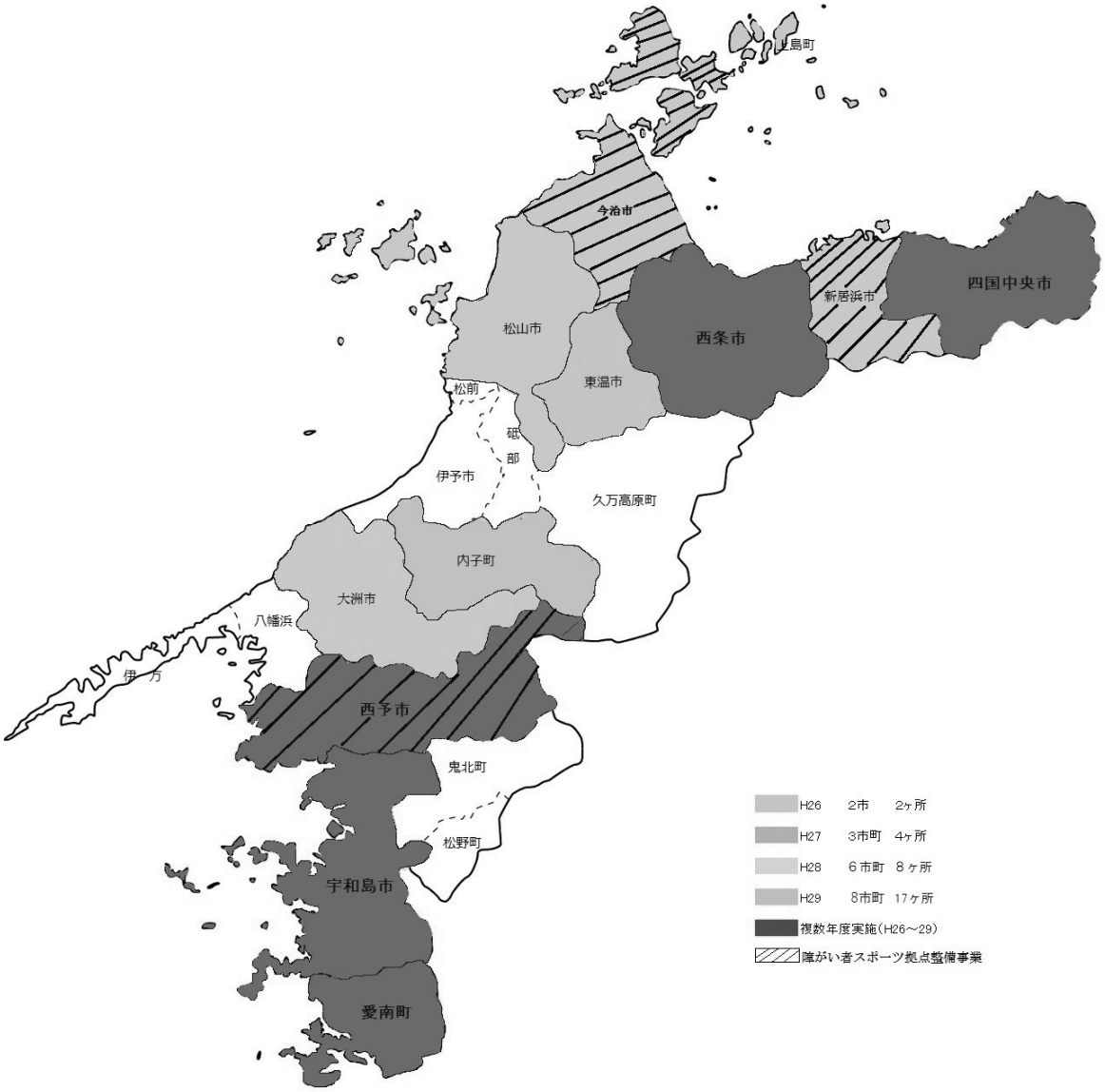






障がい者スポーツ紹介事業(体験会)及び障がい者スポーツ拠点整備事業一覧							
日付	場所	競技	人数				
			障がい者	その他	スタッフ	補助員	協力
6月29日(木)	身体障がい者福祉センター（松山市）	フライングディスク	20	20	4	3	0
6月30日(金)	清流園（東温市）	ボッチャ	40	40	4	0	0
6月30日(金)	身体障がい者福祉センター（松山市）	車いすバスケットボール	24	0	4	0	0
7月28日(金)	松葉学園（西予市）	フライングディスク	30	0	2	1	0
8月18日(金)	松山市社会福祉協議会 会議室（松山市）	ボッチャ	30	0	4	1	0
9月2日(土)～3日(日)	西予市宇和体育館（西予市）	スラローム、ボッチャ、フライングディスク	30	60	4	14	3
9月12日(火)	新居浜市障がい者福祉センター（新居浜市）	ボッチャ	30	10	4	0	0
9月15日(金)	内子小学校（内子町）	フライングディスク	0	68（6年生）	2	1	2
9月30日(土)	サン・アビリティーズ今治（今治市）	カローリング	25	0	2	2	0
11月 8日(水)	西条市丹原小学校（西条市）	フライングディスク	0	50（4年生）	1	3	2
11月18日(日)	宇和特別支援学校（西予市）	ボッチャ	60	0	4	0	0
11月28日(火)	平城小学校（愛南町）	車いすバスケットボール	0	70（4年生37名 6年生33名）	3	0	0
12月2日(土)～3日(日)	新居浜市総合福祉センター（新居浜市）	ボッチャ、フライングディスク、スラローム	20	30	4	13	3
12月7日(日)	伊予三島運動公園（四国中央市）	ボッチャ	15	5	3	0	0
12月10日(日)	身体障がい者福祉センター（松山市）	ボッチャ	70	0	3	0	0
12月16日(土)	サン・アビリティーズ今治（今治市）	ボッチャ	16	4	3	0	0
H30 1月13日(土)～14日(日)	サン・アビリティーズ今治（今治市）	ボッチャ、車いすバスケットボール、フライングディスク	80	70	4	16	3
計		FD7回、ボッチャ10回、スラローム2回、車椅子バスケ3回、カローリング1回	490	427	55	54	13

障がい者スポーツ紹介事業（体験会）及び
障がい者スポーツ拠点整備事業の過去４か年実施状況



④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

本県では、当協会と障がい者スポーツ指導者と連携して事業を実施しており、多くの事業で企画・運営・検討等について連携して実施している。障がい者スポーツ指導者協議会との連携は不可欠であり、今後も継続して事業を実施して行きたい。

⑤連携について

今回の事業実施にあたり、県障がい福祉課、県教育委員会、西予市、西予市宇和体育館、新居浜市、新居浜市総合福祉センター、今治市、サン・アビリティーズ今治、小学校、特別支援学校、県体育協会、愛媛 WBC、愛媛県障害者フライングディスク協会、各競技団体、サポートバンク登録者や障がい者スポーツ指導員等と連携して事業を実施しており、事業の企画・運営・検討等

にも積極的に連携して事業を実施していただいた。当協会と各競技団体との連携から、競技団体間の連携などネットワーク的な構築も出来上がりつつあり、今後も継続して事業を実施する体制が整備されてきている。

⑥スポーツ用具について

(1) 購入した備品の活用について

車椅子バスケット車が 6 台しかなかったが、今回 4 台購入することができ、試合形式の体験も実施することができるようになった。また、一度に多人数を対象にした体験会等にも対応できるようになった。

また、昨年あたりから、フライングディスク競技以上にボッチャ競技の人気が高まっており、体験会の要望や、用具等の貸出し希望も多く、障がい者スポーツ拠点整備事業及び障がい者スポーツ紹介事業（体験事業）で 10 回、ボッチャの体験会を実施することができた。

(2) 今回の事業後の管理方法と活用予定

当協会にて適正に保管し、担当職員が定期的にメンテナンスを行う。また、他の施設等から借用希望があった際には、適切に対応していきたい。今後も継続的に事業を実施していけるよう工夫していきたい。

⑦事業の成果・効果及び評価（達成度）

(1) 障がい者スポーツ拠点整備事業

松山市以外の地域（3 地区）で障がい者スポーツの拠点整備し、障がいのある人たちが身近な地域で継続的に障がい者スポーツに参加できるような体制の整備と拠点を整備するため実施した。また、それぞれの地域で障がい者スポーツの指導者として協力していただける人たちの養成を併せて行なった。今回の事業実施により、障がい者スポーツの裾野の拡大を図るとともに各地域での問題点や課題等も理解することができ、今後の障がい者スポーツの普及・啓発等に役立てて行きたい。

(2) 愛媛県障がい者スポーツ紹介事業

26 年度からこの事業を実施しているが、2 年間はフライングディスクの希望だけであったが、今年度は、フライングディスクに加え、ボッチャ、車椅子バスケット等の競技希望もあり、希望種目も多岐にわたってきている。また、体験会希望地域も広がりつつあり、今後も内容を充実して実施していきたいと考えている。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

(1) 障がい者スポーツ拠点整備事業の発展

各地域の指導者や競技団体の職員等との意見交換会で次のような意見等があり、これらの意見等を踏まえ、今後、事業を実施していきたい。

・3 地区で拠点整備を実施したが、地域によって温度差が大きかった。
・地域と指導者との意見交換を行ったが、家に引きこもっている人たちへの事業の周知等がなかなか届きにくい。
・各地域で練習する環境がまだまだ不十分である。（場所や道具等の整備）
・障がいについても、まだまだマイナスのイメージが強く、消極的である（障がい者も

周囲の人たちも）

・小さなことからでも良いから何か競技に関われるような仕組みづくりが必要

障がい者スポーツ拠点整備事業の継続

拠点整備の必要性については愛媛県でも十分認識しており、30 年度以降は県予算で拠点整備を実施する方向で準備を進めているところである。

(2) 愛媛県障がい者スポーツ紹介事業の発展

障がい者スポーツの普及啓発に努めており、徐々に浸透している状況であるが、より一層の普及啓発に努める必要性を感じた。今後、愛媛県障がい者スポーツ指導者協議会や関係機関と連携し、いろいろな競技を実施し障がい者スポーツの普及啓発に努めていきたい。

また、県内の市町とも連携し、イベント等開催時には、障がい者スポーツの普及啓発を進めていきたい。

愛媛県障がい者スポーツ紹介事業の継続

障がい者スポーツの普及啓発に努めており、徐々に浸透している状況である。今年度も実施希望の市町が複数あったが、予算の関係でお断りしたところもある。また、まだ実施していない市町もあり、今後も継続して実施していきたいと考えている。

⑨おわりに

(1) 所感、特記事項

平成 25 年 4 月に愛媛県障がい者スポーツ協会が発足し、県の委託事業以外に自主事業を実施することで、県内の障がい者団体や施設等との連携も図られてきており、今後も継続して実施して行きたいと考えている。

(2) 事業を継続実施した成果・変化

全国障害者スポーツ大会を実施したこともあり、県下全域、障がい者スポーツに対する理解が得やすい環境になっている。また、「愛媛県障がい者スポーツ理解啓発事業」を継続して実施することにより、より関係機関・各種団体等の理解や協力も得られやすくなってきている。今後も、この状況を継続・拡充していくことが重要であると考えており、機会を捉え、いろいろな事業を企画し、障がい者スポーツの普及に努め裾野の拡大に努めて参りたい。

～障がい者スポーツ拠点整備事業～

見て！知って!!
やってみよう!!!
障がい者スポーツ☆

参加料は無料です



日時：平成29年9月3日（日）10時～16時

場所：西予市宇和体育館

競技：フライングディスク、ボッチャ、陸上競技（スラローム、ビーンバック投）

・会場にて障がい者スポーツのパネル展示、競技用具の展示を行います。
・主催者にて傷害保険に加入します。
・動きやすい服装で体育館シューズをご持参ください。
・駐車場に限りがありますので、乗り合わせにご協力ください。
・主催者及び主催者側が許可した報道機関等の撮影、ホームページの写真掲載については、ご了承のうえご参加ください。

『みきゃん』も来るかも…!!



主催 愛媛県障がい者スポーツ協会
〒790-0843 松山市道後町2丁目12-11
TEL 089-924-2101 FAX 089-923-3717

～障がい者スポーツ拠点整備事業～

見て！知って!!
やってみよう!!!
障がい者スポーツ☆

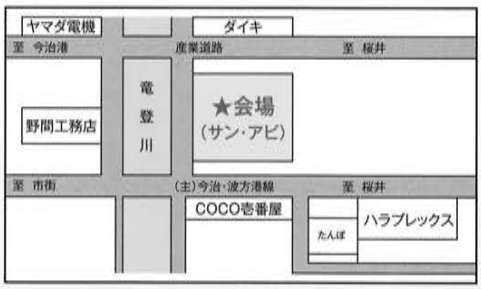
参加料は無料です



日時：平成30年1月14日(日)
10時～16時

場所：サン・アビリティーズ今治

競技：フライングディスク、ボッチャ、車いすバスケットボール



・会場にて障がい者スポーツのパネル展示、競技用具の展示を行います。
・主催者にて傷害保険に加入します。
・動きやすい服装で体育館シューズをご持参ください。
・駐車場に限りがありますので、乗り合わせにご協力ください。
・主催者及び主催者側が許可した報道機関等の撮影、ホームページの写真掲載については、ご了承のうえご参加ください。

『みきゃん』も来るかも…!!



主催 愛媛県障がい者スポーツ協会
協力 サン・アビリティーズ今治

〒790-0843 松山市道後町2丁目12-11
TEL 089-924-2101 FAX 089-923-3717

高知県障害者スポーツ普及啓発事業

◆東部地区ボッチャ競技大会

◆幡多地区陸上競技大会

◆種まく大人実行委員会事業

社会福祉法人　高知県社会福祉協会

高知県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

自県のスポーツ環境の特色、実情、課題点、事業を計画した経緯など

平成 29 年度より、スポーツ行政一元化のもと、障害者スポーツも新設の【文化生活スポーツ部スポーツ課】に県行政として一元化。　県立障害者スポーツセンターの指定管理業の管轄も障害保健福祉課からスポーツ課に移管された。

また、現在の高知県スポーツ振興計画の中では【障害者スポーツ】を特記してはおらず【生涯スポーツの一環】として捉えられているが、平成 29 年度が計画見直し年に該当している事から、県行政として新たに委員会を設けて、障害者スポーツの振興計画を策定していく予定である。

②事業の目的・ねらい

高知県東部地域では、本会別事業として【聞き取り調査】や【出前教室の開催】を行いながら、関係者の巻き込みを図っていきたいと考えているが、そうした関係者の協力事業として【ボッチャ大会】を開催することで、実行委員会等を通じて県東部地域の障害者スポーツ振興への課題を共有化する事が目的となる。

また、陸上競技大会では、大会とは別に指導者協議会の主催事業として西部地域で【陸上練習会】が開催されることから、大会と併せて地域の障害者の掘り起しが大きな目的となる。

種まく大人実行委員会事業では、2020 東京パラリンピックのレガシーの一つを、障害者スポーツを通じた福祉教育の推進と考えており、小中高等学校からの障害者スポーツ体験学習の依頼に対応できる人材を養成していく（10 名程度）

③事業実施概要

（1） 高知県障害者スポーツ理解啓発事業（東部地区ボッチャ大会）

事　業　名	東部地区ボッチャ競技大会
日　　時	大会開催日　：　平成 29 年 12 月 16 日（土）9:30～16:00 実行委員会　：　平成 29 年 9 月 13 日（水）15:00～16:30 実行委員会　：　平成 29 年 11 月 22 日（水）15:00～16:30
場　　所	高知県立室戸体育館
参　加　者	39 名（身体 9 名、知的 9 名、発達 2 名、精神 5 名、その他 14 名）
スタッフ	高知県ボッチャ協会 5 名（内 2 名は障がい者スポーツ指導員） 保健師 2 名、総合型クラブ 2 名、運転手 1 名
補　助　員	
協　　力	室戸市（保健師の派遣）
連携組織	高知県障がい者スポーツ指導者協議会、高知県ボッチャ協会、室戸市、NPO 法人むろとスポーツクラブ、高知県レクリエーション協会、安芸市福祉事務所、安芸市社会福祉協議会、奈半利町社会福祉協議会、芸西村社会福祉協議会、山田養護学校田野分校
事業内容	事前会議 ・参加団体（県東部地域）の現状や課題を聞き取り運営団体と日程等調整 ボッチャ大会の開催 ・参加団体との送迎調整や県立高校女子野球部へのオープン参加呼びかけ

事業の様子





（２） 高知県障害者スポーツ理解啓発事業（幡多地区陸上競技大会）

事　業　名	幡多地区陸上競技大会
日　　時	大会開催日：平成 29 年 11 月 11 日（土）10:30～ 実行委員会：平成 29 年 9 月 14 日（木）19:00～ 実行委員会：平成 29 年 10 月 24 日（火）19:00～
場　　所	宿毛市運動公園陸上競技場
参　加　者	121 名（知的障害 93 名、聴覚 2 名、肢体 13 名、その他 13 名）
スタッフ	高知県障がい者スポーツ指導者協議会 5 名 高知ファイティングドッグス球団 2 名 障がい者施設職員等 5 名、スポーツ推進委員 5 名 幡多地区陸上競技協会 28 名
補　助　員	大月中学校陸上競技部、中村中学校陸上競技部　16 名
協　　力	宿毛市、（株）高知ファイティングドッグス球団
連携組織	高知県障がい者スポーツ指導者協議会、幡多地区陸上競技協会、 宿毛市スポーツ推進委員協議会、四万十市スポーツ推進委員協議会、 高知県知的障害者育成会、高知県知的障害者福祉協会 （株）高知ファイティングドッグス球団
事業内容	実行委員会の開催 ・幡多地区陸上競技協会と障がい者スポーツ指導者協議会に集まってもらい、要綱の策定から当日の運営業務の分担まで協議 陸上競技大会の開催 ・障害を区分せず座位と立位のみに分類して競技、事前申請の記録の近い選手同士を組合せ陸上の本質である競う事を楽しんでもらった。 また、高知ファイティングドッグス球団からは、ゲストとして外国人選手に参加していただくと共に、選手の輸送に関して多大な支援を得ることができた。

事業の様子





（３） 高知県障害者スポーツ理解啓発事業（種まく大人実行委員会事業）

事　業　名	種まく大人実行委員会事業
日　　時	平成 29 年 5 月 12 日（金）19：00～21：00（対象外） 平成 29 年 11 月 30 日（木）19:00～21:00 平成 30 年 1 月 26 日（金）19:00～21:00 平成 30 年 3 月 9 日（金）19:00～21:00　予定（対象外）
場　　所	高知県立障害者スポーツセンター
参　加　者	5 月 12 日（金）13 名、11 月 30 日（木）26 名、1 月 26 日（金）12 名
スタッフ	
補　助　員	
協　　力	車いすバスケットボールチーム、車いすラグビーチーム、陸上クラブ、 クライミングサークル、高知県知的障害者育成会、 高知県聴覚障害者協会、高知県障がい者スポーツ指導者協議会
連携組織	高知県立若草養護学校、高知県聴覚障害者協会、香南市社会福祉協議会、 いの町社会福祉協議会、香美市社会福祉協議会、中土佐町社会福祉協議会
事業内容	・県内の学校で開催される【障がい者スポーツ体験教室】への講師派遣 ・上記のプログラム等を委員会において検討 ・委員の資質向上を目的に講師を招聘しての勉強会

事業の様子





④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

県内の障がい者スポーツのイベントや事業は、障害者スポーツセンターの所在する高知市近郊で行われることが多く、県東部や西部の指導員が活動する機会は少ない状況である。

しかし、今回イベントそのものを両地域で開催するにあたり、準備段階から地元の障がい者スポーツ指導員に協力していただき実施できたことは一つの成果である。

特に幡多陸上競技大会では、イベントのポスターの製作を指導員に担っていただけるなど、事前段階から具体的な役割を持って活動できた。

また、種まく大人事業では、実行委員に入っている指導員の方が、小中学校の体験教室でコーディネーターを務めてくれている。

⑤連携について

（1） 事業前の関係性

関係団体に市町村社会福祉協議会が多くなっているのは、当団体が県社会福祉協議会であることが大きく関係している。

これまで関係性がなく、新規に関係性が持てた団体として特筆されるのは、（株）高知ファイティングドッグス球団（独立リーグ）である。

（2） 実際の事業での役割分担

県東部地域でのボッチャ大会、県西部地域での陸上競技大会とも会場所在地の室戸市、宿毛市には事業趣旨に理解を頂き会場使用料を免除して頂いた。

特に宿毛市においては、大会当日に市長代理として福祉事務所長が来賓として来場いただいている。

また、高知ファイティングドッグス球団は、選手のゲスト出演及び球団所有のバスを使用して、高知市内方面から選手を輸送していただいた。

（3） 事業後の関係性の変化

行政機関や市町村社会福祉協議会との関係性が劇的に変わったわけではないが、顔の見える関係性が構築できたことは、今後様々な事業を展開していくうえで非常に有益である。

高知ファイティングドッグス球団に関しては、スポーツイベントの運営プロとしての視点から、我々の大会運営にアドバイスを頂いたりしている。

⑥スポーツ用具について

（1） 購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

スポーツ用車いすについては、小中学校の体験学習会での活用と、幡多地区陸上競技大会において車いすレースを行った。

また、スラロームも同じく幡多地区陸上競技大会で競技用具として使用。

（2） 今回の事業後の管理方法と活用予定

両備品ともスポーツセンターでの活用より、地域のスポーツ活動での活用を目的に積極的な貸し出しを行っている（車いすは支援学校と支援学級の授業でそれぞれ使用中）

なお、管理に関しては貸出に期限を設け、定期的にスポーツセンターでメンテナンスを行っていく。

⑦事業の成果および評価（達成度）

【東部地区ボッチャ競技大会】【幡多地区陸上競技大会】とも、会場は県中心部から2時間以上かかる位置にあり、県中心部のイベントに参加する機会の少ない方々が参加できたことは大きな意義があった。また幡多地区陸上競技協会や高知ファイティングドッグス球団など、日頃障害のある方と接する機会の少ない、もしくは全くない方々が、障害のある方々の「悔しがる姿」や「笑顔」に触れた事は広い視点での地域づくりに必ず生きてくると考えている。

【種まく大人実行委員会事業】では、委員が講師として学校に出向く活動を通じて、子供達に考える機会や自分自身を見つめなおす機会を提供したことが感想文からも読み取れる。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

【東部地区ボッチャ競技大会】【幡多地区陸上競技大会】とも、高知県の東部、西部の方々の発表の場として今後も継続的な取組が求められる。

また、両事業を通じて高知県の公共交通網の脆弱さが浮き彫りになっており、こうした課題に行政、社協、民間企業と連携して取組んでいくことで、障害者スポーツや障害者の社会認知が進んでいくと考えている。

【種まく大人実行委員会事業】においては、体験学習の感想文を委員の皆様と共に今年度分析していくことで、小学校期、中学校期、高等学校期とそれぞれの成長段階に応じた内容が今後提供していけるのではないかと考えており、次年度以降は委員会形式から勉強会方式へ移行し、より多くの人が学べる機会を提供したいと考えている。

⑨おわりに

（1）所感

高知県という地方都市の中の更に地方では、障害のある方々がスポーツをする機会というのは本当に限られていることを改めて感じました。

幡多地区陸上競技大会に参加してくれた肢体不自由児の親御さんとの会話の中で「彼は学校で体力測定さえ他の子供と一緒にさせてもらえない」という事実を聞き、我々の情報発信力の弱さを痛感しました。

また、支援者への発信という視点では、逆に幡多地区陸上競技協会の方から「選手のマナーの良さに驚かされた」という嬉しい言葉がありましたし、速い選手も遅い選手も懸命に競技する姿に審判員が何がしかの影響を受けているというのは我々主催者も感じた所でした。

地域振興というものは一朝一夕に進むものではありませんが【百聞は一見にしかず】というのも今回改めて感じました。

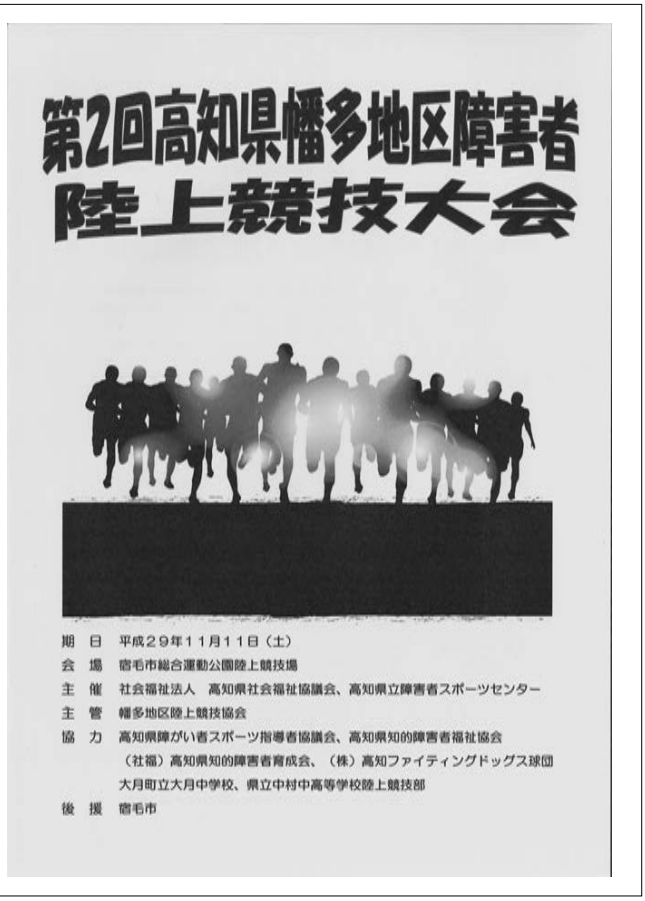
今後ともこのような事業を委託させて頂くことで、地方の中の地方に【一見】を提供できればうれしく思います。

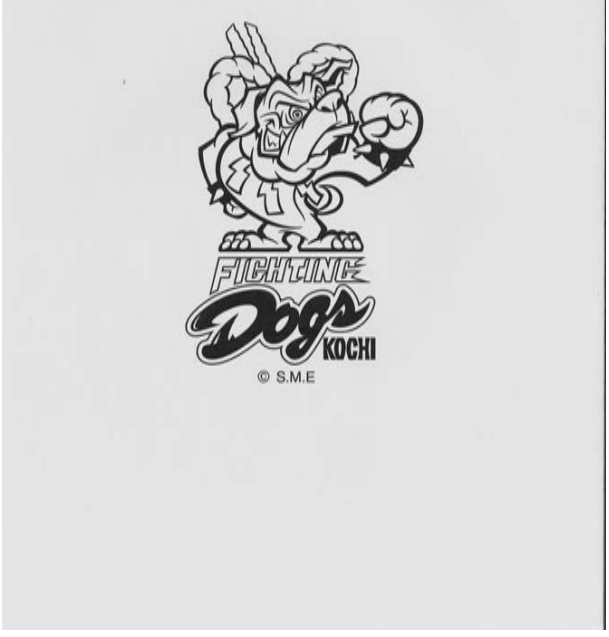
（2）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）

・東部、西部の事業とも実行委員会の中で大会運営だけでなく地域の情報収集に努めた。
・陸上競技会では大会案内の名目で、市町村行政の担当者とアポをとり情報収集を行った。
・陸上競技会では障害区分を減す事で競走の楽しさを味わってもらった。
・陸上競技会では出場者全員に記録証を配布。
・陸上競技会に独立リーグの選手が参加し障害のある選手と全力で競った。

・陸上競技会では１団体１枚のみ写真撮影ビブスを配布し競技場内での写真撮影を許可
・陸上競技会では購入した車いすを利用し昼休みに車いすレースを開催した。
・ボッチャ大会にオープンで地元高校の女子野球部が参加。
・種まく大人実行委員会では多様な障害の人に集まってもらい意見交換を行った。
・種まく大人実行委員会では障害に対する自身の視野を広げるために講師を招聘


第２回
高知県幡多地区障害者
陸上競技大会
参加者
募集
開催日
2017.11.11（土）
場　所
高知県宿毛市総合運動公園陸上競技場
対　象：障害児・者で平成29年4月1日現在満6歳以上の方
参加費：無料
申込み締切り10月24日（火）必着
主　催／高知県立障害者スポーツセンター、（社福）高知県社会福祉協議会
お問い合わせ　高知県高知市春野町内ノ谷1-1 高知県立障害者スポーツセンター内
TEL 088-841-0021／FAX 088-841-0065


第2回高知県幡多地区障害者
陸上競技大会
期　日　平成２９年１１月１１日（土）
会　場　宿毛市総合運動公園陸上競技場
主　催　社会福祉法人　高知県社会福祉協議会、高知県立障害者スポーツセンター
主　管　幡多地区陸上競技協会
協　力　高知県障がい者スポーツ指導者協議会、高知県知的障害者福祉協会
（社福）高知県知的障害者育成会、（株）高知ファイティングドッグス球団
大月町立大月中学校、県立中村中高等学校陸上競技部
後　援　宿毛市


FIGHTING
Dogs
KOCHI
© S.M.E

鹿児島県における障がい者スポーツの普及と選手の発掘・育成事業

◆障害者のスポーツ教室事業（障害者スポーツ体験普及教室開催事業）

◆障害者のスポーツ教室事業（障がい者バレーボール教室開催事業）

鹿児島県障害者スポーツ協会

鹿児島県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

（1）鹿児島県の障害者スポーツ環境の特色、実情

本県では、平成 22 年 6 月に「スポーツ振興かごしま県民条例」を制定し、その第１０条で「県は･･･障がい者の自立及び社会参加を促進するため、市町村及びスポーツ関係団体等と協力して、障がいの種類及び程度に応じたスポーツ活動への参加の機会の提供その他の必要な施策を講ずるよう努める・・・」と規定している。さらに、この条例を受けて策定された「スポーツ振興かごしま基本方針」において、障がい者がスポーツに親しむことで、県民の障がい者への理解が促進され、ひいてはノーマライゼーションの推進につながることも期待される旨規定している。

このような背景から、平成２７年度から県が主催する「スポーツ情報交換会」にも県身体障害者福祉協会のスポーツ情報課長（県障害者スポーツ協会事務局長）が参加するようになった。

また、東京オリンピック・パラリンピックが開催される平成３２年度には、本県で国体と全国障害者スポーツ大会が開催されることから、両者を対象とした事務局が平成２９年度設置されるなど、教育委員会のスポーツ担当課と知事部局の障害者スポーツ担当課さらにはスポーツ推進委員等との連携が進んでいる。

（2）課題点、事業を企画した経緯等

課題１　県障害者スポーツ大会（全国障害者スポーツ大会予選会）を始め、多くの障害者スポーツの大会や普及活動は県都鹿児島市で行われることがほとんどで、障がい者がスポーツと出会い活動する機会が、鹿児島市と離島を含めた他地域との間に格差がある。

課題２　県内に１７（１は国立）の特別支援学校があり、同学校の体育教諭は地域における障害者スポーツ推進の要として強く期待するところであるが、体育の授業等での障がい者スポーツの指導は、軽度の障がい者が対象で重度や重複障がいの生徒は対象外となっているケースも見られる。これは、特別支援学校の体育教諭の大半は、障がい者スポーツを専門的に学ぶことなく現職に就いていることから、障がい者特有のスポーツ種目や障がいの種別・程度に応じた既存のスポーツの工夫といった知識を得る機会に恵まれなかったことが主因と考えられる。

（近年、障害者スポーツ指導員資格を有する特別支援学校教諭が増加傾向である。）

課題３　平成３２年度には、本県で全国障害者スポーツ大会が開催されることから、開催県として、団体競技全７競技１２種目（障がい別、男女別）にエントリーする考えであるが、未だに聴覚障害者のバレーボールはチームが不在で、九州ブロック予選へ参加できていない。また、知的障害者のバレーボールについては、２８年度にチームが結成されたばかりで技術力の向上を図る必要がある。（２８年度から県でも障害者スポーツの普及と選手の発掘・育成のための新規事業に取り組んでおり、２９年度は４競技５種目で新たに九州ブロック予選に参加できた。）

以上のような課題への対応策として、今回の事業を企画した。

②事業の目的・ねらい

◎障がい者スポーツ体験普及教室開催事業は、前述の３つの課題に対応することを目的とした。

このため、ｱ 県内の離島を含めできるだけ多くの地域で行う。ｲ 会場を地域の特別支援学校体育館とし、学校の児童・生徒の他、体育担当をはじめとする教諭の参加も呼びかける。ｳ 併せて地元のスポーツ推進員、総合型地域スポーツクラブ（本県ではコミュニティスポーツクラブと呼称）にも参加を呼びかけて、障がいに配慮したスポーツの実施方法の工夫や留意点といった知識を習得できるようにする。ｴ バレーボール選手の発掘を離島でも行い、併せて障害のある子どもたちの身体作りの指導を行うこととした。

◎障がい者バレーボール教室開催事業は、前述の課題３に対応することを目的とした。

このため、知的障害者と聴覚障害者を対象に６月以降少なくとも毎月１回は練習を行うこととした。また、併せて障害者スポーツにおける地域の指導者（教員や大学バレーボール部員、地域のバレーボール愛好者）の活用モデルとなることを期待して行った。

③事業実施概要

（１）障害者のスポーツ教室事業（障害者スポーツ体験普及教室開催事業）

①事業名　障害者スポーツ体験普及教室開催事業

②日時、場所、参加者、種目等

日　時	場所(学校名)	参加者(人数)	種目等	講師
ｱ7月２日(日)　9:30～16:00 前日 15:00～17:00 事前打合せ	大島養護	知的･高､地元高校生他(計 78	ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ、身体作り､ﾚｸﾚｰｼｮﾝ	外部
ｲ9月 5 日(火) 13:35～14:35	串木野養護	知的･高 (30)	身体作り	外部
6 日(水) 9:45～11:20				
ｳ9月 11 日(月) 13:00～16:00	〃	知的･中(25)	ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ	指導員
ｴ9月 11 日(月) 13:40～14:50	鹿児島養護	知的･高(28)	バスケット	〃
ｵ9月 12 日(火) 9:45～11:20	串木野養護	知的肢体･小(25)	ボッチャ	〃
ｶ9月 12 日(火) 16:20～17:50	鹿児島聾	聴覚･中(7)	陸上	外部
ｷ9月 14 日(木) 9:45～11:20	串木野養護	知的･中(15)	水泳	指導員
ｸ9月 21 日(木) 13:30～14:30	牧之原養護	知的肢体･高(33)	バスケ･卓球バレー	〃
ｹ9月 25 日(月) 13:40～14:50	鹿児島養護	知的･高(25)	バスケット	〃
ｺ9月 27 日(木) 13:30～14:30	牧之原養護	知的肢体･高(35)	ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ ・ ﾎﾞｯﾁｬ	〃
ｻ10 月 12 日(木)11:35～12:25	鹿児島養護	肢体･中(5)	剣道	外部
ｼ10 月 18 日(水) 10:35～11:20	南薩養護	知的肢体･高(40)	バスケ･ボッチャ・卓球バレー	指導員
ｽ10 月 25 日(水) 11:35～12:25	鹿児島養護	肢体･中(5)	剣道	外部
ｾ11 月 2 日(木) 9:15～10:30	鹿児島養護	知的･高(35)	ニュースポーツ	指導員
ｿ11 月 22 日(水) 13:40～14:30	鹿児島養護	知的肢体･中(40)	空手	外部
ﾀ11 月 24 日(金) 10:00～12:00	高等特別支援	知的･高(23)	バスケット	指導員
ﾁ11 月 24 日(金) 13:35～14:25	加治木養護	知的肢体･全(50)	電動車イスサッカー	外部
ﾂ11 月 29 日(水) 13:40～14:30	鹿児島養護	知的･中(40)	空手	外部

日　　時	場所(学校名)	参加者(人数)	種目等	講師
ﾃ11 月 30 日(木) 16:00～18:00	桜丘養護	教諭　(70)	ニュースポーツ	指導員
ﾄ12 月 7 日(木) 13:40～14:30	鹿児島養護	肢体･中(30)	身体作り	外部
ﾅ12 月 8 日(金) 10:00～12:00	高等特別支援	知的･高(15)	卓球	指導員
ﾆ12 月 9 日(土) 10:00～12:00	大島養護	知的･高(15)	バスケット	〃
ﾇ12 月 11 日(金) 13:30～14:45	中種子養護	知的肢体･高(45)	ﾌｯﾄﾍﾞｰｽ･ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ	〃
ﾈ12 月 11 日(金) 13:30～14:30	牧之原養護	知的肢体･高(65)	ニュースポーツ	〃
ﾉ12 月 14 日(木) 10:30～11:30	出水養護	知的肢体･小(70)	ボッチャ	〃
ﾊ12 月 15 日(金) 13:30～14:30	牧之原養護	知的肢体･高(65)	ニュースポーツ	〃
ﾋ12 月 19 日(火) 10:00～12:00	大島養護	知的･高(50)	ニュースポーツ	〃
ﾌ1 月 16 日(火) 10:40～11:25	牧之原養護	知的肢体･小(25)	ニュースポーツ	〃
ﾍ1 月 17 日(水) 13:35～14:25	加治木養護	肢体･全(50)	バスケット	外部
ﾎ1 月 24 日(水) 9:35～10:40	指宿養護	知的肢体･小(15)	卓球バレー	指導員
ﾏ1 月 30 日(火) 10:50～11:50	指宿養護	知的肢体･全(60)	卓球バレー	〃
合　　計　　３１回	１２学校	１，１１４名	１５種目	外部 11

注：場所は各学校の体育館。加者欄の例えば「知的･高」は知的障害者で高等部の生徒の意味。
　　６月 15、16、19、21、22、26、30 日、8 月 3 日、支援学校への説明会を行った。

③スタッフや連携組織等

スタッフ	・バレーボール→日本体育協会公認コーチ１名、 公認指導員４名　　大島養護学校教諭５名　　事務局３名 ・身体作り（３回)→ＮＳＣＡジャパン認定トレーナー１名、トレーナー３名 ・電動車いすサッカー　→県内チーム「ﾅﾝﾁｪｽﾀｰﾕﾅｲﾃｯﾄﾞ」メンバー６名 ・バスケットボール(１回)　→県内プロチーム「鹿児島レブナイズ」３名 ・剣道(２回)→鹿児島県剣道連盟２名　・空手(２回)→鹿児島県空手道連盟４名 ・スポーツ推進委員６５名　・障がい者スポーツ指導員７０名　・事務局１名
補助員	大島高校バレーボール女子部員２１名　　鹿児島女子校陸上競技部８名
協　力	・電動車いすｻｯｶｰﾁｰﾑ「ﾅﾝﾁｪｽﾀｰﾕﾅｲﾃｯﾄﾞ」　・ﾌﾟﾛﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙﾁｰﾑ「鹿児島ﾚﾌﾞﾅｲｽﾞ」 ・大島高校女子バレーボール部　・鹿児島女子高校陸上競技部　・県剣道連盟 ・県空手道連盟　・霧島市、さつま市、鹿児島市の各スポーツ推進委員
連携組織	・県　・県教育委員会　・県特別支援学校長会　　・県バレーボール協会 ・県コミュニティスポーツクラブ協議会　・ＮＰＯ法人ＡＳＡ奄美スポーツアカデミー ・（社）鹿児島県身体障害者福祉協会　・（社）鹿児島県手をつなぐ育成会 ・県知的障害者福祉協会　　・県レクレーション協会
事業内容	・上記②の表の「種目等」を行った。 ・身体作りにおいては、公認トレーナーの指導で体幹強化等行った。 ・団体競技においては、基礎練習後、実践形式の試合も行った。 ・ニュースポーツでは、県レクレーション協会のインストラクターやコーディネーターの指導で、障害の程度に応じて指導の方法やルールを工夫し、参加者皆が楽しめるメニューで行った。

事業の様子



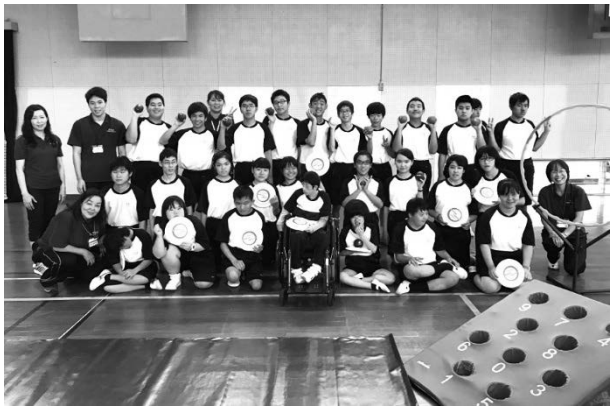
7 月 2 日　大島養護学校　ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ･ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ



9 月 5 日串木野養護学校　身体つくり



9 月 11 日　鹿児島養護学校　バスケットボール



9 月 27 日　牧之原養護学校　ニュースポーツ



10 月 12 日　鹿児島養護学校　剣道



11 月 22 日　鹿児島養護学校　空手



11 月 24 日　加治木養護学校　電動車いすサッカー



12 月 14 日　出水養護学校　ニュースポーツ

（２）障害者のスポーツ教室事業（障害者バレーボール教室開催事業）

事業名	障害者バレーボール教室開催事業
日　時	①６月４日(日) 15:00～17:00　②６月 25 日(日) 15:00～17:00 ③７月９日(日) 15:00～17:00　④８月 20 日(日) 9:00～13:00 ⑤９月３日(日) 15:00～17:00　⑥10 月８日(日) 14:00～17:00 ⑦10 月 21 日(土) 9:00～13:00　⑧11 月 18 日(土) 9:00～13:00 ⑨12 月 10 日(日)14:00～17:00　⑩12 月 16 日(土) 9:00～13:00 ⑪１月 14 日(日) 14:00～17:00
場　所	上記④⑦⑧⑩→　ハートピアかごしま体育館　　その他→　鹿児島聾学校体育館　７回
参加者	１５６名　（知的１１３名　聴覚４３名）
スタッフ	・公認指導員　延べ１９名（うち１１名は事務局）　・事務局延べ６名(左記 11 名は除く） ・特別支援学校教諭　延べ２７名
補助員	志學館大学女子バレーボール部員　延べ３１名 鹿児島大学女子バレーボール部員　延べ１９名
協　力	志學館大学女子バレーボール部 鹿児島大学女子バレーボール部
連携組織	県教育委員会、県特別支援学校長会、県バレーボール協会 （社）鹿児島県身体障害者福祉協会　（社）鹿児島県手をつなぐ育成会 県知的障害者福祉協会　　(一社)県聴覚障害者協会
事業内容	基礎運動　→　技能レベルに応じた基礎練習　→　練習試合　が基本パターン

事業の様子







⑤連携について

（1）事業実施前の関係性

鹿児島養護学校など特定の支援学校とは、放課後活動への障がい者スポーツ指導員の協力などを通じて交流があった。また、個々の学校の体育教諭や大学のバレーボールチームとは全国障害者スポーツ大会に向けた練習会等で指導にあたってもらうなど、以前から協力関係にあった。県特別支援学校長会、市町村のスポーツ推進委員については特段の関係はなかった。

奄美大島で総合型地域スポーツクラブを展開するASA奄美スポーツアカデミーとはH27「地域における障がい者スポーツの振興事業」の全国障害者スポーツ大会団体種目普及育成事業（知的障がい者バスケットボール）で連携した縁で今回の事業にも協力いただいた。

（2）実際の事業での役割分担

「障がい者バレーボール教室開催事業」で、聾学校が会場（体育館）を提供。高等特別支援学校はじめ１０の特別支援学校のバレーボール経験者の教諭や大学のバレーボールチームが指導に当たった。

「障害者スポーツ体験普及教室開催事業」では、県内の特別支援学校が校時中や放課後の時間帯を教室開催に割いていただき、児童生徒の参加は勿論、体育担当以外も含めた教諭が積極的に参加し、スポーツのルールや指導法を学んだ。県特別支援学校長会は、メールにて各学校に事業の意義を伝え、受け入れを奨励していただいた。市町村のスポーツ推進委員は指導補助として参加。今後の地域での活動に向け、指導法を学ぶ機会とした。

ASA奄美スポーツアカデミーは、奄美大島における教室の会場確保、補助員の取りまとめに協力した。

（3）事業後の関係性の変化

目的に賛同いただいた連携先と力を合わせて事業に取り組み、一定の成果が得られたことで、関係性は以前より強固になった。当協会と連携先という関係だけでなく、特別支援学校を中心にその地域でのスポーツ支援体制が構築できた。

⑥スポーツ用具について

（1）購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

購入した備品はバレーボールである。これまで県障害者スポーツ協会及び県手をつなぐ育成会所有のものが１８個あった。

今回の購入で３０個となり、知的・聴覚の各男女別チーム、さらに技能レベルごとに練習することができるようになった。

（2）今回の事業後の管理方法と活用予定

当協会で管理していく。保管場所は県の許可を得た県有施設であるハートピアかごしまの倉庫である。

この「地域における障がい者スポーツ振興事業」終了後も、2020年度の全国障害者スポーツ大会鹿児島大会に向けて、普及・育成教室や県代表チームの練習に活用する。

また、個別の団体等からの希望に応じて貸し出す。

⑦事業の成果及び評価（達成度）

今回の障がい者スポーツ体験普及教室開催事業では、県内各地の１２の特別支援学校で、延べ３１回、計１５種目の競技につい延べ1，０８７名の方に体験してもらった。各地域における障害者スポーツの普及や選手の確保は、第一義的には特別支援学校の児童・生徒及びその教諭によるところが大きいことから、今回のこの事業は、本県における今後の障がい者スポーツの振興を図るうえで大きな成果があったと考えている。

また、上述のとおり地域での支援体制構築は、スポーツの場、障害当事者、支援者を結びつけ、スポーツ拠点づくりにつながっていく。スポーツ拠点づくりは、離島など遠隔地が本県にとって積年の課題で、地域格差を是正する上で必要不可欠である。H29 年度から県から受託した「障害者スポーツ振興事業」でもスポーツ拠点づくりを展開しているが、十分な財源がなく即効性がない。そんな中、スポーツ拠点づくりに直結するこの事業の成果は評価できる。

障がい者バレーボール教室開催事業は、延べ１１回行い、参加者も知的障がい者で１１３名、聴覚障がい者で４３名参加し、知的の男女チームの競技力は確実にアップした。また、聴覚では、男女とも全日本クラスの選手が参加するようになり、男子チームは３０年度の九州ブロック大会に参加する目処が立った。また、毎回、県内の特別支援学校のバレーボール経験者教諭の指導、県内２大学のバレーボール部員に補助してもらいながらやってきた事例は、人材確保に悩む本県の障害者スポーツ推進策を考えていく上で好例となったと言える。

⑧事業の今後の必要性

当県では、平成 32 年度の全国障害者スポーツ大会かごしま大会を、県民の障害者に対する理解と障害者スポーツの普及の好機ととらえている。これを受けて、当協会は平成 28 年度より「障害者スポーツ振興事業」を県から受託している。上で述べた障害者スポーツの拠点づくりのほか、全国障害者スポーツ大会の実施競技の普及、選手の育成と競技力の向上、障害者スポーツ指導員の養成と資質向上を目的としており、同大会のある平成 32 年度まで継続される見込みである。

今後は、今回の事業を通じて構築された特別支援学校等との連携を最大限に活かし、県の「障害者スポーツ振興事業」に軸足を置いて、２年後に迫った全国障害者スポーツ大会に対応していきたい。

⑨おわりに

（１）所感

障がい者スポーツ体験普及教室開催事業は、当初１１回の開催予定であったが、児童・生徒の躍動ぶりや教諭の方々の好評もあって、「わが校でも」とか「別の種目で再度」との要望が多く寄せられ、最終的に３２回の実績となった。教室終了後、先生方から、自分たちで指導を継続したいとスポーツ用具の貸与を求められたり、スポーツ指導者資格を取得したいという声を聞いたりすると、この活動が学校に根付きつつある様子や先生方の意欲の高まりを確認でき、多少無理をしたがやってよかったというのが素直な実感である。

各学校においては、今回取得したノウハウを日頃の授業や放課後活動で活用していただくだけでなく、地域の障害者や支援者を巻き込んだスポーツ拠点としての発展を期待している。

（2）特記事項等

・事業実施に当たっては、地元報道各社など後援依頼した。

・大島地域での実施では、地元の一般高校生と特別支援学校生が交流する機会にもなるよう配慮した。

・障がい者スポーツ体験普及教室開催事業では、きめ細かな指導ができるよう、できるだけ多くの障がい者スポーツ指導員を配置した。

⑩資料

開催要項、参加者内訳、チラシ、記録写真、鹿児島県保健福祉部機関誌記事

知的障害者のスポーツによる社会参加推進のために

2020年全国障害者スポーツ大会
「燃ゆる感動かごしま大会」に向けて

県代表チームをつくります!

知的障害者バレーボール教室

バレーボールが大すきな参加者 大募集中!



「6人制バレーボール」の選手の発掘・育成・チームの強化にとりくんでいます。県内の知的障害者で社会人の方々や特別支援学校の生徒さんを大募集中です。

指導者は、おもに特別支援学校のバレーボール専門の先生方、ボランティアは，志學館大学と鹿児島大学の女子バレーボール部の学生さんが参加します。明るい・元気・楽しい教室ですよ。

【バレーボール教室開催日】

ハートピアかごしま体育館にて

第❶回	8月20日（日）	9：30～12：00
第❷回	9月17日（日）	9：30～12：00
第❸回	10月21日（土）	9：30～12：00
第❹回	11月18日（土）	9：30～12：00

現在、6人制バレーボールを正規のルールで行うには選手が不足しています。とくに、県内の知的障害者でバレーボールの経験者やバレーボールが大すきな参加者を募集しています。



毎月1回；ハートピアかごしま体育館でバレーボール教室をしています。

参加希望者は、下記にお問い合わせの上、お申し込みください。いつからでも参加できます。

TEL・Fax 099－220－7062 社会福祉法人 鹿児島県手をつなぐ育成会
〒890－0021 鹿児島市小野1－1－1ハートピアかごしま内 （担当）春田

ARIBA tsushin

ありば通心

排球かごしま

鹿児島県知的障害者バレーボール倶楽部

九州大会から全国大会へ 掲げる目標はより高く

「排球かごしま」は、知的障害者がバレーボールを通して広く社会参加を目指すことを目的として平成28年10月に設立されました。出発点はバレーボールを楽しむための教室でしたが、現在では2020年に開催される第20回全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」出場という大きな目標を掲げ、月1回の練習を中心に活動しています。

今年6月には、大分市で行われた全国大会九州ブロック予選会に初出場し、男子3位、女子2位と健闘しました。「全国大会九州ブロック予選会出場を経て、『勝ちたい』『実力を付けたい』という気持ちが選手に芽生えてきたのは成長の証。ボランティアのサポートを受けながら力を積み上げていけば、結果は出せると思います」と手応えを感じているのは、代表の末廣剛志さん。チームには特別支援学校の生徒から社会人まで男子11名、女子15名の選手が参加し、コートで汗を流しています。


選手の指導にも熱がこもる


練習を重ねるごとに成長を実感



排球かごしまとボランティアのメンバー、バレーボール教室のみなさん


代表の末廣さんと副代表の日髙さん


末廣代表の話に集中する

笑顔あふれるバレーコートは皆が共に成長し交流する場所

ハートピアかごしまで練習に励む選手をサポートするのは、特別支援学校の先生方や志學館大学・鹿児島大学の女子バレーボール部員などのボランティアの皆さん。全国大会出場に向けての6人制バレーボールのチームづくりや選手の発掘・育成・強化に取り組んでいます。ボランティアをまとめる副代表の日髙美佳子さんは、「学生たちも最初の頃はどう接していいかわからず、距離感の探り合いからスタートしましたが、次第にコミュニケーションを取れるようになってきました。選手だけでなく学生たちにとっても成長の場になっています」と話します。

練習のために県内各地からハートピアかごしまで選手が移動している現状を受け、「競技人口が増えてそれぞれの地元でチームが結成され、チーム対抗戦ができるようになれば、交流の輪も一層広がるはず」と末廣代表。バレーボールに込める思いは、尽きることはありません。

鹿児島県知的障害者バレーボール倶楽部「排球かごしま」
【問い合わせ先】社会福祉法人 鹿児島県手をつなぐ育成会
TEL.099-220-7062

2020年全国障害者スポーツ大会
「燃ゆる感動かごしま大会」に向けて

県代表チームをつくります

デフリンピック日本代表（女子）尾塚愛実さん
（男子）田底佳樹さんと一緒にやりませんか

聴覚障害者で，バレー経験者を募集しています



2017デフリンピックに日本代表で出場し，金メダル獲得に貢献した「尾塚愛実さん」・７位入賞の「田底佳樹さん」と一緒に県代表として，2020年全国障害者スポーツ大会に出場しませんか。

現在，男女ともメンバーが不足しています。特に女子は数名しかいない状況でチームができません。補聴器など使用の方で，バレー大好きな方・バレーボール経験者を募集しています。

聴覚障害の部バレーボール練習会の日程
ハートピアかごしま体育館で，毎月1回練習しています。
9時30分から12時まで

8月20日（日）・10月21日（土）・11月18日（土）・12月16日（土）

【聴覚障害の部：競技規則】

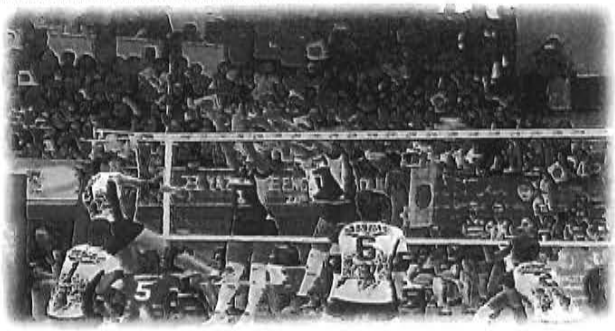
① 6人制バレーボール

（公財）日本バレーボール協会競技規則による

② ネットの高さ：男子２.４３m 女子２.２４m

③ ボール：検定球5号

国際競技規則と同じ



問い合わせは下記へ、希望者は、ハートピアかごしま体育館へおいでください。

TEL 099-228-6271 Fax 099-228-6710
Eメール shinshokyo@shogaisha-kagoshima.jp

鹿児島県障害者スポーツ協会 バレーボール専門部 春田（携帯090-7476-9214）
〒890-0021 鹿児島市小野1-1-1ハートピアかごしま内

「地域における障がい者スポーツの振興事業」

大島地区知的障がい者バレーボール教室

2017年7月2日　県立大島養護学校























沖縄県スポーツプロジェクト

◆海あしびなーSUN フェスタ

◆聴覚障がい者バレーボール教室

◆障がい者バスケットボール教室

◆障がい者サッカー教室

特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会

沖縄県における障がい者スポーツ振興事業の実績報告書

①はじめに

自県のスポーツ環境の特色、実情、課題点、事業を計画した経緯など

年間を通して温暖な本県は県として『スポーツアイランド沖縄』を掲げ文化・観光・スポーツを一体としてスポーツに力を入れている。気候的条件により国内外から一般レベルやプロスポーツ、オリンピック・パラリンピックレベルの選手、チームの合宿地として多く受け入れている事から県内のスポーツバリアフリー化も進められそれに伴い県内の障がい者のスポーツへの参加もこれまでより身近なものとなってきている。それらを踏まえ、２０２０年東京オリンピック・パラリンピックもあることから県全体が障がい者スポーツへの更なる理解・発展を目指す。

本県は障がい者スポーツとしてはまだまだ発展途上の段階であり盛り上がりの機運はあるが課題点も少なくない。その一つとしてスポーツ指導員の数とその活躍する場である。取得したスポーツ指導員の資格で活躍する場もすくなくいつの間にか指導員から離れていく者も少なくない。そのために指導員のモチベーションを上げる事を提供していかなければならない。

もう一つは、離島県ということから障害者スポーツの選手間の交流・試合等が少なく競技力向上に悩んでいる。選手の発掘・育成も本県の障がい者スポーツの発展の一つと考える。

②事業の目的・ねらい

障がい者スポーツは誰でも参加しやすく健康増進の一躍も担える事から障がいの有無に関わらず子供からお年寄りまで広く理解・参加してもらい障害者スポーツ全体の底上げを図る。また、競技力向上のためにも地域とも連携を取る。指導員の経験の場を提供し、指導員の数・質ともに向上を図る。

障がい者スポーツを障がいの有無に関わらず地域を中心に親しまれ理解・共有してもらい定着を図る。誰もが参加出来るものとして目指し発展をねらう。

③事業実施概要

（1） 海あしびなーSUN フェスタ

事　業　名	海あしびなーSUN フェスタ
日　　時	平成 29 年 9 月 18 日(月)8：30～17：00
場　　所	豊見城市ちゅらさんビーチ
参　加　者	延べ約 500 名
スタッフ	講師 6 名　指導員 22 名
補　助　員	ボランティア 19 名
協　　力	車いすバスケットボールチーム　スラックラインチーム　沖縄ボッチャクラブ
連携組織	沖縄県レクリエーション協会　あひるの会　沖縄県障がい者スポーツ指導者協議会　星槎高校
事業内容	マリンスポーツ(バナナボート)(サップボート)(海への遊泳)体験 車いすバスケット教室 陸上競技用車いすやハンドサイクル体験教室 知的障がい者バスケット体験教室 ボッチャ体験教室

事業の様子





事　業　名	障がい者バレーボール教室
日　　時	第1回平成29年8月5日(土)　13：00～17：00 第2回　　9月2日(土)　13：00～17：00 第3回　　11月4日(土)13：00～17：00
場　　所	サンアビリティーズうらそえ
参　加　者	延べ約120名
スタッフ	講師5名　指導員5名
補　助　員	ボランティア6名
協　　力	県内社会人バレーボールチーム
連携組織	県バレーボール協会　県内高等学校
事業内容	攻撃、守備、フォーメーション指導 各個人への個別指導 県内高校との練習試合

事業の様子





事　業　名	障がい者バスケットボール教室
日　　時	第1回平成29年7月29日(土)　9：00～13：00 第2回　　8月13日(日)　9：00～13：00 第3回　　10月21日(土)9：00～13：00
場　　所	第1回県総合運動公園 第2回サンアビリティーズうらそえ 第3回与那原町体育館
参　加　者	延べ約150名
スタッフ	講師1名　指導員10名　手話通訳
補　助　員	
協　　力	県内特別支援学校教諭
連携組織	県知的障がい者バスケットボール連盟 県知的障がい者スポーツ連絡会
事業内容	障がいの程度によるクラス分けでの指導。 ドリブル、パス、シュートの一連の動作訓練。 戦術等の高度な技術の指導。

事業の様子





事　業　名	障がい者サッカー教室
日　　時	第1回　平成29年8月12日(土)12：00～16：00 第2回　　8月26日(土)12：00～16：00 第3回　　9月9日(土)12：00～16：00 第4回　　9月30日(土)12：00～16：00
場　　所	第1回浦添市運動公園 第2回石嶺児童園グラウンド 第3回、第4回サンアビリティーズうらそえ
参　加　者	延べ約220名
スタッフ	講師11名　指導員36名
補　助　員	ボランティア43名
協　　力	県サッカー協会
連携組織	沖縄県知的障がい者サッカー連盟　県内高等学校　県内特別支援学校
事業内容	障がいの程度によるクラス分けでのサッカー体験・指導 ドリブル、パスの指導 キーンボール体験 車いすサッカー体験教室

事業の様子





④障がい者スポーツ指導者の活用・役割

以前から積極的に活動参加している指導員は慣れているので新しい指導員等への指導もやってもらった。企画会議の段階から参加してもらいアイデア等も引き出す。運営にも積極的に参加してもらうことにより、県内の障がい者スポーツへの理解・啓発への発展を図る。
ボランティアへも指導員の資格を紹介し指導員の増加を促す。

⑤連携について

（1） 事業前の関係性

今年度は今まで関わりのない団体との連携が多かった。特に海あしびなーSUN フェスタでは初めて関わる団体が多かった。

（2） 実際の事業での役割分担

当協会では実行委員会の設置や協力団体等の呼びかけ。
当日は本部での運営。

（3） 事業後の関係性の変化

海あしびなーSUN フェスタでは様々な団体と初めて連携させてもらい繋がりができた。
イベントではたくさんの種目やブースを設置することによりたくさんの協力者た団体との交流で今後も連携していく等の話し合いがもてた。

（4）その他

⑥スポーツ用具について

（1） 購入した備品の活用について（実際の事業での活用）

今回はボール等の購入が多かったがそのおかげで教室等を開いても円滑に運営ができ参加者もたくさん募る事が出来た。
小さめの扱いやすい軽いボールも用意しジュニアでも参加ができた。

（2） 今回の事業後の管理方法と活用予定

当協会での事業での使用や競技団体への借用を積極的に行う。
管理も当協会で行う。

⑦事業の成果および評価（達成度）

マリンスポーツは初めて体験をする障がいの方が多く本人や親御さんからたくさんの良い評価をいただいた。安全の観点から家族だけで遊泳は出来なかったが今回のイベントでは人的サポート体制も十分であり遊泳体験をさせることが出来たことが大きな評価である。
その他にも教室事業でも内容的にも良い評価であった。

⑧事業の今後の必要性（発展と継続の見込み）

事業① 事業を行った結果様々な団体と初めて関わりがもてた事や事業後の実行委員会での報告会で来年もぜひ継続して行いたいとの声をいただき前向きであった。

事業② 今回を機に県内バレーボール協会とも深い繋がりができバレーボール協会の表彰にも当協会から受賞者が出た。協力体制が確立しつつあり継続が必要である。
競技人口は多くなく選手の発掘が課題である。

事業③　障がい者のバスケットは障がい別でも４種類あり特性上一緒に練習など行うことが難しいがそれぞれを普及・発展に力を入れなければならない。室内であるため実施の予定を作ることが容易であるのが利点である。

事業④　今年度から本県で知的障がい者サッカー協会が設立され県内サッカー協会も積極的に連携をしているため参加人数を多く集められた。サッカー教室を認知してもらうことにより今後もさらに多くの参加者が期待できる。

⑨おわりに

（１）所感

本県の障がい者スポーツの競技団体は組織としても競技力に関してもまだまだ発展途上である。それにともない経験不足な指導員も多いが今回の事業を行う事により活性化に繋がった。また、今までに関りのなかった団体とも連携ができ今後の活動への視野が広げることができた。

スポーツ用具の購入で事業の運営や競技団体の活動を円滑に行う事ができた。それにより指導員の活躍の場も提供でき今後の指導員の質と量の増加に繋げる事が出来た。

（２）特記事項（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど

・様々な団体に呼びかけ実行委員会を立ち上げより広いアイデアを出すこと図った。
・地域と連携することにより多くの参加者への周知をした。
・企画会議を入念に行い不足のないような運営を心掛けた。
・事業後の実績報告会を行い改善点を検証した。
・多くの学生とも連携し今後の県内の障がい者スポーツの発展に繋げる事を図った。

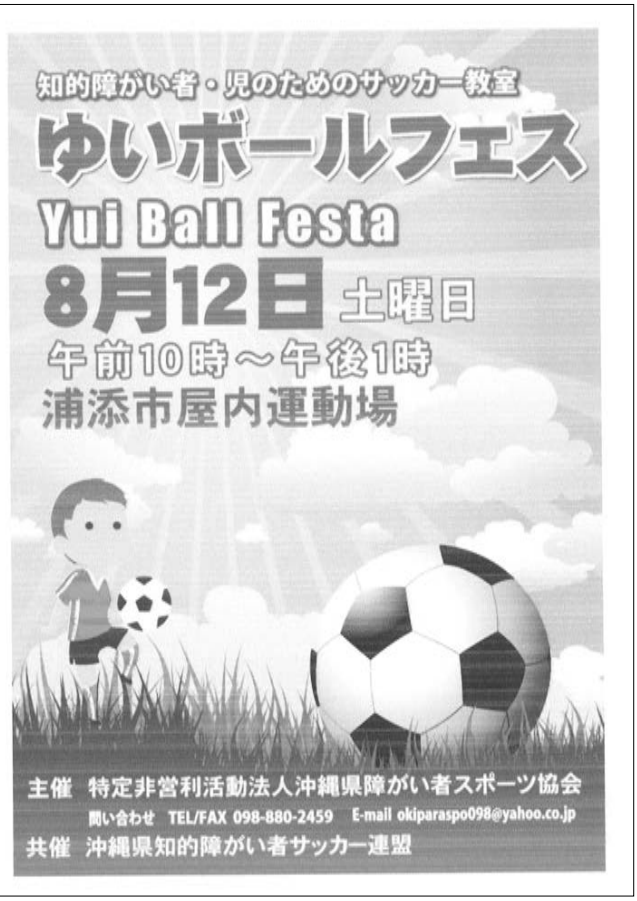
（３）事業を継続実施した成果・変化（前年度の課題に対し、どんな意識で取組み、工夫したか）

・障害のある方たちが経験したことないような種目もたくさん取り入れた事により新しい発見を体験してもらう事が出来た。
・障がい者の方たちと関りをもっていなかった団体が指導員を中心に交流する事により双方に大きな経験と得ることが出来た。
・新しく登録した指導員を積極的に周知しベテランの指導員とも繋げる事により今後も活動しやすい環境づくりをする事が出来た。


体験・交流・ふれあい
9月18日
障がい者スポーツ
レクリエーション in まりSUNビーチ
マリン体験
バナナボート／シーカヤック／スタンドアップパドル／遊泳
障がい者スポーツ体験
車椅子バスケットボール／ボッチャ／ハンドサイクル・コギー・タンデム自転車体験
3ON3バスケットボール大会 CROSSOVERエキシビションマッチ
スポーツレクリエーション体験
チャレンジ・ザ・ゲーム／バンブーダンス／スポーツチャンバラ／ディスクゴルフ
参加費無料、どなたでも参加可能。マリン体験については障がいある方のみ
会場：豊崎海浜公園 美らSUNビーチ
日時：平成29年9月18日（日）9：00～16：00
主催：NPO法人沖縄県障がい者スポーツ協会 TEL.098-880-2459（担当：平安）
共催：豊見城市
後援：NPO法人バリアフリーネットワーク会議・NPO法人あひるの会・沖縄県レクリエーション協会
・沖縄マリンレスキューボランティア協会・マリンクラブSUN・沖縄県福祉事業協同組合


聴覚障がい者を対象としたバレーボール教室です。県内の指導者を招き、さらに地域の学校等のチームとの交流により、強化と振興を図ります。詳しくは下記連絡先まで、お問合せください。
8月5日(土)
10月7日(土)
10月14日(土)
12月2日(土)
参加者募集
VOLLEYBALL
聴覚障がいバレーボール教室
平成29年
13:00～17:00
会場：浦添市身体障がい者福祉協会
サン・アビリティーズうらそえ
主催：沖縄県障がい者スポーツ協会
お問合せ
特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会
那覇市奥武山町51-2 沖縄県体協スポーツ会館309
TEL/FAX 098-880-2459 担当者：平安
メール okiparasupo098@yahoo.co.jp


7/29(sun) 8/13(sun)
10/14(sun) 10/21(sun)
2017
沖縄県総合運動公園体育館
沖縄県障がい者
バスケットボール教室
BAS
KET
BALL
申込先 沖縄県障がい者スポーツ協会
〒900-0026 那覇市奥武山町51番地2
TEL&FAX.098-880-2459
E-mail：okiparaspo098@yahoo.co.jp
担当：平安 泰知


知的障がい者・児のためのサッカー教室
ゆいボールフェス
Yui Ball Festa
8月12日 土曜日
午前10時～午後1時
浦添市屋内運動場
主催 特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会
問い合わせ TEL/FAX 098-880-2459 E-mail okiparaspo098@yahoo.co.jp
共催 沖縄県知的障がい者サッカー連盟

「地域における障がい者スポーツの振興事業」

委託先団体募集要綱

平成 29 年度障害者スポーツ振興事業

「地域における障がい者スポーツの振興事業」
委託先団体募集要綱

1. 助成の目的

本事業は、障がい者が身近な地域で自主的・積極的・継続的にスポーツに参加できる社会を実現することを目的に実施する。

また、地域の障がい者スポーツ振興の統括組織である都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会や障がい者スポーツ指導者が、本事業をきっかけに地域のスポーツ団体や関係者等と連携・協働し、教室やイベント等の事業の企画や運営、指導をすることで、地域全体の障がい者スポーツの振興体制の整備に寄与することを目的とする。

2. 委託先対象

本事業は委託事業として実施する。委託先対象は、都道府県・指定都市障がい者スポーツ協会とし、かつ、助成事業の実施体制が整っている事を委託先対象の条件とする。

3. 対象事業

下記の区分を対象とした、地域における障がい者スポーツ振興にかかわる事業とする。なお、助成の目的に合致すると共に、地域の障がい者スポーツ協会と障がい者スポーツ指導者協議会が協力・連携した体制で実施するものとする。

【事業区分】

(1)障がい者のスポーツ教室事業
(2)障がい者スポーツ指導者の育成事業
(3)障がい者スポーツ指導者の派遣事業
(4)選手発掘・育成事業
(5)障がい者スポーツ理解啓発事業(大会等イベントも含む)
(6)組織連携推進強化事業(組織連携を主たる目的とした事業)

※注1:厚生労働省が実施している「地域生活支援事業」の「スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」や日本スポーツ振興センターの「スポーツ振興事業助成」等の他団体からの助成を受けている事業は重複して申請はできない。

※注2:スポーツ庁が都道府県・指定都市に委託事業として実施する「地域における障害者スポーツ普及促進事業」および「特別支援学校等を活用した障害児・者のスポーツ活動実践事業」を実施する団体は、申請時に必ず申し出ること。

4. 活動の範囲

原則として、委託先団体の都道府県内(指定都市を含む)を実施場所とすること。なお、実施内容・特性等の理由により当該の都道府県内で実施が困難な場合はこの限りではない。

5. 助成対象となる事業の実施期間

本事業の委託契約締結日～平成 30 年 1 月末日(事業完了)

※平成 30 年 2 月に実施団体の報告会を開催予定。

※委託費の支払い以前の実施費用については、委託先団体の立替によるものとする。

6. 募集期間と提出書類

募集期間は次のとおりとする。締切日までに下記の書類を作成し、送付すること。なお、締切り後および書類に不備がある場合は受理できないので注意すること。

【募集期間】 平成 29 年 3 月 13 日(水)～平成 29 年 4 月 14 日(金)(必着)

【提出書類】 (1)受託申請書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・様式 1
(2)事業計画書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・様式 2-1、2-2
(3)予算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・様式 3-1、3-2
(4)スポーツ用具購入申請書、管理誓約書・・・様式 4
(5)謝金・旅費・賃金等の規程・規約等
※上記(2)(3)は、データについても USB 等の電子記録媒体またはメールでご提出ください。

7. 委託費と対象経費

委託費は、各団体につき 200 万円または 300 万円とする。また、委託費の支出科目は国庫補助金の規程に準じて、以下のとおりとする。

諸謝金、旅費交通費、スポーツ用具、消耗品費、会議費、借損料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費、賃金、保険料

詳しくは別紙の「経費支出について」をご参照ください。

＊ 委託費の入金は 6 月以降の予定です。
＊ 支出については、すべて委託先団体の規程により行ってください。
＊ 平成 28 年度より、委託費(総事業費)の 35%を上限として事業目的に必要なスポーツ用具の購入が認められます。(ただし、本事業では事務用品等の備品の購入はできません)

8. 選定方法及びその結果

(1) 委託先団体の選定は、当協会が設置する選定委員会で、平成 29 年度助成事業に関する選定方針に基づいて審査し決定する。
(2) 選定結果については、内容確認後随時、文書をもって知らせる。また、決定した事業については、当協会ウェブサイトで公開する。
(3) 他の機関の助成等を受けて当該事業を実施することとなった場合は、採択後であっても受託申請を辞退すること。
(4) 選定結果に関するいかなる問い合わせ等については答えられない。

9. 委託先団体の決定と決定後の事務手続き(提出物)

委託先団体の決定後、下記の書類を提出すること。

(1)委託契約書・・・内容を確認の上、委託先団体の長が署名捺印し、事業計画書とともに 2 部提出すること。
(2)請求書・・・・・・・事務手続きの簡素化から、委託契約書と同時に請求書を提出しても構わない。

10. 委託事業に係わる消費税の取り扱い

当協会との委託事業契約に基づき実施する事業の委託金については、国等からの補助金と同様の扱いとし、「特定収入」として取り扱うこと。また、消費税の計算にあたり簡易課税を選択されている団体についても、本委託金は課税対象外の収入として取り扱うこと。

11. 事業報告

事業報告は、助成事業の完了から 1 カ月以内又は平成 30 年 1 月末日（消印有効）のいずれか早い日までに提出すること。

※事業報告はその後、当協会がとりまとめ、平成 30 年 4 月 10 日までにスポーツ庁に提出する。

(1)完了報告書

完了報告書は、委託先団体の長が押印して提出すること。また報告書データは電子記録媒体に収め、併せて郵送にて提出すること。

(2)決算書

決算書は、領収書及び納品書のコピーを添付し提出すること。また決算書データは電子記録媒体に収め、併せて郵送にて提出すること。

(3)成果物・印刷物

ポスター・チラシ・冊子等、委託費で作成したものを 2 部提出すること。

(4)報告書（原稿）

全ての委託先の報告書を当協会で合本するので、原稿等をデータで提出すること。また報告書データは電子記録媒体に収め、併せて郵送にて提出すること。

【報告書内容】
①はじめに（自県のスポーツ環境の特色、実情、課題点、事業を企画した経緯等）
②事業の目的・ねらい
③実施概要（内容および実施体制等）
　・事業内容　・実施体制（連携・協力団体等）・参加者内訳等
④障がい者スポーツ指導者の活用・役割
⑤連携について（事業前の関係性、実際の事業での役割分担、事業後の関係性の変化）
⑥スポーツ用具について（備品整備、活用、今後の使用及び展開について）
⑦成果および評価（達成度）
⑧事業の今後の必要性（課題も含めて）
⑨おわりに　・所感
　　・特記事項等（事業の目的達成に向けて工夫したこと、ポイントなど）
　　・事業を継続実施した成果・変化　※継続委託団体のみ

【添付資料】
①開催要項　②参加者内訳　③記録写真　④その他【添付資料】
※　詳細は後日の連絡とする。
※　報告書の原稿は、各団体 1 事業につき、1～2 ページの予定。

(5)事業報告会

各団体が事業を通じて、各地域の障がい者スポーツの振興における課題に向き合い、多くの支援者や関係団体との連携を深め、障がいのある方々のスポーツ環境や振興体制の整備・拡充を目的に実施した事業についての報告会を事業終了後に開催する。（2 月中旬開催予定）

12. 問合せ先及び送付先

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　スポーツ推進部
担当：滝澤・小島
E-Mail:　kojima-t@jsad.or.jp
〒103-0014　東京都中央区日本橋蛎殻町 2-13-6　ユニゾ水天宮ビル 3F
TEL）03-5695-5420（直通）　FAX）03-5641-1213
問合せ時間　月曜～金曜　AM9:30～PM5:45

※ この募集要綱は、平成 29 年度国庫補助事業（ｽﾎﾟｰﾂ振興事業）の予算の状況によっては内容が変更となる場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

平成29年度障害者スポーツ振興事業

「地域における障がい者スポーツの振興事業」

2018年3月31日 発行

発行　公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
印刷　日本印刷株式会社